

中野遺跡第91地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

2017

埼玉県志木市教育委員会

中野遺跡第91地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

2017

埼玉県志木市教育委員会

はじめに

志木市教育委員会
教育長 尾崎 健市

この度、『中野遺跡第91地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』が刊行されたことを大変喜ばしく思います。

今回発掘調査を実施した中野遺跡は、柏町1丁目を中心に広がる遺跡で、宝幢寺の西側に広がっています。昭和59年の調査以来、旧石器時代から近世までの遺物や遺構が見つかっており、複合遺跡であることが判明しています。特に、遺跡西側に広がる古墳時代の集落が注目されます。第18地点では住居跡から鉄鏃11本がまとまった出土例があり、第25地点では10mを超える関東最大級の住居跡が見つかっています。また、遺跡北側を中心に、中・近世の墓跡や造成された痕跡などが見つかっており、柏町3丁目に所在する城山遺跡との関連が注目されるところです。

さて、今回の発掘調査は宅地造成に係る道路新設工事及び浸透トレンチ設置工事に伴うものです。工事予定面積2999.65㎡のうち、調査面積は829.70㎡と中規模なものですが、道路予定地という性格上、調査区はトレンチを入れた格好となっており、遺跡の様相を知る重要な成果を得ることができました。

発見された主な遺構は、縄文時代の住居跡1軒、炉穴17基、土坑108基、弥生時代後期から古墳時代前期の住居跡7軒、土坑1基、古墳時代後期の住居跡6軒、平安時代の住居跡8軒でした。これまでの調査成果と同様、古墳時代後期や平安時代の住居跡が多数発見されたことに加え、縄文時代や弥生時代の遺構も高い密度で分布していることが判明しました。特に、縄文時代早期の炉穴や土坑については市内では例に見ない集中した分布状況を示しており、中野遺跡の新たな一面を明らかにする貴重な資料を得ることができました。

以上、志木市の歴史にまた新たなる1ページが追加されたことになりました。今後この成果が、郷土史研究や幅広い学術研究に役立てられるとともに、市民の郷土愛を育む土壌となるよう切に願っております。

最後になりましたが、本書の刊行にあたり、格別のご理解とご協力を頂いた事業主体者と土地所有者、そして地域の多くの方々と関係者に対し、心から感謝申し上げます。

例 言

1. 本書は、埼玉県志木市柏町1丁目1510番ほか所在の中野遺跡第91地点の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、道路新設及び浸透トレンチ設置工事に伴う緊急調査として、志木市教育委員会が行った。また、埋蔵文化財保存事業の実施にあたり、発掘作業・整理作業・報告書刊行作業を(株)東京航業研究所 代表取締役 中本直士に支援業務として委託したものである。
3. 発掘作業は、平成27年10月8日より開始し、平成27年12月18日に終了した。整理作業は、平成28年4月1日より(株)東京航業研究所社屋内にて行い、平成29年3月17日、本書の刊行をもって終了した。
4. 本書は、尾形則敏・徳留彰紀が監修し、宅間清公・諸星良一(株)東京航業研究所)が編集した。執筆担当については、下記のとおり。
尾形則敏 第1章
徳留彰紀 第2章第1節
岩崎岳彦 第2章第2・3節、第3章(3)
田中浩江 第3章第1節(1)・(2)・(4)、第4・6節
宅間清公 第3章第2・3・5節、第4章
5. 本調査において出土した遺物及び写真等の記録類は、志木市立埋蔵文化財保管センターに一括して保管している。
6. 発掘作業における表土剥ぎ作業については、株式会社大塚屋商店に委託した。
7. 調査体制

【志木市教育委員会】

調 査 主 体 者	志木市教育委員会
教 育 長	尾崎健市
教 育 政 策 部 長	原田隆一
生 涯 学 習 課 長	桶田修平
生 涯 学 習 課 主 幹	古屋大輔
生 涯 学 習 課 主 査	尾形則敏
〃	武井香代子
生 涯 学 習 課 主 任	松永真知子
〃	徳留彰紀
生 涯 学 習 課 主 事	大久保聡
〃	辻大輔
志木市文化財保護審議会	井上國夫(会長)
〃	高橋長次(委員)
〃	高橋豊(委員)
〃	上野守嘉(委員)

志木市文化財保護審議会 深瀬 克（委員）
調査担当者 尾形則敏・徳留彰紀

【(株)東京航業研究所】

代表取締役社長 中本直士
文化財調査課長 宅間清公
写真測量課長 八島大介
文化財調査課調査員 諸星良一

8. 発掘調査及び整理作業参加者

調査員 諸星良一

現場代理人 塚田洋介

発掘調査参加者 伊藤 茂・井上洋一・内田健太・大河原隆・金谷博道
川副憲章・川中子浩史・小林義明・金野照子・末武寿一
田中 勇・富永義昭・永田正博・野口芳孝・長谷川勉
前島 誠・宮本嘉子・持田つる子・柳井武夫・横溝晴枝

整理作業参加者 石原好美・稲毛あゆみ・大川亜弓・古賀里美・斉藤雅司
鈴木晃・田口陽祐・長江陽子・中嶋千世子・野村果央
畠山真紀・林なつえ・林 洋子・三原浩之・村建三
山羽 孝

9. 各遺跡の発掘調査及び整理作業・報告書作成には、以下の諸機関・諸氏のご教示・ご援助を賜った。記して感謝する次第である（敬称略）。

埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課・（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団・朝霞市教育委員会・朝霞市博物館・新座市教育委員会・和光市教育委員会・富士見市教育委員会・富士見市立水子貝塚資料館

江 原 順・加藤秀之・金子直行・川畑隼人・隈本健介・小出輝雄・齋藤弘道
斉藤 純・齋藤欣延・笹森紀己子・笹森健一・斯波 治・鈴木一郎・鈴木加津子
鈴木徳雄・鈴木正博・照林敏郎・中岡貴裕・中村岳彦・中村信博・野 沢 均
早坂廣人・細 田 勝・堀 善 之・前田秀則・松本富雄・柳井章宏・山口逸弘
山 本 龍・和田晋治・渡辺邦仁

10. 本報告に係る文化財保護法に基づく各種届出等及び指示通知については、下記の通りである。

○周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）

平成 27 年 9 月 30 日付け 教生文第 5 - 687 号

○埋蔵物の文化財認定について（通知）

平成 28 年 9 月 30 日付け 教生文第 7 - 69 号

凡 例

1. 本報告書で使用した地図は以下のとおりである。

第1図 1：10,000「志木市全図」アジア航測株式会社調製

2. 挿図版の縮尺は、それぞれに明記した。

3. 遺構挿図版中の水系レベルは、海拔標高を示す。

4. 挿図版中のスクリーントーンについては以下のとおりである。

焼土範囲  カマド構築粘土範囲 

含繊維土器断面  赤色塗彩範囲 

5. 土器観察表に使用した色調の表示は、『新版 標準土色帖 2001年版』農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修を基にし、近似する色名を示した。

6. 遺物観察表における表記については以下のとおりである。

「法量」項中にある〔 〕は残存値、()は推定値を表す。

出土位置の数字は床面からの高さを示す。

7. 遺構の略記号は、以下のとおりである。

J = 縄文時代の住居跡 Y = 弥生時代の住居跡 H = 古墳時代以降の住居跡

FP = 炉穴 D = 土坑 P = ピット

目 次

はじめに

例 言／凡 例／目 次／挿図目次／表 目 次／図版目次

第1章 遺跡の立地と環境	1
第1節 市域の地形と遺跡	1
第2節 遺跡の概要	7
第2章 発掘調査の概要	10
第1節 調査に至る経緯	10
第2節 調査の経過	11
第3節 基本層序	11
第3章 検出された遺構と遺物	15
第1節 縄文時代の遺構と遺物	15
第2節 弥生時代後期の遺構と遺物	73
第3節 古墳時代後期・平安時代の遺構と遺物	90
第4節 ピット	115
第5節 包含層出土遺物	117
第6節 遺構外出土遺物	131
第4章 調査のまとめ	141
図 版	
報告書抄録	

挿図目次

第1図	市域の地形と遺跡分布 (1/20,000)	2
第2図	確認調査遺構分布図 (1/400)	12
第3図	調査区全体図・テストピット (1/300・1/60)	13
第4図	5号住居跡 (1/60)	16
第5図	5号住居跡出土遺物1 (1/3)	16
第6図	5号住居跡出土遺物2 (1/3・1/2)	17
第7図	炉穴1 (1/60)	24
第8図	炉穴2 (1/60)	25
第9図	炉穴3 (1/60)	26
第10図	炉穴出土遺物1 (1/3)	27
第11図	炉穴出土遺物2 (1/3)	28
第12図	土坑1 (1/60・1/30)	47
第13図	土坑2 (1/60)	48
第14図	土坑3 (1/60)	49
第15図	土坑4 (1/60)	50
第16図	土坑5 (1/60)	51
第17図	土坑6 (1/60)	52
第18図	土坑7 (1/60)	53
第19図	土坑8 (1/60)	54
第20図	土坑出土遺物1 (1/4・1/3)	55
第21図	土坑出土遺物2 (1/3)	56
第22図	土坑出土遺物3 (1/3)	57
第23図	土坑出土遺物4 (1/3)	58
第24図	土坑出土遺物5 (1/3)	59
第25図	土坑出土遺物6 (1/3)	60
第26図	土坑出土遺物7 (1/3)	61
第27図	20号住居跡1 (1/60・1/30)	74
第28図	20号住居跡2 (1/60)	75
第29図	20号住居跡出土遺物1 (1/4・1/3)	75
第30図	20号住居跡出土遺物2 (1/3)	76
第31図	21号住居跡 (1/60・1/30)	78
第32図	21号住居跡出土遺物 (1/3)	79
第33図	22号住居跡1 (1/60)	80
第34図	22号住居跡2 (1/30)	81
第35図	22号住居跡出土遺物 (1/3)	81
第36図	23号住居跡 (1/60)	82

第 37 図	24 号住居跡 1 (1 / 60)	83
第 38 図	24 号住居跡 2 (1 / 60 · 1 / 30)	84
第 39 図	24 号住居跡出土遺物 (1 / 4 · 1 / 3)	84
第 40 図	25 号住居跡 (1 / 60 · 1 / 30)	86
第 41 図	25 号住居跡出土遺物 (1 / 3)	87
第 42 図	26 号住居跡 (1 / 60)	88
第 43 図	26 号住居跡出土遺物 (1 / 3)	88
第 44 図	259 号土坑 (1 / 60)	89
第 45 図	259 号土坑出土遺物 (1 / 60)	89
第 46 図	67 号住居跡 1 (1 / 60)	90
第 47 図	67 号住居跡 2 (1 / 30)	91
第 48 図	67 号住居跡出土遺物 (1 / 4 · 1 / 3)	91
第 49 図	68 · 69 号住居跡 (1 / 60)	93
第 50 図	68 号住居跡出土遺物 (1 / 4)	93
第 51 図	70 号住居跡 (1 / 60)	94
第 52 図	70 号住居跡出土遺物 (1 / 4)	94
第 53 図	71 号住居跡 1 (1 / 60)	95
第 54 図	71 号住居跡 2 (1 / 60)	96
第 55 図	71 号住居跡出土遺物 (1 / 4 · 1 / 3)	96
第 56 図	72 · 75 号住居跡 1 (1 / 60)	97
第 57 図	72 · 75 号住居跡 2 (1 / 60 · 1 / 30)	98
第 58 図	72 号住居跡出土遺物 (1 / 4 · 1 / 3)	99
第 59 図	73 号住居跡 (1 / 60)	100
第 60 図	73 号住居跡出土遺物 (1 / 4)	100
第 61 図	74 号住居跡 1 (1 / 60)	101
第 62 図	74 号住居跡 2 (1 / 30)	102
第 63 図	74 号住居跡出土遺物 1 (1 / 4)	102
第 64 図	74 号住居跡出土遺物 2 (1 / 4)	103
第 65 図	75 号住居跡出土遺物 (1 / 4)	104
第 66 図	76 号住居跡 1 (1 / 60)	105
第 67 図	76 号住居跡 2 (1 / 30)	106
第 68 図	76 号住居跡出土遺物 (1 / 4 · 1 / 3)	106
第 69 図	77 号住居跡 (1 / 60)	108
第 70 図	77 号住居跡出土遺物 (1 / 4 · 1 / 3)	108
第 71 図	78 号住居跡 (1 / 60)	109
第 72 図	78 号住居跡出土遺物 (1 / 4)	110
第 73 図	79 号住居跡 1 (1 / 60)	110
第 74 図	79 号住居跡 2 (1 / 30)	111

第 75 図	79 号住居跡出土遺物 (1 / 4)	111
第 76 図	80 号住居跡 1 (1 / 60・1 / 30)	112
第 77 図	80 号住居跡 2 (1 / 30)	113
第 78 図	80 号住居跡出土遺物 (1 / 4・1 / 3)	113
第 79 図	ピット出土遺物 (1 / 3)	115
第 80 図	縄文早期～前期 (1 / 400)	118
第 81 図	縄文中期～後期 (1 / 400)	119
第 82 図	弥生後期～古墳後期 (1 / 400)	120
第 83 図	古代～平安～近世以降 (1 / 400)	121
第 84 図	包含層出土遺物 1 (1 / 3)	122
第 85 図	包含層出土遺物 2 (1 / 3)	123
第 86 図	包含層出土遺物 3 (1 / 3)	124
第 87 図	包含層出土遺物 4 (1 / 3)	125
第 88 図	包含層出土遺物 5 (1 / 4・1 / 3)	126
第 89 図	遺構外出土遺物 1 (1 / 3)	131
第 90 図	遺構外出土遺物 2 (1 / 3)	132
第 91 図	遺構外出土遺物 3 (1 / 3)	133
第 92 図	遺構外出土遺物 4 (1 / 4・1 / 3)	134
第 93 図	遺構外出土遺物 5 (1 / 3)	135
第 94 図	早期末葉の土器 (1 / 3)	142
第 95 図	弥生時代住居模式図	144
第 96 図	新宿区下戸塚遺跡出土の円形赤彩文土器 (1 / 4)	145

挿表目次

第 1 表	志木市埋蔵文化財包蔵地一覧	1
第 2 表	5 号住居跡出土土器一覧 (1)	17
第 2 表	5 号住居跡出土土器一覧 (2)	18
第 3 表	5 号住居跡出土土製品一覧	18
第 4 表	5 号住居跡出土石器一覧	18
第 5 表	炉穴一覧	28
第 6 表	炉穴出土土器一覧 (1)	28
第 6 表	炉穴出土土器一覧 (2)	29
第 6 表	炉穴出土土器一覧 (3)	30
第 7 表	炉穴出土石器一覧	30
第 8 表	土坑一覧 (1)	61
第 8 表	土坑一覧 (2)	62
第 8 表	土坑一覧 (3)	63
第 8 表	土坑一覧 (4)	64

第8表	土坑一覽(5)	65
第9表	土坑出土土器一覽(1)	65
第9表	土坑出土土器一覽(2)	66
第9表	土坑出土土器一覽(3)	67
第9表	土坑出土土器一覽(4)	68
第9表	土坑出土土器一覽(5)	69
第9表	土坑出土土器一覽(6)	70
第9表	土坑出土土器一覽(7)	71
第9表	土坑出土土器一覽(8)	72
第10表	土坑出土石製品一覽	72
第11表	20号住居跡出土土器一覽(1)	76
第11表	20号住居跡出土土器一覽(2)	77
第12表	21号住居跡出土土器一覽	79
第13表	22号住居跡出土土器一覽(1)	81
第13表	22号住居跡出土土器一覽(2)	82
第14表	24号住居跡出土土器一覽	85
第15表	25号住居跡出土土器一覽	87
第16表	26号住居跡出土土器一覽	88
第17表	259号土坑出土土器一覽	89
第18表	67号住居跡出土土器一覽	92
第19表	68号住居跡出土土器一覽	94
第20表	70号住居跡出土土器一覽	95
第21表	71号住居跡出土土器一覽	96
第22表	72号住居跡出土土器一覽(1)	99
第22表	72号住居跡出土土器一覽(2)	100
第23表	73号住居跡出土土器一覽	101
第24表	74号住居跡出土土器一覽	103
第25表	75号住居跡出土土器一覽	104
第26表	76号住居跡出土土器一覽	107
第27表	77号住居跡出土土器一覽(1)	108
第27表	77号住居跡出土土器一覽(2)	109
第28表	78号住居跡出土土器一覽	110
第29表	79号住居跡出土土器一覽	111
第30表	80号住居跡出土土器一覽	114
第31表	ピット出土土器一覽	115
第32表	ピット計測表(1)	116
第32表	ピット計測表(2)	117
第33表	包含層出土土器一覽(1)	126

第 33 表	包含層出土土器一覧 (2)	127
第 33 表	包含層出土土器一覧 (3)	128
第 33 表	包含層出土土器一覧 (4)	129
第 33 表	包含層出土土器一覧 (5)	130
第 34 表	包含層出土土製品一覧	130
第 35 表	遺構外出土土器一覧 (1)	135
第 35 表	遺構外出土土器一覧 (2)	136
第 35 表	遺構外出土土器一覧 (3)	137
第 35 表	遺構外出土土器一覧 (4)	138
第 35 表	遺構外出土土器一覧 (5)	139
第 35 表	遺構外出土土器一覧 (6)	140
第 36 表	遺構外出土土製品一覧	140
第 37 表	遺構外出土石器一覧	140
第 38 表	住居跡出土須恵器坏底部の調整法一覧	146

図版目次

図版 1	1. 調査区全景
図版 2	1. 5号住居跡 2. 5号住居跡耳栓出土状態 3. 27号炉穴 4. 29号炉穴 5. 33号炉穴遺物出土状態 6. 156号土坑遺物出土状態 7. 157号土坑遺物出土状態 8. 160号土坑完掘
図版 3	1. 165号土坑遺物出土状態 2. 172号土坑遺物出土状態 3. 178号土坑 4. 181号土坑 5. 187号土坑遺物出土状態 6. 189号土坑遺物出土状態 7. 195号土坑・41・47号ピット 8. 214・215・216号土坑
図版 4	1. 217号土坑遺物出土状態 2. 227号土坑遺物出土状態 3. 234号土坑 4. 266号土坑遺物出土状態 5. 20号住居跡
図版 5	1. 20号住居跡炭化材検出状況 2. 21号住居跡 3. 22号住居跡 4. 23号住居跡 5. 24号住居跡 6. 24号住居跡遺物出土状態 7. 25号住居跡 8. 26号住居跡
図版 6	1. 67号住居跡 2. 67号住居跡カマド遺物出土状態 3. 68・69号住居跡遺物出土状態 4. 70号住居跡 5. 70号住居跡遺物出土状態 6. 71号住居跡 7. 72号住居跡カマド検出状況 8. 73号住居跡
図版 7	1. 74号住居跡 2. 74号住居跡遺物出土状態 3. 75号住居跡 4. 76号住居跡遺物出土状態 5. 77号住居跡遺物出土状態
図版 8	1. 78号住居跡遺物出土状態 2. 79号住居跡炭化材・遺物出土状態 3. 80号住居跡カマド内遺物出土状態 4. 80号住居跡遺物出土状態 5. 77・80号住居跡
図版 9	1. 5号住居跡出土遺物 2. 21号炉穴出土遺物 3. 22号炉穴出土遺物

- 図版 10 1. 23号炉穴出土遺物 2. 26号炉穴出土遺物 3. 28号炉穴出土遺物
4. 31号炉穴出土遺物 5. 33号炉穴出土遺物 6. 34号炉穴出土遺物
7. 30号炉穴出土遺物
- 図版 11 1. 156号土坑出土遺物 2. 157号土坑出土遺物 3. 164号土坑出土遺物
4. 167号土坑出土遺物 5. 172号土坑出土遺物
- 図版 12 1. 173号土坑出土遺物 2. 177号土坑出土遺物 3. 178号土坑出土遺物
4. 179号土坑出土遺物 5. 180号土坑出土遺物 6. 181号土坑出土遺物
7. 184号土坑出土遺物
- 図版 13 1. 185号土坑出土遺物 2. 187号土坑出土遺物 3. 188号土坑出土遺物
4. 189号土坑出土遺物 5. 192号土坑出土遺物 6. 194号土坑出土遺物
7. 197号土坑出土遺物 8. 198号土坑出土遺物 9. 199号土坑出土遺物
10. 204号土坑出土遺物 11. 210号土坑出土遺物 12. 214号土坑出土遺物
- 図版 14 1. 217号土坑出土遺物 2. 221号土坑出土遺物 3. 223号土坑出土遺物
- 図版 15 1. 225号土坑出土遺物 2. 227号土坑出土遺物 3. 228号土坑出土遺物
4. 229号土坑出土遺物 5. 234号土坑出土遺物
- 図版 16 1. 237号土坑出土遺物 2. 238号土坑出土遺物 3. 239号土坑出土遺物
4. 244号土坑出土遺物 5. 247号土坑出土遺物 6. 249号土坑出土遺物
7. 251号土坑出土遺物 8. 252号土坑出土遺物
- 図版 17 1. 253号土坑出土遺物 2. 256号土坑出土遺物 3. 20号住居跡出土遺物
- 図版 18 1. 21号住居跡出土遺物 2. 22号住居跡出土遺物 3. 24号住居跡出土遺物
- 図版 19 1. 25号住居跡出土遺物 2. 26号住居跡出土遺物 3. 259号土坑出土遺物
4. 67号住居跡出土遺物 5. 68号住居跡出土遺物 6. 70号住居跡出土遺物
- 図版 20 1. 71号住居跡出土遺物 2. 72号住居跡出土遺物 3. 73号住居跡出土遺物
4. 74号住居跡出土遺物
- 図版 21 1. 75号住居跡出土遺物 2. 76号住居跡出土遺物 3. 77号住居跡出土遺物
4. 78号住居跡出土遺物 5. 79号住居跡出土遺物
- 図版 22 1. 80号住居跡出土遺物 2. 34号ピット出土遺物 3. 47号ピット出土遺物
4. 49号ピット出土遺物 5. 52号ピット出土遺物
- 図版 23 包含層出土遺物 1
- 図版 24 包含層出土遺物 2
- 図版 25 包含層出土遺物 3
- 図版 26 遺構外出土遺物 1
- 図版 27 遺構外出土遺物 2
- 図版 28 遺構外出土遺物 3
- 図版 29 1. 第10図 23-1 貝殻腹縁文 2. 第84図 6 偽貝殻腹縁文 3. 第84図 7 貝殻腹縁文
4. 第90図 37 押捺圧痕 5. 第87図 77 貝殻背圧痕

第1章 遺跡の立地と環境

第1節 市域の地形と遺跡

(1) 地理的環境と遺跡分布

志木市は、埼玉県の南西部に位置し、市域はおおよそ南北 4.71km、東西 4.73km の広がりをもち、面積は 9.05 km² (註1)、人口約 7 万 3 千人の自然と文化の調和する都市である。

地理的景観を眺めて見ると、市域東部の宗岡地区は、荒川(旧入間川)の形成した沖積低地が拡がり、市域西部の本町・柏町・幸町地区は、古多摩川によって形成された武蔵野台地の上にある。また、市内には東部に荒川、中央に古くは舟運で利用された新河岸川、そして西部から中央に新河岸川と合流する柳瀬川の 3 本の川が流れている。

こうした自然環境の中で、市内遺跡の大部分は、柳瀬川・新河岸川右岸流域の台地縁辺部に帯状に分布している。遺跡は柳瀬川上流から順に、西原大塚遺跡(7)、新邸遺跡(8)、中道遺跡(5)、城山遺跡(3)、中野遺跡(2)、市場裏遺跡(15)、田子山遺跡(10)、富士前遺跡(11)、大原遺跡(16)

No.	遺跡名	遺跡の規模	地目	遺跡の種類	遺跡の時代	主な遺構	主な遺物
2	中野	65,780 m ²	畑・宅地	集落跡	旧石器、縄(早～晩)、弥(後)、古(前～後)、平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、井戸跡、溝跡等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器等
3	城山	81,310 m ²	畑・宅地	城館跡・集落跡	旧石器、縄(草創～晩)、弥(後)、古(前～後)、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、土坑墓、地下室、井戸跡、溝跡、柏城跡関連、鋳造関連等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、土師質土器、古銭、鋳造関連遺物等
5	中道	52,980 m ²	畑・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、縄(早～晩)、弥(後)、古(前～後)、平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、土坑墓、地下式坑、溝跡、道路状遺構等	石器、縄文土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭、人骨等
6	塚の山古墳	800 m ²	林	古墳?	古墳?	古墳?	なし
7	西原大塚	163,930 m ²	畑・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、縄(前～晩)、弥(後)、古(前～後)、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、井戸跡、溝跡等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭等
8	新邸	20,080 m ²	畑・宅地	貝塚・集落跡・墓跡	縄(早～中)、古(前～後)、中・近世、近代	貝塚、住居跡、土坑、方形周溝墓、井戸跡、溝跡、段切状遺構、ピット群等	石器、貝、縄文・弥生土器、土師器、陶磁器、古銭等
9	城山貝塚	900 m ²	林	貝塚	縄(前)	斜面貝塚	石器、縄文土器、貝
10	田子山	74,030 m ²	畑・宅地	集落跡・墓跡	縄(草創～晩)、弥(後)、古(後)、奈・平、中・近世、近代	住居跡、土坑、方形・円形周溝墓、ローム採掘遺構、溝跡等	縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、炭化種子等
11	富士前	14,168 m ²	宅地	集落跡	縄文、弥(後)～古(前)、平安、近世以降	住居跡、土坑?、溝跡?	弥生土器、土師器
12	馬場	2,800 m ²	畑	集落跡	古(前)	住居跡?	土師器
13	関根兵庫館跡	4,900 m ²	グラウンド	館跡	中世	不明	なし
14	宿	7,700 m ²	田	館跡	中世	溝跡・井桁状構築物	木・石製品
15	市場裏	13,800 m ²	宅地	集落跡・墓跡	弥(後)～古(前)、中世以降	住居跡・方形周溝墓・土坑	弥生土器、土師器、土師質土器
16	大原	1,700 m ²	宅地	不明	近世以降?	溝跡	なし
合計		504,878 m ²					

平成 28 年 12 月 28 日 現在

第1表 志木市埋蔵文化財包蔵地一覧

第1章 遺跡の立地と環境



第1図 市域の地形と遺跡分布 (1 / 20,000)

平成28年8月30日現在

と名付けられている。また、荒川・新河岸川が形成した沖積低地でも、馬場遺跡（12）、宿遺跡（14）、関根兵庫館跡（13）のように自然堤防上に存在する遺跡も明らかにされつつあり、将来的には新たな遺跡が相次いで発見される可能性がある。なお、現在市内の遺跡総数は、前述した12遺跡に塚の山古墳（6）、城山貝塚（9）を加えた14遺跡である（第1図）。

（2）歴史的環境

次に市内の遺跡を時代順に概観してみることにする。

1. 旧石器時代

旧石器時代の遺跡は、柳瀬川右岸の中野・城山・中道・西原大塚遺跡で確認されている。

中道遺跡では、昭和62（1987）年の富士見・大原線（現ユリノキ通り）の工事に伴う発掘調査により、立川ローム層のⅣ層上部・Ⅵ層・Ⅶ層で文化層が確認されており、礫群、石器集中地点が検出されている。これにより、黒曜石製のスクレイパーやナイフ形石器、安山岩や凝灰岩の石核や剥片などが発見されている。

西原大塚遺跡では、西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査により、石器集中地点が検出されている。石器集中地点は、平成6（1994）年度には2ヶ所、平成7年（1995）度には1ヶ所が検出され、ナイフ形石器・剥片などが発見されている。

平成11～14（1999～2002）年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第49地点からも立川ローム層の第Ⅳ層下部から、黒曜石・頁岩の石核・剥片が約60点出土している。

また、城山遺跡では、平成13（2001）年に発掘調査が実施された第42地点から、立川ローム層の第Ⅳ層上部と第Ⅶ層の2ヶ所で石器集中地点が検出され、黒曜石・安山岩・チャート・頁岩などの抉入石器・剥片など32点が出土している。平成20・21年に発掘調査が実施された第62地点（道路・駐車場部分）でも1ヶ所の石器集中地点が検出され、ナイフ形石器・剥片が出土している。最新では、平成23（2011）年に発掘調査が実施された第71地点では、石器集中地点2ヶ所、礫群9基が検出され、特に礫群については、市内において初の発見例につながった。

2. 縄文時代

縄文時代では、西原大塚遺跡を中心に中期後葉の遺跡が集中し、城山貝塚の周辺の城山遺跡からは、前期末葉（諸磯式期）の住居跡や土器がやや多く検出される傾向にある。

ここでは、時代の推移に従って説明することにする。まず、草創期では、平成4（1992）年に発掘調査が実施された城山遺跡第16地点から爪形文系土器1点、平成6（1994）年に発掘調査が実施された城山第21地点から多縄文系土器3点、第22地点から爪形文系土器1点、平成10（1998）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第51地点から有茎尖頭器1点が出土している。

早期では、遺構の検出例はまだ少ないが、住居跡として、平成18（2006）年に発掘調査が実施された中道遺跡第65地点で検出された前期末葉（条痕文系）の10号住居跡1軒が最古のものと言える。土器としては、田子山遺跡で撚糸文・沈線文・条痕文系土器が出土しているが、御嶽神社を中心とする東側でやや多く出土する傾向がある。最新資料では、平成23（2011）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第121地点のローム上層の遺物包含層から撚糸文系土器・石器がまとめて出土している。また、城山・中野・田子山遺跡からは、条痕文系土器が炉穴に伴い出土している。

前期では、西原大塚・新邸遺跡で住居跡（黒浜式期）、城山遺跡では住居跡（諸磯式期）が検出さ

れている。そのうち、新邸遺跡のものは貝層をもつ住居跡である。また、平成2年度に市指定文化財に認定された城山貝塚も縄文海進期にあたるこの頃の時代に形成された斜面貝塚と考えられる。

中期になると遺跡が最も増加する。特に、中期中葉から後葉の勝坂式～加曾利E式期にはその傾向が強くなり、中野・城山・中道・西原大塚・田子山遺跡で住居跡を中心に土坑が検出されている。特に西原大塚遺跡では、現時点で180軒以上の住居跡が環状に配置していることが判明しつつある。中期末葉からは遺跡が減少し、現在のところ西原大塚遺跡から敷石をもつ住居跡が1軒確認されるのみである。

後期では、西原大塚遺跡から堀之内式期の住居跡1軒と加曾利B式期の住居跡1軒、遺物集中地点1ヶ所が検出されている。また、その他の遺構としては、平成6(1994)年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点で、土坑1基が検出され、下層から称名寺I式期の土器、上層からⅡ式の特徴をもつ土器が出土している。西原大塚遺跡第54地点でも2基の土坑が検出されている。最新資料では、平成25(2013)年度に発掘調査が実施された中野遺跡第85地点から、市内初の柄鏡形住居(敷石住居)1軒が検出され、注目される。

晩期では、中野・田子山遺跡から安行ⅢC式・千網式の土器片が少量発見されるにとどまり、以降市内では弥生時代後期まで空白の時代となる。

3. 弥生時代～古墳時代前期

弥生時代では、現時点において、前・中期の遺跡は検出されていないが、後期末葉から古墳時代前期と考えられる遺跡が数多く検出されている。中でも、平成6(1994)年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点の21号住居跡は後期中葉に比定される可能性があり、その住居跡からは、多数の土器をはじめ、大量の炭化種子(イネ・アワ・ダイズなど)、炭化材が出土し、当時の食糧事情を考える上で重要である。富士前遺跡では、『志木市史』にも掲載されているが、不時の発見に伴い、籠目痕をもつ壺形土器をはじめとした多くの土器が発見されている。

西原大塚遺跡では後期末葉から古墳時代前期にかけての住居跡が約600軒確認されており、市内最大の集落跡であることが判明している。特に、122号住居跡からは全国的にも稀な「イヌ」を象ったと思われる動物形土製品が出土している。平成24(2012)年に発掘調査が実施された第179地点からは、遺存状態は良好ではないが、市内初の銅釧が出土している。

昭和62(1987)年以降、西原大塚・田子山・市場裏遺跡の3遺跡において、方形周溝墓が検出されてきたが、最新では、平成15(2003)年に発掘調査が実施された新邸遺跡第8地点と平成18(2006)年に実施された中道遺跡第65地点でも、それぞれ1基が確認されている。これにより当時の墓域が、集落と単位的なまとまりをもって存在することが明らかになってきたと言えるであろう。

市内で最も多く方形周溝墓が検出されている西原大塚遺跡では、10号方形周溝墓の溝底から一括出土した中に畿内系の庄内式の長脚高坏が出土していることに注目される。また、平成11(1999)年に発掘調査が実施された西原大塚遺跡第45地点では、一辺20mを超える市内最大規模の17号方形周溝墓が発見され、この方形周溝墓の溝からは、珍しい鳥形土製品をはじめ、畿内系の有段口緑壺、吉ヶ谷式系の壺、在地系の壺などと大きく畿内・比企地域・在地の3要素の特徴を示す壺が出土している。こうした地域に関わる被葬者の人物像が浮き彫りにされたことで、当地域の弥生時代後期から古墳時代前期の歴史を紐解く手がかりになったことは重要である。

なお、以上のうち、西原大塚遺跡122号住居跡出土の動物形土製品1点と西原大塚遺跡17号方形

周溝墓から出土した、鳥形土製品1点と壺形土器4点の計5点は、考古資料として、平成25年3月1日付けで、市指定文化財に指定されている。

4. 古墳時代中・後期

古墳時代でも前期末葉から中期になると、遺跡が減少する傾向にある。その中で、西原大塚遺跡に隣接する新邸遺跡で検出されている第2地点の1号住居跡と平成15(2003)年に発掘調査が実施された第8地点の2～8号住居跡は、古墳時代前期でも比較的新しい段階に比定される可能性がある。このことから、新邸遺跡で検出された住居跡は、隣接する西原大塚遺跡から継続して広がった集落跡ではないかと推測される。

中期の遺跡では、中道・城山・中野遺跡から住居跡が発見されている。その中でも、平成7(1995)年に発掘調査が実施された中道遺跡第37地点19号住居跡は、5世紀中葉に比定され、カマドをもつ住居跡としては市内最古のものである。

5世紀末葉になると、遺跡が増加傾向にあり、特に6世紀後半から7世紀後半にかけては、縄文中期を越えるほどの爆発的な増加をみる。こうした集落跡は現在、中道・城山・中野遺跡に比較的古い5世紀代の住居跡が確認されていることから、柏町地区を中心に存在した集落が、6世紀後半以降、周辺の地域に拡散するという動きを読み取ることができる。

なお、新邸遺跡では第8地点で初めて古墳時代後期(7世紀中葉)の住居跡が1軒検出されている。この住居跡は、3×3.5mの小型の長方形を呈するもので、焼失住居であり、床面上からは土器・炭化材の他ベンガラ塊が出土している。

現在、5世紀後半から7世紀後半にかけての時期に比定できる住居跡の軒数は、最も多い城山遺跡で200軒を越え、次いで中野遺跡で約50軒、中道遺跡で約15軒、田子山遺跡で約10軒、新邸遺跡で1軒を数える。

また住居跡以外では、平成5(1993)年に発掘調査が実施された田子山遺跡第24地点から、6世紀後半以降のものと考えられる4.1×4.7mの不整形円で2ヶ所にブリッジをもつ小型の円形周溝墓が1基確認されている。さらに、平成14(2002)年に発掘調査された田子山遺跡第81地点を契機に御嶽神社を取り囲むように外周で推定約33mの巨大な溝跡の存在が明らかになり、現時点では古墳の周溝ではないかと考えられている。

5. 奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺跡は、古墳時代後期以降に拡散した集落内で確認される傾向にあり、現在のところ、中野・城山・中道・西原大塚・田子山遺跡で検出されている。中でも城山・田子山遺跡はこの時代を代表とする遺跡として挙げるることができる。城山遺跡では、平成8(1996)年に発掘調査が実施された第35地点の128号住居跡から、印面に「富」1文字が書かれた完形品の銅印が出土しているが、これは県内でも稀少な例として貴重な資料であろう。この住居跡からはその他、須恵器坏や猿投産の緑釉陶器の小破片1点、布目瓦の小破片2点などが出土している。平成20・21(2008・2009)年の城山遺跡第62地点の調査では、平安時代の241号住居跡から皇朝十二銭の一つである富壽神寶ふじゆしんぼうが2枚とその近くからは鉄鎌1点と土錘1点が出土しており、祭祀行為が行われたと考えられる貴重な例として、県内でも重要な発見につながっている。

田子山遺跡では、平成5(1993)年に発掘調査が実施された第24地点からは、住居跡の他、掘

立柱建築遺構・溝跡そして100基を越える土坑群が検出されている。平成6（1994）年に発掘調査が実施された第31地点の44号住居跡からは、腰帯の一部である銅製の丸鞆が出土している。さらにカマド右横の床面上からは、東金子窯跡群（入間市）の製品と南比企窯跡群（鳩山町）の製品という生産地の異なる須恵器坏が共伴して出土したことにより、土器編年の基本資料として貴重であると言える。

なお、以上のうち、城山遺跡128号住居跡出土の銅印ほか9点の遺物と城山遺跡第241号住居跡出土の富壽神寶ほか2点の遺物は、考古資料として、平成25年3月1日付けで、市指定文化財に指定されている。

6. 中・近世

中・近世の遺跡は、「柏の城」を有する城山遺跡と千手堂関連である新邸・中道遺跡、そして関根兵庫館跡・宿遺跡が代表される遺跡と言える。城山遺跡では、数次にわたる発掘調査により、『^{たてむら}館村旧記』（註2）にある「柏之城落城後の屋敷割の図」に相当する堀跡などが多数発見されている。近年では、『^{かいこくごつき}廻国雑記』（註3）に登場する「^{おおいしなのかみのやかた}大石信濃守館」が「柏の城」に相当し、「^{おおつかじゆうぎよくぼう}大塚十玉坊」についても市内の「大塚」に由来があるという説が有力と言えるであろう（神山 1988・2002）。

また、平成7（1995）年に発掘調査が実施された第29地点の127号土坑からは、馬の骨が検出されている。この土坑からは、板碑と土師質土器の他、炭化種子（イネ・オオムギ・コムギなど）も出土しており、イネの塊状のものは「おにぎり」あるいは「ちまき」のようなものであるという分析結果が報告されている。

さらに、平成8（1996）年度に発掘調査が実施された第35地点では、鑄造関連の遺構も検出されている。130号土坑については鑄造遺構、134号土坑については溶解炉に該当し、遺物としては、大量の鉄滓（スラッグ）、鑄型、三叉状の土製品、砥石などが出土している。また、平成13（2001）年度の第42地点からは、多くの土坑・地下室・井戸跡が検出される中、234号土坑から、鉄鍋の完形品が出土したことは特筆すべきである。この鉄鍋は、土坑の坑底面に伏せてある状況で出土しており、「鍋被り葬」と呼ばれる風習が志木市でも実在していた可能性が高い。

戦国期の資料としては、平成6（1994）年度に発掘調査が実施された第21地点から、当市では初めて、^{よろい さね}鎧の札のである鉄製品1点と鉄鍬1点が出土している。出土した遺構は、19世紀前半の86号土坑であるため混入品となるが、「柏の城」に関連する資料として大変重要な資料に加わったと言える。

平成11～14（1999～2002）年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第49地点からは、頭を北に向け横臥屈葬された人骨を出土した67号土坑が検出されている。その他、ピット列・土坑・溝跡などが検出されていることから、この一帯が『館村旧記』に記載がある「村中の墓場」関連に相当する施設ではないかと考えられる。

中道遺跡では、昭和62（1987）年の第2地点から人骨を伴う地下式坑、掘立柱建築遺構が検出され、平成7（1995）年の中道遺跡第37地点からは、人骨と古銭5枚を出土した土坑墓1基と13世紀に比定される青磁盤1点を出土した道路状遺構1条が検出されている。

新邸遺跡では、昭和60（1985）年の第1地点から段切状遺構の平場から多数の土坑・地下式坑が検出され、平成15（2003）年の新邸遺跡第8地点からは、人骨と六文銭を伴う火葬墓2基が検出されている。おそらく、この新邸遺跡から中道遺跡一帯は、『館村旧記』に記載がある「大塚千手堂」

であり、古くは天台宗の「七堂大伽藍」を誇る「松林山観音寺大受院」^{しょうりんざんかんのんじだいじゆいん} 関連遺構として、今後は体系的な究明が必要とされるであろう。

7. 近代以降

近代以降の遺跡では、平成5（1993）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点から、敷島神社境内に存在する富士塚の築造（明治2～5年）に関連するローム採掘遺構が検出されている。この遺構の坑底面からは、鋤・鍬などの無数の工具痕が観察され、採掘作業がかなり組織的な単位で行われていたこともわかり、地域研究の重要な資料と言える。

平成15（2003）年の新邸遺跡第8地点からは、野火止用水跡が検出され、市内初の発掘調査例となった。用水路の基盤面からは水付きの銹着面が確認され、底面からは大量の陶磁器が出土した。

第2節 遺跡の概要

ここで、今回本書で報告する中野遺跡について概観することにする。

中野遺跡は、志木市柏町1丁目を中心に広がる遺跡で、東武東上線志木駅の北方約1.2 kmに位置している。遺跡は、柳瀬川流域右岸の台地上に立地しており、標高は北端で約9 m、南端で約11 mを測り、台地縁辺では際立った断崖もみられないままゆるやかに北側の低地に移行する。遺跡の現況は、宅地化が急速に進行している地域で、畑地は減少している。

次に、これまでに中野遺跡からどのような遺構・遺物が検出されたかを今までの発掘調査の成果から大まかに振り返ってみたい。

中野遺跡における第1回目の発掘調査は、昭和59年の第2地点に始まる。その際には、弥生時代後期の住居跡2軒、古墳時代後期の住居跡1軒、平安時代の住居跡1軒が検出されている。

昭和62年の第6地点の調査では、中世以降と考えられる溝跡と縄文時代の可能性のある土坑1基が検出されている。

昭和63年には、第7・8・9地点の発掘調査が実施され、第7地点からは、古墳時代後期と思われる住居跡1軒、第8地点からは、近世以降の土坑1基、第9地点からは、弥生時代後期の住居跡1軒が検出されている。

平成2年には、第11地点から、近世以降の土坑1基、第12地点からは、古墳時代後期の住居跡1軒が検出されている。また、第16地点からは、縄文時代の集石1基、古墳時代後期の住居跡1軒、平安時代の住居跡3軒が検出されている。

平成3年には、第18地点の発掘調査が実施され、縄文時代の土坑1基、古墳時代後期の住居跡1軒が検出されている。特筆すべきは、住居跡の床面上から、完形品を含め鉄鏃が11点出土したことである。鉄鏃の形態は、長頸篋被腸抉片刃丸造柳葉式、長頸棘篋被腸抉片刃丸造柳葉式、長頸篋被腸抉片刃丸造長三角式などに分類されるもので、その主体は長頸篋被腸抉片刃丸造柳葉式である。

平成4年には、第25地点の調査が実施され、縄文時代早期後半の炉穴5基・土坑9基、中期後半の住居跡1軒、弥生時代後期の住居跡1軒・土坑1基、古墳時代後期の住居跡10軒、平安時代の住居跡2軒・土坑1基、近世の土坑15基が検出された。特に、古墳時代後期の19号住居跡は、

一辺 10 m を越える大形住居跡であり、正確な正方形プラン、そして 8 本の柱穴・貯蔵穴の配置に至るまで計画的に作られており、中野遺跡の古墳時代後期の全体像を把握する上で大変貴重な資料となった。

また、平成 5 年には調査面積 2000 m² を超す市内では大規模調査と言える第 28 地点の調査が実施され、旧石器時代の石器集中分布地点、縄文時代早期末葉の炉穴 5 基・土坑 6 基、弥生時代後期後葉の住居跡 4 軒、古墳時代後期～平安時代の住居跡 17 軒、中・近世の土坑 4 基・井戸跡 1 基・溝跡 1 本が検出された。報告はまだであるが、平成 13 年に刊行された第 25 地点の北隣に位置するため、中野遺跡の面的な把握をする上で今後の報告書の刊行が期待される。

なお、平成 5 年度には、田子山遺跡でもほぼ同規模の第 24 地点が併行して実施され、西原地区特定区画整理事業に伴う発掘調査も継続的に開始された。さらに、平成 6 年には 2000 m² を超す田子山遺跡第 31 地点、平成 7 年には中野遺跡第 40 地点の調査が実施されるなど、志木市における平成 5～7 年は、本格的な発掘調査ラッシュと表現しても過言ではない。

以降、比較的大規模開発はおさまり、個人住宅建設を中心とする小規模開発に主体が移ることになった。平成 8 年度は、第 43 地点の調査が実施され、平安時代の住居跡 1 軒と時期不明の井戸跡 1 基が検出されるが、平成 9・10 年には、この地区での確認調査・発掘調査は実施されていない。

そして、平成 11 年には、第 49 地点の発掘調査（全 5 工程）が開始され、この地区では初めて、人骨を伴う土坑墓やピット列などが検出された。これらの遺構については、ロームを掘削して造成した平場面にこうした遺構が存在することから、この一帯が『館村旧記』に記されている「村中の墓場」に相当する可能性があるのではないかと考えられる。

平成 13 年には、第 57 地点の発掘調査が実施された。この調査は、遺跡の隣接地域であった宝幢寺の不動堂建設工事に伴うにあたり確認調査を実施した結果、近世の陶・磁器や広範囲に硬化した面が確認されたため、遺跡範囲を増補して発掘調査を実施したものである。これにより、宝幢寺関連と考えられる近世以降の土坑 11 基・井戸跡 1 基・道路状遺構 2ヶ所が検出された。特に、道路状遺構は、宝幢寺の旧文殊堂に相当する位置に伸びていることから、参道部分にあたるのではないかと推測される。

平成 14 年は、第 49 地点の最終工程である第 5 工程が完了した。

平成 15～19 年は、中野遺跡において発掘調査は実施されていない。

平成 20 年には、埋蔵文化財保管センター建設に伴う第 71 地点の発掘調査が実施された。特筆すべきは、遺物包含層から縄文時代後期を中心とする遺物が多く出土したことである。

最新資料では、平成 25 年度に第 71 地点のすぐ東側に位置する第 85 地点の発掘調査が実施され、縄文時代後期の柄鏡形住居（敷石住居）1 軒が検出され、市内初の発見につながり注目される。

以上の調査から、中野遺跡は、旧石器時代・縄文時代早～晩期・弥生時代後期・古墳時代前～後期・平安時代・中・近世の複合遺跡であることが判明してきている。中でも、古墳時代の中・後期に関しては、広範囲で検出される住居跡の分布状況や一辺 10 m を超す大形住居跡、8 本・12 本柱をもつ住居跡、そして、長頸篋被腸片刃丸造柳葉式の鉄鏃を出土した住居跡の存在などから考え、今後、志木市のみならず周辺の地域を含めた広域に亘る古墳文化を追求する上で重要な役割を果たすものと考えられる。

最後に、本遺跡の特色を時代別にまとめると、以下のとおりである。

- 旧石器時代 第28・49地点、石器集中地点がそれぞれ1ヶ所確認されている。
- 縄文時代 早期後葉の炉穴11基。
中期後葉の住居跡2軒。第25・49地点で1軒ずつ検出されている。
第85地点から後期前葉の市内初の柄鏡形住居（敷石住居）1軒が検出されている。
- 弥生時代 後期後葉の住居跡19軒。第28地点6号住居跡の床直から吉ヶ谷式土器出土。
- 古墳時代 中期から後期の集落としては、本遺跡の西にある谷を挟んで近接する、城山遺跡と密接な関係にある重要な遺跡である。第25・28・40地点はマンション建設に伴う比較的大規模調査であり、5世紀後葉から7世紀中葉にかけての住居跡が全体で約40軒検出されている。
- 奈良時代 現時点では遺構・遺物は検出されていない。
- 平安時代 9世紀前半から10世紀にかけての住居跡約20軒。
第40地点57号住居跡から灰釉耳皿の完形品が出土している。第43地点64号住居跡は、鉄滓を多く出土したことから、鍛冶関連の遺構と考えられる。
- 中世以降 第49地点67号土坑から人骨が検出されている。この遺構を含め、地下式坑・溝状遺構・ピット列は、中世の墓域である可能性がある。現時点では、『館村旧記』に記されている「村中の墓場」関連に相当する施設であるのではないかと考えられる。

[註]

註1 平成26年度「全国都道府県市町村別面積調」により、9.06 km²から変更された。

[引用文献]

神山健吉 1988 「『廻回雑記』に現れる 大石信濃守の館と十玉坊の所在についての一考察」『郷土志木』第7号
2002 「道興をめぐる二つの謬説を糾す」『郷土志木』第31号

第2章 発掘調査の概要

第1節 調査に至る経緯

平成27年5月、㈱東亜 代表取締役 原孝一（以下、工事主体者）から志木市教育委員会（以下、教育委員会）へ土木工事計画地内（志木市柏町1丁目1510番1ほか 面積3,009.12㎡）における埋蔵文化財の有無及び取り扱いについての照会があった。

これに対し、教育委員会は当該開発予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である中野遺跡（コード11228-09-002）に該当するため、大旨下記のとおり回答した。

1. 既存建物の解体工事後に埋蔵文化財確認調査（以下、確認調査）を実施し、その結果に基づき当該地の埋蔵文化財の有無及び取り扱いについて回答する。
2. 上記1の調査の結果、埋蔵文化財が確認された場合、埋蔵文化財の保存措置を講ずること。また、土木工事計画が埋蔵文化財に影響を与える内容である場合は、記録保存のための発掘調査を実施する必要があること。

5月11日、教育委員会は工事主体者より確認調査依頼書を受理し、6月15日から25日まで確認調査を実施した。確認調査は、第2図に示したように、調査区に対して南北方向に7本、東西方向に13本、高木周辺に3本のトレンチをそれぞれ設定し、バックホーで表土を剥ぎ、遺構確認作業を行った。その結果、縄文時代の住居跡9軒、縄文時代の炉穴6基、縄文時代の土坑8基、弥生時代の後期から古墳時代前期の住居跡2軒、古墳～平安時代の住居跡41軒、古墳時代以降の土坑17基、ピット多数、縄文時代の遺物包含層を確認した。

7月7日、教育委員会は確認調査結果を工事主体者に報告し、埋蔵文化財の保存措置に関する協議を開始した。7月27日、工事主体者から土地利用計画図及び発掘届が提出され、一部売却後の総面積2,999.65㎡の内、608.70㎡は道路新設工事、221.00㎡は浸透トレンチ設置工事、2,383.45㎡は22区画分の宅地として分譲する計画であることが教育委員会に示された。教育委員会は上記計画を受けて、道路新設工事部分及び浸透トレンチ設置工事部分（計829.70㎡）については記録保存（発掘調査）、宅地部分については現状保存とすることが適切である旨を工事主体者に伝え、合意を得た。同日、工事主体者から志木市埋蔵文化財保存事業委託申請書が提出された。教育委員会は、9月14日付けで発掘届及び発掘調査通知を埼玉県教育委員会に提出した。

9月27日、志木市と工事主体者は、記録保存（発掘調査）に係る事前協議を実施し、10月1日に埋蔵文化財保存事業に係る協議書を取り交わし、委託契約を締結した。

発掘調査主体者である教育委員会は、調査の実施にあたり、民間調査組織に支援業務を委託することとし、指名競争入札を行った。その結果、支援を委託する民間調査組織が㈱東京航業研究所代表取締役 中本直士に決定し、志木市との間で委託契約が締結された。

以上、教育委員会を調査主体に㈱東京航業研究所が支援する体制により、10月8日から発掘調査を実施した。

尚、現状保存となった宅地部分の保存措置については、分譲後に個別に検討することとなった。

第2節 調査の経過

発掘調査は、平成27年10月8日より開始し、平成27年12月18日を以って終了した。

10月8日、調査区南西側より表土掘削開始、並行して資材搬入等行う。13日には人力による遺構確認作業を開始、土坑中心に順次調査を開始した。

10月15日、67号住居跡の調査を開始。以後、検出された住居跡の調査を順次進める。20日、表土掘削が終了。同日、旧石器時代の遺物および基本層序を確認するため試掘坑（TP1）の掘削を開始、以後3ヶ所において試掘坑を設定し順次調査を行う。22日、67号住居跡調査が完了。68号住居跡の調査に移行する。23日には69号住居跡、26日には70、71号住居跡、27日には72号住居跡の調査を開始し、また、28日には73号住居跡を、29日には20号住居跡の調査に着手し、調査区北側全域にて調査を展開する。

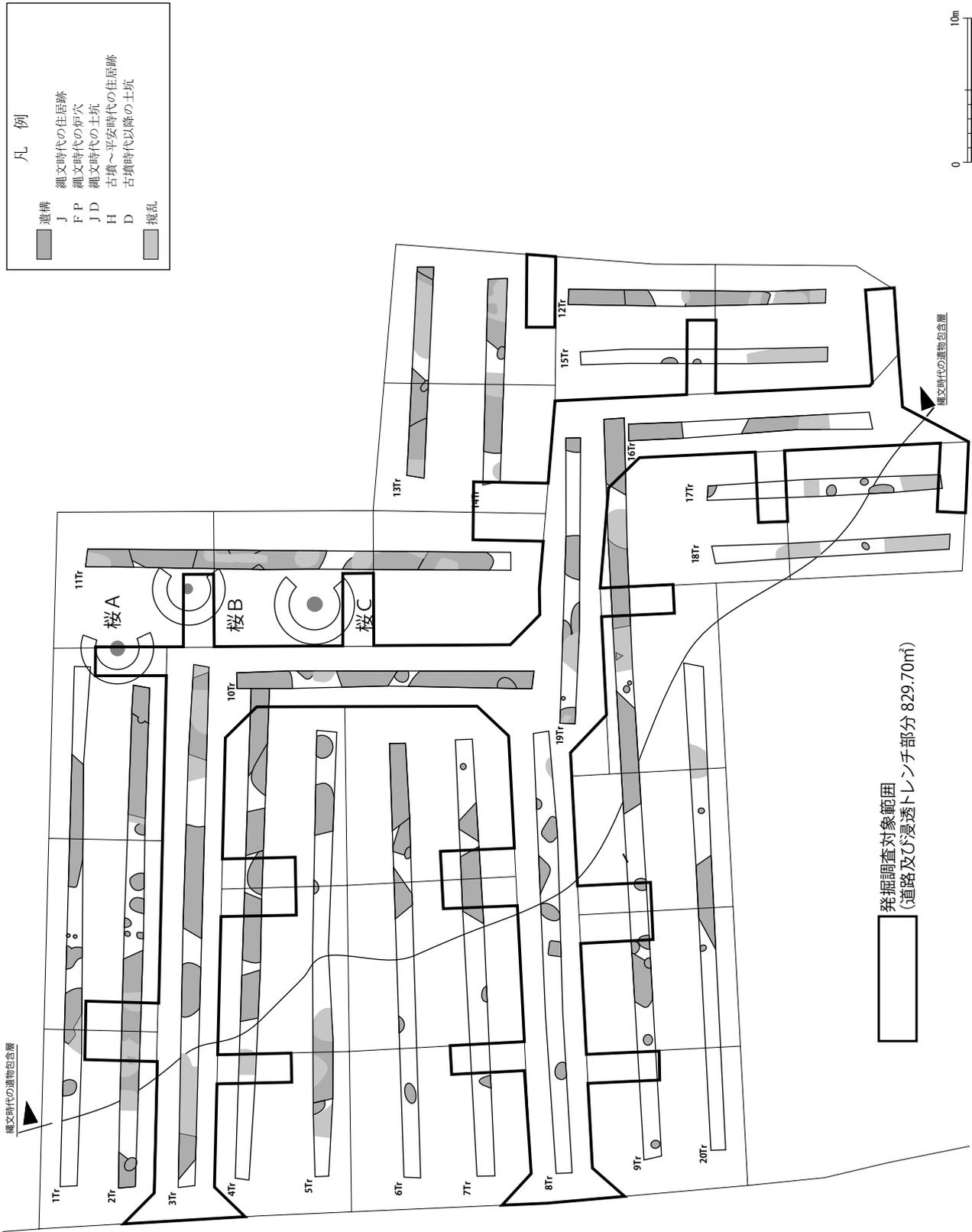
11月4日、調査区南東部にて74号住居跡を検出する。9日には、調査区北東部にて新たに76号住居跡を検出、調査に着手する。17日、74号住居跡の調査に着手。以後、調査区南側にも範囲を広げ調査を行う。20日、77号住居跡を検出。複数の住居跡が重複ないしは近接し確認される。25日には22号住居跡の調査を開始。26日、77、80号住居跡の調査に着手。また、両住居跡に先行する25号住居跡も確認される。

12月5日、現地説明会を開催。8日、新たに5号住居跡が確認され調査を開始する。10日、土坑、ピットを中心の調査に移行。18日、全ての遺構調査が終了する。22日、発掘資材、仮設ハウス等全てを撤収し、現地での調査が終了した。

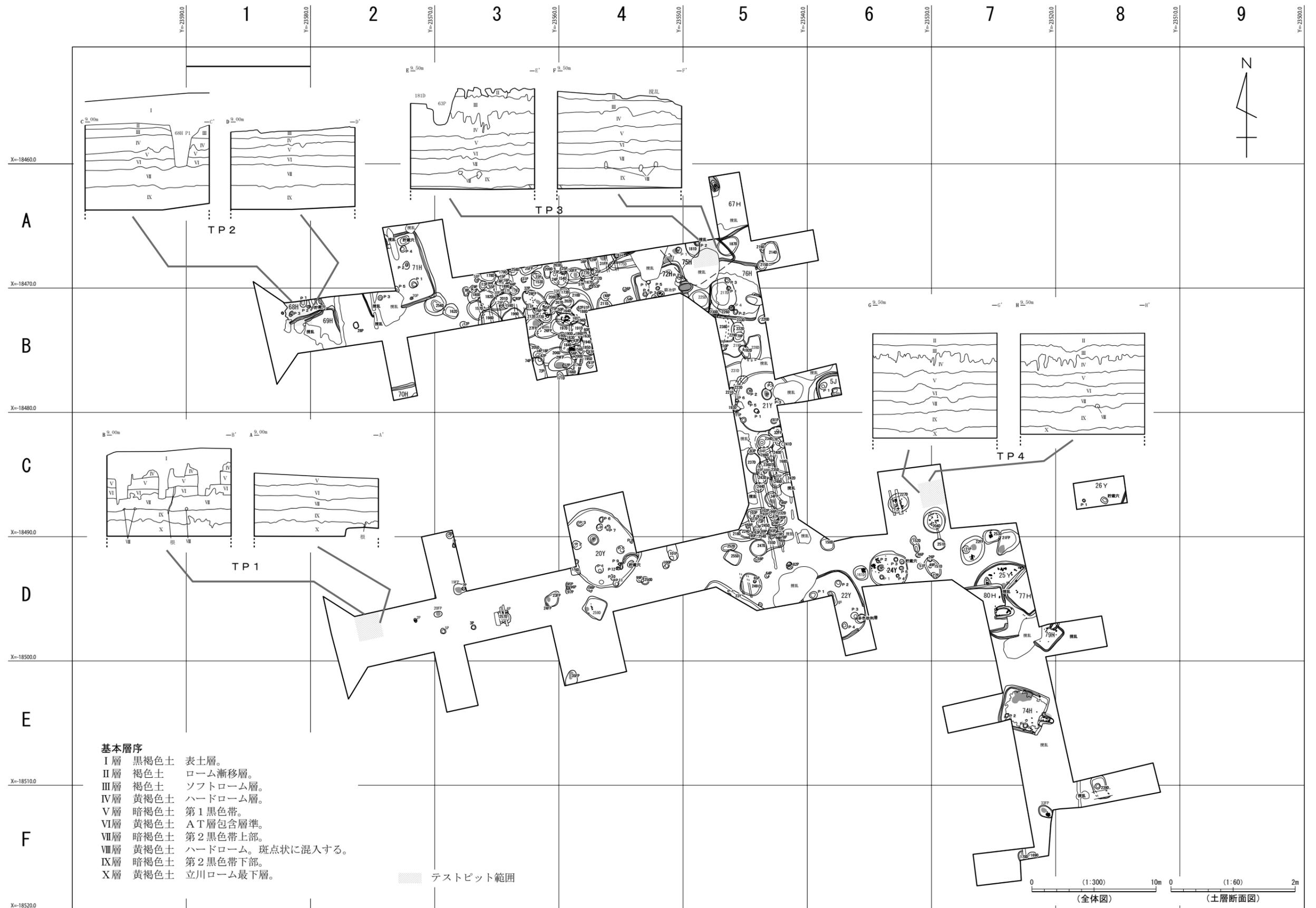
第3節 基本層序

本地点では、旧石器時代文化層確認のため、TP1からTP4にトレンチを設定し、合わせて自然地形の層序の観察を行った（第3図）。

層序は概ね水平な堆積を示し、南東方向へ僅かな傾斜が見られた。確認された層は立川ロームⅡ層からⅩ層相当層であり、調査区南西TP1ではⅢ層以上が削平を受け消失していたが、その他の地点ではⅡ層が良好に遺存し、人工改変の稀薄な状況を示した。



第2図 確認調査遺構分布図 (1 / 400)



第3図 調査区全体図・テストピット (1/300・1/60)

第3章 検出された遺構と遺物

第1節 縄文時代の遺構と遺物

(1) 概要

本調査区からは、早期から晩期と断続的長期にわたる時期の土器が出土している。

これらの主だった土器型式判断のできたものには、早期は田戸上層式・条痕文系土器、前期は花積下層式・関山式・黒浜式・諸磯式・十三菩提式・浮島式、中期は五領ヶ台式・勝坂式・阿玉台式・加曾利EⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ式、後期は称名寺式・堀之内式・加曾利B式、晩期は安行Ⅲc式などがある。また、型式名を確定できない土器片も少なくない。一方、検出された遺構は住居跡1軒、炉穴17基、土坑108基がある。

住居跡は、1/4軒ほどの部分的な検出のため、遺構としての傾向や炉の形態、遺跡における位置づけについても把握することはできなかったが、勝坂式土器の出土と言った点で、注目しておきたい。

炉穴については、大半に遺物の出土がなく、早期の炉穴に多く観られるアメーバー状平面形を呈するものは殆ど無い。炉床を僅かでも確認できたことにより、炉穴の可能性があると取り上げた。しかし、45・46号炉穴は早期末葉条痕文系の土器片が比較的多く出土しており、早期末葉の炉穴と考えられる。

土坑は、遺物を伴わないものが多く、明確に所産期を確定できるものではなかったが、覆土から縄文時代と思われるものを提示した。それらの大半は、断面がタライ状・播鉢状のものである。しかし、204・214・234号土坑は袋状土坑と考えられる。234号土坑は比較的遺存度が高く、袋状土坑の特徴を掴むことが可能な資料である。浅く底部しか残さない遺存度の低い資料についても、袋状土坑の可能性を内包していることを念頭に入れておきたい。ここでは、遺物の出土が確認できた遺構を優先して図面提示してある。

以下に、主だった個別の遺構について所見を述べる。

(2) 住居跡

5号住居跡

遺 構 (第4図)

[位 置] (B-6) グリッド。

[住居構造] 遺存度良好だが、東側と南側を調査区外に延ばし、重複関係はない。平面形：円形か。規模：1.91m以上×1.60m以上。深さ0.72m。主軸方位：不明。壁高：最深部で0.34mを測る。壁溝：検出部分の壁に全周する。上幅0.14～0.25m/下幅0.08～0.02m/深さ0.09～0.12mを測る。床面：概ねフラットでやや中央に向かいだらだらと傾斜する。床面レベル：8.362～8.557m。炉：地床炉が床面中央付近と思われる場所で検出された。半分は調査区外に位置する。柱穴：北西コーナーに1本検出された。規模0.66m以上×0.51m以上、深さ0.78m。

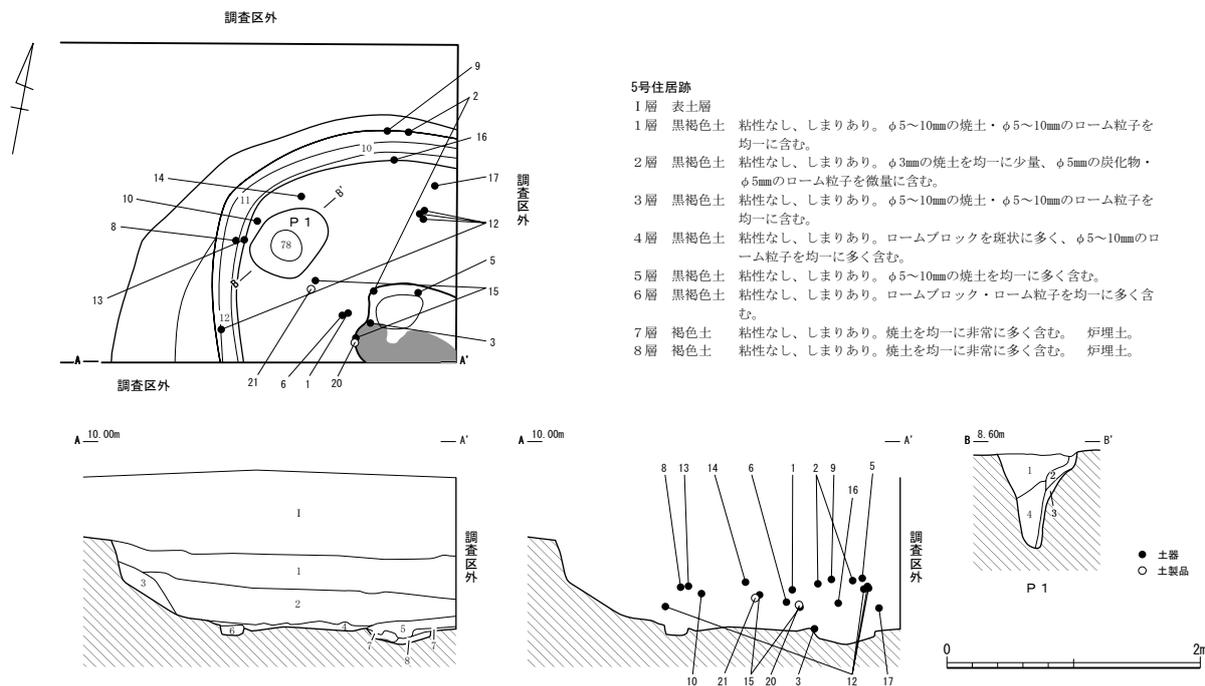
[覆 土] 6層に分層される。黒褐色土を基調とし、最下層は炉埋土の影響を受け焼土粒子を少量

混入する。

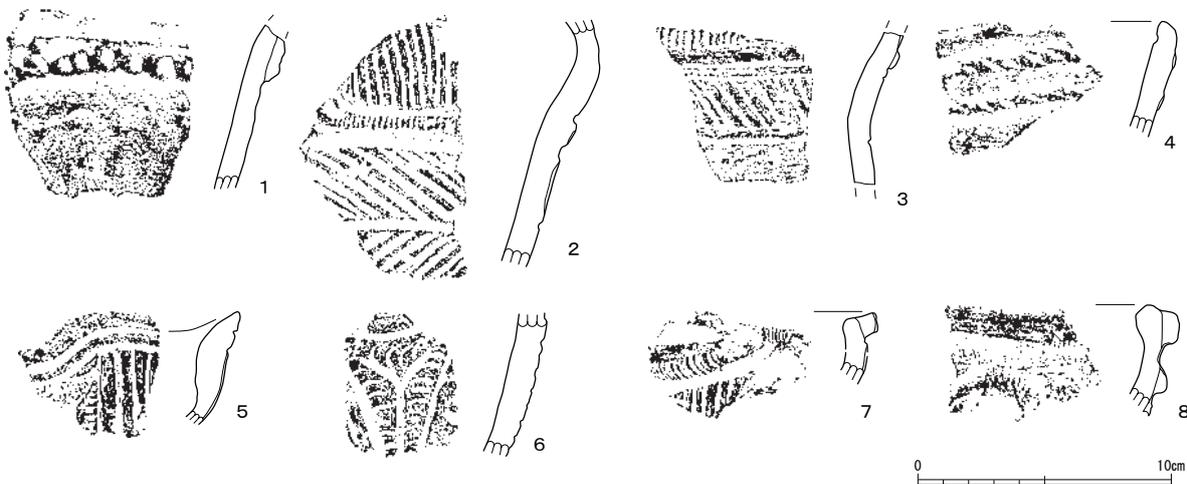
[時 期] 縄文時代中期中葉と考えられる。

遺 物 (第5・6図、第2・3・4表)

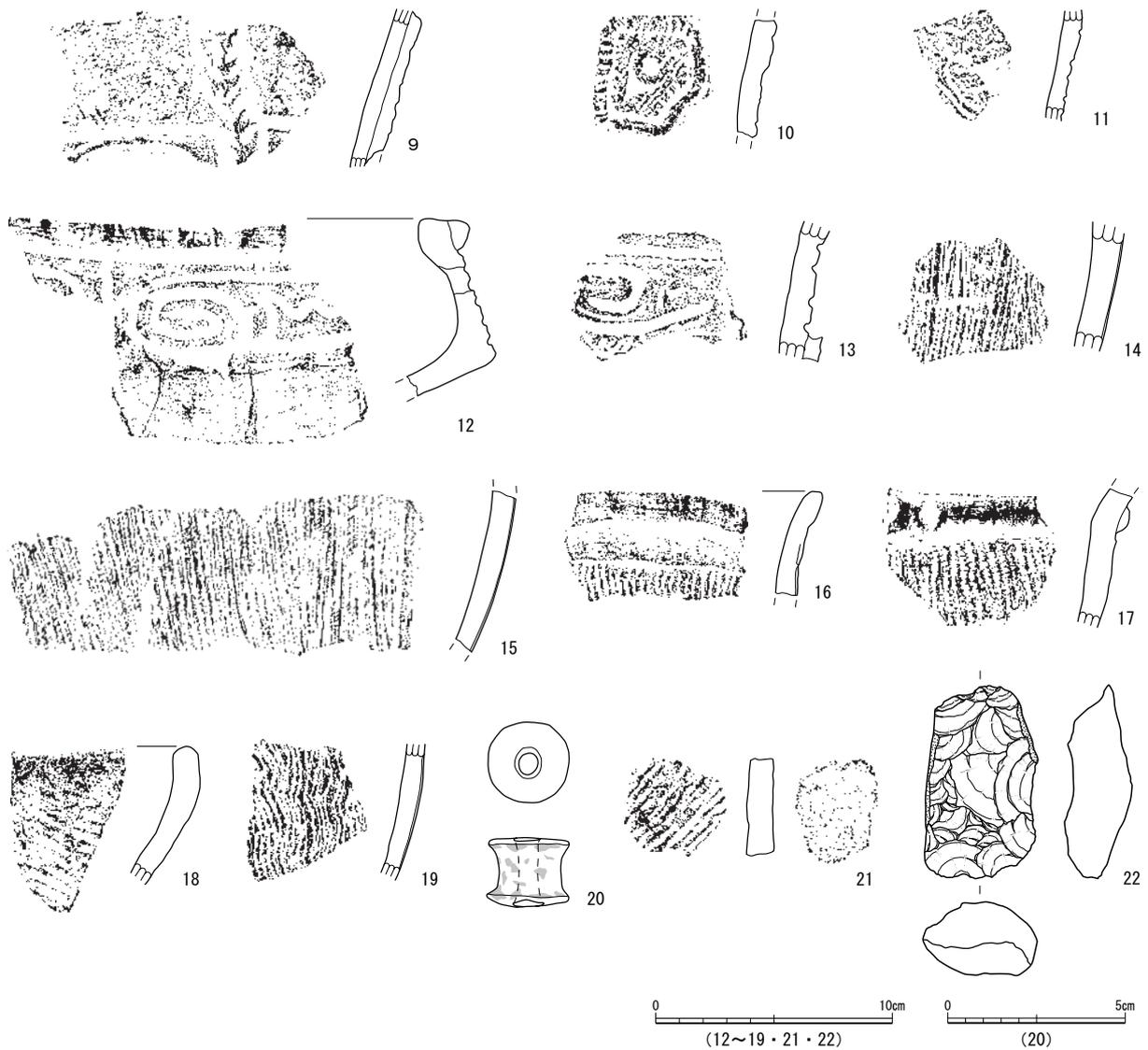
縄文中期中葉の土器片が覆土中層から下層で出土している。勝坂Ⅱ～Ⅲ期を主体である。1は隆帯上に刻み目を持つ。2・3は隆帯で区画し、沈線を充填する。4は隆帯上に刻み目を持つ。5・7・8・10は連続爪形文を施す。6は連続刻み目文を施す。9は縦位の隆帯上に刻み目文を施す。11は区画内に沈線による連続山形文を配する。12・13は太めの沈線で渦巻文を描く。14・16・19は縦位の条線を施す。15は撚糸L、16はRL、18は無節Rを地文とする。20は耳栓で部分的に赤彩が認められる。21は土器片錘。22は安山岩製の打製石斧の未成品と思われる。



第4図 5号住居跡 (1 / 60)



第5図 5号住居跡出土遺物1 (1 / 3)



第6図 5号住居跡出土遺物2 (1/3・1/2)

挿図番号	種別 器種	法量 (cm)	色調	胎土	焼成	製作の特徴等	出土位置	時期
第5図1	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR6/3	白色粒子 雲母	良好	刻み目文を持つ低い貼付け隆帯	覆土 (46 cm)	中期 中葉
第5図2	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR5/4	白色粒子 雲母	良好	連続爪形文を持つ貼付け隆帯による区画内に斜行沈線文で充填し、下位に単沈線による斜行沈線文を矢羽状に横位に配する	覆土 (51 cm)	勝坂Ⅲ
第5図3	深鉢	—	橙 5YR7/6	白色粒子 雲母	良好	低い貼付け隆帯による横位区画文の上位に細かい半截竹管による縦位沈線文/下位に単沈線による斜行沈線文	覆土 (15 cm)	勝坂Ⅲ
第5図4	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR5/4	白色粒子	良好	横位に併走する摘み上げによる横走隆帯の稜頂に連続刻み目文/内面口縁部端部に横走沈線文	覆土	中期 後葉
第5図5	深鉢	—	にぶい橙 7.5YR6/4	白色粒子 雲母	良好	波状口縁を呈し、半截竹管による横走並行沈線文と縦位区画文/区画内に半截竹管による連続爪形文	覆土 (55 cm)	勝坂Ⅱ
第5図6	深鉢	—	にぶい 黄褐 10YR6/3	白色粒子 雲母	良好	単沈線による三角区画内に三叉文を配し、半截竹管による連続刻み目文で充填する	覆土 (36 cm)	勝坂Ⅲ

第2表 5号住居跡出土土器一覧(1)

第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号	種別 器種	法量 (cm)	色調	胎土	焼成	製作の特徴等	出土位置	時期
第5図7	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR5/4	白色粒子 雲母	良好	半截竹管による連続爪形文を持つ貼付け隆帯の後、斜行沈線文を施し、隆帯側縁に沈線文が沿う	覆土	勝坂Ⅱ
第5図8	深鉢	—	にぶい橙 7.5YR6/4	白色粒子 雲母	良好	高い貼付け隆帯の後、半截竹管による連続爪形文	覆土 (47 cm)	勝坂Ⅱ
第6図9	深鉢	—	にぶい 黄橙 10YR6/4	白色粒子 雲母	良好	円筒状を呈し、側縁に連続刻み目文を持つ断面三角形の縦位貼付け隆帯の後、太い単沈線による区画文	覆土 (54 cm)	勝坂Ⅲ
第6図10	深鉢	—	明赤褐 2.5YR5/6	白色粒子 雲母	良好	連続爪形文を持つ半截竹管によるパネル区画内に、連続刻み目文と円形と三角形の印刻文で充填する	覆土 (43 cm)	勝坂Ⅲ
第6図11	深鉢	—	にぶい橙 5YR6/4	白色粒子 雲母	良好	単沈線による区画文と横走る連続山形文	覆土	中期 中葉
第6図12	浅鉢	—	にぶい褐 7.5YR5/4	白色粒子	良好	肩部を「く」の字状に屈折し、口縁部に半肉彫的な貼付け隆帯と太い単沈線文による渦巻文	覆土 (37～ 49 cm)	勝坂Ⅱ
第6図13	深鉢	—	褐灰 5YR4/1	白色粒子 雲母	良好	太く深い単沈線による横走文と楕円文	覆土 (49 cm)	中期 中葉
第6図14	深鉢	—	にぶい橙 7.5YR7/4	白色粒子 雲母	良好	縦位の条線	覆土 (52 cm)	中期 後葉
第6図15	深鉢	—	にぶい 黄橙 10YR6/4	白色粒子	良好	撚糸Lを縦位施文	覆土 (32～ 42 cm)	加曾利 E I
第6図16	深鉢	—	明赤褐 5YR5/6	白色粒子 雲母	良好	縦位の条線の後、口縁部に幅の広い帯状の貼付け隆帯	覆土 (35 cm)	中期 中葉
第6図17	深鉢	—	赤褐 2.5YR4/6	白色粒子 雲母	良好	稜の高い横走る貼付け隆帯の後、側縁沈線文とRL縄文横位施文	覆土 (31 cm)	中期 中葉
第6図18	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR5/4	白色粒子 雲母	良好	内湾気味の口縁を呈し、無節R	覆土	中期 後葉
第6図19	深鉢	—	にぶい橙 7.5YR7/4	白色粒子	良好	櫛歯状工具による縦位の条線	覆土	中期 後葉

第2表 5号住居跡出土土器一覧(2)

図版番号	器種	法量 (cm)	色調	重さ (g)	製作の特徴等	出土位置	時期
第6図20	耳栓	長さ：2.00 幅：2.30 厚さ：2.30	にぶい赤褐 2.5YR5/4	8.87	管状を呈し丁寧な作りを呈する／一部赤彩	覆土 (34 cm)	中期
第6図21	土器 片錘	長さ：4.02 幅：4.20 厚さ：1.09	にぶい橙 7.5YR7/4	29.79	周縁を粗く欠き磨り調整を施し、両極に浅い挟り込みを施す	覆土 (39 cm)	中期

第3表 5号住居跡出土土製品一覧

図版番号	器種	法量 (cm)	石材	重さ (g)	遺存度	製作の特徴等	出土位置
第6図22	打製 石斧	長さ：8.3 幅：4.8 厚さ：2.9	安山岩	141.85	完存	裏面および左側面に縁前面を残し、表面全面に粗い剥離調整を施す／裏面に自然面を広く残すことと、厚さ値が大きいことを勘案すると、未成品の可能性もある	覆土 (46 cm)

第4表 5号住居跡出土石器一覧

(3) 炉穴

19号炉穴

遺 構 (第7図)

[位 置] (D-3) グリッド。

[構 造] 平面不整楕円形、断面タライ状、坑底は緩やかに凹凸を持つ。規模:0.94 m以上×0.82 m。
深さ:0.12 m。長軸方向:N-72°-E。

[覆 土] 炉床部と覆土の2層に分層した。

[時 期] 遺構形状と坑底に、炉床が見られることから早期末葉の炉穴とした。

遺 物

なし。

20号炉穴

遺 構 (第7図)

[位 置] (D-2・3) グリッド。

[構 造] 平面不整楕円形、断面形状不明。炉床部のみを検出した。規模:0.65×0.44 m。
深さ:不明。長軸方向:N-82°-E。

[覆 土] 火床面及び被熱変化ロームの2層に分層した。

[時 期] 坑底に、炉床が見られることから早期末葉の炉穴とした。

遺 物

なし。

21号炉穴

遺 構 (第7図)

[位 置] (C・D-7) グリッド。

[構 造] 平面卵形、断面形状タライ状。坑底は概ね平坦である。規模:2.28×1.72 m。
深さ:0.36 m。長軸方向:N-31°-E。

[覆 土] 暗褐色土を主体とする覆土であったが、堆積状況は不明である。

[時 期] 出土遺物の様相から早期末葉と考えられる。

遺 物 (第10図、第6表)

1・2は貝殻条痕文土器である。胎土に繊維を含み内外面条痕後、ナデ。

22号炉穴

遺 構 (第7図)

[位 置] (C・D-7) グリッド。

[構 造] 平面楕円形、断面タライ状。坑底は緩やかに湾曲する。規模:2.48×1.92 m。
深さ:0.42 m。長軸方向:N-28°-E。

[覆 土] 黒褐色土を主体とし、6層に分層でき、5・6層に非常に多くの焼土を含む。

[時期] 出土遺物の様相から、早期末葉と考えられる。

遺物 (第10図、第6表)

炉穴南側の覆土上～中層で礫が出土している。1～8は貝殻条痕文土器である。胎土に繊維を含み、内外面条痕。

23号炉穴

遺構 (第7図)

[位置] (D-3) グリッド。

[構造] 平面楕円形、断面浅いタライ状、坑底は緩やかな凹凸を有する。規模：1.44 × 0.9 m。深さ：0.11 m。長軸方向：N-34°-E。

[覆土] 暗褐色土を主体とし、4層に分層でき、4層に非常に多くの焼土を含む。

[時期] 出土遺物の様相から、早期末葉と考えられる。

遺物 (第10図、第6表)

1～4は貝殻腹縁により山形文(菱形か)を描く。外面は横ナデにより条痕を消す。5は内外面条痕後ナデ。いずれも胎土に繊維を含む。

24号炉穴

遺構 (第7図)

[位置] (B-3・4) グリッド。

[構造] 平面、断面形状不明。炉床部のみを検出した。規模：0.48 × 0.35 m。深さ：不明。長軸方向：N-36°-W。

[覆土] 焼土層である。

[時期] 焼土の集中と、23号炉穴との重複から早期末葉の炉穴とした。

遺物

なし。

25号炉穴

遺構 (第7図)

[位置] (A-3) グリッド。

[構造] 平面楕円形、断面碗状、坑底は緩やかに湾曲する。規模：0.60 m以上 × 1.84 m。深さ：0.48 m。長軸方向：N-30°-W。

[覆土] 黒褐色土を主体とし、4層に分層でき、4層に非常に多くの焼土を含む。

[時期] 遺構形状及び覆土中に炉床が認められることから早期末葉の炉穴とした。

遺物

なし。

26号炉穴

遺 構 (第8図)

[位 置] (B-3) グリッド。

[構 造] 平面楕円形、断面碗状、坑底は僅かに起伏を持ち湾曲する。規模：1.70 m以上× 1.32 m。深さ：0.54 m。長軸方向：N-59°-W。

[覆 土] 暗褐色土及び黒褐色土層主体とし、3層に分層できる。3層には非常に多くの焼土を含む。

[時 期] 出土遺物の様相から、早期末葉と考えられる。

遺 物 (第10図、第6表)

1～4は貝殻条痕文土器である。内外面条痕。内面はいずれも条痕後ナデられる。いずれも胎土に繊維を含む。

27号炉穴

遺 構 (第8図)

[位 置] (B-3) グリッド。

[構 造] 平面楕円形、断面タライ状、坑底はやや凹凸が強い。規模：1.82 m以上× 1.35 m。深さ：0.34 m。長軸方向：N-42°-E。

[覆 土] 黒褐色土を主体とし、5層に分層した。内、5層に非常に多くの焼土を含む。

[時 期] 出土遺物は無いが、26号炉穴に切られることから、早期末葉と考えられる。

遺 物

なし。

28号炉穴

遺 構 (第8図)

[位 置] (B-3) グリッド。

[構 造] 平面楕円形、断面タライ状、坑底は南東方向に緩やかな傾斜を有する。規模：2.10 m以上× 1.32 m以上。深さ：0.34 m。長軸方向：N-53°-W。

[覆 土] 暗褐色土及び黒褐色土を主体とし、7層に分層できる。内、7層に非常に多くの焼土を含む。

[時 期] 出土遺物の様相から、早期末葉と考えられる。

遺 物 (第10図、第6表)

遺物は覆土中～下層で礫とともに出土している。1・2は貝殻条痕文土器である。内外面条痕。いずれも胎土に繊維を含む。

29号炉穴

遺 構 (第8図)

[位 置] (B-3・4) グリッド。

[構 造] 平面楕円形、断面緩やかな碗状、坑底は緩やかに凹凸を有する。規模：2.34 × 1.18 m。深さ：0.46 m。長軸方向：N - 74° - W。

[覆 土] 黒褐色土を主体とし、6層に分層でき、5層に非常に多くの焼土を含む。6層は被熱により硬化したロームである。

[時 期] 遺構形状及び焼土を主体的に有する層があることから早期末葉の炉穴とした。

遺 物

なし。

30号炉穴

遺 構 (第8図)

[位 置] (A - 4) グリッド。

[構 造] 平面楕円形、断面碗状、坑底は緩やかに凹凸を持ちながら湾曲する。

規模：1.60 m以上 × 1.24 m。深さ：0.46 m。長軸方向：N - 85° - E。

[覆 土] 黒褐色土を主体とし、5層に分層でき、5層に非常に多くの焼土を含む。3・4層は壁の崩落によると思われる。

[時 期] 遺構形状及び坑底に焼土を主体的に有する層があることから、早期末葉の炉穴とした。

遺 物 (第11図、第7表)

1は砂岩製の自然面を残すスクレイパーである。

31号炉穴

遺 構 (第8図)

[位 置] (A - 4) グリッド。

[構 造] 平面楕円形、断面タライ状、炉部付近はやや落ち込む。規模：2.55 m以上 × 1.20 m以上。

深さ：0.48 m。長軸方向：N - 29° - E。

[覆 土] 褐色土を主体とし、6層に分層でき、4層に非常に多くの焼土を含む。

[時 期] 出土遺物の様相から、早期末葉と考えられる。

遺 物 (第10図、第6表)

1・2は貝殻条痕文土器である。内外面条痕後、ナゲられる。胎土に繊維を含む。

32号炉穴

遺 構 (第9図)

[位 置] (C - 5) グリッド。

[構 造] 平面楕円形、断面皿状、坑底は緩やかに凹凸を有する。炉部は遺構中央からやや外れる。

規模：1.10 m以上 × 0.94 m。深さ：0.20 m。長軸方向：N - 29° - E。

[覆 土] 黒褐色土を主体とし、5層に分層した。4層に非常に多くの焼土を含む。5層は被熱により硬化したロームである。

[時 期] 坑底に焼土層を有する遺構から、早期末葉の炉穴とした。

遺物

なし。

33号炉穴

遺構 (第9図)

[位置] (F-7) グリッド。

[構造] 平面楕円形、断面タライ状、坑底は緩やかに凹凸を持ちながら中央に小ピットを有する。
規模：1.24 m以上×0.97 m。深さ：0.36 m。長軸方向：N-59°-W。

[覆土] 黒褐色土を主体とし、6層に分層でき、4層に非常に多くの焼土を含む。

[時期] 出土遺物の様相から、早期末葉と考えられる。

遺物 (第10・11図、第6表)

1～12は貝殻条痕文土器である。いずれも内外面条痕。1～4・9・10・12は内面がナデられる。いずれも胎土に繊維を含む。

34号炉穴

遺構 (第9図)

[位置] (C-5) グリッド。

[構造] 平面楕円形、断面碗状、坑底は緩やかに凹凸を持ちながら湾曲する。

規模：1.80×1.12 m。深さ：0.34 m。長軸方向：N-49°-W。

[覆土] 黒褐色土を主体とし、5層に分層でき、5層に非常に多くの焼土を含む。

[時期] 出土遺物の様相から、早期末葉と考えられる。

遺物 (第11図、第6表)

1は貝殻条痕文土器である。内外面が条痕後、内面がナデられる。胎土に繊維を含む。

35号炉穴

遺構 (第9図)

[位置] (E-4) グリッド。

[構造] 平面楕円形、断面皿状、坑底は概ね平坦である。規模：1.20 m以上×0.92 m。
深さ：0.09 m。長軸方向：N-10°-E。

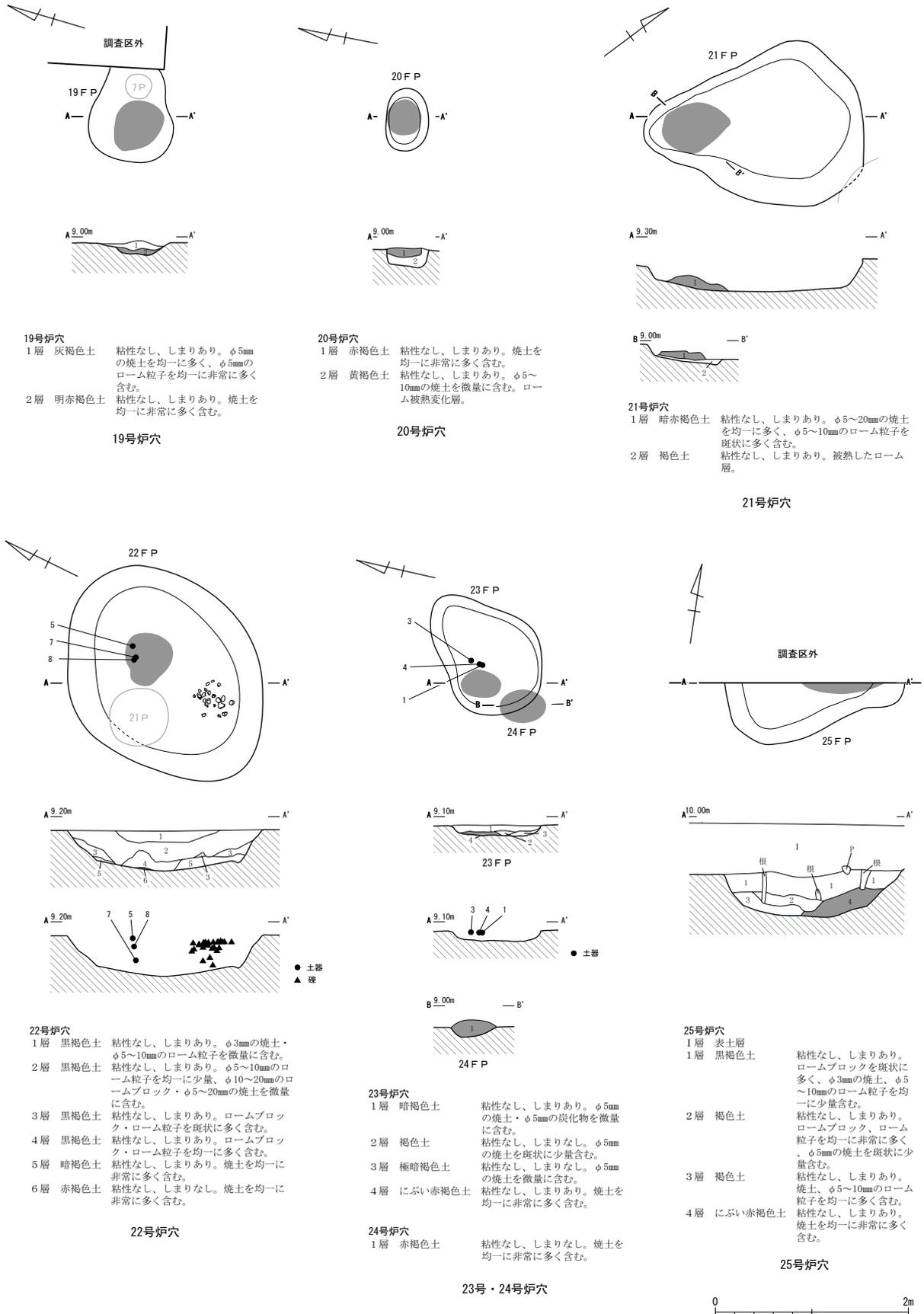
[覆土] 炉床部を含む僅かな覆土が検出された。

[時期] 炉床部を含む遺構の形状から早期末葉の炉穴とした。

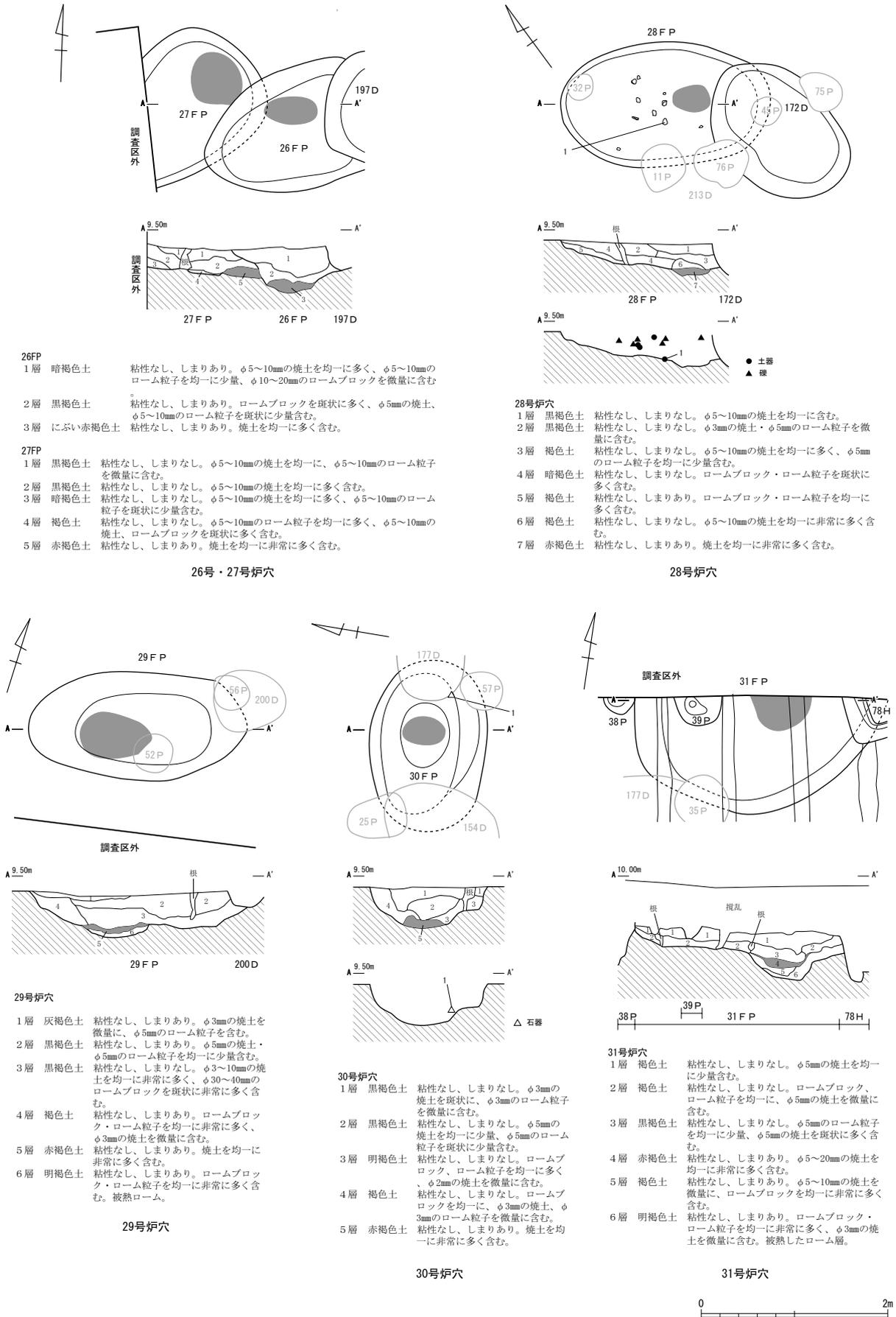
遺物

なし。

第3章 検出された遺構と遺物

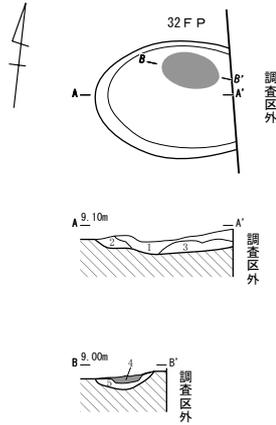


第7図 炉穴1 (1/60)



第8図 炉穴2 (1/60)

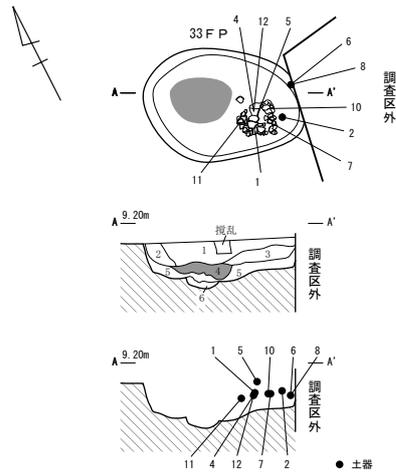
第3章 検出された遺構と遺物



32号炉穴

- 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5~10mmのローム粒子を均一に、φ10~20mmのロームブロックを斑状に少量、φ3mmの焼土を微量に含む。
- 2層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。ロームブロック、φ5~10mmのローム粒子を斑状に少量、φ3mmの焼土を微量に含む。
- 3層 褐色土 粘性なし、しまりあり。ロームブロック、ローム粒子を均一に多く、φ5~10mmの焼土を均一に少量含む。
- 4層 赤褐色土 粘性なし、しまりあり。焼土を均一に非常に多く含む。
- 5層 明褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5mmの焼土を斑状に少量含む。被熱したローム層。

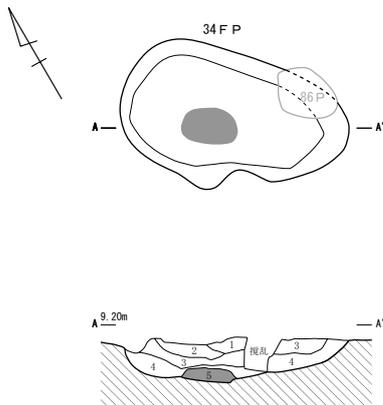
32号炉穴



33号炉穴

- 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5mmの焼土を少量含む。
- 2層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。ロームブロック・ローム粒子を多く含む、φ3mmの焼土を微量に斑に含む。
- 3層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。焼土・ロームブロック・ローム粒子を非常に多く斑に含む。
- 4層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5mmの焼土を非常に多く含む、5mmの炭化物・φ5mmの焼土を微量に斑に含む。
- 5層 褐色土 粘性なし、しまりなし。焼土を非常に多く含む、φ3mmの焼土を微量に斑に含む。
- 6層 明褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5~10mmの焼土を少量含む、φ2mmの炭化粒を微量に斑に含む。

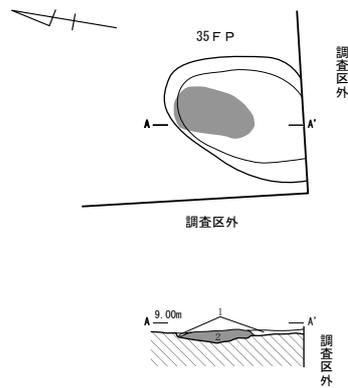
33号炉穴



34号炉穴

- 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5~10mmの焼土を均一に、φ5mmのローム粒子を均一に多く、ロームブロックを斑状に多く含む。
- 2層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ3mmの焼土・φ3mmのローム粒子を微量に含む。
- 3層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5~20mmの焼土を均一に、φ5~10mmのローム粒子を斑状に多く含む。
- 4層 暗褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5~10mmの焼土を均一に非常に多く含む。
- 5層 暗赤褐色土 粘性なし、しまりなし。焼土・灰を均一に非常に多く含む。

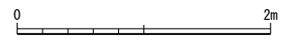
34号炉穴



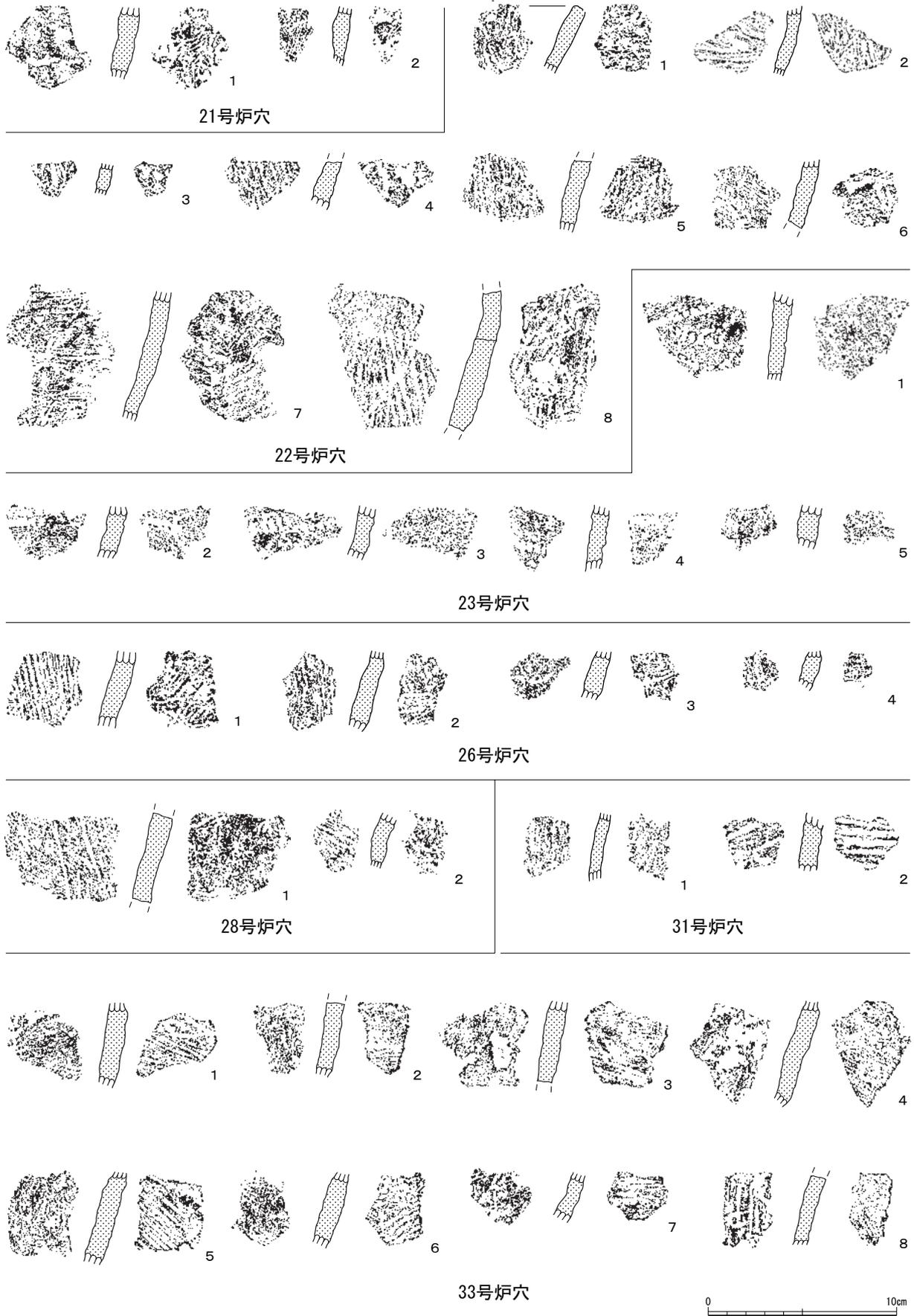
35号炉穴

- 1層 褐色土 粘性なし、しまりなし。ロームブロック、ローム粒子を均一に非常に多く、φ5mmの焼土を斑状に少量含む。
- 2層 にぶい赤褐色土 粘性なし、しまりあり。焼土を均一に非常に多く含む。

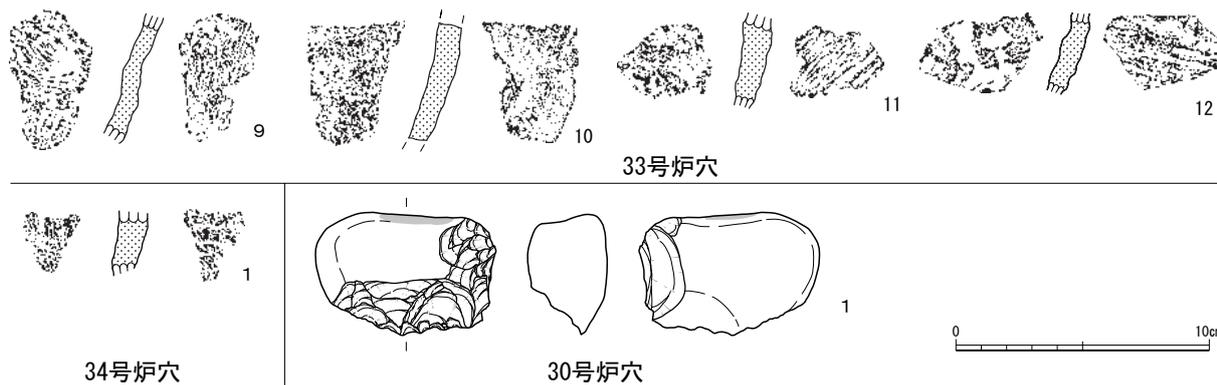
35号炉穴



第9図 炉穴3 (1/60)



第10図 炉穴出土遺物1 (1/3)



第11図 炉穴出土遺物2 (1/3)

遺構名	グリッド	平面形	規模 (m) 長軸×短軸	底面レベル (m)	長軸方位	重複関係
19FP	D-3	不整楕円形	0.94以上×0.82	8.91~8.94	N-72°-E	-
20FP	D-2・3	不整楕円形	0.65×0.44	8.24~8.39	N-82°-E	-
21FP	C・D-7	卵形	2.28×1.72	8.73~8.88	N-31°-E	-
22FP	C・D-7	楕円形	2.48×1.92	8.63~8.81	N-28°-E	22FP→21P
23FP	D-3・4	楕円形	1.44×0.9	8.92~8.95	N-34°-E	23FP/24FP
24FP	B-3	不明	0.48×0.35	8.70~8.88	N-36°-W	23FP/24FP
25FP	A-3	楕円形	0.60以上×1.84	8.70~8.94	N-30°-W	-
26FP	B-3	楕円形	1.70以上×1.32	8.86~8.92	N-59°-W	27FP→26FP→197D
27FP	B-3	楕円形	1.82以上×1.35	9.01~9.07	N-42°-E	27FP→26FP
28FP	B-3	楕円形	2.10以上×1.32以上	8.96~9.02	N-53°-W	28FP→172D→45P/(11P/76P)
29FP	B-3・4	楕円形	2.34×1.18	8.85~8.91	N-74°-W	29FP→200D→52P/56P
30FP	A-4	楕円形	1.60以上×1.24	8.95~9.1	N-85°-E	30FP→177D→154D/(25P/57P)
31FP	A-4	楕円形	2.55以上×1.20以上	8.88~8.97	N-29°-E	31FP→177D→78H/(39P/35P)
32FP	C-5	楕円形	1.10以上×0.94	8.82~8.88	N-29°-E	-
33FP	F-7	楕円形	1.24以上×0.97	8.18~8.27	N-59°-W	-
34FP	C-5	楕円形	1.80×1.12	8.87~9.05	N-49°-W	34FP/(86P)
35FP	E-4	楕円形	1.20以上×0.92	8.85~8.94	N-10°-E	-

第5表 炉穴一覧

図版番号	種別 器種	法量 (cm)	色調	胎土	焼成	製作の特徴等	出土 位置	時期
第10図 21FP-1	深鉢	-	橙 5YR6/6	白色粒子・黒色粒子・赤 色粒子・繊維	良好	内外面貝殻条痕後, ナデ/内面条 痕後, ナデ	覆土	早期 末葉
第10図 21FP-2	深鉢	-	橙 5YR6/6	白色粒子・黒色粒子・赤 色粒子・繊維	良好	内外面貝殻条痕後, ナデ/内面条 痕後, ナデ	覆土	早期 末葉

第6表 炉穴出土土器一覧(1)

図版番号	種別 器種	法量 (cm)	色調	胎土	焼成	製作の特徴等	出土 位置	時期
第10図 22FP-1	深鉢	—	灰褐 7.5YR4/2	白色粒子・黒色粒子・長石・繊維	良好	外面縦位の条痕／内面条痕後、ナデ	覆土	早期 末葉
第10図 22FP-2	深鉢	—	にぶい橙 7.5YR6/4	白色粒子・黒色粒子・繊維	良好	外面斜位及び横位の貝殻条痕／内面条痕後、ナデ	覆土	早期 末葉
第10図 22FP-3	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR5/4	白色粒子・黒色粒子・繊維	良好	外面斜位及び横位の貝殻条痕／内面条痕後、ナデ	覆土	早期 末葉
第10図 22FP-4	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR5/3	白色粒子・黒色粒子・繊維	良好	外面斜位及び縦位の貝殻条痕／内面条痕後、ナデ	覆土	早期 末葉
第10図 22FP-5	深鉢	—	黒褐 7.5YR3/2	白色粒子・黒色粒子・繊維	良好	外面斜位及び縦位の貝殻条痕／内面横位及び斜位の貝殻条痕	覆土 (40 cm)	早期 末葉
第10図 22FP-6	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR5/3	白色粒子・黒色粒子・繊維	良好	外面斜位及び縦位の貝殻条痕／内面横位及び斜位の貝殻条痕	覆土	早期 末葉
第10図 22FP-7	深鉢	—	にぶい橙 7.5YR6/4	白色粒子・黒色粒子・繊維	良好	外面斜位及び縦位の貝殻条痕／内面横位及び斜位の貝殻条痕	覆土 (13 cm)	早期 末葉
第10図 22FP-8	深鉢	—	にぶい橙 7.5YR6/4	白色粒子・黒色粒子・繊維	良好	外面斜位及び縦位の貝殻条痕／内面横位及び斜位の貝殻条痕	覆土 (31 cm)	早期 末葉
第10図 23FP-1	深鉢	—	褐 7.5YR4/3	白色粒子・黒色粒子・長石・繊維	良好	外面横ナデ／貝殻腹縁による山形文／内面横位の条痕後、ナデ	覆土 (9 cm)	早期 末葉
第10図 23FP-2	深鉢	—	褐 7.5YR4/3	白色粒子・黒色粒子・繊維	良好	外面横ナデ／貝殻腹縁による山形文／内面横位の条痕後、ナデ	覆土	早期 末葉
第10図 23FP-3	深鉢	—	褐 7.5YR4/3	白色粒子・黒色粒子・繊維	良好	外面横ナデ／貝殻腹縁による山形文／内面横位の条痕後、ナデ	覆土 (10 cm)	早期 末葉
第10図 23FP-4	深鉢	—	暗褐 7.5YR3/3	白色粒子・黒色粒子・長石・繊維	良好	外面横ナデ／貝殻腹縁による山形文／内面横位の条痕後、ナデ	覆土 (9 cm)	早期 末葉
第10図 23FP-5	深鉢	—	にぶい橙 7.5YR6/4	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・繊維	良好	外面横ナデ／内面横位の条痕後、ナデ	覆土	早期 末葉
第10図 26FP-1	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR5/4	白色粒子・黒色粒子・長石・繊維	良好	外面縦位の条痕後横ナデ／内面縦位及び斜位の条痕後、ナデ	覆土	早期 末葉
第10図 26FP-2	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR5/4	白色粒子・黒色粒子・長石・繊維	良好	外面縦位の条痕後横ナデ／内面縦位及び斜位の条痕後、ナデ	覆土	早期 末葉
第10図 26FP-3	深鉢	—	橙 7.5YR6/6	白色粒子・黒色粒子・繊維	良好	外面条痕後、強いナデ／内面条痕後、ナデ	覆土	早期 末葉
第10図 26FP-4	深鉢	—	明褐 7.5YR5/8	白色粒子・黒色粒子・繊維	良好	外面条痕後、強いナデ／内面条痕後、ナデ	覆土	早期 末葉
第10図 28FP-1	深鉢	—	灰褐 7.5YR4/2	白色粒子・黒色粒子・繊維	良好	内外面貝殻条痕後、ナデ／内面成形時の凹凸を残す	床面上	早期 末葉
第10図 28FP-2	深鉢	—	橙 7.5YR6/6	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・繊維	良好	外面斜位及び縦位条痕後、ナデ／内面横ナデ	覆土	早期 末葉
第10図 31FP-1	深鉢	—	明赤褐 5YR5/6	白色粒子・黒色粒子・繊維	良好	外面斜位及び縦位条痕後、ナデ／内面横ナデ	覆土	早期 末葉
第10図 31FP-2	深鉢	—	にぶい橙 7.5YR7/4	白色粒子・黒色粒子・繊維	良好	外面斜位及び縦位条痕後、ナデ／内面横ナデ	覆土	早期 末葉
第10図 33FP-1	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR5/3	白色粒子・黒色粒子・長石・繊維	良好	外面条痕後、強いナデ／内面条痕後、ナデ	覆土 (28 cm)	早期 末葉
第10図 33FP-2	深鉢	—	にぶい 赤褐 5YR4/4	白色粒子・黒色粒子・長石・繊維	良好	外面条痕後、強いナデ／内面条痕後、ナデ	覆土 (30 cm)	早期 末葉
第10図 33FP-3	深鉢	—	にぶい 赤褐 5YR4/4	白色粒子・黒色粒子・長石・繊維	良好	外面条痕後、強いナデ／内面条痕後、ナデ	覆土	早期 末葉
第10図 33FP-4	深鉢	—	明赤褐 5YR5/6	白色粒子・黒色粒子・長石・繊維	良好	外面条痕後、強いナデ／内面条痕後、ナデ	覆土 (26 cm)	早期 末葉
第10図 33FP-5	深鉢	—	にぶい 赤褐 5YR4/3	白色粒子・黒色粒子・長石・繊維	良好	外面斜位及び縦位の貝殻条痕／内面横位及び斜位の貝殻条痕	覆土 (37 cm)	早期 末葉
第10図 33FP-6	深鉢	—	にぶい 赤褐 5YR4/3	白色粒子・黒色粒子・長石・繊維	良好	外面斜位及び縦位の貝殻条痕／内面横位及び斜位の貝殻条痕	覆土 (26 cm)	早期 末葉

第6表 炉穴出土土器一覽(2)

第3章 検出された遺構と遺物

図版番号	種別 器種	法量 (cm)	色調	胎土	焼成	製作の特徴等	出土 位置	時期
第10図 33FP-7	深鉢	—	にぶい 赤褐 5YR4/4	白色粒子・黒色粒子・長 石・繊維	良好	外面斜位及び縦位の貝殻条痕/ 内面横位の貝殻条痕	覆土 (27 cm)	早期 末葉
第10図 33FP-8	深鉢	—	褐 7.5YR4/6	白色粒子・黒色粒子・長 石・繊維	良好	外面斜位及び縦位の貝殻条痕/ 内面斜位の貝殻条痕	覆土 (26 cm)	早期 末葉
第11図 33FP-9	深鉢	—	赤褐 5YR4/6	白色粒子・黒色粒子・長 石・繊維	良好	外面条痕後,強いナデ/内面条痕 後,ナデ	覆土	早期 末葉
第11図 33FP-10	深鉢	—	赤褐 5YR4/6	白色粒子・黒色粒子・長 石・繊維	良好	外面条痕後,強いナデ/内面条痕 後,ナデ	覆土 (27 cm)	早期 末葉
第11図 33FP-11	深鉢	—	赤褐 5YR4/6	白色粒子・黒色粒子・長 石・繊維	良好	外面斜位及び縦位の貝殻条痕/ 内面斜位の貝殻条痕	覆土 (24 cm)	早期 末葉
第11図 33FP-12	深鉢	—	にぶい 赤褐 5YR4/4	白色粒子・黒色粒子・長 石・繊維	良好	外面斜位及び縦位の貝殻条痕/ 内面条痕後,ナデ	覆土 (26 cm)	早期 末葉
第11図 34FP-1	深鉢	—	赤褐 5YR4/6	白色粒子・黒色粒子・長 石・繊維	良好	外面斜位及び縦位の貝殻条痕/ 内面条痕後,ナデ	覆土	早期 末葉

第6表 炉穴出土土器一覧(3)

図版番号	器種	法量 (cm)	石材	重さ (g)	遺存 度	製作の特徴等	出土 位置	遺構 名
第11図 30FP-1	スク レイ パー	長さ:4.9 幅:7.1 厚さ:3.2	砂岩	159.52	完存	ローリングにより,全面に磨滅した自然楕円礫を 使用し,下側縁に粗い剥離を施した後,側縁に細 かい剥離調整を施し刃部を作出している/上側縁 に僅かな窪みを持ち,磨滅痕を残す	覆土 (16 cm)	30FP

第7表 炉穴出土石器一覧

(4) 土坑

156号土坑

遺 構 (第12図)

[位 置] (B-4) グリッド。

[構 造] 平面不整形、断面皿状、坑底は概ね平坦。規模:1.01 × 0.73 m。深さ:0.21 m。

長軸方向: N-76° - E。

[覆 土] 黒褐色土を主体とし、3層に分層できる。

[時 期] 出土遺物の様相から、後期初頭と考えられる。

遺 物 (第20図、第9表)

覆土上層から、まとまって土器が出土した。7をのぞき、磨消し縄文によりモチーフを描く。

157号土坑

遺 構 (第12図)

[位 置] (B-3) グリッド。

[構 造] 平面円形、断面タライ状。坑底は平坦で緩やかに立ち上がる。規模:1.57 × 1.35 m。

深さ:0.19 m。長軸方向: N-40° - W。

[覆 土] 黒褐色土を主体とし3層に分層できる。

[時 期] 出土した土器の特徴より前期後葉と考えられる。

遺 物 (第21図、第9表)

1は横位に並走する短い半截竹管文による沈線文を有する。

162号土坑

遺 構 (第19図)

[位 置] (B-2・3) グリッド。

[構 造] 平面略楕円形、断面やや凹凸のある底面から直線的に立ち上がる。規模:1.24 × 1.11 m。

深さ:0.45 m。長軸方向:N-65°-W。

[覆 土] 黒褐色と暗褐色を主体とし、5層に分層できる。

[時 期] 不明。

遺 物

なし。

164号土坑

遺 構 (第12図)

[位 置] (B-3・4) グリッド。

[構 造] 平面円形、断面タライ状。坑底は平坦。規模:0.83 × 0.88 m。深さ:0.18 m。

長軸方向:N-24°-W。

[覆 土] 黒褐色土の単層。

[時 期] 出土遺物の様相から、中期後葉と考えられる。

遺 物 (第21図、第9表)

1はLR施文後、併走する横走沈線文が施された口縁部片である。

165号土坑

遺 構 (第12図)

[位 置] (B-3・4) グリッド。

[構 造] 平面楕円形、断面概ねタライ状。坑底は部分的に落ち込む。規模:1.82 × 1.05 m。

深さ:0.33 m。長軸方向:N-87°-E。

[覆 土] 黒褐色土を主体とし、3層に分層できる。

[時 期] 出土遺物の様相から、後期初頭と考えられる。

遺 物

土坑中央の覆土上～中層にかけて、破碎した円礫が53点、4,770 gが出土した。また細片のため図示できないが、称名寺式土器が出土している。

167号土坑

遺 構 (第12図)

[位 置] (A・B-4) グリッド。

[構 造] 平面楕円形、断面タライ状。坑底は平坦。規模：1.26 m×0.90 m以上。

深さ：0.10 m。長軸方向：N-2°-W。

[覆 土] 黒褐色土の単層。

[時 期] 小片のため型式名などは不明。

遺 物 (第21図、第9表)

1は短い縦位の沈線を施す。

170号土坑

遺 構 (第13図)

[位 置] (F-7) グリッド。

[構 造] 平面楕円形と推定される。断面タライ状。坑底は概ね平坦。

規模：0.80 m以上×0.48 m以上。深さ：0.18 m。長軸方向：N-15°-W。

[覆 土] レンズ状に堆積し、4分層される。上層から焼土が全体に混入し、最下層に焼土を多く含むが、火床面は確認できなかった。

[時 期] 不明。

遺 物

なし。

172号土坑

遺 構 (第13図)

[位 置] (B-3) グリッド。

[構 造] 平面楕円形、断面矩形状。坑底は平坦。規模：1.71×1.19 m以上。深さ：0.26 m。

長軸方向：N-10°-W。

[覆 土] 極暗褐色土を主体とし、5層に分層できる。

[時 期] 出土する磨消し縄文を伴う土器片より、中期後葉と考えられる。

遺 物 (第21図、第9表)

1・2は稜の低い貼付け隆帯による楕円区画文を有する。3はLRを地文とするゆるい波状口を呈する。4・5は磨消し縄文を施す胴部片である。地文は4がRL、5がLRである。

173号土坑

遺 構 (第13図)

[位 置] (B-4) グリッド。

[構 造] 平面円形、断面タライ状。坑底は概ね平坦で緩やかに立ち上がる。規模：0.89×0.82 m。

深さ：0.15 m。長軸方向：N-73°-E。

[覆 土] 黒褐色土の単層。

[時 期] 出土する土器の特徴より、前期後葉と考えられる。

遺 物 (第21図、第9表)

1・2は半截竹管によりモチーフを描く。3は把手がつけられている。

177号土坑

遺 構 (第13図)

[位 置] (A-4) グリッド。

[構 造] 平面長楕円形、断面タライ状。坑底は平坦。規模：1.19 m以上×0.74 m。深さ：0.17 m。長軸方向：N-81°-E。

[覆 土] 黒褐色土を主体とし2層に分層できる。

[時 期] 出土する土器の特徴より、早期末葉と考えられる。

遺 物 (第21図、第9表)

1～4は外面条痕調整後ナデ、3・4は内面を丁寧にナデで条痕を消す。5は内外面に条痕を残す。

178号土坑

遺 構 (第13図)

[位 置] (A-3) グリッド。

[構 造] 平面楕円形と推定される。断面タライ状。坑底は概ね平坦。規模：1.45×0.95 m以上。深さ：0.35 m。長軸方向：N-85°-W。

[覆 土] 黒褐色土を主体とし、3層に分層でき、全体に焼土粒子を含む。

[時 期] 出土土器片の特徴より、中期後葉と考えられる。

遺 物 (第21図、第9表)

1は口縁部直下に補修孔を有する。2・3は垂下沈線間に磨消し無文帯を持つ。地文は2が無節L、3・4がRLである。

179号土坑

遺 構 (第13図)

[位 置] (A-3) グリッド。

[構 造] 平面楕円形と推定される。断面タライ状。坑底は概ね平坦。規模：1.19 m以上×0.69 m以上。深さ：0.30 m。長軸方向：N-62°-E。

[覆 土] 黒褐色土を主体とし、3層に分層でき、全体に焼土粒子を含む。

[時 期] 出土土器片の特徴より、後期初頭と考えられる。

遺 物 (第21図、第9表)

1・2は波状口縁を呈する。1・3・4は磨消し縄文でモチーフを描く。地文はLRである。2は隆線に沿って沈線を施す。

180号土坑

遺 構 (第13図)

[位 置] (B-3) グリッド。

[構 造] 平面楕円形、断面タライ状。坑底は平坦。規模：1.23 × 0.89 m。深さ：0.18 m。

長軸方向：N-28°-E。

[覆 土] 黒褐色土を主体とし、2層に分層できる。

[時 期] 出土遺物から、後期初頭と考えられる。

遺 物 (第21図、第9表)

1は併走する沈線文による楕円区画文内に、刺突文を充填する。

181号土坑

遺 構 (第13図)

[位 置] (A-5) グリッド。

[構 造] 平面楕円形、断面タライ状。坑底は平坦。規模：1.27 m以上 × 1.10 m。深さ：0.24 m。

長軸方向：N-14°-W。

[覆 土] 黒褐色土を主体とし、2層に分層できる。

[時 期] 出土する土器片より、中期後葉末から後期初頭と考えられる。

遺 物 (第21図、第9表)

1はLR施文後、磨消し無文帯を伴う単沈線による区画文を有する。

183号土坑

遺 構 (第14図)

[位 置] (B-4) グリッド。

[構 造] 平面楕円形、断面タライ状。坑底は概ね平坦。規模：0.58 m以上 × 0.45 m。

深さ：0.20 m。長軸方向：N-65°-W。

[覆 土] 黒褐色土を主体とし、2層に分層できる。

[時 期] 不明。

遺 物

なし。

184号土坑

遺 構 (第14図)

[位 置] (B-4) グリッド。

[構 造] 平面楕円形、断面タライ状。坑底は概ね平坦。規模：1.07 × 0.84 m以上。深さ：0.19 m。

長軸方向：N-8°-E。

[覆 土] 黒褐色土を主体とし、2層に分層できる。

[時 期] 出土遺物の様相から、後期初頭と考えられる。

遺物 (第21図、第9表)

1は稜頂に連続圧痕文を持つ横走る細い鎖状隆帯を貼付けする。

185号土坑

遺構 (第14図)

[位置] (B-4) グリッド。

[構造] 平面円形、断面タライ状。坑底は概ね平坦。規模：1.35 m以上×1.18 m以上。
深さ：0.23 m。長軸方向：N-11°-E。

[覆土] 黒褐色土と暗褐色土の2層に分層できる。

[時期] 出土遺物から、中期後葉と考えられる。

遺物 (第22図、第9表)

1はRL施文後、無文帯を持つ垂下沈線で磨消される。

187号土坑

遺構 (第14図)

[位置] (A-5) グリッド。

[構造] 平面卵形、断面タライ状。坑底は平坦。規模：1.83×1.46 m。深さ：0.48 m。
長軸方向：N-53°-E。

[覆土] 黒褐色土を主体とし、5層に分層できる。

[時期] 出土する土器片より、中期末葉から後期初頭と考えられる。

遺物 (第22図、第9表)

1は単沈線による区画文を有する。

188号土坑

遺構 (第14図)

[位置] (B-4) グリッド。

[構造] 平面楕円形、断面タライ状。坑底は概ね平坦。規模：1.55 m以上×1.56 m。
深さ：0.30 m。長軸方向：N-50°-W。

[覆土] 黒褐色土を主体とし、4層に分層できる。

[時期] 出土遺物から、中期後葉と考えられる。

遺物 (第22図、第9表)

1はRL施文を施す。

189号土坑

遺構 (第14図)

[位置] (A・B-3) グリッド。

[構造] 平面楕円形、断面碗状。坑底は湾曲する。規模：1.24 m以上×1.05 m。深さ：0.42 m。

長軸方向：N－77°－E。

[覆 土] 黒褐色土を主体とし、3層に分層できる。

[時 期] 出土する土器片より、後期と考えられる。

遺 物 (第22図、第9表)

1は底部。2はJ字文にLR施文を施す。

192号土坑

遺 構 (第14図)

[位 置] (B－5)グリッド。

[構 造] 平面楕円方形、断面矩形。坑底は概ね平坦だが中央部が突出。規模：1.23×0.70 m。

深さ：0.35 m。長軸方向：N－39°－W。

[覆 土] 黒褐色から極暗褐色を基調とし4層に分層できる。

[時 期] 出土している土器片より、後期初頭から前葉と考えられる。

遺 物 (第22図、第9表)

1は堀之内式土器で口縁端部が短く内折し口唇部と頸部に、刻目文のある貼付け隆帯を持つ。2は単沈線による区画文を施す。

194号土坑

遺 構 (第12図)

[位 置] (B－4)グリッド。

[構 造] 平面不整形、断面概ね皿状。坑底は概ね平坦。規模：1.20×1.01 m。深さ：0.30 m。

長軸方向：N－73°－E。

[覆 土] 褐色土の単層。

[時 期] 出土した土器片より、中期後葉と考えられる。

遺 物 (第22図、第9表)

1はLR施文後、磨消し無文帯を伴う垂下沈線文を施文。

195号土坑

遺 構 (第15図)

[位 置] (B－4)グリッド。

[構 造] 平面形不明、断面概ね皿状。坑底は起伏あり。規模：1.56 m以上×1.51 m以上。

深さ：0.11 m。長軸方向：N－3°－W。

[覆 土] 黒褐色土系に2分層できる。

[時 期] 出土した土器の特徴より、早期末葉と考えられる。

遺 物

図示し得ないが条痕文土器が出土している。

197号土坑

遺 構 (第15図)

[位 置] (B-3・4) グリッド。

[構 造] 平面楕円形と推定される。断面タライ状。東壁は191号土坑に、北側は165号土坑に切られる。坑底は概ね平坦。

規模：1.63 m以上×1.21 m以上。深さ：0.27 m。長軸方向：N-80°-W。

[覆 土] 黒褐色土を主体とし3層に分層できる。

[時 期] 出土した土器の特徴より、早期末葉と考えられる。

遺 物 (第22図、第9表)

条痕文の深鉢胴部片が出土している。4・5は外面条痕調整後ナデられる。

198号土坑

遺 構 (第15図)

[位 置] (B-3) グリッド。

[構 造] 平面楕円形、断面タライ状。西壁は崩落する。坑底は概ね平坦。

規模：1.10 m以上×1.97 m以上。深さ：0.42 m。長軸方向：N-15°-W。

[覆 土] 黒褐色土を主体とし4層に分層でき、下層はローム質土の二次堆積である。

[時 期] 出土した土器片の中の、磨消し縄文を施す土器片により、中期後葉と想定できよう。

遺 物 (第22図、第9表)

1は刻目文を持つ貼付け隆帯と垂下沈線文が施される。2は隆帯と幅の広い側縁沈線による区画文と、区画内にRL縄文を充填する深鉢の胴部片、3はRL地文に磨消し無文帯を伴う単沈線による区画文を施す。

199号土坑

遺 構 (第15図)

[位 置] (B-3) グリッド。

[構 造] 平面楕円形と推定される。断面タライ状。南側は調査区外に延び、西壁は198号土坑に破壊される。坑底は概ね平坦。規模：1.12 m以上×1.84 m以上。深さ：0.37 m。

長軸方向：N-6°-E。

[覆 土] 黒褐色土を主体とし5層に分層でき、下層はローム質土の二次堆積である。

[時 期] 出土した土器片により、中期後葉と考えられる。

遺 物 (第22図、第9表)

1は平坦な貼付け隆帯による区画文と、RLを施す。2はLR施文後、磨消し無文帯を伴う併走する浅い沈線文を有する。

204号土坑

遺 構 (第15図)

[位 置] (C-6・7) グリッド。

[構 造] 平面円形、断面矩形。坑底は平坦。規模：2.08 × 1.78 m。深さ：0.28 m。

長軸方向：N-6°-E。

[覆 土] 暗褐色土を主体とし3層に分層できる。

[時 期] 出土した土器の特徴より、中期後葉と考えられる。

遺 物 (第22図、第9表)

1は区画内にキャタピラ文と角押文を施す。2は浅鉢で口縁部に広い無文帯を有する縦位の条線が波状に垂下される。3・4はRL施文後、磨消し無文帯を伴う縦位沈線文を施す。

210号土坑

遺 構 (第16図)

[位 置] (B-4) グリッド。

[構 造] 平面不明、断面皿状。坑底は概ね平坦。規模：2.33 m以上 × 1.29 m以上。深さ：0.14 m。

長軸方向：N-24°-W。

[覆 土] 黒褐色土を主体とし2層に分層できる。

[時 期] 出土した土器の特徴より、中期後葉と考えられる。

遺 物 (第22図、第9表)

1はLR施文後、上端が閉じる太く浅い沈線を施す。

214号土坑

遺 構 (第16図)

[位 置] (A-5) グリッド。

[構 造] 平面不整形、断面袋状。坑底は概ね平坦だが一部が落ち込む。規模：1.86 × 1.43 m。

深さ：0.33 m。長軸方向：N-4°-W。

[覆 土] 黒褐色土を主体とし4層に分層できる。

[時 期] 出土した土器の特徴より、後期と考えられる。

遺 物 (第22図、第9表)

1は短く内折する口縁端部を持ち、波状口縁の波頂部に環状突起を配す。波頂下に単沈線により楕円区画文し、刺突を充填している。

215号土坑

遺 構 (第16図)

[位 置] (A-5) グリッド。

[構 造] 平面円形、断面碗状。坑底は平坦で緩やかに立ち上がる。規模：0.81 × 0.74 m。

深さ：0.16 m。長軸方向：N-11°-W。

[覆 土] 黒褐色土を主体とし2層に分層できる。

[時期] 不明。

遺物

なし。

216号土坑

遺構 (第16図)

[位置] (A-5) グリッド。

[構造] 平面楕円形、断面不整形、坑底は概ね平坦だが一部が落ち込む。規模:0.72 × 0.39 m以上。

深さ:0.18 m。長軸方向:N-16°-E。

[覆土] 黒褐色土を主体とし2層に分層できる。

[時期] 不明。

遺物

なし。

217号土坑

遺構 (第16図)

[位置] (A・B-5) グリッド。

[構造] 平面楕円形、断面播鉢状、坑底は概ね平坦だが凹凸を持つ。規模:2.53 × 2.06 m以上。

深さ:0.37 m。長軸方向:N-8°-W。

[覆土] 黒褐色土を主体とし5層に分層できる。

[時期] 出土した土器の特徴より、中期末葉から後期初頭と想定できる。

遺物 (第23図、第8・10表)

1はLRを、2はRLをそれぞれ異方向に施し、羽状縄文状になる。3・4は縦位の条線を施す。5～16・18は磨消し縄文によりモチーフを描く。地文は5・7・8・10・18がLR、9・11～16がRLで、9は0段多条のそれと思われる。6は単節羽状縄文。17はRLの地文のみである。19は鳥形の把手と考えられる。20は安山岩製打製石斧で緩やかに挟れる装着部に摩滅範囲が確認できる。

219号土坑

遺構 (第16図)

[位置] (B-5) グリッド。

[構造] 平面楕円形と推定される。断面タライ状、坑底は概ね平坦。規模:2.07 m以上 × 1.51 m。

深さ:0.12 m。長軸方向:N-84°-W。

[覆土] 褐色土を主体とする2層に分層できる。

[時期] 238号土坑を切り、229号土坑に切られることから、前期前葉～中期後葉と考えられる。

遺物

なし。

221号土坑

遺 構 (第17図)

[位 置] (B-5) グリッド。

[構 造] 平面楕円形、断面不明、坑底は丸みを持つ。規模：0.57 m以上×0.46 m以上。

深さ：0.41 m。長軸方向：N-37°-E。

[覆 土] 黒褐色土を主体とし3層に分層できる。最下層は壁崩落によるローム質土である。

[時 期] 出土した土器の特徴より、前期前葉と考えられる。

遺 物 (第24図、第9表)

1は無節縄文Rを施文される。

223号土坑

遺 構 (第17図)

[位 置] (B-5) グリッド。

[構 造] 平面楕円形、断面矩形、坑底は概ね平坦。規模：1.53 m以上×0.52 m以上。

深さ：0.26 m。長軸方向：N-29°-E。

[覆 土] 黒褐色土を主体とし3層に分層できる。最下層は壁崩落によるローム質土である。

[時 期] 出土した土器の特徴より、早期末葉と考えられる。

遺 物 (第24図、第9表)

1は外面条痕調整後ナデ。

225号土坑

遺 構 (第17図)

[位 置] (B-5) グリッド。

[構 造] 平面楕円形、断面矩形、坑底は概ね平坦。規模：1.74 × 1.24 m以上。深さ：0.72 m。

長軸方向：N-52°-W。

[覆 土] 黒褐色土を主体とし6層に分層できる。最下層はローム質土である。

[時 期] 出土した土器の特徴より、早期末葉と考えられる。

遺 物 (第24図、第8・10表)

1・3・4・6・9は外面条痕調整後ナデ。2・7・8は外面条痕調整のみで、5は内外面磨滅し調整は不明である。10は珪質砂岩製のスクレーパーである。

227号土坑

遺 構 (第17図)

[位 置] (C-6) グリッド。

[構 造] 平面楕円形、断面矩形、坑底は概ね平坦。規模：1.74 × 1.54 m。深さ：0.22 m。

長軸方向：N-52°-E。

[覆 土] 黒褐色土を主体とし6層に分層できる。最下層はローム質土である。

[時期] 出土した土器の特徴より、中期前葉と考えられる。

遺物 (第24図、第9表)

1はRL施文後、縦位の角押文を施す。2はRL施文後、弧文を描く。3はRL施文後、楕円区画し刺突を施す。4・5はRLを地文に無文帯を伴う沈線を垂下させる。6は隆帯により楕円区画し、RLを施す。胴部は櫛歯状工具による条線を施す。

228号土坑

遺構 (第17図)

[位置] (B-5) グリッド。

[構造] 平面不整形、断面皿状、坑底は概ね平坦。規模：1.94 × 1.39 m以上。深さ：0.16 m。長軸方向：N-9°-E。

[覆土] 黒褐色土と褐色土の2層に分層できる。下層は壁崩落によるローム質土である。

[時期] 出土した土器の特徴より、中期後葉と考えられる。

遺物 (第25図、第9表)

遺物は図示し得ないが、中期後葉が出土している。1は横走る円形刺突文を施す。早期末葉で流れ込みと思われる。

229号土坑

遺構 (第16図)

[位置] (B-5) グリッド。

[構造] 平面方形、断面タライ状、坑底は概ね平坦。規模：1.53 m以上 × 2.04 m以上。深さ：0.37 m。長軸方向：N-38°-E。

[覆土] 暗褐色土を主体とし2層に分層できる。下層はロームを多く含む。

[時期] 出土した土器の特徴より、中期中葉と考えられる。

遺物 (第25図、第9表)

1は低く平坦な稜頂に連続刻み目文を有する貼付け隆帯による区画文を有する。

234号土坑

遺構 (第18図)

[位置] (C-5) グリッド。

[構造] 平面円形、断面袋状。坑底は平坦で小ピット1基を有する。規模：1.68 × 1.62 m。深さ：1.46 m。長軸方向：N-9°-W。

[覆土] 黒褐色土を主体とし7層に分層でき、最下層はローム質土の二次堆積である。

[時期] 出土遺物の様相から、中期前葉と考えられる。

遺物 (第25図、第9表)

1・2は刻み目を有する垂下貼付け隆帯を持つ。1は縦位沈線文を地文とし、2はRL縄文斜位回転施文の後、斜位の沈線文を地文としている。

235号土坑

遺 構 (第18図)

[位 置] (C-5) グリッド。

[構 造] 平面長方形、断面箱形、坑底は平坦。規模：1.07 × 0.59 m。深さ：0.44 m。

長軸方向：N - 13° - W。

[覆 土] 黒褐色土を主体とし、2層に分層できる。

[時 期] 出土した土器の特徴より、中期前葉と想定できる。

遺 物

図示し得ないが、勝坂Ⅲ式の小片が出土している。

236号土坑

遺 構 (第18図)

[位 置] (C-5) グリッド。

[構 造] 平面楕円形か、断面タライ状、坑底は平坦。規模：1.16 m以上 × 1.60 m以上。深さ：0.18 m。

長軸方向：N - 87° - E。

[覆 土] 黒褐色土を主体とし、2層に分層できる。

[時 期] 不明。

遺 物

なし。

237号土坑

遺 構 (第18図)

[位 置] (C-5) グリッド。

[構 造] 平面長方形、断面箱形、坑底は平坦。規模：1.90 m以上 × 1.17 m。深さ：0.18 m。

長軸方向：N - 16° - W。

[覆 土] ロームを多く含む暗褐色土を主体とする単層。

[時 期] 出土した土器の特徴より、中期後葉と考えられる。

遺 物 (第25図、第9表)

1はRL施文後、横走沈線文を施す。

238号土坑

遺 構 (第16図)

[位 置] (B-5) グリッド。

[構 造] 平面長方形乃至は楕円形、断面矩形、坑底は平坦。規模：2.94 m以上 × 1.30 m以上。

深さ：0.60 m。長軸方向：N - 4° - E。

[覆 土] 暗褐色土を主体とし3層に分層できる。

[時 期] 出土した繊維土器片より、前期前葉と考えたい。

遺物 (第25図、第9表)

1はLR施文の含繊維土器である。摘み上げによる隆帯とRLを施す。

239号土坑

遺構 (第18図)

[位置] (E・F-8) グリッド。

[構造] 平面長方形、断面碗状、坑底は緩やかに湾曲。規模:1.93 m以上×1.19 m。深さ:0.37 m。

長軸方向: N-21°-W。

[覆土] 極暗褐色土を主体とし、3層に分層できる。最下層は壁崩落によるローム質土。

[時期] 出土した土器の特徴より、中期後葉と考えられる。

遺物 (第25図、第9表)

1は太い渦巻文を持つ胴部片。2はRL施文後、磨消し無文帯を伴う浅い垂下沈線文を施す。3は無節L施文後、併走する垂下沈線文を施す。

243号土坑

遺構 (第18図)

[位置] (C-5) グリッド。

[構造] 平面方形と推定される。断面皿状、坑底は緩やかに湾曲。規模:0.86 m以上×1.16 m以上。

深さ:0.13 m。長軸方向: N-3°-E。

[覆土] 暗褐色土を主体とする単層。

[時期] 不明。

遺物

なし。

244号土坑

遺構 (第18図)

[位置] (C-5) グリッド。

[構造] 平面形不明、断面皿状、坑底は湾曲。規模:0.79 m以上×0.72 m以上。深さ:0.10 m。

長軸方向: N-73°-W。

[覆土] 暗褐色土を主体とする単層。

[時期] 出土した土器の特徴より、早期末葉と考えられる。

遺物 (第25図、第9表)

1は外面条痕調整後、ナデ。早期末葉の条痕文土器である。

246号土坑

遺構 (第18図)

[位置] (C-5) グリッド。

[構造] 平面形不明、断面タライ状、坑底は平坦。規模：0.76 m以上×0.64 m以上。

深さ：0.27 m。長軸方向：N－79°－W。

[覆土] 暗褐色土を主体とする3層に分層できる。

[時期] 不明。

遺物

なし。

247号土坑

遺構 (第18図)

[位置] (D－5) グリッド。

[構造] 平面円形、断面タライ状、坑底はやや起伏を持つ。規模：1.38×1.35 m。深さ：0.33 m。
長軸方向：N－75°－E。

[覆土] 黒褐色土を主体に3層に分層でき、最下層はローム質土を多く含む。

[時期] 出土した土器の特徴より、中期後葉と考えられる。

遺物 (第25図、第9表)

1は口縁部にRL縄文を異方向変換することによる羽状構成を採り、横位の無文帯を有する。2は磨消し無文帯を伴う縦位の楕円区画文を持つ。地文はRLである。

249号土坑

遺構 (第19図)

[位置] (D－5) グリッド。

[構造] 平面円形、断面タライ状、坑底はやや起伏を持つ。規模：1.90×1.77 m。深さ：0.19 m。
長軸方向：N－20°－W。

[覆土] 黒褐色土を主体に3層に分層でき、最下層はローム質土を多く含む。

[時期] 出土した土器の特徴より、中期後葉と考えられる。

遺物 (第25図、第8・10表)

1・2はRLを地文に、磨消し無文帯を伴う垂下沈線を配する。3は指ナデ様の太い沈線で渦巻文を描く。4・5はLRを施文後、磨消される。6は底部である。7はいわゆる燕尾形石製品に類するものと考えられる。滑石製で端部に深い抉りを有する。

250号土坑

遺構 (第19図)

[位置] (D－4) グリッド。

[構造] 平面方形、断面皿状、坑底はやや起伏を持つ。規模：0.68×0.65 m。深さ：0.17 m。
長軸方向：N－40°－W。

[覆土] 黒褐色土を主体とする2層に分けられる。

[時期] 不明。

遺物

なし。

251号土坑

遺構 (第19図)

[位置] (D-7) グリッド。

[構造] 平面円形、断面タライ状、坑底は平坦。規模：1.00 × 0.90 m。深さ：0.21 m。

長軸方向：N-84°-W。

[覆土] 暗褐色土を主体とし3層に分けられる。

[時期] 出土した土器の特徴より、中期後葉と考えられる。

遺物 (第25図、第9表)

1は太い渦巻文を波頂部に配する。2はLR地文に磨消し無文帯を伴う垂下沈線文を施す。3は縦位の条線を施す。4はRL地文に垂下沈線文を施す。

252号土坑

遺構 (第19図)

[位置] (D-5) グリッド。

[構造] 平面長楕円形、断面やや不整な矩形、坑底は平坦。規模：1.27 × 0.59 m。

深さ：0.22 m。長軸方向：N-80°-E。

[覆土] 極暗褐色土を主体とし、4層に分層できる。

[時期] 出土した土器の胎土と広い平底より、前期前葉と考えられよう。

遺物 (第25図、第9表)

1は含繊維の平底底部である。

253号土坑

遺構 (第19図)

[位置] (C・D-7) グリッド。

[構造] 平面楕円形、断面皿状、坑底は平坦。規模：1.45 × 1.06 m。深さ：0.10 m。

長軸方向：N-74°-E。

[覆土] 暗褐色土を主体とした単層。

[時期] 出土した土器の特徴より、中期末から後期初頭と考えられる。

遺物 (第25図、第8・10表)

1は口縁部直下に刻目を持つ隆帯を配する。2・3は無文地に縦位の沈線文を施す。4・5は縄文帯を配する。地文はLRである。6は花崗岩製の石皿で表裏面中央に、深い磨滅痕を残す。

255号土坑

遺 構 (第19図)

[位 置] (D-5) グリッド。

[構 造] 平面隅丸方形、断面皿状、坑底は平坦。規模：1.33 × 1.11 m。深さ：0.13 m。

長軸方向：N-59°-W。

[覆 土] 褐色土を主体とした、2層に分層できる。

[時 期] 不明。

遺 物

なし。

256号土坑

遺 構 (第19図)

[位 置] (B-2・3) グリッド。

[構 造] 平面円形、断面タライ状を呈し、北側から西側にかけてテラスを有する。坑底はやや起伏を持ちながら概ね平坦である。規模：1.87 × 1.72 m以上。深さ：0.31 m。

長軸方向：N-12°-E。

[覆 土] 黒褐色土を主体に3層に分層する。

[時 期] 出土した土器の特徴より、早期後葉と考えられる。

遺 物 (第26図、第9表)

1・2は口縁部破片で内外面条痕調整後、内面がナデられる。3・5・6・8～11は外面条痕調整後、ナデられる。4は外面条痕調整、内面は横ナデされる。7は内外面条痕調整後横ナデされる。

258号土坑

遺 構 (第13図)

[位 置] (A-3) グリッド。

[構 造] 平面楕円形、断面碗状、土坑底は緩やかに湾曲する。規模：0.51 m以上 × 0.95 m以上。

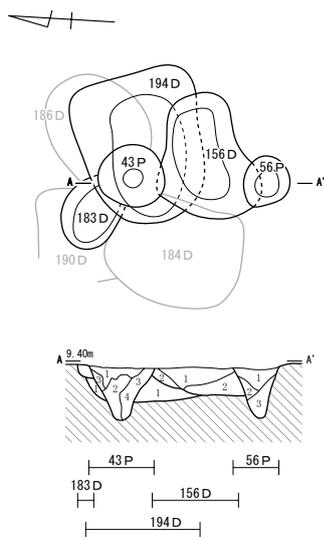
深さ：0.40 m。長軸方向：N-14°-W。

[覆 土] 黒褐色を主体に3層に分層できる。

[時 期] 中期後葉以前。

遺 物

なし。

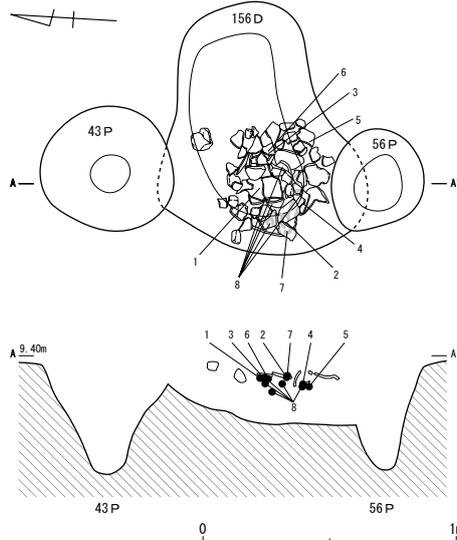


156号土坑

1層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ10~20mmのロームブロック・φ5~10mmのローム粒子を微量に含む。
2層 褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5mmのローム粒子・φ5mmの焼土を微量に含む。

194号土坑

1層 褐色土 粘性なし、しまりなし。φ1mmの炭化物・φ2mmの焼土を微量に含む。

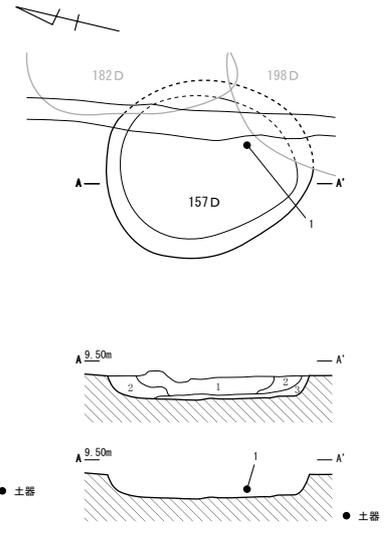


43号ピット

1層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5~10mmのローム粒子を均一に少量、φ5mmの焼土を微量に含む。
2層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5~10mmのローム粒子を均一に、ロームブロックを斑状に含む。
3層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。ロームブロック・ローム粒子を均一に多く含む。
4層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。ロームブロック・ローム粒子を均一に非常に多く含む。

56号ピット

1層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ10~20mmのロームブロック・φ5~10mmのローム粒子を微量に斑に含む。
2層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。ロームブロック・ローム粒子を多く含む。
3層 褐色土 粘性なし、しまり堅固。ロームブロック・ローム粒子を多く、φ3mmの焼土粒子を微量に斑に含む。

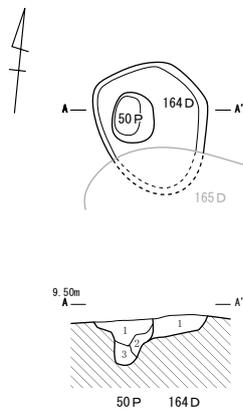


157号土坑

1層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5~10mmのローム粒子を均一に少量、ロームブロックを斑状に多く、φ3~5mmの炭化物を微量に含む。
2層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。ロームブロックを斑状に非常に多く、φ5mmの炭化物を微量に含む。
3層 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒子を均一に多く含む。

157号土坑

156号・194号土坑・43号・56号ピット



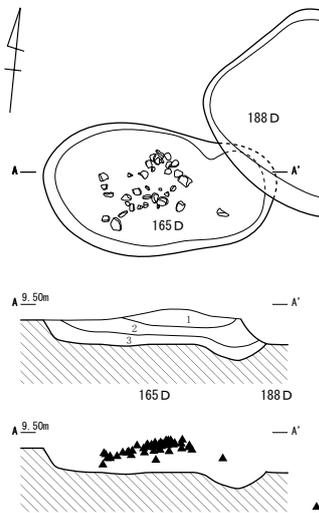
164号土坑

1層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5~10mmのローム粒子を均一に非常に多く、φ5mmの焼土を微量に含む。

50号ピット

1層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5~10mmのローム粒子を斑状に多く、φ10~20mmのロームブロックを微量に含む。
2層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5~10mmのローム粒子を均一にやや多く含む。
3層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5~10mmのローム粒子を均一に多く含む。

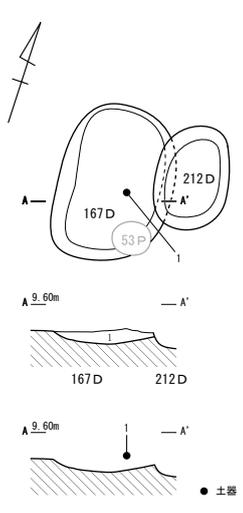
164号土坑・50号ピット



165号土坑

1層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5~10mmのローム粒子を均一に多く、φ10~20mmのロームブロックを微量に含む。
2層 褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5~10mmのローム粒子を均一に多く、ロームブロックを斑状に多く含む。
3層 褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5~10mmのローム粒子を均一に多く、ロームブロックを斑状に多く含む。

165号土坑



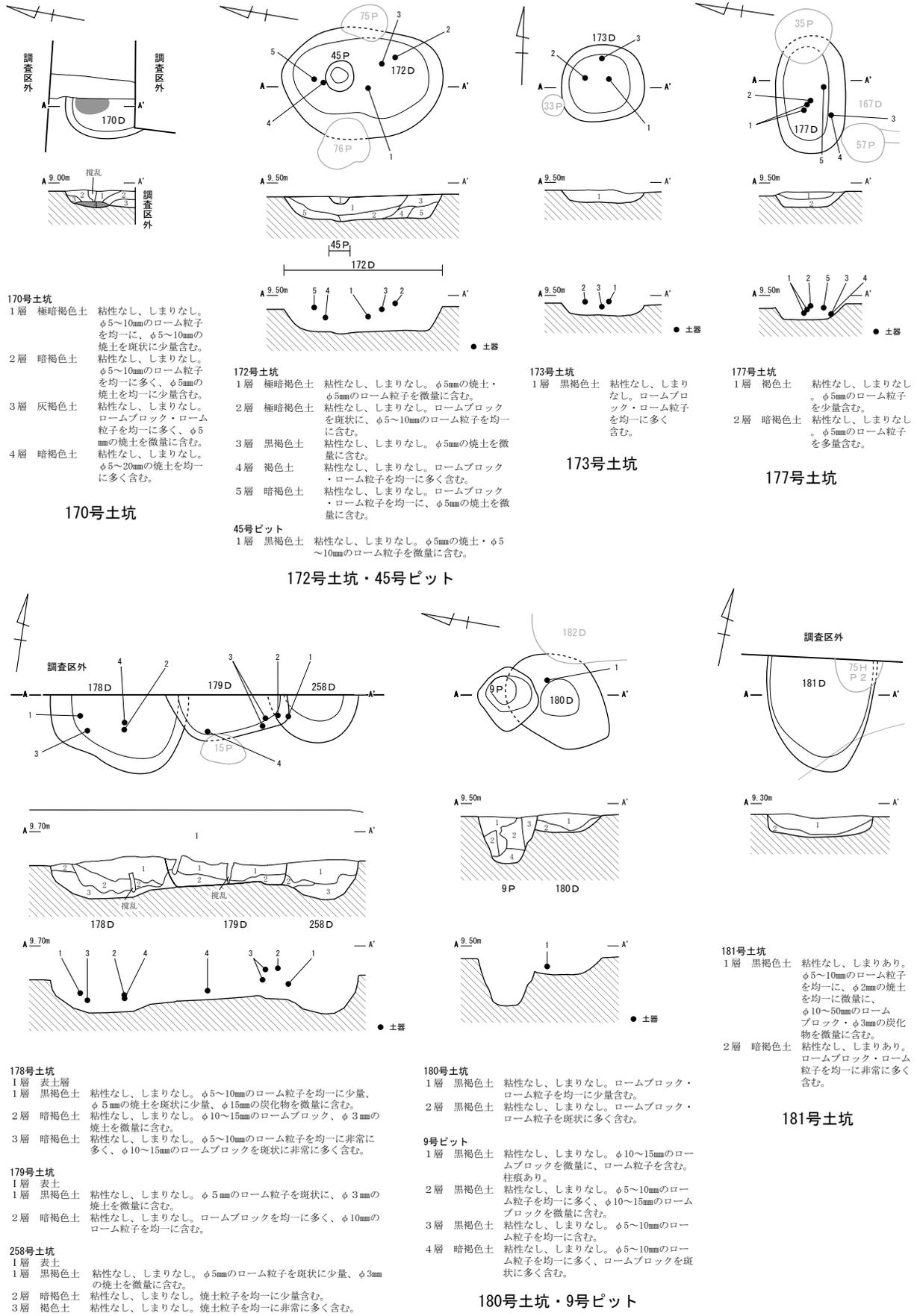
167号土坑

1層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5~10mmのローム粒子を均一に多く、φ10~50mmのロームブロックを斑状に含む。

167号土坑

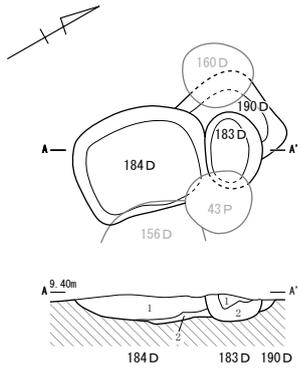
第12図 土坑1 (1/60・1/30)

第3章 検出された遺構と遺物



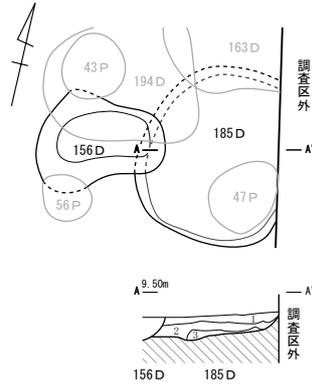
178号・179号・258号土坑

第13図 土坑2 (1/60)



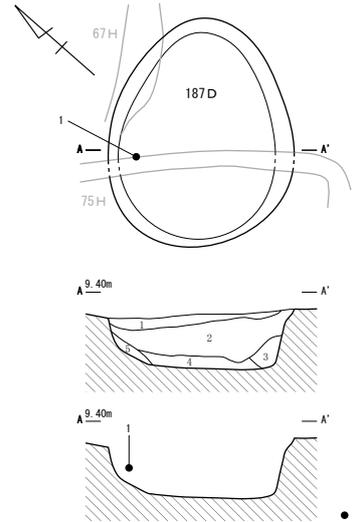
- 183号土坑**
 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5mmの焼土を均一に、φ5mmの炭化物を微量に含む。
 2層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5~10mmのローム粒子を均一に含む。
- 184号土坑**
 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5~10mmのローム粒子・φ3mmの焼土を微量に含む。
 2層 暗褐色土 粘性なし、しまりなし。ロームブロック・ローム粒子を均一に多く含む。

183号・184号土坑



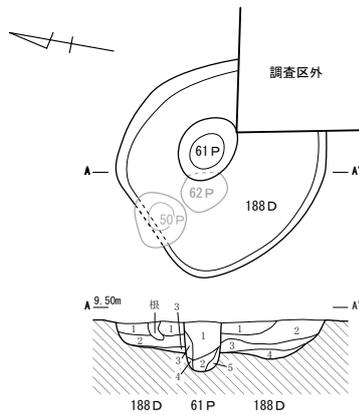
- 185号土坑**
 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5mmのローム粒子を微量に含む。
 2層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5mmの焼土・φ5mmのローム粒子を微量に含む。
 3層 暗褐色土 粘性なし、しまりあり。ロームブロック・ローム粒子を均一に多く含む。

185号土坑



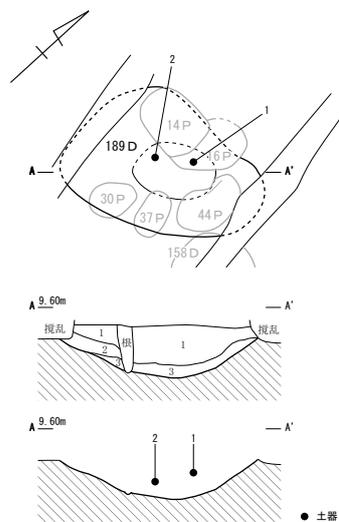
- 187号土坑**
 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ3mmの焼土・φ5~10mmのローム粒子を微量に含む。
 2層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ3mmの焼土・φ5mmのローム粒子を微量に含む。
 3層 極暗褐色土 粘性なし、しまりあり。φ10~30mmのロームブロック・φ5~10mmのローム粒子を微量に含む。
 4層 極暗褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5~10mmのローム粒子を均一に微量に、φ10~50mmのロームブロックを微量に含む。
 5層 暗褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5~10mmのローム粒子を斑状に多く、φ5mmの焼土・ロームブロックを均一に非常に多く含む。

187号土坑



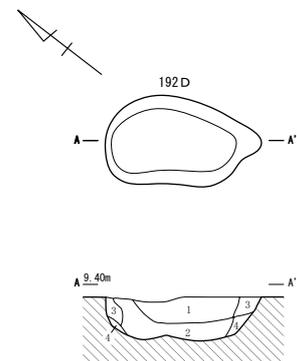
- 188号土坑**
 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5mmのローム粒子を均一に微量に、φ3mmの焼土を微量に含む。
 2層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ3mmの焼土・φ5mmのローム粒子を微量に含む。
 3層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。ロームブロック・ローム粒子を均一に非常に多く含む。
 4層 暗褐色土 粘性なし、しまりなし。ロームブロック・ローム粒子を均一に少量含む。
- 61号ピット**
 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ3mmの焼土を均一に、φ5~10mmのローム粒子を斑状に少量、φ1~5mmの炭化物を微量に含む。柱痕あり。
 2層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5~10mmのローム粒子を均一に多く、φ5mmの焼土・φ10~20mmのロームブロックを微量に含む。
 3層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ10~50mmのロームブロック・φ5~10mmのローム粒子を均一に多く含む。
 4層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。ロームブロック・ローム粒子を均一に非常に多く含む。
 5層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。ロームブロック・ローム粒子を均一に多く含む。

188号土坑・61号ピット



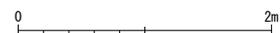
- 189号土坑**
 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5~10mmのローム粒子を均一に、φ3mmの焼土を斑状に少量含む。
 2層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。ロームブロック・ローム粒子を均一に多く含む。
 3層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5~10mmのローム粒子を均一に多く、ロームブロックを斑状に含む。

189号土坑



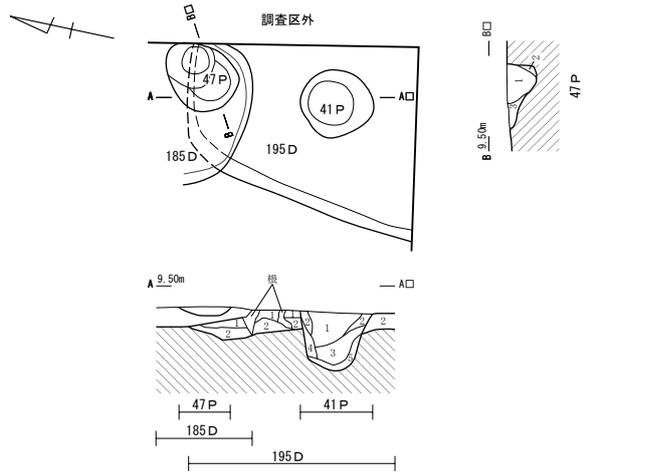
- 192号土坑**
 1層 極暗褐色土 粘性なし、しまりあり。φ2mmの焼土・φ5~10mmのローム粒子を均一に微量に、φ10~50mmのロームブロックを微量に含む。
 2層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5~10mmのローム粒子を均一に、φ10~150mmのロームブロックを斑状に少量、φ5mmの焼土を微量に含む。
 3層 極暗褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5mmのローム粒子・φ3mmの焼土を微量に含む。
 4層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。ロームブロック・ローム粒子を均一に含む。

192号土坑



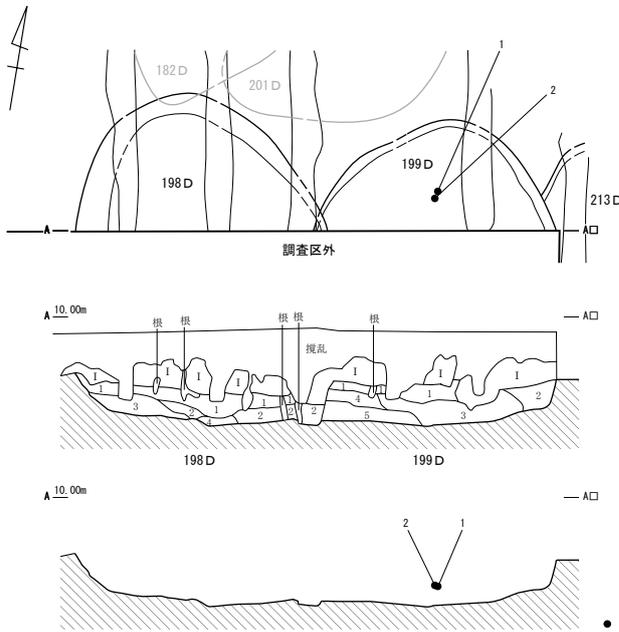
第14図 土坑3 (1/60)

第3章 検出された遺構と遺物



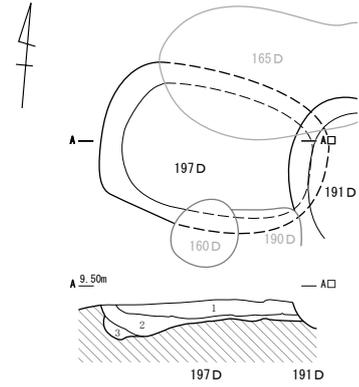
- 195号土坑**
 1層 極暗褐色土 粘性なし、しまりあり。φ2mmのローム粒子を微量に含む。
 2層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ2mmの焼土を微量に含む。
- 41号ピット**
 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5~10mmの焼土・φ5~10mmのローム粒子を微量に含む。
 2層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5~10mmのローム粒子を微量に含む。
 3層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5~10mmのローム粒子を微量に含む。
 4層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。ロームブロック・φ5~10mmのローム粒子を微量に含む。
 5層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5~10mmのローム粒子を均一に多く、ロームブロックを斑状に多く含む。
- 47号ピット**
 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5~10mmのローム粒子を斑状に少量含む。
 2層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5~10mmのローム粒子を均一に含む。
 3層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5~10mmのローム粒子を均一に、φ5mmの焼土を微量に含む。

195号土坑・41号・47号ピット



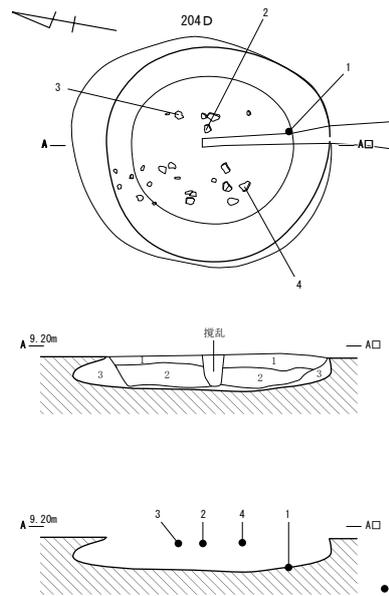
- 198号土坑**
 1層 表土層
 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5mmの焼土・φ5mmのローム粒子を微量に含む。
 2層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5~10mmのローム粒子を部分的に少量、φ5mmの焼土を微量に含む。
 3層 褐色土 粘性なし、しまりあり。ロームブロック・ローム粒子を均一に多く含む。
 4層 褐色土 粘性なし、しまりあり。ロームブロック・ローム粒子を斑状に非常に多く含む。
- 199号土坑**
 1層 表土層
 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ1mmのローム粒子を微量に含む。
 2層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ2mmの焼土・φ5mmのローム粒子を微量に含む。
 3層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。ロームブロック・ローム粒子を均一に多く含む。
 4層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5~10mmのローム粒子を均一に非常に多く、ロームブロックを斑状に多く、φ3mmの焼土を微量に含む。
 5層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。ロームブロック・ローム粒子を均一に非常に多く含む。

198号・199号土坑



- 197号土坑**
 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5mmのローム粒子・φ3mmの焼土を微量に含む。
 2層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。ロームブロック・ローム粒子を斑状に少量、φ5mmの焼土を微量に含む。
 3層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。ロームブロック・ローム粒子を均一に含む。

197号土坑

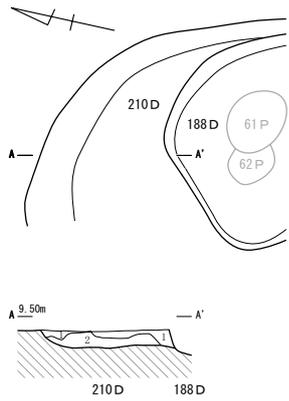


- 204号土坑**
 1層 極暗褐色土 粘性なし、しまりなし。φ2mmの炭化物・φ2mmのローム粒子・φ3mmの焼土を均一に微量に含む。
 2層 暗褐色土 粘性あり、しまりあり。φ5~10mmのローム粒子を均一に微量に含む。
 3層 暗褐色土 粘性あり、しまりあり。φ5~10mmのローム粒子を均一に微量に、ロームブロックを微量に含む。

204号土坑

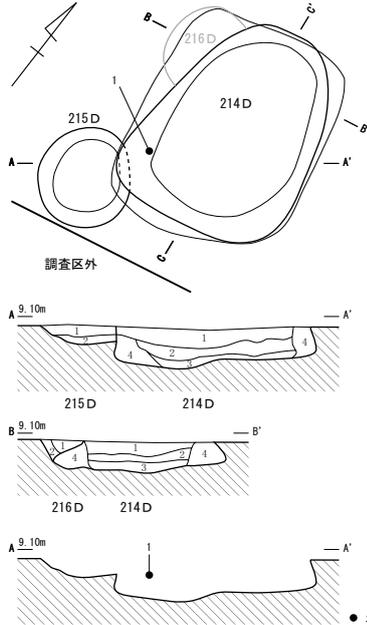


第15図 土坑4 (1/60)



210号土坑
 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5~10mmのローム粒子を微量に含む。
 2層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。ロームブロック・ローム粒子を均一に多く、φ3mmの焼土を微量に含む。

210号土坑

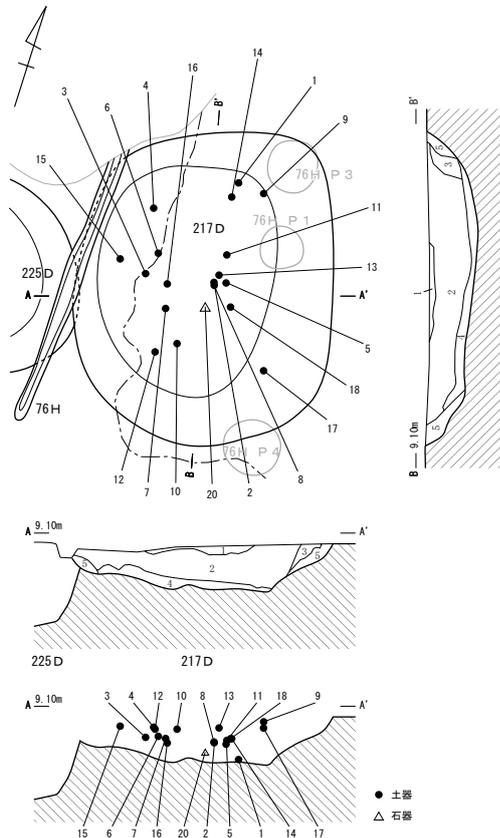


214号土坑
 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5mmのローム粒子を微量に含む。
 2層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5~10mmのローム粒子を均一に、φ10~20mmのロームブロックを斑状に含む。
 3層 暗褐色土 粘性なし、しまりあり。ロームブロック・ローム粒子を均一に非常に多く含む。
 4層 褐色土 粘性なし、しまりあり。ロームブロック・ローム粒子を非常に多く含む。

215号土坑
 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5~10mmのローム粒子を均一に少量含む。
 2層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。ロームブロック・ローム粒子を均一に、φ5~10mmの焼土を微量に含む。

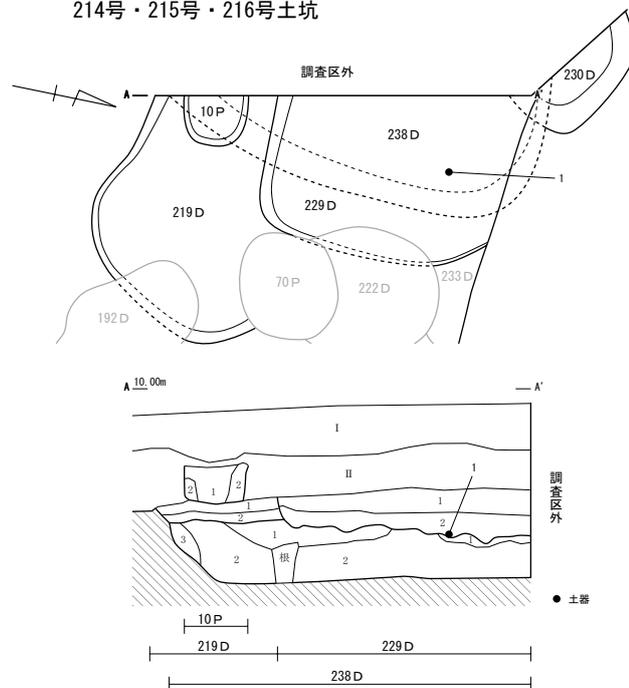
216号土坑
 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。ロームブロック・ローム粒子を均一に多く含む。
 2層 暗褐色土 粘性なし、しまりなし。ロームブロック・ローム粒子を均一に非常に多く含む。

214号・215号・216号土坑



217号土坑
 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。ロームブロック・φ10~20mmのローム粒子・φ5mmの焼土を斑状に少量含む。
 2層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5~10mmの焼土・φ5~10mmのローム粒子を均一に、ロームブロックを斑状に少量含む。
 3層 極暗褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5mmのローム粒子を斑状に含む。
 4層 暗褐色土 粘性なし、しまりなし。ロームブロック・ローム粒子を均一に多く含む。
 5層 明褐色土 粘性なし、しまりなし。ロームブロック・ローム粒子を均一に多く含む。

217号土坑



I層 表土層
 II層 黒色土

219号土坑
 1層 褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5~10mmのローム粒子を均一に、ロームブロックを斑状に含む。
 2層 褐色土 粘性なし、しまりあり。ロームブロック・ローム粒子を均一に多く含む。

229号土坑
 1層 暗褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5mmの焼土・φ5mmのローム粒子を微量に含む。
 2層 暗褐色土 粘性なし、しまりなし。ロームブロック・ローム粒子を均一に含む。

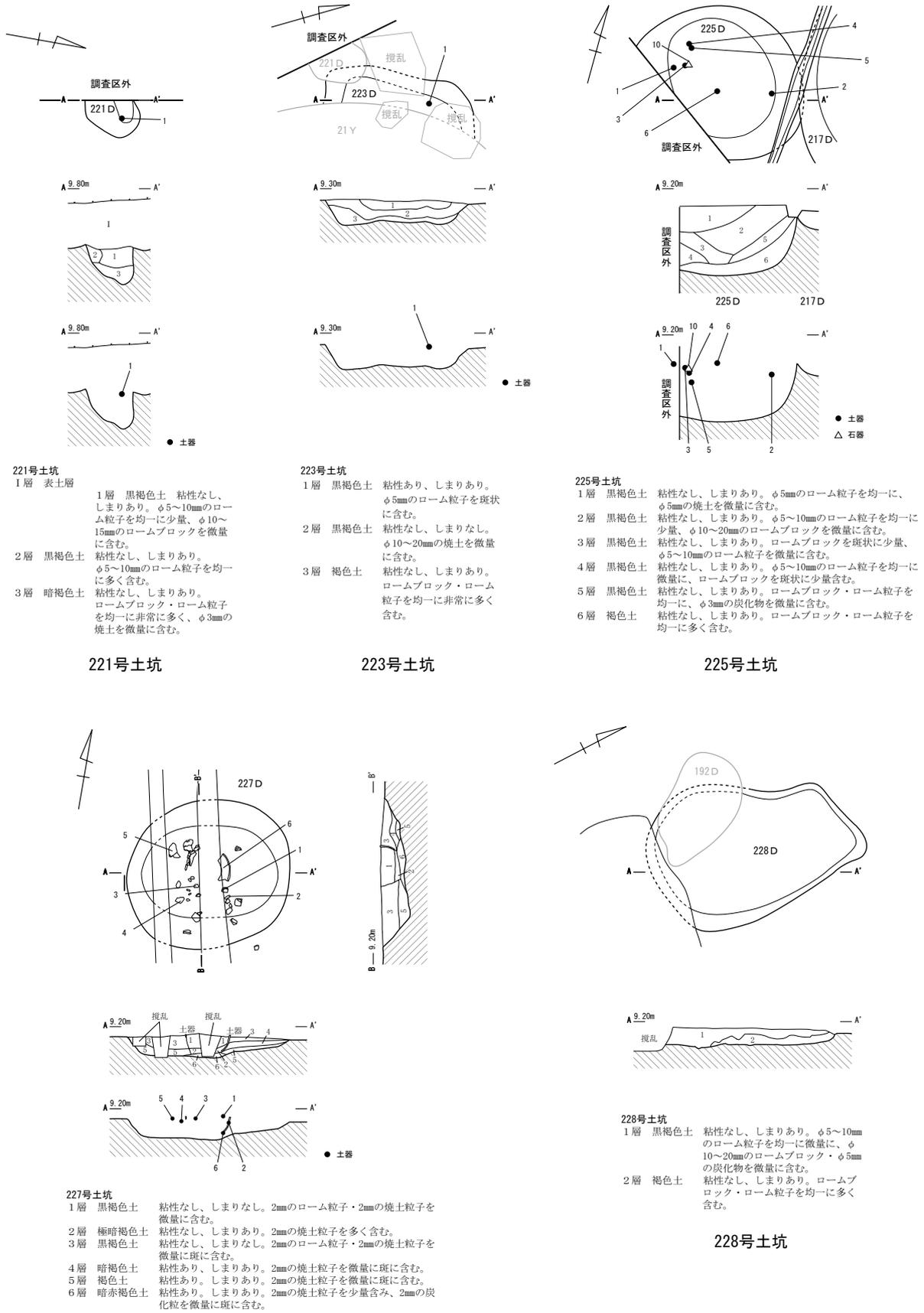
238号土坑
 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。ロームブロック・ローム粒子を均一に、φ5mmの焼土を微量に含む。
 2層 暗褐色土 粘性なし、しまりなし。ロームブロック・ローム粒子を均一に多く、φ5mmの焼土を微量に含む。
 3層 褐色土 粘性あり、しまりあり。ロームブロック・ローム粒子を均一に非常に多く含む。

10号ピット
 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5~10mmのローム粒子を均一に少量含む。
 2層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。ロームブロックを斑状に多く、φ5~10mmのローム粒子を均一に含む。

219号・229号・238号土坑・10号ピット

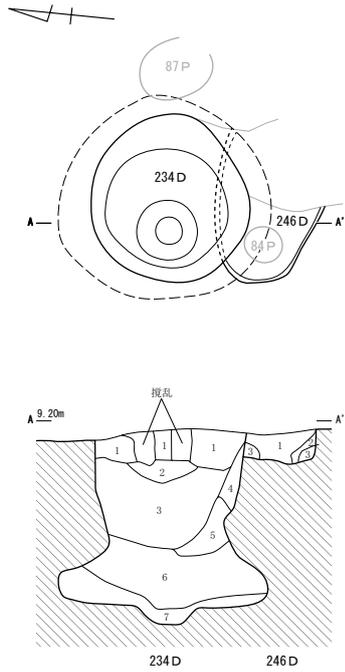


第3章 検出された遺構と遺物



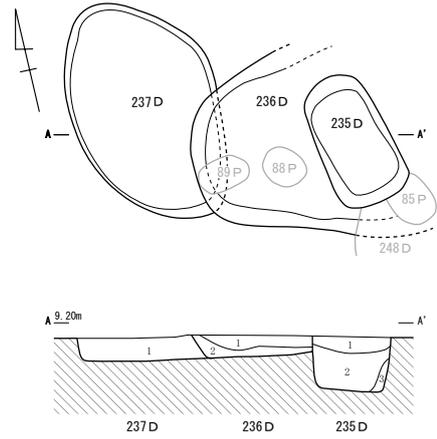
227号土坑

第17図 土坑6 (1/60)



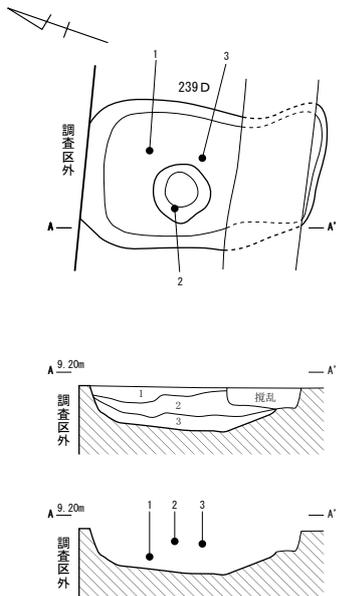
234号・246号土坑

- 234号土坑**
- 1層 極暗褐色土 粘性なし、しまりあり。φ3mmのローム微粒子を斑状に少なく、φ3~5mmの焼土を微量に含む。
 - 2層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5~10mmのローム粒子を含む。
 - 3層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5~10mmのローム粒子を均一に、φ10~20mmのロームブロックを微量に含む。
 - 4層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。ロームブロック・φ5~10mmのローム粒子を斑状に多く含む。
 - 5層 暗褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5~10mmのローム粒子を均一に多く、φ10~20mmのロームブロックを斑状に含む。
 - 6層 暗褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5~10mmのローム粒子を均一に多く、ロームブロックを斑状に多く含む。
 - 7層 暗褐色土 粘性なし、しまりなし。にぶい黄褐色シルト質土を均一に非常に多く、ロームブロック・ローム粒子を均一に多く含む。
- 246号土坑**
- 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5mmの焼土を均一に少量、φ5mmのローム粒子を微量に含む。
 - 2層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ2mmの焼土・φ5mmのローム粒子を微量に含む。
 - 3層 褐色土 粘性なし、しまりあり。ロームブロック・ローム粒子を均一に多く含む。



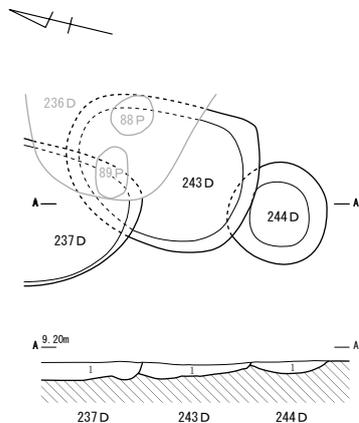
- 235号土坑**
- 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5~10mmのローム粒子を均一に含む。
 - 2層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5~10mmのローム粒子を均一に少量、φ10~20mmのロームブロックを微量に含む。
 - 3層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5~10mmのローム粒子を微量に含む。
- 236号土坑**
- 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5~10mmのローム粒子を均一に少量、φ2mmの焼土を微量に含む。
 - 2層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。ロームブロック・ローム粒子を均一に多く含む。
- 237号土坑**
- 1層 暗褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5~10mmのローム粒子を均一に、ロームブロックを斑状に多く含む。

235号・236号・237号土坑



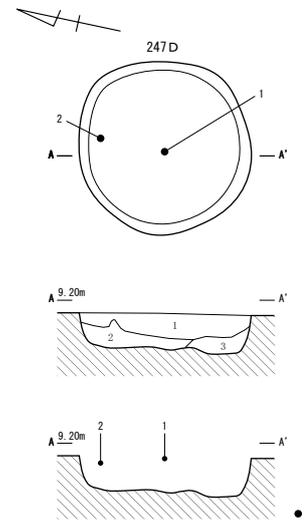
- 239号土坑**
- 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5mmの焼土・φ2mmのローム粒子を均一に少量含む。
 - 2層 極暗褐色土 粘性あり、しまりあり。φ5mmの焼土・φ5mmのローム粒子を均一に微量に含む。
 - 3層 褐色土 粘性あり、しまりあり。ロームブロック・ローム粒子を均一に非常に多く含む。

239号土坑



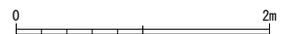
- 237号土坑**
- 1層 暗褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5~10mmのローム粒子を均一に、ロームブロックを斑状に多く含む。
- 243号土坑**
- 1層 暗褐色土 粘性なし、しまりあり。ロームブロック・ローム粒子を斑状に、φ3mmの焼土を含む。
- 244号土坑**
- 1層 暗褐色土 粘性なし、しまりあり。ロームブロック・ローム粒子を斑状に少量含む。

243号・244号・237号土坑



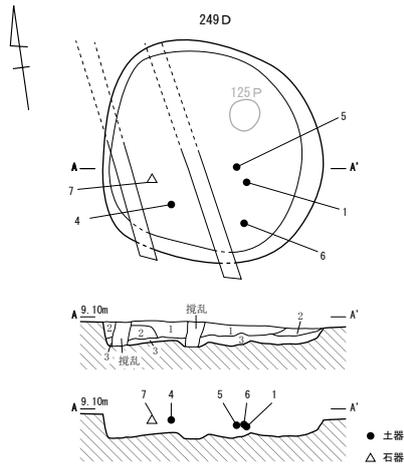
- 247号土坑**
- 1層 暗褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5mmのローム粒子を少量含む。
 - 2層 暗褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5~10mmのローム粒子を少量含む。
 - 3層 暗褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5~10mmのローム粒子を多量含む。

247号土坑



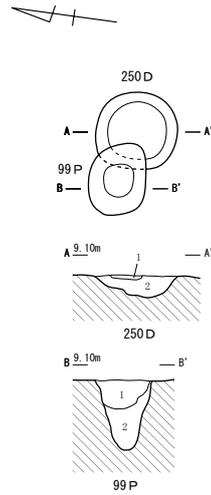
第18図 土坑7 (1/60)

第3章 検出された遺構と遺物



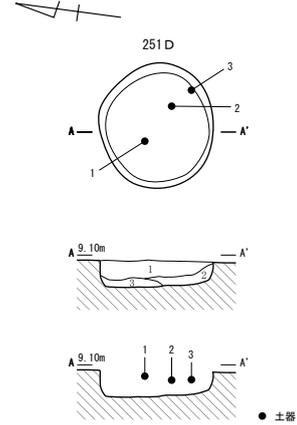
- 249号土坑**
- 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5~10mmのローム粒子を均一に少量、φ10~20mmのロームブロック・φ5~10mmの焼土を微量に含む。
 - 2層 極暗褐色土 粘性なし、しまりあり。ロームブロックを斑状に、φ5~10mmのローム粒子を微量に含む。
 - 3層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。ロームブロック・ローム粒子を均一に非常に多く含む。

249号土坑



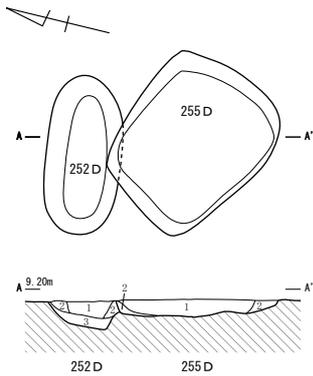
- 250号土坑**
- 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5mmのローム粒子を微量に含む。
 - 2層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。ロームブロック・φ5~10mmのローム粒子を均一に少量、φ3mmの焼土を微量に含む。
- 99号ピット**
- 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。ロームブロック・ローム粒子を斑状に多く含む。
 - 2層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。ロームブロック・φ5~10mmのローム粒子を斑状に多く含む。

250号土坑・99号ピット



- 251号土坑**
- 1層 極暗褐色土 粘性なし、しまりあり。φ2mmのローム粒子・φ2mmの焼土を均一に微量に含む。
 - 2層 暗褐色土 粘性あり、しまりあり。φ2mmのローム粒子を均一に微量に含む。
 - 3層 暗褐色土 粘性あり、しまりあり。φ2mmのローム粒子・φ2mmの焼土を均一に微量に含む。

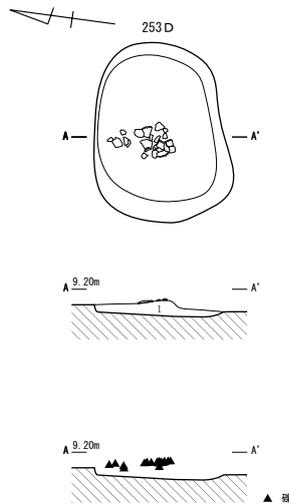
251号土坑



- 252号土坑**
- 1層 極暗褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5mmのローム粒子を均一に微量に、φ5~10mmの焼土を微量に含む。
 - 2層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。ロームブロックを斑状に多く、ローム粒子を均一に多く含む。
 - 3層 極暗褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5mmのローム粒子を均一に多く含む。

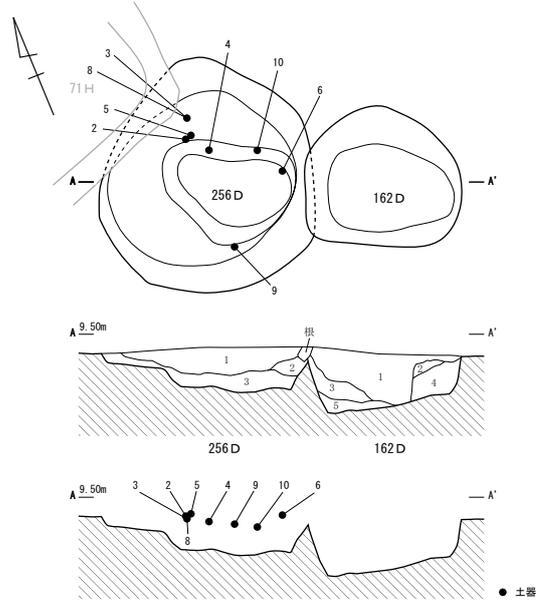
- 255号土坑**
- 1層 暗褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5mmのローム粒子を少量含む。
 - 2層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。ロームブロックを少量、φ5~10mmの焼土粒子を少量含む。

252号・255号土坑



- 253号土坑**
- 1層 暗褐色土 粘性あり、しまりなし。φ2mmのローム粒子を均一に少量含む。

253号土坑



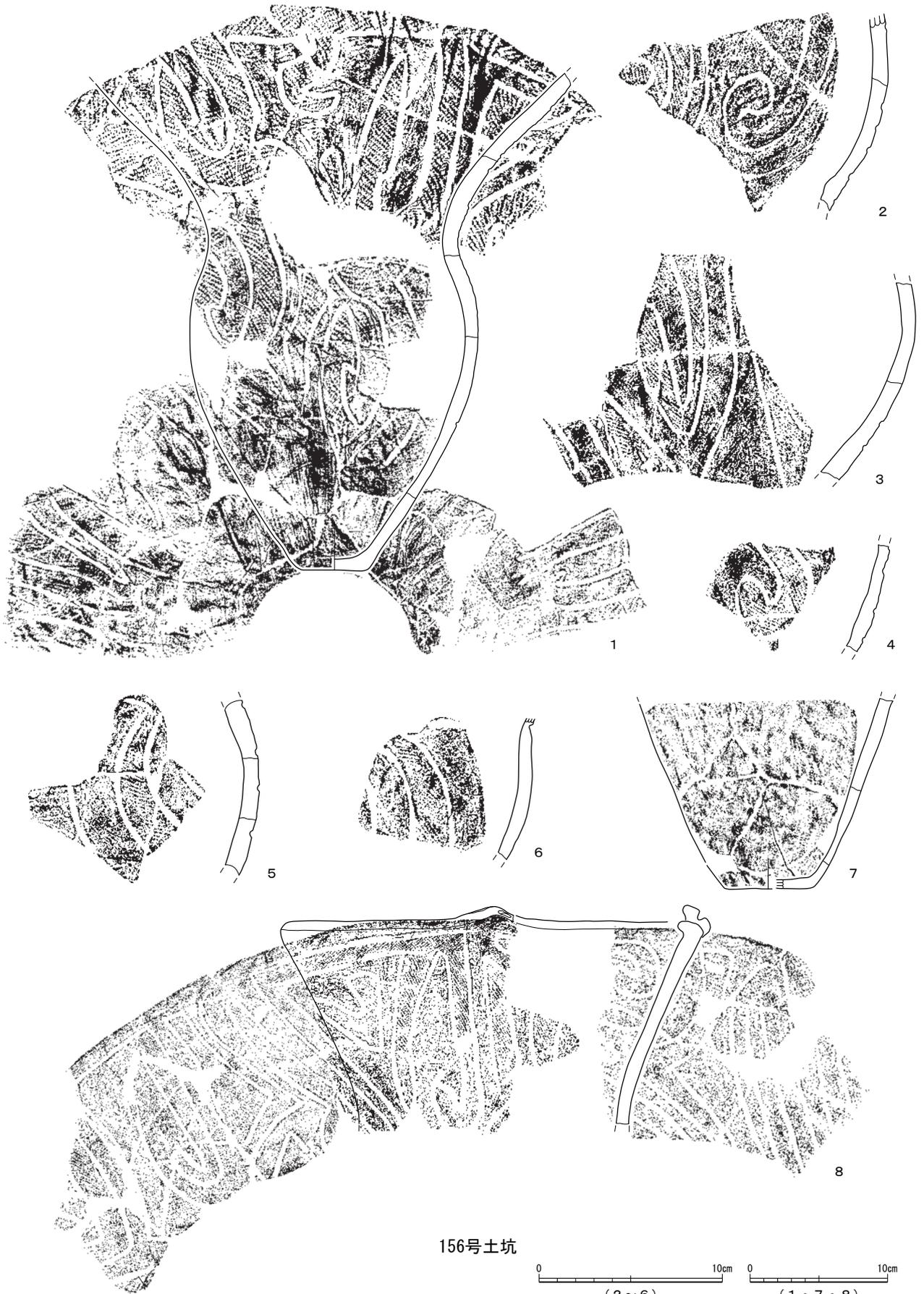
- 256号土坑**
- 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5~10mmの焼土・φ5~10mmのローム粒子を均一に含む。
 - 2層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ10~50mmのロームブロック・φ5mmの焼土を少量、φ5mmのローム粒子を微量に斑に含む。
 - 3層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5mmの焼土を少量斑に含む。

- 162号土坑**
- 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5~10mmのローム粒子を多く含む、φ10~20mmのロームブロック・φ5mmの焼土を斑に微量に含む。
 - 2層 暗褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5~10mmのローム粒子を少量含む、φ5mmの焼土を微量に斑に含む。
 - 3層 暗褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5~10mmのローム粒子を多く含む、φ10~20mmのロームブロックを少量、φ3mmの焼土を微量に斑に含む。
 - 4層 褐色土 粘性なし、しまりなし。ロームブロック・ローム粒子を微量、φ5mmの焼土を微量に斑に含む。
 - 5層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。ロームブロック・ローム粒子を多量に含む、φ5mmの焼土を微量に斑に含む。

162号・256号土坑

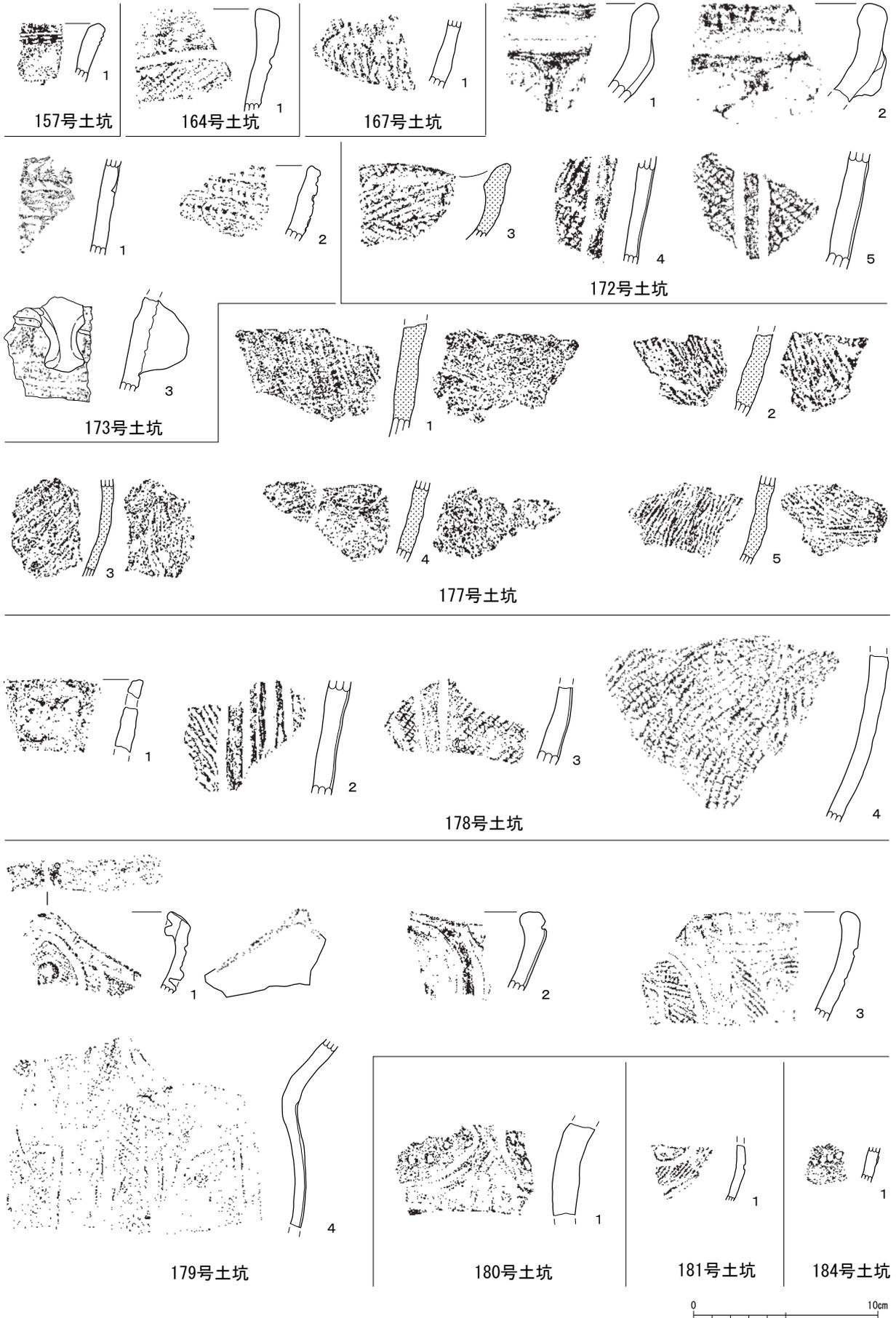


第19図 土坑8 (1/60)



156号土坑

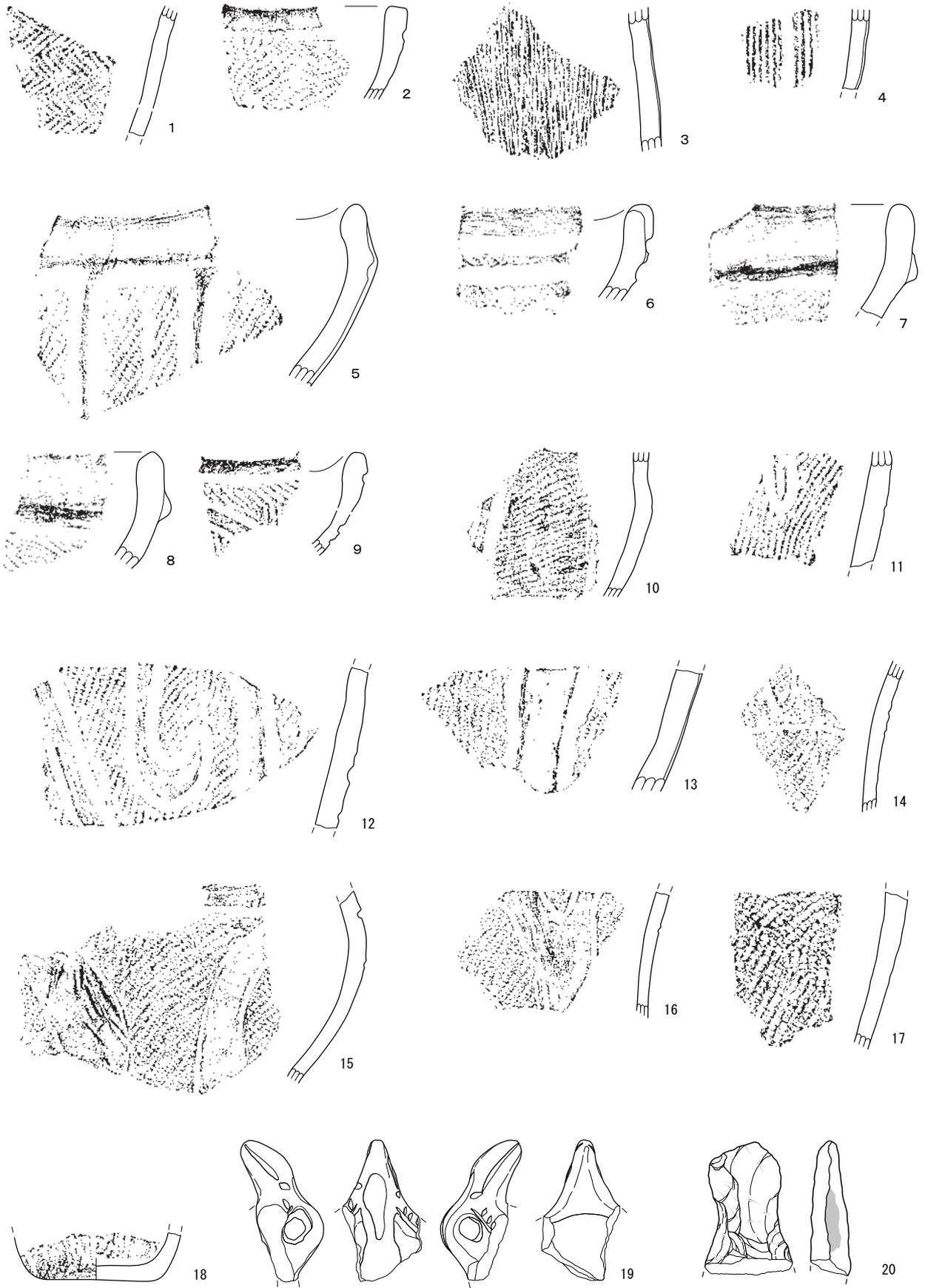
第20図 土坑出土遺物1 (1/4・1/3)



第21図 土坑出土遺物2 (1/3)

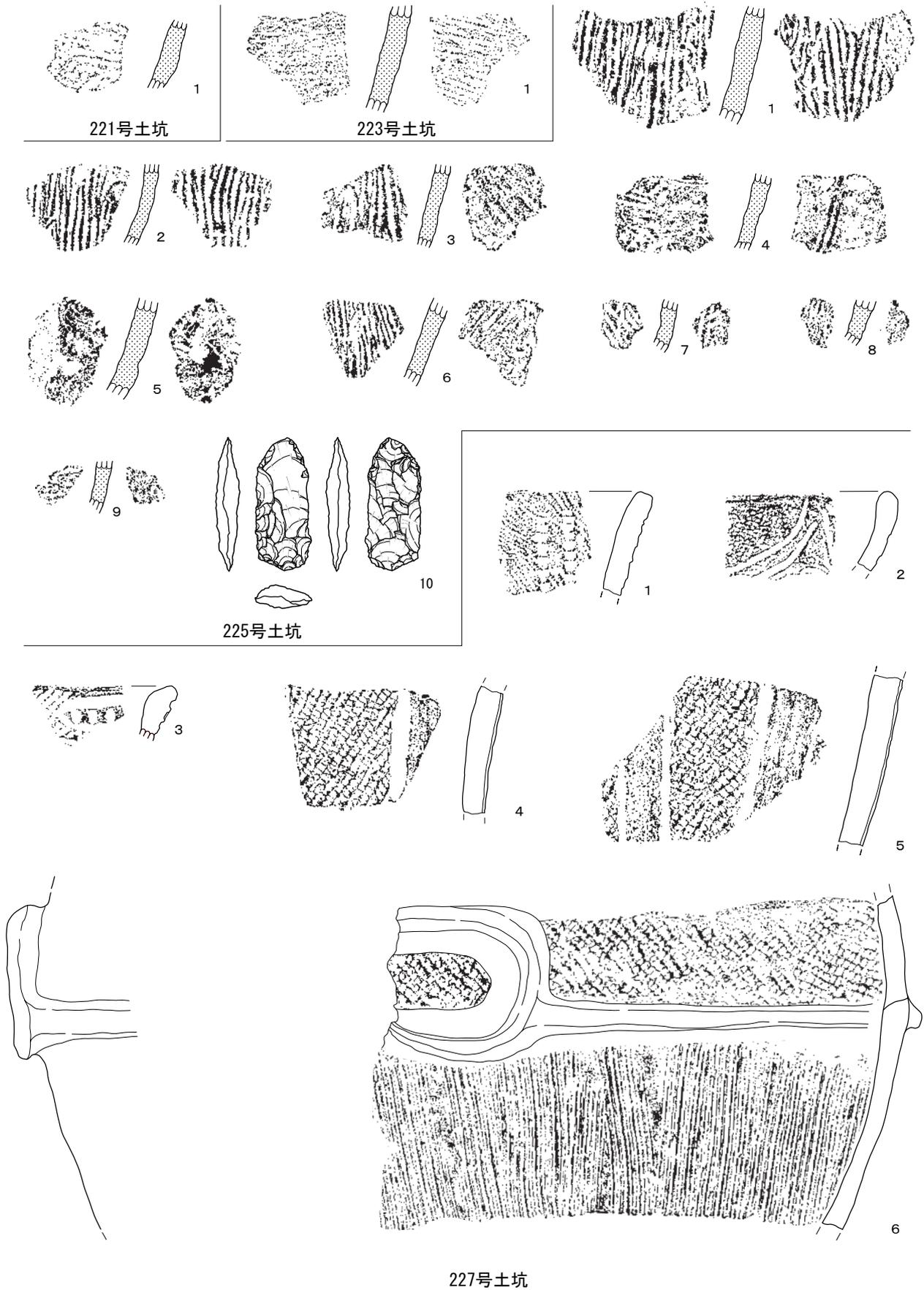


第22図 土坑出土遺物3 (1/3)

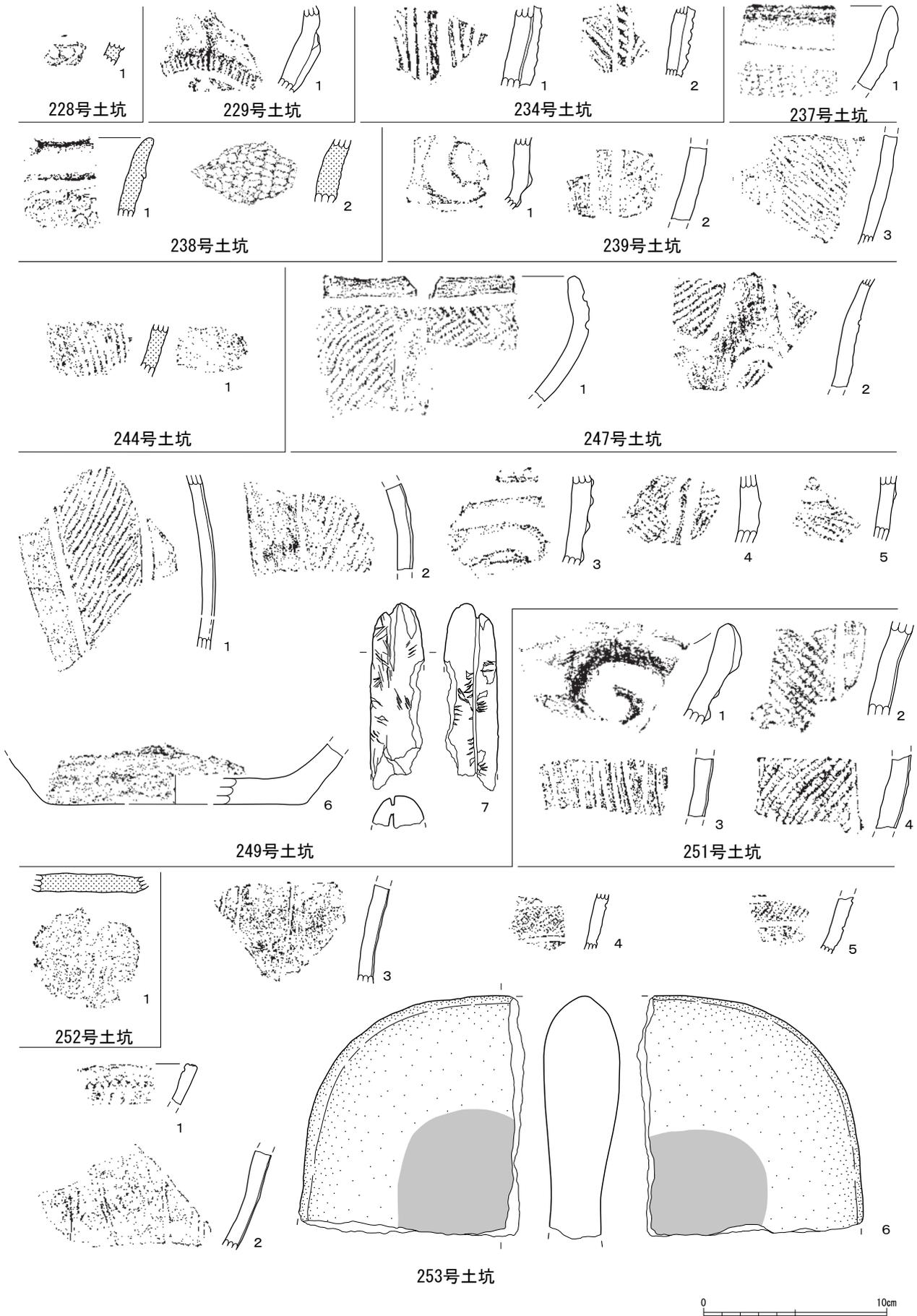


217号土坑

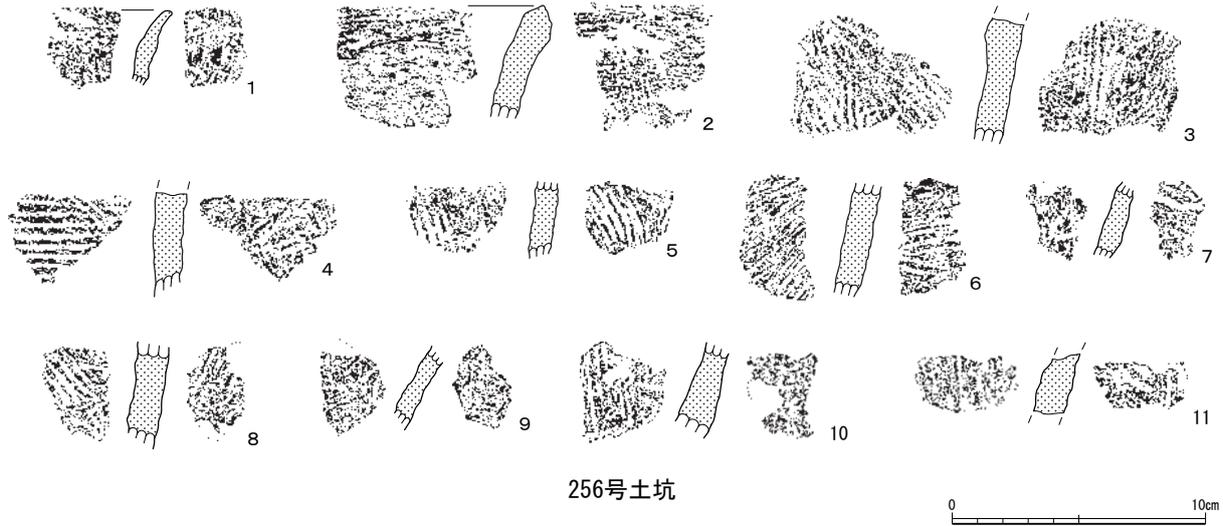
第23図 土坑出土遺物4 (1/3)



第24図 土坑出土遺物5 (1/3)



第25図 土坑出土遺物6 (1/3)



第26図 土坑出土遺物7 (1/3)

遺構名	グリッド	長軸 (m)	短軸 (m)	主軸	深さ (m)	平面形	重複関係	帰属時期
150D	D-6	0.76 以上	1.12	N-22°-W	0.13	円形	-	縄文
151D	D-6・7	1.68	1.11	N-48°-W	0.31	楕円形	151D / (26P/27P/49P)	縄文
152D	D-6	1.24	0.56	N-13°-W	0.31	楕円形	-	縄文
153D	A-3	1.30	1.01	N-3°-E	0.27	楕円形	153D / (22P)	縄文
154D	A-3・4	1.50	1.31	N-78°-W	0.11	円形	30FP → 154D / (23P/24P/25P)	縄文
155D	C・D-5	0.17 以上	0.47	N-78°-E	0.19	楕円形	155D・247D → 218D / (245D/19P/72P/78P/93P/94P)	縄文
156D	B-4	1.01	0.73	N-76°-E	0.21	不整形	194D → 156D・183D → (43P/56P)	縄文後期初頭
157D	B-3	1.57	1.35	N-40°-W	0.19	楕円形	157D → 198D → 182D	縄文前期後葉
158D	A・B-3	0.76	0.63	N-90°-W	0.30	円形	(158D) / 189D	縄文
159D	B-3	0.59	0.43	N-0°	0.22	楕円形	201D / (159D)	縄文
160D	B-3・4	0.55	0.52	N-64°-E	0.20	円形	197D → 190D → 160D	縄文
161D	D-6	1.23	1.11	N-35°-W	0.42	円形	-	縄文
162D	B-3	1.24	1.11	N-65°-W	0.45	楕円形	-	不明
163D	B-4	1.48	0.99 以上	N-10°-E	0.19	推定楕円形	163D・185D・194D / (186D/191D/60P)	縄文
164D	B-3・4	0.83 以上	0.88	N-24°-W	0.18	円形	207D → 164D・165D・210D → 50P / (202D)	縄文中期後葉
165D	B-3・4	1.82	1.05	N-87°-E	0.33	楕円形	197D → 191D/196D / 207D → 164D・165D・210D → 188D	縄文後期初頭
166D	B-4	0.57 以上	0.48	N-13°-W	0.41	推定楕円形	-	縄文
167D	A・B-4	1.26 以上	0.90 以上	N-2°-W	0.10	楕円形	177D → 57P → 167D → 212D / (53P)	不明
168D	C-5	2.11	1.07 以上	N-9°-W	0.28	推定楕円形	(241D/168D) → 242D	縄文

※ →は新旧関係 ・は同時期 /は新旧関係不明 ()は時期不明を表す

第8表 土坑一覧 (1)

第3章 検出された遺構と遺物

遺構名	グリッド	長軸 (m)	短軸 (m)	主軸	深さ (m)	平面形	重複関係	帰属時期
169D	F-7	0.47 以上	0.68	N-11°-W	0.39	円形	-	縄文
170D	F-7	0.80 以上	0.48 以上	N-15°-W	0.18	推定楕円形	-	不明
171D	B-3・4	0.50 以上	0.51	N-17°-W	0.52	推定楕円形	-	縄文
172D	B-3	1.71	1.19	N-10°-W	0.26	楕円形	FP26・FP28 → 172D → 45P/ (208D → 207D/75P/76P)	縄文中期後葉
173D	B-4	0.89	0.82	N-73°-E	0.15	円形	173D → 210D/ (202D)	縄文前期後葉
174D	B-4	1.61 以上	0.64	N-16°-E	0.19	楕円形	29FP/ (174D) /200D	縄文
175D	A-4	2.06 以上	0.61	N-81°-E	0.26	楕円形	31FP → 175D	縄文
176D	D-4	1.24	0.72	N-5°-W	0.18	推定円形	-	縄文
177D	A-4	1.19 以上	0.74	N-81°-E	0.17	長楕円形	30FP・31FP → 212D → 177D → 167D → (35P/57P)	縄文早期末葉
178D	A-3	1.45	0.95 以上	N-82°-W	0.35	推定楕円形	178D → 179D	縄文中期後葉
179D	A-3	1.19 以上	0.69 以上	N-62°-E	0.30	推定楕円形	258D → 178D → 179D/ (15P)	縄文後期初頭
180D	B-3	1.23	0.89	N-28°-E	0.18	楕円形	157D → 180D → 182D/ (9P)	縄文後期初頭
181D	A-5	1.27 以上	1.10	N-14°-W	0.24	楕円形	181D → 75H	縄文中期後葉末 ～後期初頭
182D	B-3	1.64	1.44	N-9°-E	0.17	楕円形	157D・201D → 182D	縄文
183D	B-4	0.58 以上	0.45	N-65°-W	0.20	楕円形	194D → 184D → 183D/ (186D/190D/43P)	不明
184D	B-4	1.07	0.84	N-8°-E	0.19	楕円形	206D → 156D・184D → 183D/ (190D/43P)	縄文後期初頭
185D	B-4	1.35	1.18 以上	N-11°-E	0.23	円形	195D → 163D・185D・194D・200D → 156D/ (47P)	縄文中期後葉
186D	B-4	0.67 以上	0.76	N-42°-E	0.16	楕円形	(191D/183D → 186D)	縄文
187D	A-5	1.83	1.46	N-53°-E	0.48	卵形	187D → 67H・75H	縄文中期末 ～後期初頭
188D	B-4	1.55 以上	1.56	N-50°-W	0.30	楕円形	196D → 165D・210D → 188D → 61P/ (50P/62P)	縄文中期後葉
189D	A・B-3	1.24 以上	1.05	N-77°-E	0.42	楕円形	189D/ (158D/201D/14P/16P/30P/37P/44P)	縄文後期
190D	B-4	0.63 以上	0.74 以上	N-2°-W	0.17	不明	197D → 190D/191D → 160D → 184D → 183D	縄文
191D	B-4	1.05 以上	1.23	N-42°-W	0.23	楕円形	197D → 190D/191D/196D → 163D・165D/ (186D)	縄文
192D	B-5	1.23	0.70	N-39°-W	0.35	楕円方形	219D → 228D → 192D	縄文後期初頭 ～後期前葉
193D	B-5	0.49 以上	0.52	N-75°-W	0.23	楕円形	193D → 21Y	縄文
194D	B-4	1.20	1.01	N-73°-E	0.30	不整形	194D・184D → 156D → 43P/ (163D/183D/186D/190D)	縄文中期後葉

※ →は新旧関係 ・は同時期 /は新旧関係不明 ()は時期不明を表す

第8表 土坑一覧(2)

遺構名	グリッド	長軸 (m)	短軸 (m)	主軸	深さ (m)	平面形	重複関係	帰属時期
195D	B-4	1.56 以上	1.51 以上	N-3°-W	0.11	不明	195D → 185D → 47P・41P/ (174D)	縄文早期末葉
196D	B-4	0.61 以上	0.24 以上	N-77°-W	0.17	不明	(191D/196D) → 163D・165D/ (188D)	縄文
197D	B-3・4	1.63 以上	1.21 以上	N-80°-W	0.27	推定 楕円形	26FP → 197D → 190D → 160D・165D	縄文早期末葉
198D	B-3	1.10 以上	1.94 以上	N-15°-W	0.42	楕円形	157D → 199D → 198D → 182D	縄文中期後葉
199D	B-3	1.12 以上	1.84 以上	N-6°-E	0.37	推定 楕円形	213D → 199D → 198D	縄文中期後葉
200D	B-4	0.77	0.66	N-67°-E	0.19	推定 楕円形	29FP → 174D → 200D → 156D/ (56P)	縄文中期後葉
201D	B-3	1.95	1.28	N-57°-E	0.09	楕円形	201D → 182D・189D/ (159D/30P/37P)	縄文
202D	B-4	1.10	0.92	N-80°-W	0.20	楕円形	210D・173D・164D/ (202D・207D)	縄文
203D	A-3・4	0.83 以上	0.68	N-11°-W	0.20	不明	203D → (23P → 154D/25P)	縄文
204D	C-6・7	2.08	1.78	N-6°-E	0.28	円形	—	縄文中期後葉
205D	B-3	0.41 以上	0.89 以上	N-63°-W	0.17	推定 楕円形	205D → 73H/ (18P/34P/42P)	縄文
206D	B-3・4	2.15 以上	0.82 以上	N-75°-E	0.36	楕円形	29FP → 206D・200D → 184D・156D/ (18P/42P/56P)	縄文
207D	B-3・4	1.76	0.43 以上	N-17°-E	0.15	推定 楕円形	(208D → 207D) /164D → 172D/ (202D/45P/ 50P/70P)	縄文
208D	B-3	1.04 以上	0.83 以上	N-44°-E	0.31	推定 長方形	28FP → (208D → 207D) /172D/ (33P)	縄文
209D	A-3	0.96	0.79	N-17°-W	0.12	楕円形	—	縄文
210D	B-4	2.33 以上	1.29 以上	N-24°-W	0.14	不明	173D → 210D → 188D → 164D/ (202D/207D/ 61P/62P)	縄文中期後葉
211D	B-4	0.65 以上	0.80 以上	N-13°-W	0.25	推定 楕円形	(211D/48P)	縄文
212D	A-4	0.85	0.57	N-3°-W	0.15	長方形	212D → 177D → 167D → 35P	縄文
213D	B-3	0.77 以上	1.22	N-15°-E	0.32	推定方形	27FP・28FP → 213D・ 172D → 199D/ (76P)	縄文
214D	A-5	1.86	1.43	N-4°-W	0.33	不整形	215D → 214D/216D → 214D	縄文後期
215D	A-5	0.81	0.74	N-11°-W	0.16	円形	215D → 214D	不明
216D	A-5	0.72	0.39 以上	N-16°-E	0.18	楕円形	216D → 214D	不明
217D	A・B-5	2.53	2.06 以上	N-8°-W	0.37	楕円形	225D → 226D → 217D → 76H/ (230D)	縄文中期末葉 ～後期初頭
218D	C・D-5	1.70 以上	0.43 以上	N-70°-W	0.37	長方形	218D → 224D/ (245D/104P/108P/ 116P/117P)	縄文
219D	B-5	2.07 以上	1.51	N-84°-W	0.12	推定 楕円形	238D → 219D・222D → 229D → 192D → 10P・70P	不明
220D	B-5	0.40 以上	0.64	N-78°-E	0.32	推定 楕円形	—	縄文

※ →は新旧関係 ・は同時期 /は新旧関係不明 ()は時期不明を表す

第8表 土坑一覧(3)

第3章 検出された遺構と遺物

遺構名	グリッド	長軸 (m)	短軸 (m)	主軸	深さ (m)	平面形	重複関係	帰属時期
221D	B-5	0.57 以上	0.46 以上	N-37°-E	0.41	楕円形	-	縄文前期前葉
222D	B-5	0.80 以上	1.04	N-7°-W	0.32	楕円形	233D → 220D → 229D → 70P	縄文
223D	B-5	1.53 以上	0.52 以上	N-29°-E	0.26	楕円形	223D → 221D → 21Y	縄文早期末葉
224D	C・D-5	0.92 以上	0.62	N-68°-E	0.41	楕円形	224D → 218D	縄文
225D	B-5	1.74	1.24 以上	N-52°-W	0.72	楕円形	225D → 217D	縄文早期末葉
226D	B-5	0.93	0.52 以上	N-88°-W	0.12	不明	230D → 226D → 217D → 76H	縄文
227D	C-6	1.74	1.54	N-52°-E	0.22	楕円形	-	縄文中期前葉
228D	B-5	1.94	1.39	N-9°-E	0.16	不整形	219D → 228D → 192D	縄文中期後葉
229D	B-5	1.53 以上	0.04 以上	N-38°-E	0.37	方形	238D → 219D・ 222D/233D → 229D → 70P	縄文中期中葉
230D	B-5	1.11 以上	0.45 以上	N-59°-W	0.50	楕円形	230D → 238D → 226D → 76H	縄文
231D	B-5	1.64 以上	1.13 以上	N-66°-W	0.29	不明	230D → 238D → 226D → 76H	縄文
232D	C-5	1.56 以上	1.49	N-78°-E	0.40	推定方形	34FP → (232D/245D/ 66P/67P/72P/79P/ 80P)	縄文
233D	B-5	0.86 以上	0.35 以上	N-86°-W	0.21	不明	233D → 220D → 229D	縄文
234D	C-5	1.68	1.62	N-9°-W	1.46	円形	32FP/246D → 234D/ (84P/87P)	縄文中期前葉
235D	C-5	1.07	0.59	N-13°-W	0.44	長方形	236D → 235D/ (248D/85P)	縄文中期前葉
236D	C-5	1.16 以上	1.60 以上	N-87°-E	0.18	推定 楕円形	243D → 237D → 236D → 235D/ (248D/85P/ 88P/89P)	不明
237D	C-5	1.90	1.17	N-16°-W	0.18	長方形	243D → 237D → 236D/ (89P)	縄文中期後葉
238D	B-5	2.94 以上	1.30 以上	N-4°-E	0.60	長方形 乃至は 楕円形	238D → 229D・230D・ 10P	縄文前期前葉
239D	E・F-8	1.93 以上	1.19	N-21°-W	0.37	長方形	-	縄文中期後葉
240D	C-5	0.79	0.56	N-7°-E	0.67	楕円形	168D → 236D/246D → 234D・235D・240D	縄文
241D	C-5	0.55 以上	0.38 以上	N-3°-W	不明	不明	(68D/241D/37P)	縄文
242D	C-5	0.79 以上	0.85 以上	N-82°-E	0.29	推定 楕円形	168D → 242D	縄文
243D	C-5	0.86 以上	1.16	N-3°-E	0.13	推定方形	244D → 243D → 237D → 236D/ (88P/89P)	不明
244D	C-5	0.79	0.72 以上	N-73°-W	0.10	不明	244D → 243D	縄文早期末葉
245D	C-5	1.66	0.72 以上	N-70°-E	0.45	長方形	(245D/232D) /155D → 218D/ (17P/63P/ 69P/73P/77P/91P/92P/ 102P/103P)	縄文
246D	C-5	0.76 以上	0.64 以上	N-79°-W	0.27	不明	246D → 234D/ (168D/240D/84P)	不明
247D	D-5	1.38	1.35	N-75°-E	0.33	円形	247D・155D	縄文中期後葉
248D	C-5	0.94 以上	0.96	N-21°-W	0.33	円形	236D → 235D → 245D/ (248D/85P)	縄文

※ →は新旧関係 ・は同時期 /は新旧関係不明 ()は時期不明を表す

第8表 土坑一覧(4)

遺構名	グリッド	長軸 (m)	短軸 (m)	主軸	深さ (m)	平面形	重複関係	帰属時期
249D	D-5	1.90	1.77	N-20°-W	0.19	円形	249D → (125P)	縄文中期後葉
250D	D-4	0.68	0.65	N-40°-W	0.17	方形	250D/ (99P)	不明
251D	D-7	1.00	0.90	N-84°-W	0.21	円形	—	縄文中期後葉
252D	D-5	1.27	0.59	N-80°-E	0.22	長楕円形	252D → 255D	縄文前期前葉
253D	C・D-7	1.45	1.06	N-74°-E	0.10	楕円形	21FP → 253D	縄文中期末 ～後期初頭
254D	C・D-5	0.63 以上	0.37 以上	N-68°-E	0.57	推定 楕円形	254D/155D → 218D/ (63P/69P/90P)	縄文
255D	D-5	1.33	1.11	N-59°-W	0.13	隅丸方形	252D → 255D	不明
256D	B-2・3	1.87	1.72 以上	N-12°-E	0.31	円形	256D → 162D → 71H	縄文早期後葉
257D	D-3	1.00 以上	1.00	N-67°-E	0.37	推定円形	—	縄文
258D	A-3	0.51 以上	0.95 以上	N-14°-W	0.40	楕円形	258D → 179D	縄文中期後葉 以前

※ →は新旧関係 ・は同時期 /は新旧関係不明 ()は時期不明を表す

第8表 土坑一覧(5)

図版番号	種別 器種	法量 (cm)	色調	胎土	焼成	製作の特徴等	出土 位置	時期
第20図 156D-1	深鉢	器高：〈36.4〉 底径：4.8	にぶい橙 7.5YR7/4	白色粒子	良好	浅い単沈線による、垂下沈線文/LR 縄文	覆土 (37 cm)	称名寺 I
第20図 156D-2	深鉢	—	にぶい橙 5YR7/3	白色粒子	良好	短い単位のLR縄文J字文	覆土 (37 cm)	称名寺 I
第20図 156D-3	深鉢	—	橙 5YR6/6	白色粒子	良好	短い単位のLR縄文J字文	覆土 (38 cm)	称名寺 I
第20図 156D-4	深鉢	—	にぶい橙 5YR7/4	白色粒子	良好	短い単位のLR縄文J字文	覆土 (28 cm)	称名寺 I
第20図 156D-5	深鉢	—	橙 5YR6/6	白色粒子	良好	短い単位のLR縄文J字文	覆土 (30 cm)	称名寺 I
第20図 156D-6	深鉢	—	にぶい橙 5YR7/4	白色粒子	良好	短い単位のLR縄文J字文	覆土 (36 cm)	称名寺 I
第20図 156D-7	深鉢	器高：〈13.9〉 底径：(6.4)	橙 7.5YR7/6	白色粒子	良好	縦位の丁寧なナデ/接合しないが、1 ～6と同一個体と考えられる	覆土 (38 cm)	称名寺 I
第20図 156D-8	深鉢	器高：〈16.1〉 口径：30.5	にぶい橙 7.5YR7/4	白色粒子	良好	短い単位のLR縄文J字文を残しつ つ、M字タイプを持つ	覆土 (26～ 31 cm)	称名寺 I
第21図 157D-1	深鉢	—	灰褐 7.5YR5/2	白色粒子	良好	細かい半截竹管による横位に併走する 沈線文	覆土 (8 cm)	諸磯
第21図 164D-1	深鉢	—	にぶい 赤褐 5YR5/3	白石粒子	良好	LR縄文を斜位に施文の後、横走する単 沈線文	覆土	加曾利 EⅢか
第21図 167D-1	深鉢	—	にぶい 黄橙 10YR6/4	白色粒子	堅固	短い縦位の単沈線を施す	覆土 (10 cm)	後期 初頭
第21図 172D-1	深鉢	—	灰黄褐 10YR5/2	白色粒子	良好	摘み上げ隆帯に沿う、太い沈線文によ る、楕円区画文が施される	覆土 (18 cm)	加曾利 EⅢか

第9表 土坑出土土器一覧(1)

第3章 検出された遺構と遺物

図版番号	種別 器種	法量 (cm)	色調	胎土	焼成	製作の特徴等	出土 位置	時期
第21図 172D-2	深鉢	—	にぶい橙 5YR6/4	白色粒子	良好	貼付け隆帯に沿う,太い沈線文による, 楕円区画文が施される	覆土 (33 cm)	加曾利 E III ~IV
第21図 172D-3	深鉢	—	にぶい 黄褐 10YR5/3	砂粒・小礫 繊維	良好	波状口縁を呈し,LR縄文を斜位に回転 させ,同原体の回転方向を変換するこ とで,羽状構成をとる	覆土 (26 cm)	黒浜
第21図 172D-4	深鉢	—	橙 5YR7/6	白色粒子	良好	RL縄文斜位施文の後,磨消し無文帯を 伴う垂下沈線文	覆土 (18 cm)	加曾利 E III
第21図 172D-5	深鉢	—	にぶい橙 7.5YR7/4	白色粒子	良好	LR縄文斜位施文の後,磨消し無文帯を 伴う併走する垂下沈線文	覆土 (29 cm)	加曾利 E III
第21図 173D-1	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR5/4	白色粒子	良好	幅の広い内削半截竹管によるロックン グ施文	覆土 (15 cm)	浮島
第21図 173D-2	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR5/3	白色粒子	良好	横位併走する半截竹管による結節沈線 文	覆土 (15 cm)	浮島
第21図 173D-3	深鉢	—	褐 7.5YR4/4	白色粒子・石 英・雲母	良好	細かいRL縄文絡条体施文の後,摘み 把手を貼付けし,併走する横位沈線文 と,交互刺突文が施される	覆土 (10 cm)	浮島
第21図 177D-1	深鉢	—	褐灰 7.5YR4/1	白色粒子・黒 色粒子・長石・ 小礫・繊維	良好	外面貝殻条痕後,横ナデ/内面条痕調 整後ナデ	覆土 (7~ 11 cm)	早期 末葉
第21図 177D-2	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR5/3	白色粒子・黒 色粒子・長石・ 小礫・繊維	良好	外面縦位の貝殻条痕後,横ナデ/内面 斜位の貝殻条痕,成形時の凹凸を残す	覆土 (14 cm)	早期 末葉
第21図 177D-3	深鉢	—	にぶい橙 7.5YR6/4	白色粒子・黒 色粒子・長石・ 繊維	良好	外面斜位の条痕後,ナデ/内面ナデ	覆土 (6 cm)	早期 末葉
第21図 177D-4	深鉢	—	橙 7.5YR6/6	白色粒子・黒 色粒子・繊維	良好	外面条痕後,ナデ/内面ナデ	覆土 (6 cm)	早期 末葉
第21図 177D-5	深鉢	—	褐灰 7.5YR5/1	白色粒子・黒 色粒子・長石・ 繊維	良好	外面縦位の貝殻条痕/内面斜位及び横 位の貝殻条痕,成形時の凹凸を残す	覆土 (13 cm)	早期 末葉
第21図 178D-1	深鉢	—	にぶい橙 7.5YR6/4	白色粒子	堅固	内外面に丁寧なナデによる平滑化/焼 成後の穿孔部を有する補修孔か	覆土 (21 cm)	中期 後葉
第21図 178D-2	深鉢	—	にぶい 赤褐 5YR5/4	砂粒・小礫	良好	無節Lを縦位施文の後,狭い磨消し無 文帯を伴う4条の垂下沈線文	覆土 (19 cm)	加曾利 E III
第21図 178D-3	深鉢	—	橙 7.5YR6/6	砂粒・小礫	良好	RL縄文を横位施文の後,狭い磨消し無 文帯を伴う併走する垂下沈線文	覆土 (14 cm)	加曾利 E III
第21図 178D-4	深鉢	—	にぶい 黄橙 10YR6/4	白色粒子・黒 色粒子	良好	RL縄文縦斜位に施文	覆土 (16 cm)	中期 後葉
第21図 179D-1	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR5/4	砂粒・小礫・ 隻影	良好	口縁部が内折し,波頂部に刻目文を持 つ波状口縁を呈し,LR縄文縦位施文の 後,太めの単沈線文と円形浮文が施さ れる	覆土 (17 cm)	称名寺 I
第21図 179D-2	深鉢	—	にぶい橙 7.5YR6/4	白色粒子	良好	内湾気味の口縁部を呈し,単沈線文の 後,円形刺突文	覆土 (33 cm)	称名寺 I
第21図 179D-3	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR5/3	白色粒子	良好	無節Lを縦位施文の後,単沈線文	覆土 (22~ 32 cm)	称名寺 I

第9表 土坑出土土器一覧(2)

図版番号	種別 器種	法量 (cm)	色調	胎土	焼成	製作の特徴等	出土 位置	時期
第21図 179D-4	深鉢	—	褐灰 7.5YR4/1	白色粒子・石 英	良好	単沈線による区画内にLR縄文縦位施文を充填した、縄文帯を縦位に施文	覆土 (11cm)	称名寺 I
第21図 180D-1	深鉢	—	褐 7.5YR4/3	白色粒子	良好	単沈線による楕円区画内に刺突文	覆土 (9cm)	称名寺 II
第21図 181D-1	深鉢	—	にぶい橙 5YR6/4	白色粒子	良好	LR縄文縦位施文の後、単沈線による併走する沈線文で、縄文帯を作出する	覆土	堀之内 1
第21図 184D-1	深鉢	—	灰褐 7.5YR4/2	白色粒子	良好	横走する摘み上げ隆帯の頂部に連続刻目文を施す	覆土	堀之内
第22図 185D-1	深鉢	—	橙 7.5YR6/6	砂粒・小礫	堅固	RL縄文縦位施文の後、磨消し無文帯を伴う併走する垂下沈線文	覆土	加曾利 E III
第22図 187D-1	深鉢	—	褐灰 7.5YR4/1	砂粒・小礫	堅固	併走する単沈線による区画文	覆土 (23cm)	称名寺 II
第22図 188D-1	深鉢	—	にぶい 黄橙 10YR6/4	白色粒子	良好	RL縄文斜位施文	覆土	加曾利 E IIIか
第22図 189D-1	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR6/3	白色粒子	良好	外面に縦ケズリ調整の後、併走する沈線文による端部の尖る逆U字区画内に、横位の短沈線文	覆土 (21cm)	称名寺 I
第22図 189D-2	深鉢	—	にぶい橙 7.5YR7/4	赤褐色粒子	良好	キャリパー形の頸部に、縦ケズリ調整の後、併走する単沈線によるJ字区画内にLR縄文を充填施文	覆土 (15cm)	称名寺 I
第22図 192D-1	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR6/3	白色粒子	良好	内折する口唇部の頂部に、横走沈線文と連続刻目文を施し、頸部に横走する摘み上げ隆帯、頂部に刻目文	覆土	堀之内 2
第22図 192D-2	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR5/3	砂粒・小礫	良好	単沈線による横走沈線文と、U字区画内に刺突を充填する	覆土	称名寺 II
第22図 194D-1	深鉢	—	にぶい橙 7.5YR7/4	白色粒子	良好	LR縄文縦位施文の後、磨消し無文帯を伴う垂下沈線文	覆土	加曾利 E IIIか
第22図 197D-1	深鉢	—	にぶい橙 7.5YR6/4	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・繊維	良好	内外面横ナデ／内面成形時の凹凸を残す	覆土	早期 末葉
第22図 197D-2	深鉢	—	赤褐色 5YR4/6	白色粒子・黒色粒子・小礫・繊維	良好	外面縦位貝殻条痕／内面ナデ、成形時の凹凸を残す	覆土	早期 末葉
第22図 197D-3	深鉢	—	灰褐 7.5YR4/2	白色粒子・黒色粒子・繊維	良好	外面斜位の貝殻条痕後、横ナデ／内面横ナデ	覆土	早期 末葉
第22図 197D-4	深鉢	—	灰褐 7.5YR5/2	白色粒子・赤色粒子・繊維	良好	外面縦位の貝殻条痕後、ナデ／内面横ナデ	覆土	早期 末葉
第22図 197D-5	深鉢	—	暗褐 7.5YR3/3	小礫・繊維	良好	外面縦位の条痕調整後、ナデ／内面横ナデ	覆土	早期 末葉
第22図 198D-1	深鉢	—	明褐 7.5YR5/6	白色粒子	良好	平坦な稜頂に連続刻目文を持つ垂下する貼付け隆帯の後、側縁に沈線文	覆土	勝坂III
第22図 198D-2	深鉢	—	橙 7.5YR6/6	白色粒子	良好	RL縄文施文の後、摘み上げ隆帯による区画文	覆土	加曾利 E III
第22図 198D-3	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR5/4	白色粒子	堅固	丁寧なミガキにより平滑化された器面に、LR縄文斜位施文の後、単沈線によるU字区画文	覆土	加曾利 E III
第22図 199D-1	深鉢	—	橙 7.5YR6/6	白色粒子	良好	稜頂平坦な幅広の貼付け隆帯による区画内に、RL縄文を充填施文	覆土 (16cm)	加曾利 E III

第9表 土坑出土土器一覧(3)

第3章 検出された遺構と遺物

図版番号	種別 器種	法量 (cm)	色調	胎土	焼成	製作の特徴等	出土 位置	時期
第22図 199D-2	深鉢	—	橙 7.5YR6/6	白色粒子	良好	LR 縄文横位施文の後、単沈線による併走する沈線文	覆土 (17 cm)	加曽利 E III
第22図 204D-1	深鉢	—	にぶい 赤褐 5YR5/4	白色粒子	良好	半截竹管による区画内にキャタピラ文と角押文で縁取る	床面上	勝坂 I
第22図 204D-2	深鉢	—	にぶい橙 7.5YR6/4	砂粒・小礫	良好	やや内湾する口縁部を呈し、横走する浅い沈線文の後、櫛歯状工具により条線が垂下される	覆土 (23 cm)	中期
第22図 204D-3	深鉢	—	黒褐 7.5YR3/1	白色粒子	良好	RL 縄文縦位施文の後、太い単沈線による縦位垂下沈線文	覆土 (23 cm)	加曽利 E III
第22図 204D-4	深鉢	—	褐 7.5YR4/3	砂粒・小礫	良好	RL 縄文縦位施文の後、磨消し無文帯を伴う併走する垂下沈線文	覆土 (23 cm)	加曽利 E III
第22図 210D-1	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR5/3	砂粒・小礫	良好	LR 縄文縦位施文の後、磨消し無文帯を伴う単沈線文	覆土	加曽利 E IV
第22図 214D-1	深鉢	—	黒褐 7.5YR3/2	白色粒子	良好	波状口縁を呈し、波頂部に雲珠間貼付け隆帯による環状突起を持ち、口縁端部は短く内接するノ器面は丁寧なミガキによる平滑化され、単沈線による区画内に、刺突を充填する	覆土 (21 cm)	称名寺 II
第23図 217D-1	深鉢	—	にぶい 赤褐 5YR5/3	白色粒子・雲母・石英	良好	LR 縄文回転方向変換による多段横位羽状構成をとる	床面上	中期 末葉
第23図 217D-2	深鉢	—	にぶい橙 7.5YR7/3	黒色粒子・白色粒子	良好	RL 縄文の回転方向変換による羽状構成ノ口縁部に半截竹管端部割れによる結節沈線文	覆土 (17 cm)	加曽利 E IV
第23図 217D-3	深鉢	—	灰褐 7.5YR5/2	砂粒・小礫	良好	縦位の条線。	覆土 (22 cm)	加曽利 E III
第23図 217D-4	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR5/4	白色粒子・砂粒・小礫	良好	細い半截竹管による縦位条線文の後、単沈線による垂下文	覆土 (30 cm)	曾利 III か
第23図 217D-5	深鉢	—	にぶい橙 7.5YR6/4	白色・石英・雲母	良好	LR 縄文従斜位施文の後、摘み上げ隆帯と側縁ナゲ沈線位による縦位区画文	覆土 (16 cm)	加曽利 E IV
第23図 217D-6	深鉢	—	にぶい橙 7.5YR7/4	白色粒子・砂粒・小礫	良好	単節羽状縄文施文の後、太い併走する単沈線による横走文	覆土 (21 cm)	加曽利 E II
第23図 217D-7	深鉢	—	にぶい 赤褐 5YR5/4	白色粒子・砂粒・小礫	良好	稜の高い貼付け隆帯の後、LR 縄文回転方向変換による羽状構成	覆土 (22 cm)	加曽利 E IV
第23図 217D-8	深鉢	—	橙 7.5YR6/6	白色粒子	良好	稜の高い貼付け隆帯の後、LR 縄文回転方向変換による羽状構成	覆土 (19 cm)	加曽利 E IV
第23図 217D-9	深鉢	—	灰褐 7.5YR5/2	白色粒子	良好	0 段多条の RL 縄文回転方向変換による羽状構成	覆土 (34 cm)	加曽利 E IV
第23図 217D-10	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR5/4	白色粒子	良好	LR 縄文横位施文の後、狭い磨消し無文帯を伴う併走する垂下沈線文	覆土 (28 cm)	加曽利 E III
第23図 217D-11	深鉢	—	にぶい 黄橙 10YR7/4	白色粒子	良好	RL 縄文縦位施文の後、磨消し無文帯を伴う単沈線による U 字文	覆土 (19 cm)	加曽利 E III
第23図 217D-12	深鉢	—	にぶい 黄橙 10YR7/4	白色粒子	良好	RL 縄文縦位施文の後、磨消し無文帯を伴う単沈線による J 字文	覆土 (28 cm)	称名寺 I
第23図 217D-13	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR5/4	白色粒子・関阿褐色粒子・黒色粒子	良好	RL 縄文縦位施文の後、摘み上げ隆帯と磨消し無文帯を伴う併走する沈線文	覆土 (29 cm)	加曽利 E III

第9表 土坑出土土器一覧(4)

図版番号	種別 器種	法量 (cm)	色調	胎土	焼成	製作の特徴等	出土 位置	時期
第23図 217D-14	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR6/3	白色粒子	良好	RL 縄文斜位施文の後、細い単沈線によるU字文と横走文	覆土 (21 cm)	加曽利 E IV
第23図 217D-15	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR5/3	白色粒子	良好	RL 縄文斜位施文の後、広い磨消し無文帯を伴う併走する沈線文	覆土 (31 cm)	加曽利 E IV
第23図 217D-16	深鉢	—	にぶい橙 7.5YR6/4	白色粒子	良好	RL 縄文斜位施文の後、広い磨消し無文帯を伴う併走する沈線文	覆土 (17 cm)	加曽利 E IV
第23図 217D-17	深鉢	—	にぶい 赤褐 5YR5/4	白色粒子	良好	RL 縄文斜位施文	覆土 (28 cm)	加曽利 E III
第23図 217D-18	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR5/4	白色粒子	良好	LR 縄文横位施文の後、磨消し無文帯を伴う併走する垂下沈線文	覆土 (21 cm)	加曽利 E II～ III
第23図 217D-19	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR5/3	白色粒子・砂 粒・小礫	良好	鳥の顔面をモチーフとした口縁部把手である／単沈線と刻目文で表現する	覆土	加曽利 E IV～ 称名寺
第24図 221D-1	深鉢	—	にぶい橙 7YR7/4	白色粒子・黒 色粒子・繊維	良好	外面無節Rを施す	覆土 (36 cm)	黒浜
第24図 223D-1	深鉢	—	にぶい赤 褐 5YR5/4	白色粒子・黒 色粒子・赤色 粒子・繊維	良好	繊維を含む／外面斜位の条痕後、ナデ／内面横位及び斜位の条痕	覆土 (24 cm)	早期 末葉
第24図 225D-1	深鉢	—	橙 5YR6/6	白色粒子・黒 色粒子・白色 針状物質・小 礫・繊維	良好	外面縦位の貝殻条痕後、ナデ／内面縦位の貝殻条痕	覆土 (59 cm)	早期 末葉
第24図 225D-2	深鉢	—	橙 5YR6/6	白色粒子・小 礫・繊維	良好	内外面縦位の貝殻条痕／内面成形時の凹凸を残す	覆土 (49 cm)	早期 末葉
第24図 225D-3	深鉢	—	にぶい橙 5YR6/4	白色粒子・黒 色粒子・赤色 粒子・繊維	良好	外面縦位の条痕後、横ナデ／外面斜位の条痕後、ナデ	覆土 (56 cm)	早期 末葉
第24図 225D-4	深鉢	—	にぶい橙 7.5YR7/4	白色粒子・黒 色粒子・小礫・ 繊維	良好	外面斜位及び横位の条痕後、横ナデ／内面ナデ、成形時の凹凸を残す	覆土 (51 cm)	早期 末葉
第24図 225D-5	深鉢	—	橙 5YR6/8	白色粒子・黒 色粒子・赤色 粒子・長石・ 繊維	良好	内外面磨滅が激しい	覆土 (41 cm)	早期 末葉
第24図 225D-6	深鉢	—	褐灰 7.5YR5/1	白色粒子・黒 色粒子・長石・ 繊維	良好	外面斜位の条痕後、ナデ／内面ナデ、成形時の凹凸を残す	覆土 (61 cm)	早期 末葉
第24図 225D-7	深鉢	—	にぶい 黄橙 10YR6/4	白色粒子・小 礫・繊維	良好	内外面斜位の条痕	覆土	早期 末葉
第24図 225D-8	深鉢	—	橙 5YR6/6	白色粒子・黒 色粒子・繊維	良好	外面縦位の貝殻条痕／内面横ナデ	覆土	早期 末葉
第24図 225D-9	深鉢	—	にぶい橙 5YR6/4	白色粒子・小 礫・繊維	良好	外面斜位の貝殻条痕後、横ナデ／内面ナデ	覆土	早期 末葉
第24図 227D-1	深鉢	—	にぶい橙 7.5YR6/4	白色粒子	良好	RL 縄文横位施文の後、結束を伴う／RL 縄文を斜位施文の後、併走する縦位角押文	覆土 (25 cm)	勝坂II
第24図 227D-2	深鉢	—	灰褐 7.5YR4/2	白色粒子	良好	RL 縄文縦位施文の後、単沈線による併走する弧文	覆土 (18 cm)	加曽利 E II
第24図 227D-3	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR5/3	砂粒・小礫	良好	LR 縄文横位施文の後、単沈線による楕円区画文／区画内に連続刺突文	覆土 (22 cm)	中期 後葉

第9表 土坑出土土器一覧(5)

第3章 検出された遺構と遺物

図版番号	種別 器種	法量 (cm)	色調	胎土	焼成	製作の特徴等	出土 位置	時期
第24図 227D-4	深鉢	—	にぶい橙 7.5YR6/4	白色粒子・砂 粒・小礫	良好	RL 縄文縦位施文の後、磨消し無文帯を 伴う太い垂下沈線文	覆土 (20 cm)	加曽利 E III
第24図 227D-5	深鉢	—	明赤褐 5YR5/6	白色粒子	良好	RL 縄文縦位施文の後、磨消し無文帯を 伴う併走する太い垂下沈線文	覆土 (22 cm)	加曽利 E III
第24図 227D-6	深鉢	器高：<18.3>	明赤褐 5YR5/6	砂粒・小礫	良好	稜の高い貼付け隆帯による楕円区画文 と横位区画文／区画内と上位に RL 縄 文横位施文／以下に櫛歯状工具による 条線	覆土 (7 cm)	加曽利 E III
第25図 228D-1	深鉢	—	にぶい 赤褐 5YR5/4	白色粒子・黒 色粒子・長石・ 繊維	良好	外面円形刺突を施す／内面横ナデ	覆土	早期 末葉
第25図 229D-1	深鉢	—	にぶい 赤褐 5YR5/4	白色粒子・橙 色粒子・砂粒・ 小礫	良好	キャタピラ文を持つ貼付け隆帯の後、 側縁沈線文	床面上	勝坂Ⅲ
第25図 234D-1	深鉢	—	灰褐 5YR4/2	白色粒子	良好	浅い連続刻目文を持つ貼付け隆帯の 後、併走する浅い垂下沈線文	覆土	曾利Ⅱ
第25図 234D-2	深鉢	—	にぶい橙 7.5YR7/3	白色粒子	良好	RL 縄文横位施文の後、平坦な稜頂に連 続刻目文を持つ貼付け隆帯の後、側縁 沈線と併走する斜行沈線文	覆土	曾利Ⅱ
第25図 237D-1	深鉢	—	にぶい橙 7.5YR3/1	白色粒子	良好	RL 縄文斜位施文の後、太い単沈線によ る横走文	覆土	中期 後葉か
第25図 238D-1	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR5/4	白色粒子・黒 色粒子・赤色 粒子・繊維	良好	口縁部直下が微隆起状に盛り上がり、 以下結節のある LR を施す	覆土	花積 下層
第25図 238D-2	深鉢	—	褐 7.5YR4/3	白色粒子・小 礫・繊維	良好	RL を施文する	覆土	黒浜
第25図 239D-1	深鉢	—	橙 7.5YR7/6	白色粒子	良好	指ナデ様の太い単沈線による渦巻文	覆土 (14 cm)	加曽利 E III
第25図 239D-2	深鉢	—	灰褐 7.5YR4/2	白色粒子	堅固	RL 縄文斜位施文の後、磨消し無文帯を 伴う併走する垂下沈線文	覆土 (26 cm)	加曽利 E III
第25図 239D-3	深鉢	—	灰褐 7.5YR5/2	白色粒子	良好	無節 L を施文の後、磨消し無文帯を伴 う併走する単沈線文	覆土 (24 cm)	加曽利 E III
第25図 244D-1	深鉢	—	にぶい橙 7.5YR6/4	白色粒子・黒 色粒子・小礫・ 繊維	良好	外面縦位の貝殻条痕後、横ナデ／内面	覆土	早期 末葉
第25図 247D-1	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR5/3	白色粒子	良好	RL 縄文の回転方向変換による羽状構 成の後、口縁部位横走沈線文により、 口縁部無文帯との区画を施し、以下に 磨消し無文帯を伴う単沈線による逆 U 字文	覆土 (30 cm)	加曽利 E III
第25図 247D-2	深鉢	—	灰褐 7.5YR5/2	白色粒子	良好	単沈線による縦位楕円区画内に RL 縄 文	覆土 (27 cm)	加曽利 E III
第25図 249D-1	深鉢	—	灰褐 7.5YR4/2	白色粒子・砂 粒・小礫	良好	RL 縄文斜位施文の後、磨消し無文帯を 伴う併走する垂下沈線文	覆土 (10 cm)	加曽利 E III
第25図 249D-2	深鉢	—	にぶい 赤褐 5YR5/4	白色粒子	良好	RL 縄文斜位施文の後、磨消し無文帯を 伴う併走する垂下沈線文	覆土	加曽利 E III

第9表 土坑出土土器一覧(6)

図版番号	種別 器種	法量 (cm)	色調	胎土	焼成	製作の特徴等	出土 位置	時期
第25図 249D-3	深鉢	—	褐灰 7.5YR4/1	白色粒子	良好	ユビナデ様の太い沈線による渦巻文	覆土	加曽利 E III
第25図 249D-4	深鉢	—	黒褐 7.5YR3/1	砂粒・小礫	良好	LR 縄文施文の後、併走する太い沈線文	覆土 (15 cm)	加曽利 E III
第25図 249D-5	深鉢	—	褐灰 7.5YR4/1	白色粒子・橙 褐色粒子・砂 粒・小礫	良好	LR 縄文斜位施文の後、摘み上げ隆帯と 側縁ナデ沈線文	覆土 (11 cm)	加曽利 E III
第25図 249D-6	深鉢	—	にぶい 黄橙 10YR6/4	白色粒子・橙 褐色粒子・砂 粒・小礫	良好	外面に丁寧なナデによる平滑化	覆土 (12 cm)	加曽利 E III
第25図 251D-1	深鉢	—	灰褐 7.5YR4/2	砂粒・小礫	良好	波状口縁を呈し、幅の広いナデ様沈線 による渦巻き文	覆土 (15 cm)	加曽利 E III
第25図 251D-2	深鉢	—	にぶい橙 7.5YR7/4	赤褐色粒子・ 砂粒・小礫	良好	LR 縄文縦位施文	覆土 (13 cm)	加曽利 E III
第25図 251D-3	深鉢	—	褐 7.5YR4/3	砂粒・小礫	良好	縦位の条線	覆土 (14 cm)	曾利III か
第25図 251D-4	深鉢	—	黒褐 7.5YR3/1	白色粒子・橙 褐色粒子・砂 粒・小礫	良好	RL 縄文縦位施文の後、垂下沈線文	覆土	加曽利 E III
第25図 252D-1	深鉢	—	褐 7.5YR4/4	白色粒子・赤 色粒子・長石・ 小礫・微繊維	良好	平底の底部	覆土	黒浜
第25図 253D-1	深鉢	—	灰褐 7.5YR4/2	白色粒子	良好	内面に横走沈線文／口唇部に横走沈線 文と連続刻目文／外面口縁部下に頂部 に連続刻目文を持つ稜の低い摘み上げ 隆帯	覆土	堀之内 2
第25図 253D-2	深鉢	—	にぶい 赤褐 5YR5/4	白色粒子・石 英・砂粒・小 礫	良好	外面に丁寧なナデによる平滑化の後、 単沈線による併走する垂下文	覆土	堀之内 1
第25図 253D-3	深鉢	—	にぶい 赤褐 5YR5/4	白色粒子・石 英・砂粒・小 礫	良好	外面に丁寧なナデによる平滑化の後、 単沈線による併走する垂下文	覆土	堀之内 1
第25図 253D-4	深鉢	—	灰褐 7.5YR4/2	砂粒・小礫	堅固	LR 縄文横位施文の後、併走する横位沈 線文	覆土	堀之内 2
第25図 253D-5	深鉢	—	灰褐 7.5YR5/2	砂粒・小礫	堅固	LR 縄文横位施文の後、併走する横位沈 線文	覆土	堀之内 2
第26図 256D-1	深鉢	—	にぶい 赤褐 5YR5/4	白色粒子・黒 色粒子・赤色 粒子・繊維	良好	外面横ナデ／内面横位の条痕後、ナデ ／口縁部外そぎ気味である	覆土	早期 末葉
第26図 256D-2	深鉢	—	にぶい橙 7.5YR6/4	白色粒子・黒 色粒子・赤色 粒子・繊維	良好	外面横ナデ／内面横位の条痕後、ナデ ／口縁部外そぎ気味である	覆土 (32 cm)	早期 末葉
第26図 256D-3	深鉢	—	にぶい 赤褐 5YR5/4	白色粒子・黒 色粒子・長石・ 繊維	良好	外面縦位の条痕後、横ナデ／内面縦位 及び斜位の条痕後、ナデ	覆土 (29 cm)	早期 末葉

第9表 土坑出土土器一覧(7)

第3章 検出された遺構と遺物

図版番号	種別 器種	法量 (cm)	色調	胎土	焼成	製作の特徴等	出土 位置	時期
第26図 256D-4	深鉢	—	赤褐 5YR4/6	白色粒子・黒色粒子・繊維	良好	外面斜位の条痕／内面横ナデ	覆土 (27 cm)	早期 末葉
第26図 256D-5	深鉢	—	橙 5YR6/6	白色粒子・黒色粒子・繊維	良好	外面縦位の貝殻条痕後、ナデ／内面縦位の貝殻条痕	覆土 (33 cm)	早期 末葉
第26図 256D-6	深鉢	—	灰褐 5YR4/2	白色粒子・黒色粒子・長石・繊維	良好	外面斜位の貝殻条痕後、ナデ／内面縦位の貝殻条痕	覆土 (32 cm)	早期 末葉
第26図 256D-7	深鉢	—	褐 7.5YR4/4	白色粒子・黒色粒子・長石・繊維	良好	外面縦位の条痕後、横ナデ／内面縦位及び斜位の条痕後、ナデ	覆土	早期 末葉
第26図 256D-8	深鉢	—	褐 7.5YR4/3	白色粒子・黒色粒子・長石・繊維	良好	外面斜位の貝殻条痕後、ナデ／内面斜位の貝殻条痕	覆土 (29 cm)	早期 末葉
第26図 256D-9	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR5/4	白色粒子・黒色粒子・長石・繊維	良好	外面縦位の条痕後横ナデ／内面縦位及び斜位の条痕後、ナデ	覆土 (24 cm)	早期 末葉
第26図 256D-10	深鉢	—	明褐 7.5YR5/6	白色粒子・黒色粒子・長石・繊維	良好	外面斜位の貝殻条痕後、ナデ／内面斜位の貝殻条痕	覆土 (23 cm)	早期 末葉
第26図 256D-11	深鉢	—	橙 7.5YR6/6	白色粒子・黒色粒子・長石・繊維	良好	外面縦位の貝殻条痕後、ナデ／内面縦位の貝殻条痕	覆土	早期 末葉

第9表 土坑出土土器一覧(8)

図版番号	器種	遺存度	石材	重さ (g)	法量 (cm)	製作の特徴等	出土 位置
第23図 217D-20	打製石斧	基部 残存	安山岩	78.05	長さ：〈7.2〉 幅：〈4.7〉 厚さ：2.2	表裏面に主要剥離面を残し、周縁に細かく丁寧な剥離調整を施す／装着挟り部に、磨滅痕を残す	覆土 (10 cm)
第24図 225D-10	スクレイパー	完存	珪質砂岩	25.91	長さ：7.2 幅：3.1 厚さ：1.3	小型・薄手で、表裏面中央に広い剥離面を残し、左側縁と下側縁に細かい剥離調整を施す	覆土 (8 cm)
第25図 249D-7	燕尾形石製品か	半分 欠損	滑石	86.09	長さ：〈10.2〉 幅：2.9 厚さ：〈1.8〉	断面半円形を呈し、表裏面に丁寧な研磨を施したのち、縦位中央に深い挟りを有する	覆土 (16 cm)
第25図 253D-6	石皿	1/4 残存	花崗岩	1288.28	長さ：〈13.4〉 幅：〈12.1〉 厚さ：〈4.1〉	表裏面中央に、深い磨滅痕を残す	覆土

第10表 土坑出土石製品一覧

第2節 弥生時代後期の遺構と遺物

(1) 概要

今回の調査では、弥生時代後期中葉から後葉にかけての住居跡が7軒検出された。ほぼ全体を調査できた24号住居跡を除き、部分的な調査になった住居跡がほとんどである。調査区内の住居跡の分布状況を見ると、一定の間隔をもって住居が存在し、弥生時代の住居跡同士で重複は認められない。住居形態は各辺がやや弧を描く小判形とより円形に近いもの、ほとんどが調査区外のため不確かであるが、隅丸長方形の3種が認められる。

住居跡は4本柱を基本とし、炉跡は住居跡の中央からやや外れる。壁溝が認められる住居跡もあるが、平面形態とは相関関係は認められない。

(2) 住居跡

20号住居跡

遺 構 (第27・28図)

[位 置] (C・D-4) グリッド。

[住居構造] 北西隅部分と南東隅部分が調査区外へ延びる。平面形：隅丸長方形を呈する。規模：6.45 × 5.34 m。主軸方位：N - 50° - W。壁高：0.33 m。南側でやや崩れ緩やかに立ち上がる。その他は斜めに直線的に立ち上がる。壁溝：検出されなかった。床面：平坦である。床面レベル：8.82 ~ 8.85 m。炉：住居跡中央やや北西側に位置する。0.87 × 0.75 mの略円形を呈し、丸みを帯びる底面から緩やかに立ち上がる。深さは0.54 mである。底面付近に焼土が纏まって検出されている。柱穴：12本検出された。P 1・2・4・5が主柱穴である。P 1は規模0.69 × 0.60 m深さ0.43 m、P 2は規模0.75 × 0.63 m深さ0.43 m、P 3は規模0.60 × 0.45 m深さ0.27 m、P 4は規模0.57 × 0.48 m深さ0.40 m、P 5は規模0.66 × 0.60 m深さ0.57 m、P 6は規模0.45 × 0.33 m深さ0.12 m、P 7は規模0.45 × 0.30 m深さ0.16 m、P 8は規模0.36 × 0.24 m深さ0.24 m、P 9は規模0.24 × 0.24 m深さ0.08 m、P 10は規模0.48 × 0.33 m深さ0.35 m、P 11は規模0.54 × 0.45 m深さ0.24 m、P 12は規模0.30 × 0.24 m深さ0.30 mである。P 12は入り口部のピットの可能性が高い。貯蔵穴：南東壁沿いの中央やや北側から検出されている。周堤を伴い、平面形は0.60 × 0.48 mの楕円形を呈し、断面は丸みを帯びる底面から斜めに立ち上がる。深さは0.40 mである。貯蔵穴の西～北側にかけて弧状の周堤が認められる。幅は0.21 ~ 0.30 m、高さ0.06 mである。

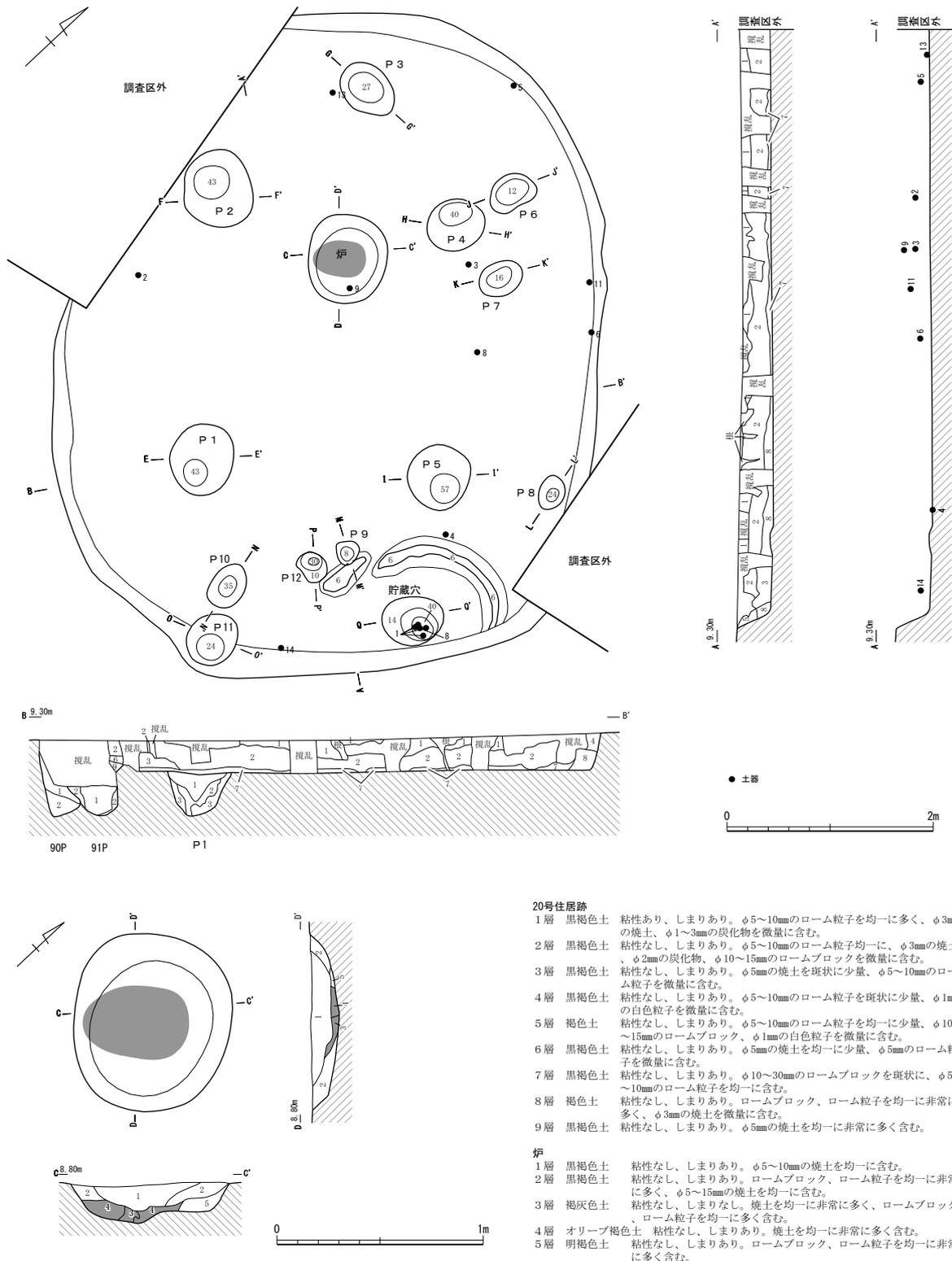
[覆 土] 攪乱が激しいが、9層に分層される。自然堆積を基本として、壁際に三角堆積が見られる。

[時 期] 弥生時代後期前葉～中葉。

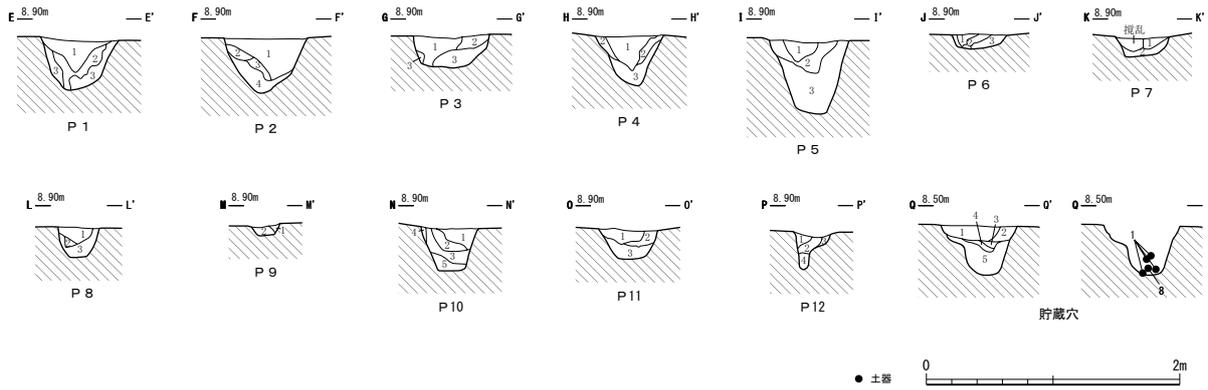
遺 物 (第29・30図、第11表)

遺物は覆土中及び床面から出土してる。全形を復元できる個体はなく、いずれも小破片である。器種は壺形土器と台付甕形土器が認められる。壺形土器は単口縁(1)、複合口縁状(4・5)が認められる。1は口縁部内面に縄文帯を持つ。4・5は口唇部と複合口縁部分に縄文帯を持つ。頸部から胴部上半の破片は、縄文帯と無文帯を重ねたものと思われる。縄文帯は単節羽状縄文(8・10・11)と網目状捺糸文(9)が認められる。また、端部に結節を伴うもの(6～8・10・11)と、そうで

ないもの(12)が認められる。無文帯は赤彩。4・10・11は縄文帯上に等間隔に円形赤彩文を配する。台付甕形土器はハケ目調整を基本とし、口縁部は棒状工具でキザミが施される。



第27図 20号住居跡1 (1/60・1/30)



P 1・2
 1層 極暗褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5~10mmのローム粒子を均一に、φ5~20mmの炭化物を微量に含む。
 2層 極暗褐色土 粘性なし、しまりなし。ロームブロックを斑状に多く、φ5~10mmのローム粒子を均一に多く含む。
 3層 極暗褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5~10mmのローム粒子を均一に、φ5~20mmの炭化物を微量に含む。均一に非常に多く含む。
 4層 明褐色土 粘性なし、しまりなし。ロームブロック、ローム粒子を均一に非常に多く含む。

P 3
 1層 暗褐色土 粘性あり、しまりなし。ロームブロックを斑状に非常に多く、φ5~10mmのローム粒子を均一に少量含む。
 2層 極暗褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5~10mmのローム粒子を均一に多く、φ10~20mmのロームブロックを斑状に少量含む。
 3層 灰褐色土 粘性なし、しまりあり。ロームブロック、ローム粒子を均一に多く含む。

P 4
 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5mmの焼土を微量に、φ5~10mmのローム粒子を均一に多く含む。
 2層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5~10mmのローム粒子を均一に多く、φ10~20mmのロームブロックを斑状に多く含む。
 3層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。ロームブロック、ローム粒子を均一に非常に多く含む。

P 5
 1層 暗褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5~10mmのローム粒子を均一に多く、ロームブロックを斑状に非常に多く含む。
 2層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5~10mmのローム粒子を均一に多く、φ10~20mmのロームブロックを微量に含む。
 3層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5~10mmのローム粒子を均一に多く、ロームブロックを斑状に非常に多く含む。斑状に非常に多く含む。

P 6
 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5~10mmのローム粒子を均一に、φ3mmの焼土、φ10~20mmのロームブロックを微量に含む。
 2層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5~10mmのローム粒子を均一に、φ10~30mmのロームブロック、φ3mmの焼土を微量に含む。
 3層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5~10mmのローム粒子を均一に多く、φ10~20mmのロームブロックを微量に含む。

P 7
 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ10~20mmのロームブロックを斑状に、φ5~10mmのローム粒子を均一に多く含む。
 2層 極暗褐色土 粘性なし、しまりなし。ロームブロック、φ5~10mmのローム粒子を均一に多く含む。

P 8
 1層 極暗褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5~10mmのローム粒子を均一に少量、φ10~15mmのロームブロックを微量に含む。
 2層 極暗褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5~10mmのローム粒子を均一に少量含む。
 3層 褐色土 粘性なし、しまりあり。ロームブロック、ローム粒子を均一に非常に多く含む。

P 9
 1層 褐色土 粘性なし、しまりあり。ロームブロック、ローム粒子を均一に非常に多く含む。
 2層 極暗褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5~10mmのローム粒子を均一に、φ5mmのローム粒子を微量に含む。

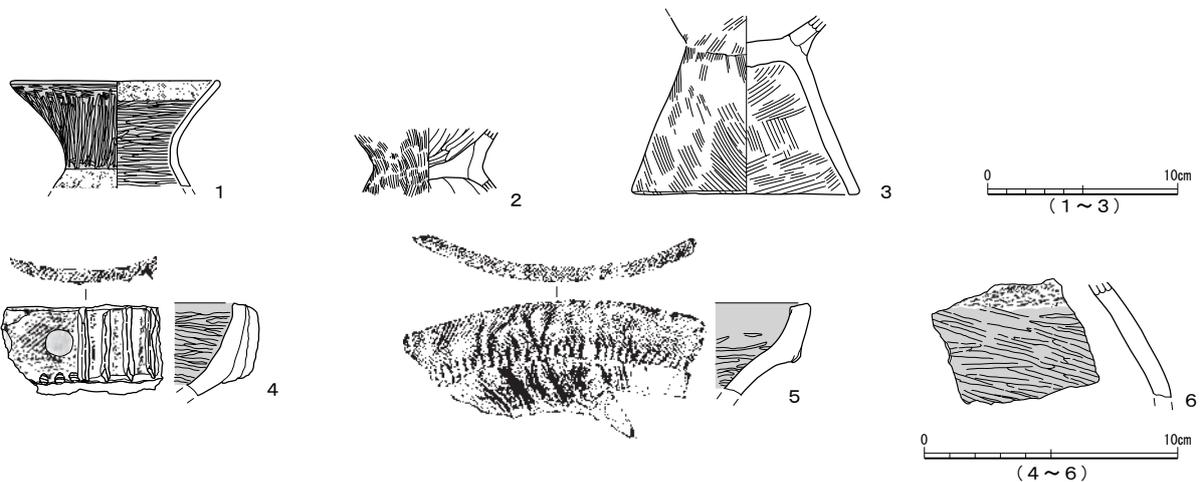
P 10
 1層 極暗褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5~10mmのローム粒子を均一に多く、φ5mmの焼土を斑状に少量、φ10~30mmのロームブロックを微量に含む。
 2層 極暗褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5~10mmのローム粒子を均一に非常に多く、φ10~30mmのロームブロック、φ5mmの焼土を微量に含む。
 3層 極暗褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5~10mmのローム粒子を均一に多く、φ5mmの焼土を微量に含む。
 4層 褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5~10mmのローム粒子を均一に非常に多く含む。
 5層 褐色土 粘性なし、しまりあり。ロームブロック、ローム粒子を均一に非常に多く含む。

P 11
 1層 極暗褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5~10mmのローム粒子を均一に多く、φ10~50mmのロームブロックを斑状に少量含む。
 2層 極暗褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5~10mmのローム粒子を均一に多く、φ10~30mmのロームブロックを斑状に含む。
 3層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。ロームブロック、ローム粒子を均一に非常に多く含む。

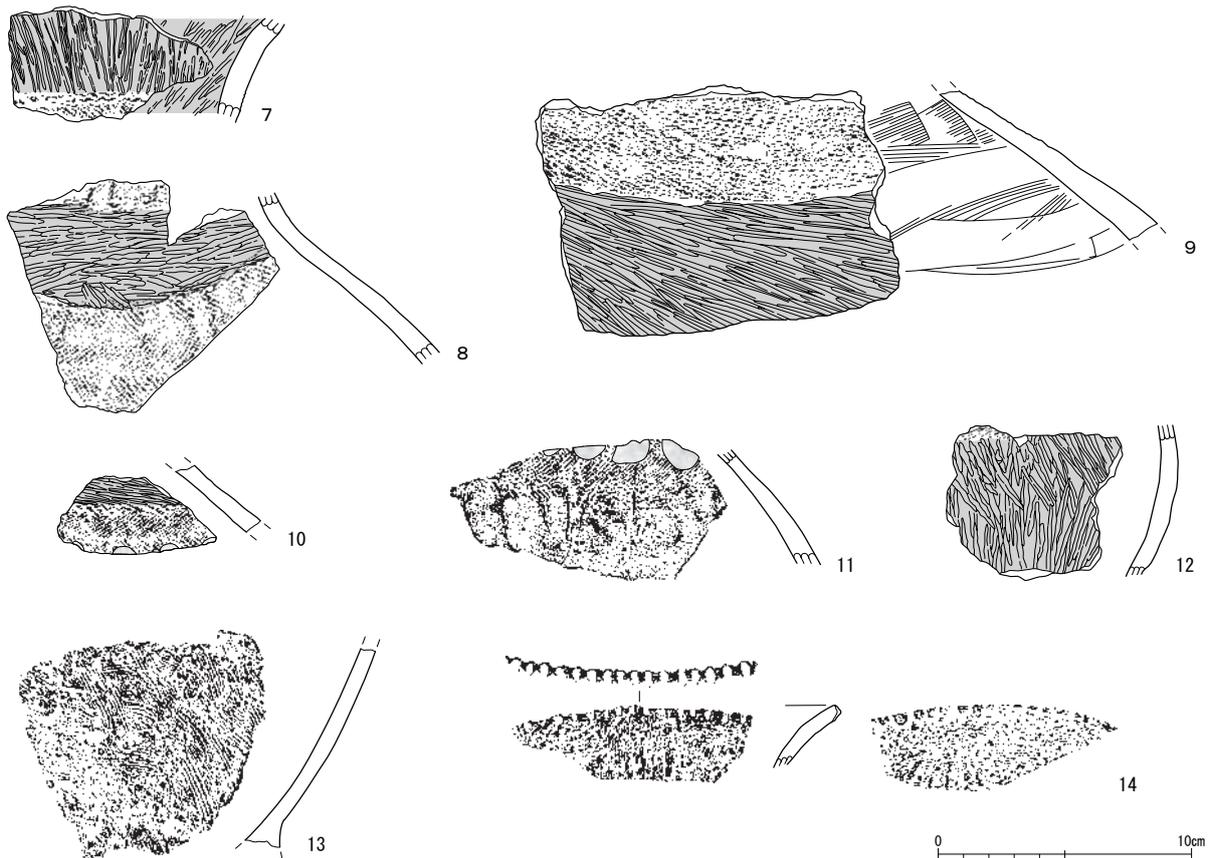
P 12
 1層 褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5mmのローム粒子を多く含む。
 2層 暗褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5mmのローム粒子を多く含む。
 3層 褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5~10mmのローム粒子を均一に多く含む。
 4層 暗褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5mmのローム粒子を斑状に少量、φ5mmの焼土を微量に含む。

貯蔵穴
 1層 極暗褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5~10mmのローム粒子を均一に少量、φ3mmの焼土、φ10~30mmのロームブロックを微量に含む。
 2層 極暗褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5~10mmのローム粒子を均一に、φ3mmの焼土、φ10~20mmのロームブロックを微量に含む。
 3層 極暗褐色土 粘性なし、φ5~10mmのローム粒子、φ3mmの焼土を微量に含む。
 4層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5~10mmのローム粒子を均一に非常に多く、ロームブロックを斑状に多く、φ5mmの焼土を斑状に少量含む。
 5層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5~10mmのローム粒子を均一に非常に多く、ロームブロックを斑状に非常に多く、φ5~20mmの焼土を斑状に少量含む。

第28図 20号住居跡2 (1/60)



第29図 20号住居跡出土遺物1 (1/4・1/3)



第30図 20号住居跡出土遺物2 (1/3)

図版番号	種別 器種	法量 (cm)	色調	胎土	焼成	製作の特徴等	出土位置
第29図1	壺	器高：[5.6] 口径：11.0	明褐 7.5YR5/6	白色粒子・黒色 粒子・小礫	良好	口縁部から頸部／外面頸部に閉端を上にしたLRを横位施文する／無文部縦ミガキ／内面口縁部にRLを横位施文する／無文部横ミガキ／内外面無文部赤彩	貯蔵穴 底面～ 17 cm
第29図2	台付甕	—	明赤褐 2.5YR5/6	白色粒子・黒色 粒子・シャモット	良好	接合部／外面縦ハケ／内面成形時の指頭痕が僅かに認められる	床面上 1 cm
第29図3	台付甕	器高：[9.5] 底径：12.0	橙 7.5YR7/6	白色粒子・黒色 粒子・小礫	良好	台部／外面斜位のハケ後、接合部横ナデ／内面斜位のハケ後、上半部横ナデ	覆土 (11 cm)
第29図4	壺	—	赤褐 2.5YR4/8	白色粒子・赤色 粒子・長石・シャ モット	良好	口縁部折り返される／口唇部LR、口縁部外面Z字状の結節伴うLRを横位施文する／下端を木口状工具による刺突がなされ、その後棒状浮文と円形赤彩文を施す／頸部ハケ調整後、横ミガキ／内面横ミガキ／内外面無文部赤彩	床面上
第29図5	壺	—	赤褐 2.5YR4/8	白色粒子・赤色 粒子・黒色粒子・ シャモット・砂粒	良好	口唇部LR、口縁部外面細かな単節羽状繩文を横位施文する／口縁部下端木口状工具により刺突がなされる／頸部ハケ調整後、縦ミガキ／内面横ミガキ／内外面無文赤彩	覆土 (5 cm)
第29図6	壺	—	褐 7.5YR4/6	白色粒子・赤色 粒子・黒色粒子・ 小礫	良好	胴部上半破片／外面S字状結節を伴うLRを横位施文する／無文部ハケ調整後、横ミガキ、赤彩／内面横ナデ	覆土 (5 cm)

第11表 20号住居跡出土土器一覧(1)

図版番号	種別 器種	法 量 器高 / 口径 / 底径	色調	胎土	焼成	製作の特徴等	出土位置
第30図7	壺	—	赤褐 2.5YR4/8	白色粒子・赤色 粒子・黒色粒子・ 小礫・シャモツ ト	良好	頸部破片／S字状結節を伴うRLを横位 施文する／無文部縦ミガキ／内面斜位 のミガキ／内外面無文部赤彩	C・D-4 グリッド 掘り方
第30図8	壺	—	褐 7.5YR4/3	白色粒子・赤色 粒子・黒色粒子・ 小礫・シャモツ ト	良好	頸部から胴部上半破片／外面無文部を 挟み二帯の縄文帯が認められ、共にS字 状結節を伴う単節羽状縄文が施された ものと思われる／二帯目は両端にS字 状結節を伴い、RL・LR・RLで構成され る羽状縄文帯である／無文部は横ミガ キ、赤彩／内面横ナデ	貯蔵穴 底面
第30図9	壺	—	褐 7.5YR4/6	白色粒子・石英・ チャート・シャ モツト	良好	胴部上半破片／外面に幅広く網目状擦 糸文を施す／以下ハケ調整後斜位のミ ガキ／内面横ナデ／外面無文部赤彩	覆土 (21 cm)
第30図10	壺	—	暗赤褐 5YR3/6	白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子・ 小礫	良好	胴部上半破片／外面上端にS字状結節 を伴う羽状縄文(LR・RL)を横位施文 後、円形赤彩文を配する／外面無文部横 ミガキ、赤彩／内面横ナデ	C・D-4 グリッド
第30図11	壺	—	褐色 7.5YR4/3	白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子・ シャモツト	良好	胴部上半片／外面RLと下端にS字状結 節を伴う羽状縄文を横位施文後、円形赤 彩文を密に施す／以下、ハケ調整を横ミ ガキ／内面横ナデ／外面無文部赤彩	覆土 (15 cm)
第30図12	壺	—	明褐 7.5YR5/6	白色粒子・黒色 粒子・石英・小 礫・シャモツト	良好	胴部破片／外面LRを横位施文／外面無 文部斜位及び縦ミガキ、赤彩／内面横ナ デ	貯蔵穴
第30図13	甕	—	明黄褐 10YR7/6	白色粒子・黒色 粒子・小礫・長 石	良好	胴部破片／斜位及び横位のハケ調整／ 内面横ナデ／内外面に部分的に煤が付 着する	床面上
第30図14	甕	—	にぶい褐 7.5YR5/4	白色粒子・赤色 粒子・シャモツ ト	良好	口縁部破片／外面縦ハケ後、後円部直下 横ハケ／内面横ハケ／口唇部棒状工具 によりキザミが施される	覆土 (5 cm)

第11表 20号住居跡出土土器一覧(2)

21号住居跡

遺 構 (第31図)

[位 置] (B・C-5) グリッド。

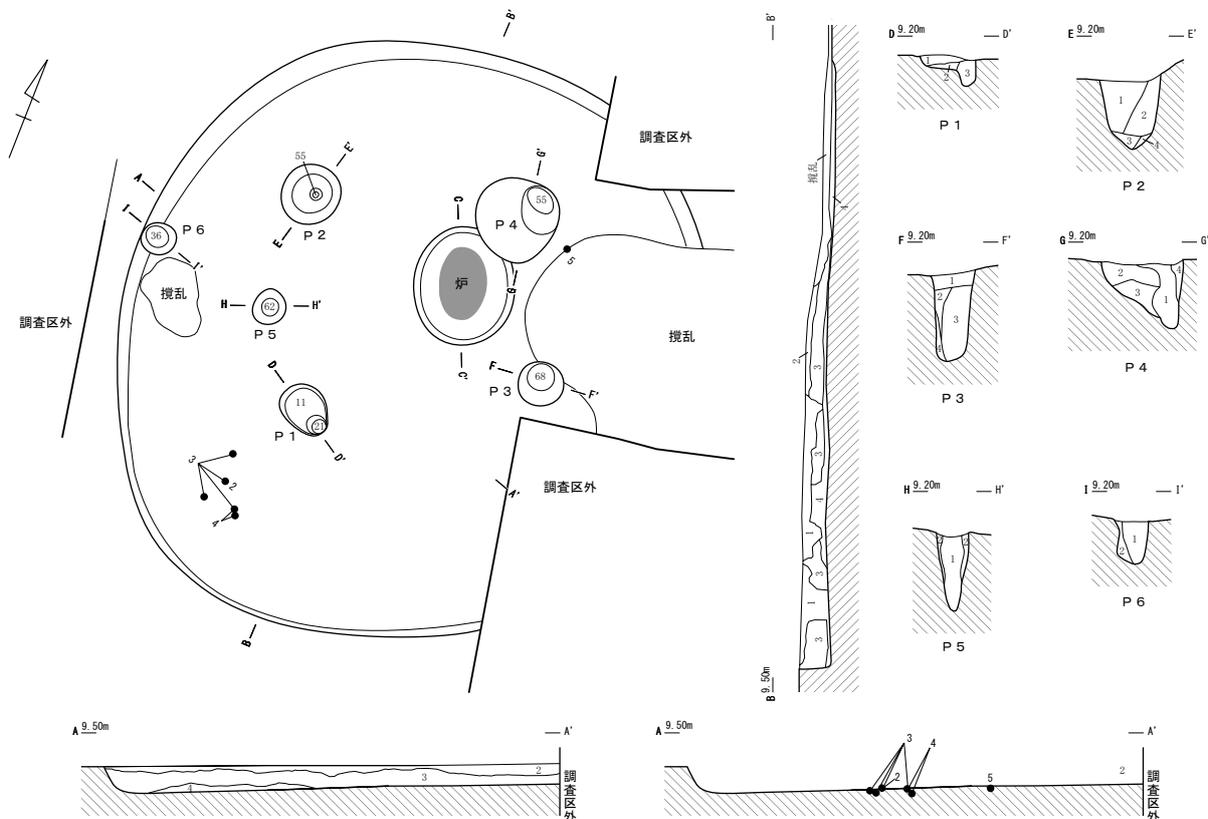
[住居構造] 南東部分は調査区外へ延びるため、全体の4/5程を検出したものと思われる。東側壁は攪乱により破壊されている。平面形：略円形を呈する。規模：4.68 × 3.36 m以上。主軸方位：N - 19° - E。壁高：0.18 m。壁溝：検出されなかった。床面：平坦である。床面レベル：9.02 ~ 9.08 m。炉：住居跡中央やや北東側に位置する。平面形は0.94 × 0.80 mの楕円形を呈し、断面は浅い皿状を呈する。深さは0.22 mである。柱穴：6本検出された。P1 ~ 4が支柱穴である。P1は規模0.42 × 0.33 m深さ0.21 m、P2は規模0.48 × 0.45 m深さ0.55 m、P3は規模0.36 × 0.36 m深さ0.68 m、P4は規模0.66 × 0.66 m深さ0.55 m、P5は規模0.27 × 0.27 m深さ0.62 m、P6は規模0.27 × 0.24 m深さ0.36 mである。P4が炉の一部を壊していることから、住居廃絶にあたり、柱が抜き取られたものと思われる。貯蔵穴：検出されなかった。

[覆 土] 4層に分層でき、自然堆積を基本としている。

[時 期] 弥生時代後期後葉。

遺物 (第32図、第12表)

覆土及び床面から出土している。いずれも破片で、壺形土器と甕形土器が出土した。1は無文部が赤彩。2～4の縄文帯は単節羽状縄文で端部に結節を伴わない。5はハケ調整される。



21号住居跡

- 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5～10mmのローム粒子を斑状に少量、φ5mmの焼土を微量に含む。
- 2層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5mmの焼土、φ5mmのローム粒子を微量に含む。
- 3層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5mmのローム粒子を微量に含む。
- 4層 極暗褐色土 粘性なし、しまりなし。φ10～15mmのロームブロック、φ5～10mmのローム粒子を斑状に少量含む。

P 1

- 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。ロームブロックを斑状に、φ5mmのローム粒子を微量に含む。柱痕あり。
- 2層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。ロームブロック、ローム粒子を均一に多く含む。
- 3層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5～10mmのローム粒子を均一に少量、φ10～20mmのロームブロックを微量に含む。

P 2

- 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5～10mmのローム粒子を均一に多く、φ10～50mmのロームブロックを斑状に少量含む。
- 2層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。ロームブロック、ローム粒子を均一に多く含む。
- 3層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。ロームブロック、ローム粒子を均一に含む。
- 4層 極暗褐色土 粘性なし、しまりあり。ロームブロック、ローム粒子を均一に多く含む。

P 3

- 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5～10mmのローム粒子を均一に、ロームブロックを斑状に多く、φ5mmのローム粒子を微量に含む。
- 2a層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5～10mmのローム粒子を均一に、φ5mmのローム粒子を微量に含む。
- 2b層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5～10mmのローム粒子を均一に多く含む。
- 3層 暗褐色土 粘性なし、しまりなし。ロームブロック、ローム粒子を均一に非常に多く含む。

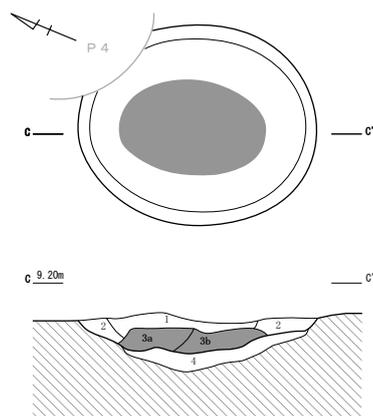
P 4

- 1層 極暗褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5～10mmのローム粒子を均一に多く、φ10～50mmのロームブロックを斑状に少量含む。柱痕あり。
- 2層 極暗褐色土 粘性なし、しまりなし。φ10～20mmのロームブロックを均一に多く、φ5～10mmのローム粒子を均一に少量含む。
- 3層 極暗褐色土 粘性なし、しまりなし。ロームブロック、φ5～10mmのローム粒子を均一に多く含む。
- 4層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。ロームブロック、ローム粒子を均一に非常に多く含む。

P 5

- 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5～10mmのローム粒子を均一に微量に、φ2mmの焼土を微量に含む。
- 2層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。ロームブロック、ローム粒子を均一に多く含む。

● 土器



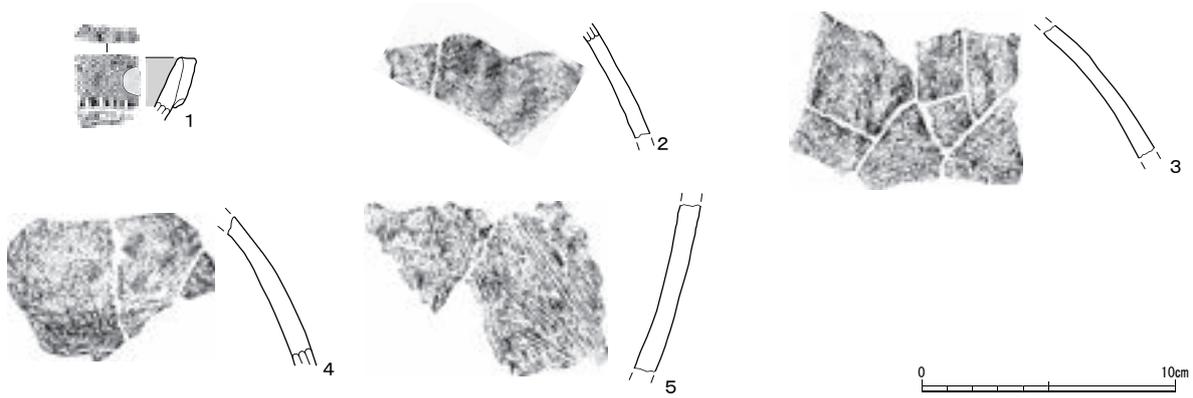
P 6

- 1層 褐色土 粘性なし、しまりなし。ロームブロック、ローム粒子を均一に非常に多く含む。
- 2層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。ロームブロック、ローム粒子を斑状に非常に多く含む。

炉

- 1層 極暗褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5～10mmの焼土を均一に多く含む。
- 2層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5～10mmの焼土を均一に多く含む。
- 3a層 褐色土 粘性なし、しまりなし。焼土を均一に多く含む。
- 3b層 明赤褐色土 粘性なし、しまりなし。焼土を均一に非常に多く含む。
- 4層 明赤褐色土 粘性なし、しまりあり。炉の掘り方埋土

第31図 21号住居跡 (1/60・1/30)



第32図 21号住居跡出土遺物（1／3）

図版番号	種別 器種	法量 (cm)	色調	胎土	焼成	製作の特徴等	出土位置
第32図1	壺	—	赤褐 5YR4/6	白色粒子・黒色 粒子	良好	口縁部／折り返し口縁部と口唇部に LR を横位施文 ／下端部に木口状工具によりキザミを施す／円形赤 彩文を配する／無文部横ミガキ／内面横ミガキ／内 外面無文部赤彩	覆土
第32図2	壺	—	浅黄橙 10YR8/4	白色粒子・黒色 粒子・シャモッ ト	良好	胴部上半破片／外面単節羽状縄文 (LR・RL・LR) を横位施文する／無文部横ミガキ, 赤彩／部分的に 縄文部に赤彩痕が見られる／内面横ナデ／全体的に 磨滅する	覆土 (4 cm)
第32図3	壺	—	灰白 10YR8/2	白色粒子・黒色 粒子・シャモッ ト	良好	胴部上半破片／外面単節 LR・RL を交互に数段配し, 羽状縄文を構成する／縄文部に赤彩痕がみられる／ 内面横ナデ／全体的に磨滅する	床面～ 4 cm
第32図4	壺	—	浅黄橙 10YR8/3	白色粒子・黒色 粒子・シャモッ ト	良好	胴部上半破片／外面単節羽状縄文 (LR・RL・LR) を横位施文する／無文部横ミガキ, 赤彩／部分的に 縄文部に赤彩痕が見られる／内面横ナデ／全体的に 磨滅する	床面
第32図5	甕	—	灰黄褐 10YR6/2	白色粒子・黒色 粒子・小礫・シャ モット	良好	胴部破片／内外面ハケ調整後, ナデ	床面

第12表 21号住居跡出土土器一覧

22号住居跡

遺 構 (第33・34図)

[位 置] (D-5・6) グリッド。

[住居構造] 北西隅を攪乱により破壊され、西側が調査区外へ延びる。全体の2／3程を検出したものと思われる。平面形：隅丸長方形を呈する。規模：5.52 × 4.44 m以上。主軸方位：N - 27° - W。壁高：0.27 m。壁溝：南東隅付近を除き検出した部分では認められる。幅は0.11～0.27mで、深さ0.02～0.1mである。床面：貼床がなされ平坦である。床面レベル：8.81～8.84 m。炉：住居跡中央やや北東側に位置し、大半は調査区外だが、平面形は1.34 × 0.54 m以上の不整長方形を呈し、断面は皿状を呈する。深さは0.10 mである。底面は被熱により赤化している。柱穴：4本検出された。P 1～3が主柱穴で、他の1本は調査区外に位置するものと考えられる。P 1は規模0.66 × 0.60 m深さ0.63 m、P 2は規模0.54 × 0.51 m深さ0.69 m、P 3は規模0.60 × 0.54 m深さ0.65 m、P 4は規模0.54 × 0.42 m深さ0.42 m、P 4は位置からして出入口部のピットであろう。貯蔵穴：検出されなかった。赤色砂利層：住居跡南東隅とP 3に接するように、砂礫を中心とする高まりが見

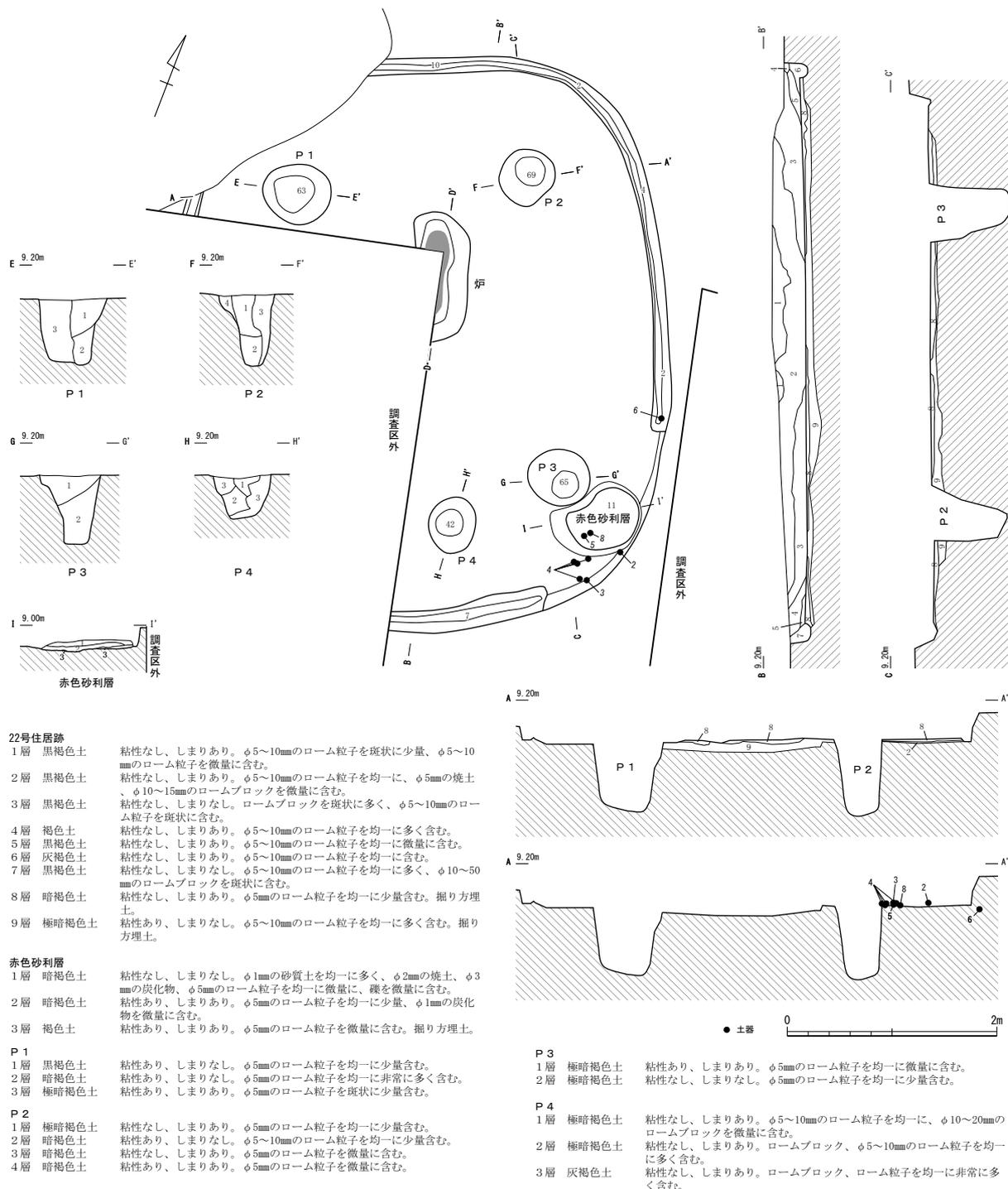
られた。規模は0.87 × 0.66 m程、高さ0.11 mである。

[覆 土] 9層に分層される。自然堆積を基本としている。8・9層は掘り方の埋土である。

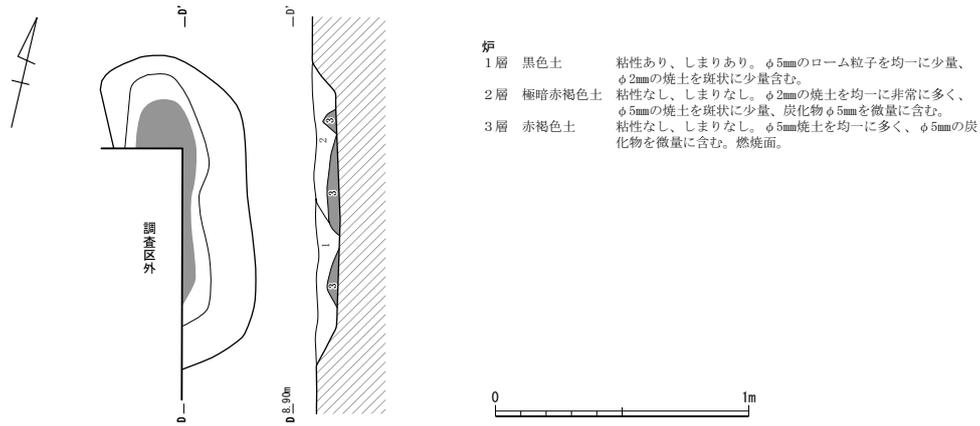
[時 期] 弥生時代後期後葉。

遺 物 (第35図、第13表)

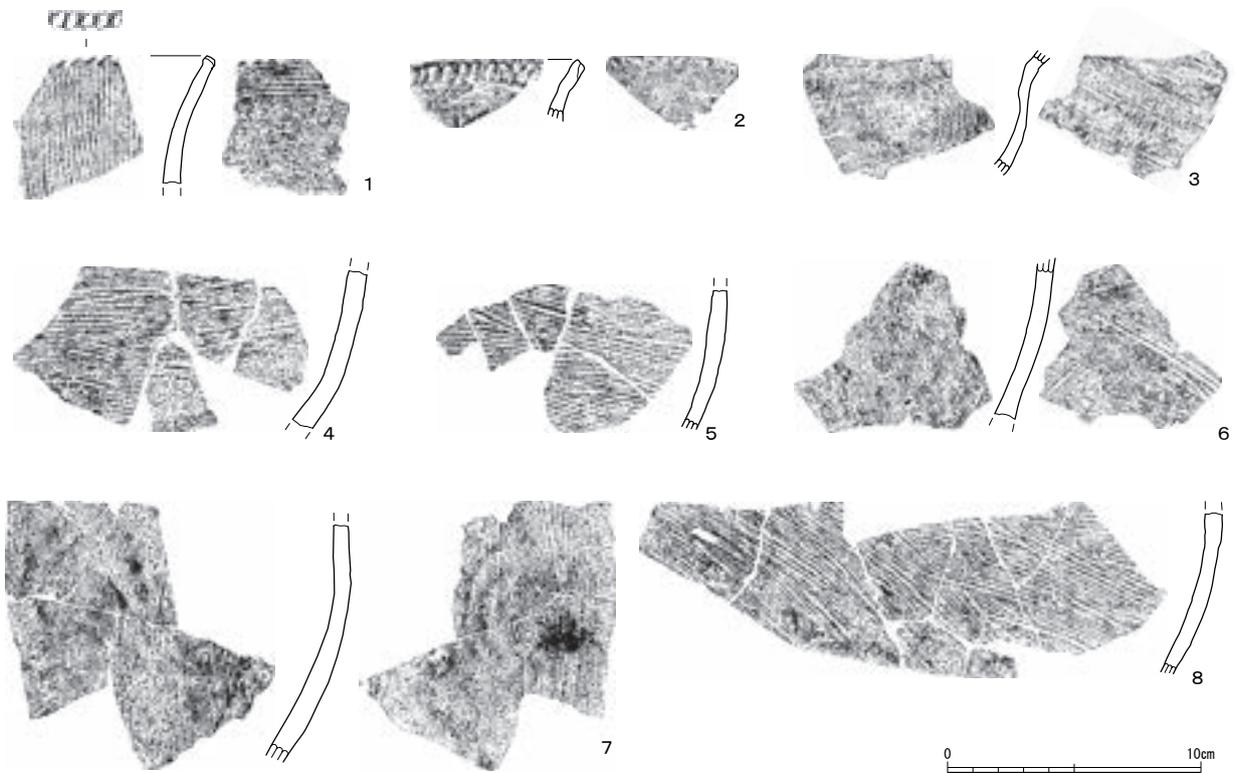
赤色砂利層の周辺から、ややまとまって出土している。壺形土器と甕形土器が認められる。壺形土器はいずれも胴部破片で文様部分は認められない。1・2は甕形土器で木口状工具でキザミが施される。体部はハケ調整される。



第33図 22号住居跡1 (1/60)



第34図 22号住居跡2 (1/30)



第35図 22号住居跡出土遺物 (1/3)

図版番号	種別 器種	法量 (cm)	色調	胎土	焼成	製作の特徴等	出土位置
第35図1	甕	—	黒褐 7.5YR3/2	白色粒子・黒色 粒子・シャモット	良好	口縁部破片/外面縦ハケ/内面横ハケ後横ナデ/口唇部木口状工具でキザミを施す	掘り方
第35図2	甕	—	黒褐 7.5YR3/1	白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子・ シャモット	良好	口縁部破片/外面斜位のハケ,内面横ハケ後,後円部内外面横ナデ/口唇部に木口状工具でキザミを施す	床面
第35図3	甕	—	黒褐 7.5YR3/1	白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子・ シャモット	良好	頸部から胴上半部/外面胴部横ハケ後,頸部縦及び斜位のハケ/内面横ハケ後,横ナデ	床面

第13表 22号住居跡出土土器一覧 (1)

図版番号	種別 器種	法量 (cm)	色調	胎土	焼成	製作の特徴等	出土位置
第 35 図 4	壺	—	浅黄橙 10YR8/4	白色粒子・黒色 粒子・シャモツ ト	良好	胴部破片／外面斜位及び横ハケ／内面斜位のハケ 後、横ナデ	床面
第 35 図 5	壺	—	浅黄橙 10YR8/4	白色粒子・黒色 粒子・シャモツ ト	良好	胴部破片／外面横ハケ後、部分的に横ナデ／内面斜 位のハケ後、横ナデ	床面
第 35 図 6	甕	—	灰褐 7.5YR5/2	白色粒子・黒色 粒子・シャモツ ト	良好	胴部下半破片／外面縦及び斜位のハケ後、ナデ／内 面斜位及び横ハケ後、ナデ	床面
第 35 図 7	甕	—	黒褐 7.5YR3/1	白色粒子・黒色 粒子・シャモツ ト	良好	胴部破片／外面斜位及び横ハケ／内面横ハケ後、横 ナデ	覆土
第 35 図 8	壺	—	浅黄橙 10YR8/4	白色粒子・黒色 粒子・シャモツ ト	良好	胴部破片／外面斜位のハケ後、部分的に横ナデ／内 面横ハケ後、横ナデ	床面

第 13 表 22 号住居跡出土土器一覧 (2)

23 号住居跡

遺 構 (第 36 図)

[位 置] (D-5) グリッド。

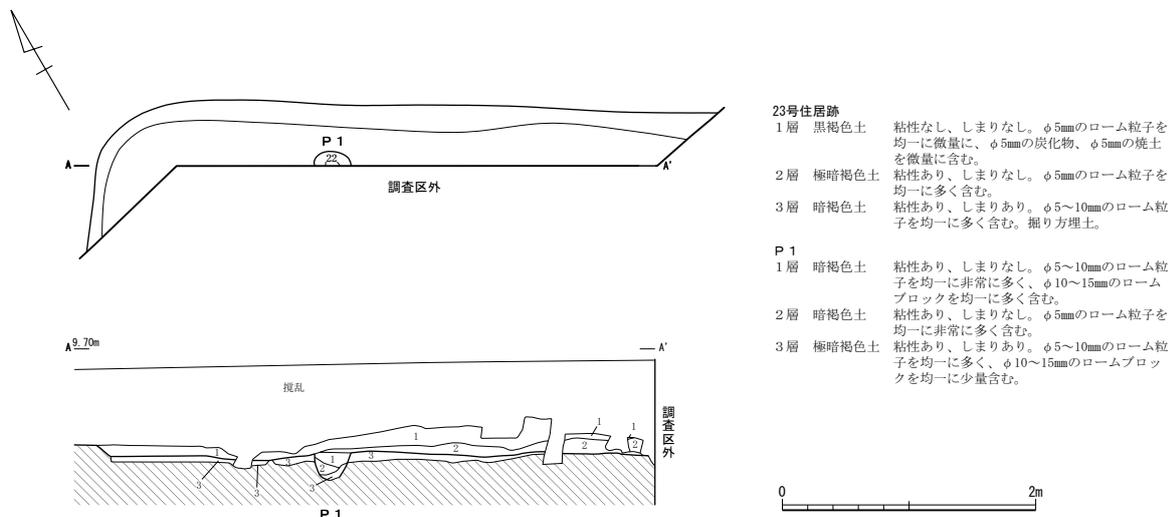
[住居構造] 北西隅部分と北東壁部分を検出したが、大半は調査区外に位置している。平面形：隅丸
長方形か。規模：4.98 m 以上× 1.20 m 以上。壁高：0.24 m。壁溝：検出されなかった。床面：貼
床がなされるが、やや凹凸が認められる。床面レベル：8.83 ~ 8.86 m。炉：検出されなかった。柱穴：
1 本検出された。主柱穴の 1 本と思われる。深さ 0.22 m である。

[覆 土] 3 層に分層される。自然堆積を基本とする。3 層は掘り方埋土。

[時 期] 形状から弥生時代後期か。

遺 物

なし。



第 36 図 23 号住居跡 (1 / 60)

24号住居跡

遺 構 (第37・38図)

[位 置] (D-6) グリッド。

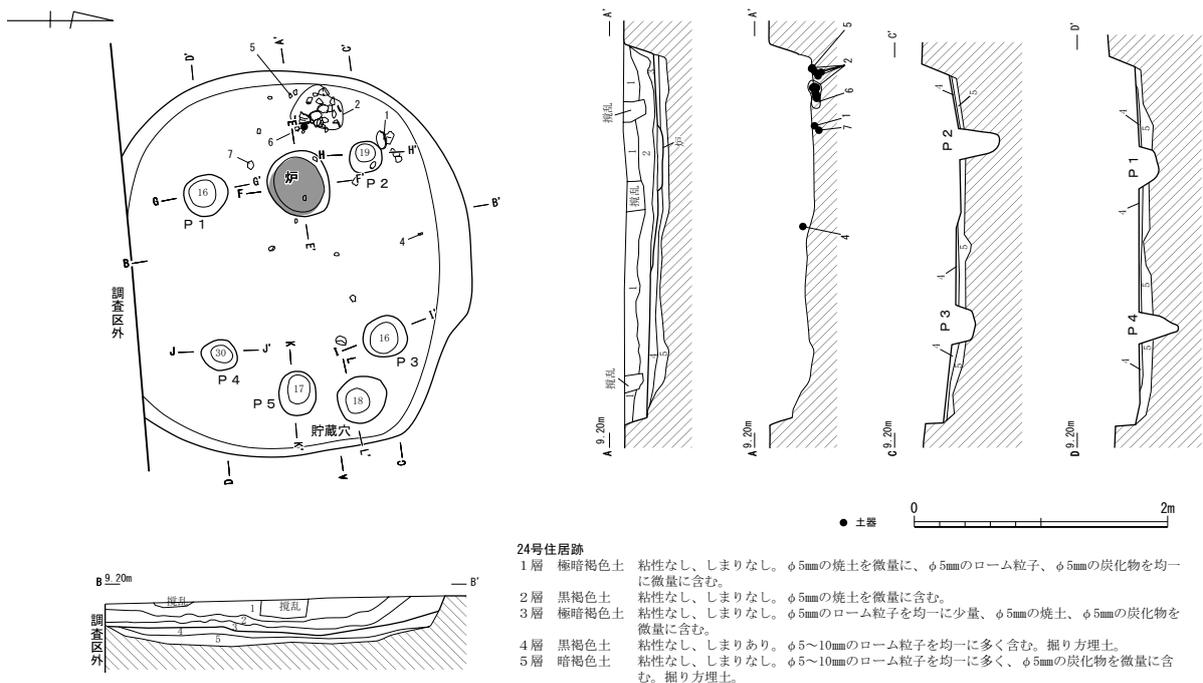
[住居構造] 南壁の一部を除きほぼ検出された。平面形：各辺が弧状になる隅丸方形を呈する。規模：3.06 × 2.67 m以上。主軸方位：N-9°-W。壁高：0.26 m。壁溝：検出されなかった。床面：中心部から壁に向かい緩やかに高まっている。床面レベル：8.96 ~ 9.02 m。炉：住居跡中央やや西側に位置している。平面形は3.24 × 2.88 m以上の略円形を呈し、断面は浅い皿状を呈している。深さは0.36 mである。底面はほぼ焼土で覆われ、南側に厚く焼土が堆積している。柱穴：6本検出された。P1~4が主柱穴である。P1は規模0.36 × 0.33 m深さ0.16 m、P2は規模0.27 × 0.24 m深さ0.19 m、P3は規模0.36 × 0.39 m深さ0.16 m、P4は規模0.30 × 0.24 m深さ0.30 m、P5は規模0.36 × 0.30 m深さ0.17 m、P5は位置から推して入り口部のピットと考えられる。貯蔵穴：平面形は0.39 × 0.36mの略円形を呈し、丸みのある底面から緩やかに立ち上がる。深さ0.18mである。

[覆 土] 5層に分層される。自然堆積を基本とする。4・5層は掘り方埋土。

[時 期] 弥生時代後期前葉~中葉。

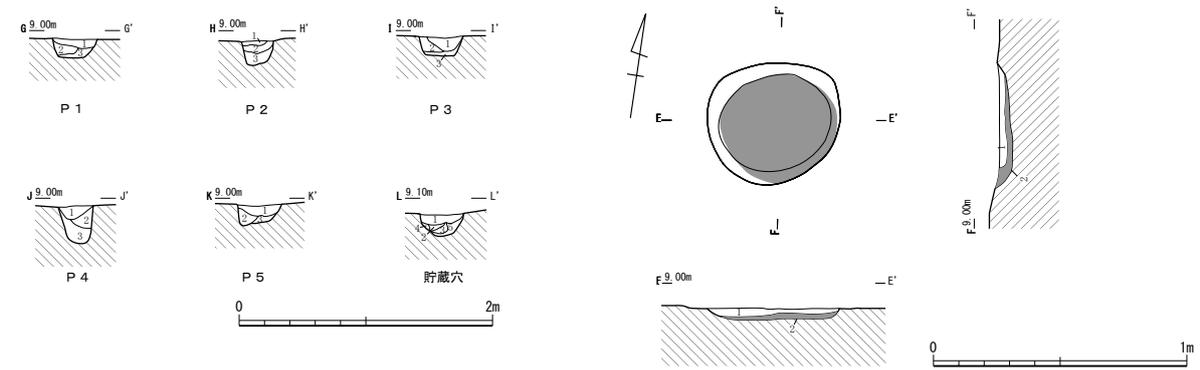
遺 物 (第39図、第14表)

P2周辺と炉の西側から壁際にかけて、ややまとまって出土している。壺形土器と台付甕形土器が認められ、1・2のようにある程度の大きさ復元できたものが出土している。1は頸部以上がほぼ残っているもので、頸部に沈線で区画された中に単節と無節により羽状縄文を施す。3~9は壺形土器の胴部上半の破片で、縄文のみもの(3~5)と縄文の末端に結節を伴うもの(6~9)に分かれる。羽状縄文は複数帯間隔を開けずに施すようである。2・10は甕形土器で、ハケ調整をナデている。口縁部にはキザミを施す。



第37図 24号住居跡1 (1/60)

第3章 検出された遺構と遺物



24号住居跡

- 1層 極暗褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5mmの焼土を微量に、φ5mmのローム粒子、φ5mmの炭化物を均一に微量に含む。
- 2層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5mmの焼土を微量に含む。
- 3層 極暗褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5mmのローム粒子を均一に少量、φ5mmの焼土、φ5mmの炭化物を微量に含む。
- 4層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5~10mmのローム粒子を均一に多く含む。掘り方の土。
- 5層 暗褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5~10mmのローム粒子を均一に多く、φ5mmの炭化物を微量に含む。掘り方埋土。

P 1

- 1層 黒褐色土 粘性あり、しまりなし。φ5mmのローム粒子、炭化物を均一に微量に含む。
- 2層 暗褐色土 粘性あり、しまりあり。φ5~10mmのローム粒子、φ5mmの炭化物を均一に微量に含む。
- 3層 褐色土 粘性あり、しまりあり。φ5mmの炭化物を微量に含む。

P 2

- 1層 黒褐色土 粘性あり、しまりなし。φ5mmのローム粒子を均一に微量に含む。
- 2層 暗褐色土 粘性あり、しまりあり。φ5mmのローム粒子を均一に非常に多く、φ5mmの炭化物を微量に含む。
- 3層 褐色土 粘性あり、しまりあり。φ5mmの炭化物を微量に含む。

P 3

- 1層 黒褐色土 粘性あり、しまりあり。φ5mmのローム粒子を含む。
- 2層 黒褐色土 粘性あり、しまりあり。φ5mmのローム粒子を均一に多く含む。
- 3層 暗褐色土 粘性あり、しまりあり。φ5mmのローム粒子を含む。均一に非常に多く、φ5mmの炭化物を均一に多く含む。

P 4

- 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5~10mmのローム粒子を均一に微量に含む。
- 2層 暗褐色土 粘性あり、しまりあり。φ5mmのローム粒子を均一に多く、φ5mmの炭化物を微量に含む。
- 3層 褐色土 粘性あり、しまりあり。φ5mmの炭化物を微量に含む。

P 5

- 1層 黒褐色土 粘性あり、しまりあり。φ5mmのローム粒子を均一に少量含む。
- 2層 黒褐色土 粘性あり、しまりあり。φ5mmのローム粒子を微量に含む。
- 3層 黒褐色土 粘性あり、しまりあり。φ5mmのローム粒子を均一に少量含む。

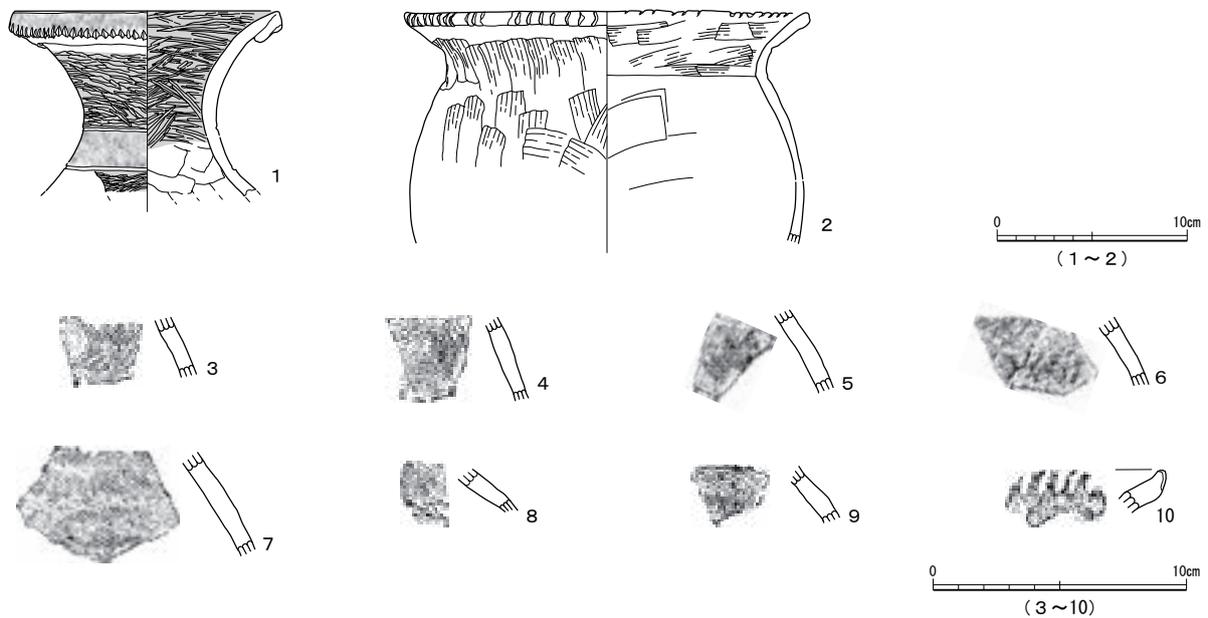
貯蔵穴

- 1層 黒褐色土 粘性あり、しまりなし。φ5mmのローム粒子、φ5mmの焼土を均一に微量に含む。
- 2層 黒褐色土 粘性あり、しまりなし。φ5mmのローム粒子を均一に少量含む。
- 3層 黒褐色土 粘性あり、しまりあり。φ5mmのローム粒子を均一に多く含む。
- 4層 黒褐色土 粘性あり、しまりあり。φ5mmのローム粒子を均一に多く含む。
- 5層 暗褐色土 粘性あり、しまりあり。φ5mmのローム粒子を均一に非常に多く含む。

炉

- 1層 黒褐色土 粘性あり、しまりなし。φ5mmの焼土、φ5mmのローム粒子を均一に少量含む。
- 2層 暗褐色土 粘性あり、しまりあり。φ5mmのローム粒子を均一に多く含む。焼土層。

第38図 24号住居跡2 (1/60・1/30)



第39図 24号住居跡出土遺物 (1/4・1/3)

図版番号	種別 器種	法量 (cm)	色調	胎土	焼成	製作の特徴等	出土位置
第39図1	壺	器高：〔9.5〕 口径：13.9	赤褐 5YR4/6	白色粒子・黒色 粒子・小礫・シャ モット	良好	口縁部から頸部／折り返し口縁を呈し、折り返し部にLRを横位施文後、下端にキザミを施す頸部は横位沈線で区画された中に単節(LR)と無節(R)による羽状縄文を施す／無文部横ミガキ／内面横ミガキ／内外面無文部赤彩	床面
第39図2	甕	器高：〔12.7〕 口径：21.4	にぶい褐 7.5YR5/3	白色粒子・黒色 粒子・小礫	良好	口縁部から胴部上半／外面口縁部縦ハケ、胴部上半斜位及び縦ハケ後、ナデ／部分的にハケ目が残る／内面胴部上半、横ナデされ、ハケ痕は見られない／口縁部斜位及び横ハケ後、横ナデ／口唇部キザミを施す／全体的に器形の歪みが認められる	床面
第39図3	壺	—	にぶい褐 7.5YR5/4	白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子・ 小礫	良好	胴部破片／上端にS字結節を伴う羽状縄文(LR・RL)を横位施文する／内面横ナデ	覆土
第39図4	壺	—	にぶい橙 7.5YR6/4	白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子・ シャモット	良好	胴部破片／外面ナデ後、LRを横位施文／内面斜位のナデ	床面
第39図5	壺	—	にぶい褐 7.5YR5/4	白色粒子・赤色 粒子・小礫	良好	胴部破片／外面羽状縄文(LR・RL・LR)を横位施文する／内面横ナデ	床面
第39図6	壺	—	暗赤褐 5YR3/4	白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子・ 小礫	良好	胴部上半破片／外面下端にS字状結節を伴うLRを横位施文する／無文部横ミガキ、赤彩／内面横ナデ	床面
第39図7	壺	—	にぶい褐 7.5YR5/4	白色粒子・赤色 粒子・石英・小 礫	良好	胴部破片／外面S字状結節を下端に伴う羽状縄文(LR・RL・LR)を横位施文する／無文部ミガキ、赤彩／内面横ナデ	床面
第39図8	壺	—	にぶい褐 7.5YR5/4	白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子	良好	胴部破片／外面S字状結節伴うLRを横位施文する／無文部斜位のハケ調整後、横ミガキ、赤彩／内面横ナデ	覆土
第39図9	壺	—	にぶい褐 7.5YR5/4	白色粒子・赤色 粒子・石英・小 礫	良好	胴部破片／下端にS字状結節伴うLRを横位施文する／無文部は横ミガキ、赤彩／内面横ナデ	覆土
第39図10	甕	—	にぶい褐 7.5YR5/3	白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子・ 小礫	良好	口縁部／内外面横ナデ／口唇部木口状工具でキザミを施す	覆土

第14表 24号住居跡出土土器一覧

25号住居跡

遺構(第40図)

[位置] (D-7) グリッド。

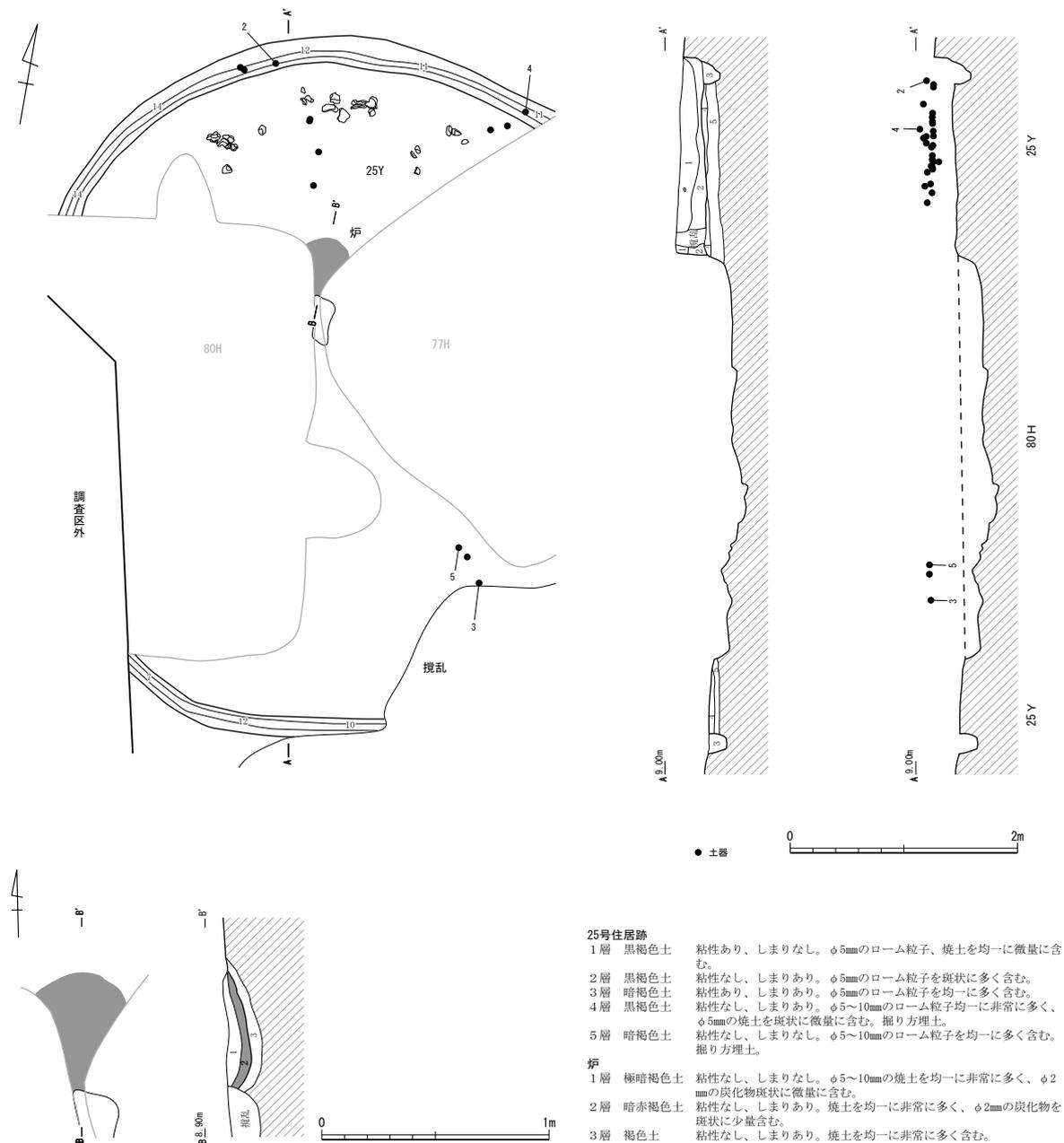
[住居構造] 平面形：円形を呈する。東側を77 Hに、西側を80 H、南側を攪乱により壊されている。規模：6.36 × 6.01 m程(推定) 主軸方位：N - 9° - W。壁高：0.21 m。壁溝：壁が検出された部分では全周する。幅は0.13 ~ 0.28mで、深さ0.07 ~ 0.14mである。床面：貼床がなされ平坦である。床面レベル：8.49 ~ 8.55 m。炉：住居跡中央やや北東側に位置するが、大半を77 Hと80 Hに破壊される。残存部から楕円形を呈していたものと推定され、断面は丸みを帯びる底面から緩やかに立ち上がる。柱穴：残存部では検出されなかった。貯蔵穴：検出されなかった。

[覆 土] 5層に分層される。自然堆積を基本としている。4・5層は掘り方埋土。

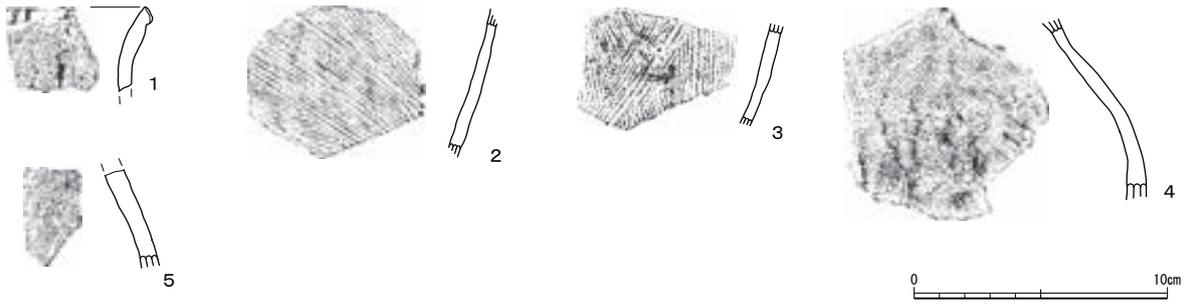
[時 期] 弥生時代後期後葉。

遺 物 (第41図、第15表)

覆土中及び床面から出土している。壺形土器と甕形土器が出土している。1～3は甕形土器でハケ調整される。1は口縁部にキザミを施す。4・5は壺形土器で結節を伴う縄文帯を施す。



第40図 25号住居跡 (1/60・1/30)



第41図 25号住居跡出土遺物（1／3）

図版番号	種別 器種	法量 (cm)	色調	胎土	焼成	製作の特徴等	出土位置
第41図1	甕	—	灰褐 7.5YR4/2	黒色粒子・長石・ シャモット	良好	口縁部破片／外面縦ハケ後、横ナデ／内面横ナデ／ 口唇部キザミを施す	覆土
第41図2	甕	—	にぶい褐 7.5YR5/3	白色粒子・黒色 粒子・長石	良好	胴部破片／外面斜位のハケ／内面横及び斜位のナデ ／内面煤付着	覆土 (41 cm)
第41図3	甕	—	灰褐 7.5YR4/2	白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子・ 長石	良好	胴部破片／外面横及び斜位ハケ／内面斜位のナデ	覆土 (37 cm)
第41図4	壺	—	にぶい褐 7.5YR5/4	黒色粒子・赤色 粒子・シャモッ ト	普通	胴部上半破片／外面単節羽状縄文 (LR・RL) を横 位施文／無文部横ミガキ／内面横ナデ／粘土粒付着 が認められる	覆土 (48 cm)
第41図5	壺	—	にぶい橙 7.5YR7/4	白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子	良好	胴部上半破片／外面Z字状の結節の伴うLRを数段 横位施文する／内面横ナデ	覆土 (39 cm)

第15表 25号住居跡出土土器一覧

26 住居跡

遺 構 (第42図)

[位 置] (C-8) グリッド。

[住居構造] 調査範囲の関係からピットと壁溝が検出されただけで、全形は不明である。平面形：不明。規模：4.32 m以上と推定される。壁高：0.30 m。壁溝：壁が検出された部分では認められる。幅は0.14～0.16mで、深さ0.08～0.17mである。床面：貼床がなされるが、やや凹凸が認められる。床面レベル：8.62～8.70 m。炉：検出されなかった。柱穴：1本検出された。P1は規模0.24×0.21 m深さ0.26 m。貯蔵穴：平面形は0.60×0.45mの略楕円形を呈し、やや丸みを帯びる底面から斜めに立ち上がる。深さ0.24mである。

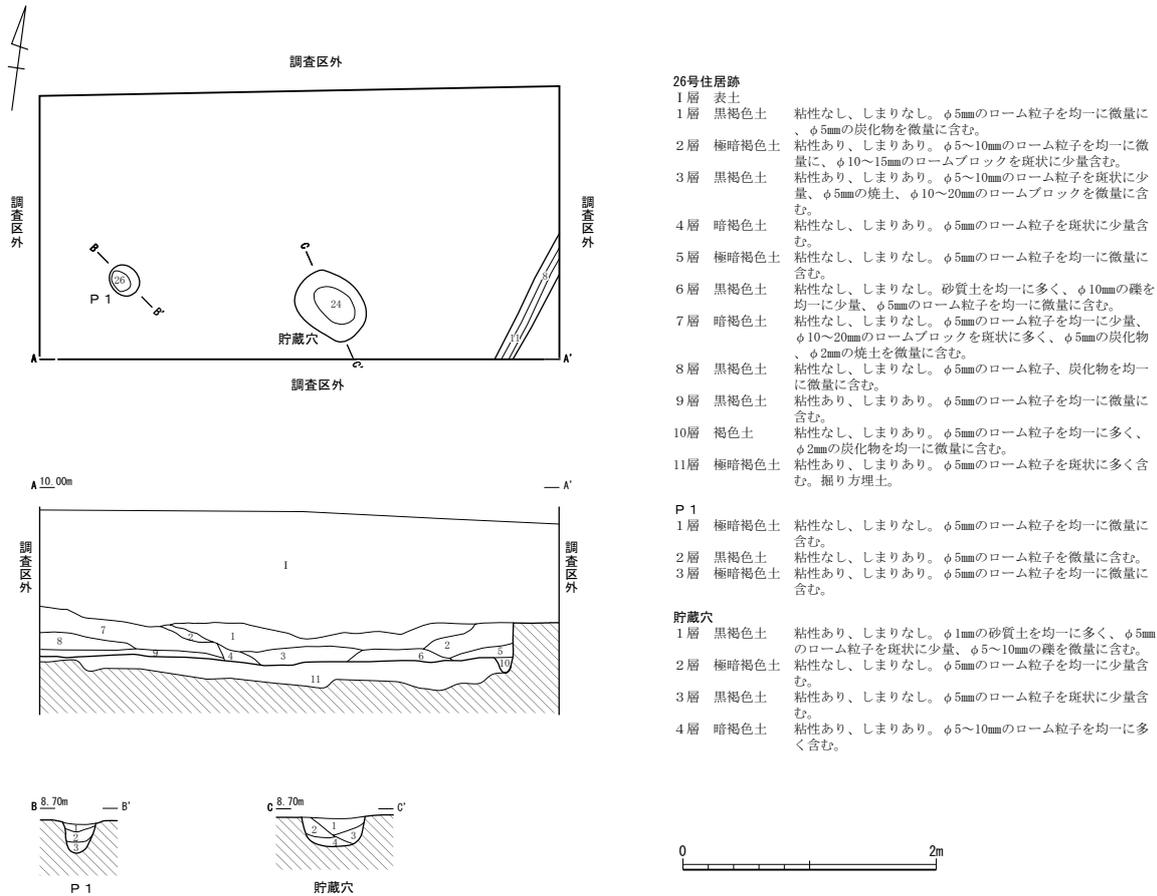
[覆 土] 11層に分層される。自然堆積を基本としている。11層は掘り方埋土。

[時 期] 弥生時代後期後葉か。

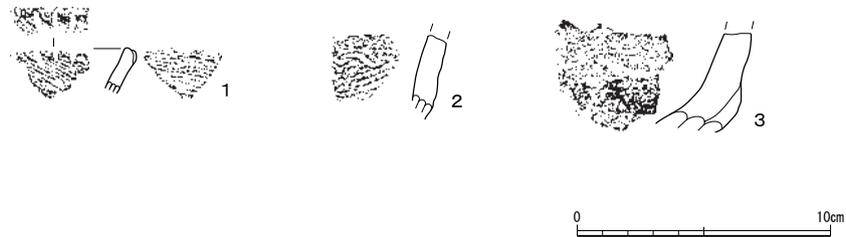
遺 物 (第43図、第16表)

覆土中より、破片が出土している。壺形土器と甕形土器が認められる。1は甕形土器でハケ調整され、口縁部にキザミを施す。2・3は壺形土器で2は結節を伴う縄文を施す。3は底部である。

第3章 検出された遺構と遺物



第42図 26号住居跡 (1/60)



第43図 26号住居跡出土遺物 (1/3)

図版番号	種別器種	法量 (cm)	色調	胎土	焼成	製作の特徴等	出土位置
第43図1	甕	—	暗赤褐 5YR3/3	白色粒子・黒色粒子・小礫・シャモット	良好	口縁部破片/外面斜位のハケ/内面横ハケ/口唇部にキザミを施す	覆土
第43図2	壺	—	にぶい赤褐 5YR4/3	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・小礫	良好	胴部破片/外面下端にZ字状結節を伴うLRを横位施文する/内面横ナデ	覆土
第43図3	壺	—	にぶい橙 7.5YR7/4	白色粒子・黒色粒子・シャモット	良好	底部/外面横ミガキ/内面ハケ調整後, ナデ	覆土

第16表 26号住居跡出土土器一覧

(3) 土坑

259号土坑

遺 構 (第44図)

[位 置] (D-4) グリッド。

[構 造] 平面方形、断面タライ状、坑底は概ね平坦である。規模:1.80 × 1.60 m。深さ:0.34 m。

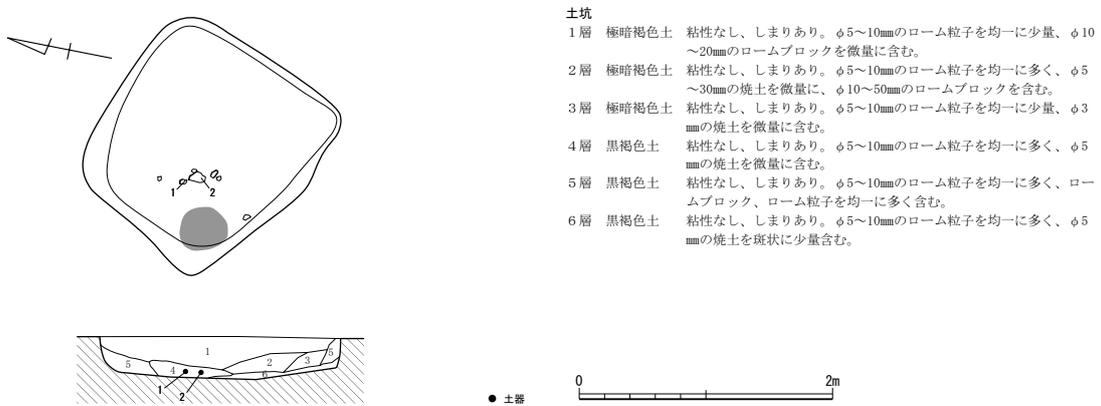
長軸方向: N-65°-W。

[覆 土] 極暗褐色土と黒褐色土を主体とする。6層に分層した。また西側角部で焼土が集中して検出された。

[時 期] 弥生時代後期後葉。

遺 物

壺形土器、甕形土器が出土している。



第44図 259号土坑 (1/60)



第45図 259号土坑出土遺物 (1/60)

図版番号	種別 器種	法量 (cm)	色調	胎土	焼成	製作の特徴等	出土位置
第45図1	壺	—	橙 7.5YR6/6	黒色粒子・長石 小礫	良好	口縁部/外面縦ハケ, 内面横ハケ後, 内外面強い横 ナデ	覆土 (5 cm)
第45図2	甕	—	にぶい橙 7.5YR6/4	白色粒子 赤色粒子・小礫	良好	胴部下半/外面縦ハケ後, ナデ/内面横ナデ	覆土 (5 cm)

第17表 259号土坑出土土器一覧

第3節 古墳時代後期・平安時代の遺構と遺物

(1) 概要

古墳時代後期・平安時代の住居跡は 14 軒検出された。このうち古墳時代後期に属するものが 6 軒、平安時代のものが 8 軒である。調査区が狭いため、全体を調査できたものは少ない。そのため、カマドの位置が明らかでないものも多く存在する。

分布状況は、調査区北西側と南東側にややまとまって検出されている。(C～E-2～4) グリッドでは、当該期の遺構は認められない。周辺調査の結果を待たねばならないが、いくつかの住居群が存在するものと思われる。

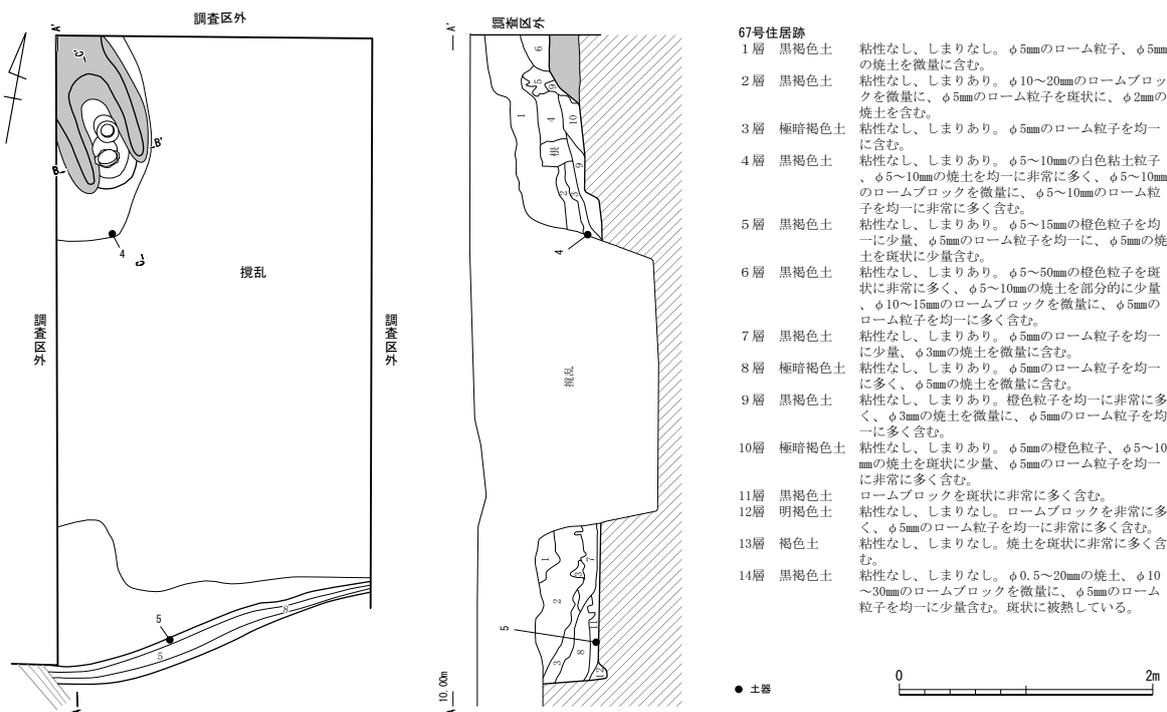
(2) 住居跡

67号住居跡

遺 構 (第 46・47 図)

[位 置] (A-5) グリッド。

[住居構造] 大半が調査区外に延びるのと、北側のカマド部分と南壁部分を除き大半が攪乱されている。平面形: 方形を基調とするものと思われる。規模: 5.16 × 2.67 m 以上。主軸方位: N-29°-W。壁高: 0.48 m。壁溝: 壁が検出された部分で認められた。幅は 0.08 ~ 0.22 m で、深さ 0.07 ~ 0.12 m である。床面: 平坦である。床面レベル: 8.86 ~ 8.98 m。カマド: 北壁に付設されたものと思われる。天井部は崩落していたが、袖部が遺存していた。底面は住居床面を僅かに掘り込まれている。焚口部付近が深く、奥壁に向かい徐々に高まっていく。カマド内には長胴甕が 2 個縦並びになり出土している



第 46 図 67 号住居跡 1 (1 / 60)

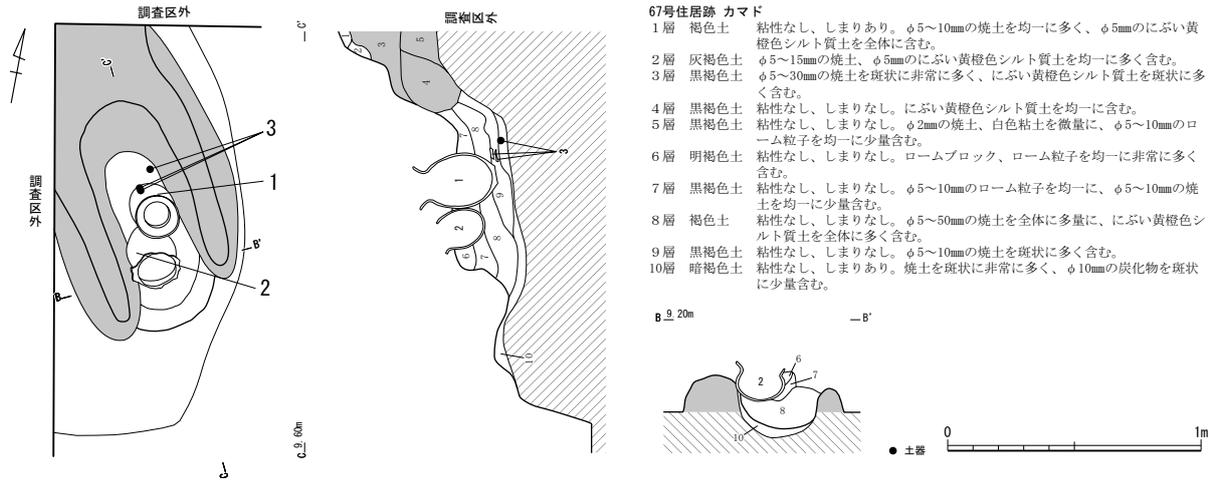
る。このことから縦二つ懸けのカマドであると思われる。柱穴：検出されなかった。貯蔵穴：検出されなかった。

[覆土] 14層に分層される。自然堆積を基本としている。

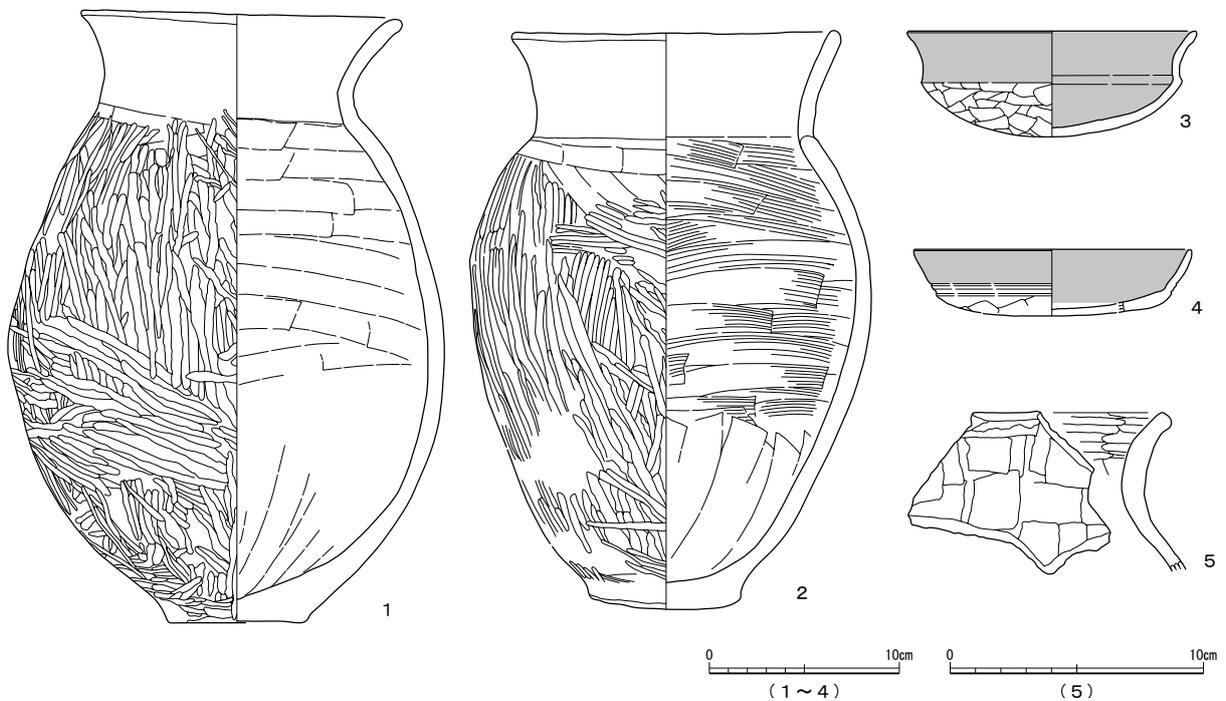
[時期] 古墳時代後期（6世紀前葉）。

遺物（第48図、第18表）

1・2が土師器坏形土器で内面及び口縁部外面が赤彩される。3～5が土師器甕形土器である。5・6はほぼ完形で、カマドから出土した。共に胴部にミガキを施す。



第47図 67号住居跡2（1/30）



第48図 67号住居跡出土遺物（1/4・1/3）

図版番号	種別 器種	法量 (cm)	色調	胎土	焼成	製作の特徴等	出土位置
第48図1	土師器 甕	器高：32.2 口径：16.5 底径：7.1	にぶい橙 7.5YR6/4	白色粒子・黒色 粒子・長小礫	良好	外面胴部横及び縦位の細かなミガキを施す／内面横ナデ／口縁部内外面強い横ナデ／外面胴部全体的に黒斑が認められる	カマド
第48図2	土師器 甕	器高：30.5 口径：17.0 底径：7.8	橙 5YR6/6	白色粒子・黒色 粒子・小礫	良好	底部やや丸底状／外面胴部ナデ調整後、斜位及び縦位の軌跡の長いミガキ／内面ヘラナデ／口縁部内外面強い横ナデ／胴部最大径よりやや上に粘土付着／外面黒斑が認められる	カマド
第48図3	土師器 坏	器高：5.6 口径：15.3	明赤褐 2.5YR5/6	白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子	良好	底部ヘラ削り後、周辺部同一方向にヘラ削り／内面横ナデ／口縁部内外面強い横ナデ／内面及び口縁部外面赤彩	カマド 覆土
第48図4	土師器 坏	器高：(3.5) 口径：(14.4)	にぶい橙 7.5YR6/4	黒色粒子・赤色 粒子・小礫	良好	底部外面ヘラ削り／内面横ナデ／口縁部内外面強い横ナデ／内面及び口縁部外面赤彩	覆土 (8 cm)
第48図5	土師器 甕	—	橙 7.5YR6/6	白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子・ 長石	良好	口縁部破片／口縁部内外面強い横ナデ	覆土 (床面)

第18表 67号住居跡出土土器一覧

68号住居跡

遺構 (第49図)

[位置] (B-1・2) グリッド。

[住居構造] 北西側を攪乱され、北側は調査区外へ延びる。全体の1/3程を調査したものと考えられる。南側で69Hと重複し、それより新しい。平面形：方形を基調とするものと思われる。規模：3.18×2.80 m以上。主軸方位：不明。壁高：0.24 m。壁溝：壁が検出した部分では認められる。幅は0.12～0.29 mで、深さ0.05～0.12 mである。床面：平坦である。床面レベル：8.98～9.00 m。カマド：攪乱により壊されたか調査区外に位置するものと思われる。柱穴：ピットは3本検出された。P1・3が主柱穴である。P1は規模0.55 m以上×0.49 m深さ0.66 m、P2は規模0.28×0.24 m深さ0.32 m、P3は規模0.45×0.31 m深さ0.30 mである。貯蔵穴：住居南東隅付近で検出されたが、半分は調査区外に位置する。平面は隅丸長方形を呈し、平坦な底面から直線的に斜めに立ち上がる。規模は0.68 m以上×0.56 m、深さ0.64 mである。

[覆土] 5層に分層される。自然堆積を基本としている。

[時期] 古墳時代後期(6世紀前葉)。

遺物 (第50図、第19表)

1が土師器坏形土器で内面及び口縁部外面が赤彩される。2は鉢形土器で全体的に磨滅が激しい。

69号住居跡

遺構 (第49図)

[位置] (B-1・2) グリッド。

[住居構造] 西側から南側にかけて大きく攪乱される。全体の半分ほどを調査したものと考えられる。北側で68Hと重複し、それより古い。平面形：方形を基調とするものと思われる。規模：3.75 m以上×3.21 m以上。主軸方位：不明。壁高：0.24 m。壁溝：壁が検出した部分では認められる。幅は

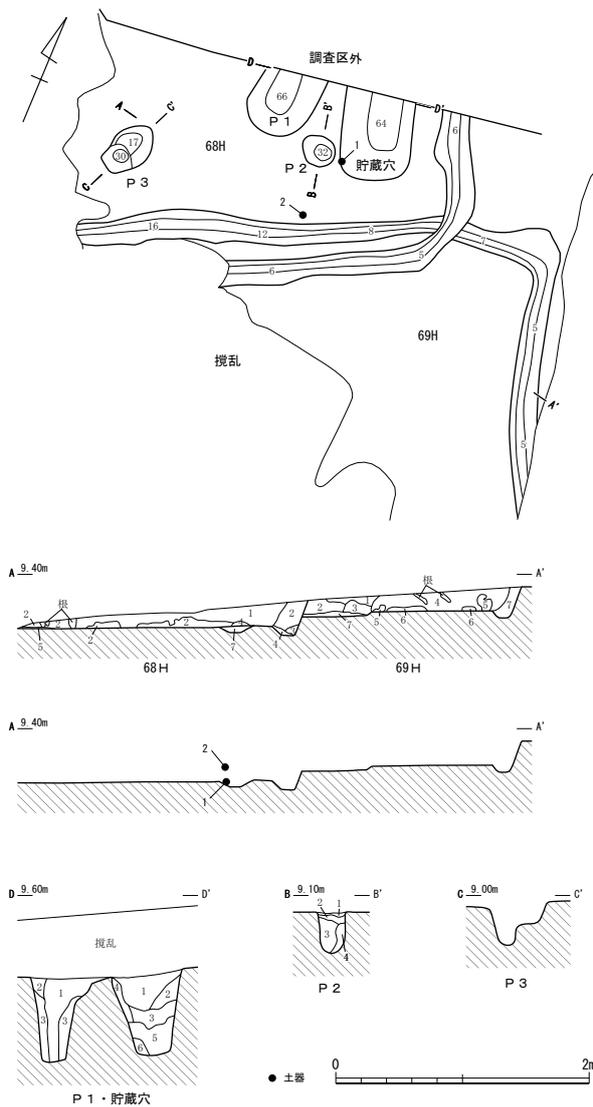
0.10～0.25 mで、深さ0.05～0.16 mである。床面：平坦である。床面レベル：9.07～9.10 m。
 カマド：攪乱により壊されているものと思われる。柱穴：検出されなかった。貯蔵穴：検出されなかった。

[覆 土] 7層に分層される。自然堆積を基本としている。

[時 期] 古墳時代後期（5世紀末葉から6世紀か）。

遺 物

図示できる遺物は出土しなかった。



- 68号住居跡**
- 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5～10mmのローム粒子を均一に非常に多く、φ3mmの焼土を微量に含む。
 - 2層 黒褐色土 φ5mmの焼土、φ10～15mmのロームブロックを微量に、φ5～10mmのローム粒子を均一に非常に多く含む。
 - 3層 黒褐色土 ロームブロックを斑状に非常に多く、φ5～10mmのローム粒子を均一に非常に多く含む。
 - 4層 褐色土 ロームブロックを斑状に非常に多く、φ5～10mmのローム粒子を均一に非常に多く含む。
 - 5層 黄褐色土 ロームブロック、ローム粒子を均一に非常に多く含む。貼り床。

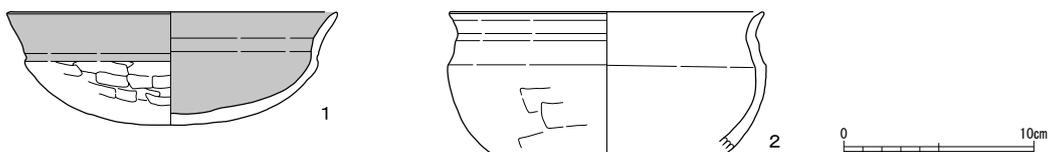
- 69号住居跡**
- 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5mmのローム粒子を斑状に多く、炭化物を微量に含む。
 - 2層 褐色土 粘性なし、しまりあり。ロームブロックを斑状に非常に多く、φ5～10mmのローム粒子を均一に非常に多く、φ3mmの焼土を微量に含む。
 - 3層 黒褐色土 φ5～10mmのローム粒子を均一に多く、φ10mmの炭化物、φ3mmの焼土を微量に含む。
 - 4層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5～10mmのローム粒子を均一に非常に多く、φ10～15mmの炭化物、φ2mmの焼土を微量に含む。
 - 5層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5～10mmのローム粒子を均一に非常に多く、φ3～10mmの炭化物を微量に含む。
 - 6層 黒褐色土 φ5～10mmのローム粒子を均一に多く、φ10～15mmの炭化物を微量に含む。
 - 7層 黄褐色土 ロームブロック、ローム粒子を均一に非常に多く含む。

- 68号住居跡 P 1**
- 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ1～10mmの炭化物、φ1～5mmの焼土を微量に、φ10～20mmのロームブロックを斑状に、φ5～10mmのローム粒子を均一に非常に多く含む。
 - 2層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5～10mmのローム粒子を均一に非常に多く、φ10～20mmのロームブロック、φ3mmの焼土を微量に含む。
 - 3層 黄褐色土 ロームブロック、ローム粒子を均一に非常に多く含む。

- 68号住居跡 P 2**
- 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ3mmのローム粒子を均一に、φ3mmの焼土を微量に含む。
 - 2層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5mmの焼土を均一に多く含む。
 - 3層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5～10mmのローム粒子を均一に少量、φ10～15mmのロームブロックを微量に含む。
 - 4層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。ロームブロック、φ5mmのローム粒子を微量に含む。

- 68号住居跡 貯蔵穴**
- 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ1～20mmの炭化物、φ10～30mmのロームブロックを微量に、φ5～10mmのローム粒子を均一に非常に多く、φ5mmの焼土を斑状に少量含む。
 - 2層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ1～10mmの炭化物を微量に、φ10～20mmのロームブロックを斑状に、φ5～10mmのローム粒子を均一に非常に多く含む。
 - 3層 褐色土 粘性なし、しまりなし。ロームブロック、ローム粒子を均一に非常に多く含む。
 - 4層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ10～20mmのロームブロックを斑状に、φ5～10mmのローム粒子を均一に多く、φ5～15mmの焼土を斑状に少量含む。
 - 5層 黒褐色土 φ3～5mmの炭化物を微量に、φ10～50mmのロームブロックを斑状に少量、φ5～10mmのローム粒子を均一に非常に多く含む。
 - 6層 黒褐色土 ロームブロックを斑状に非常に多く、φ5～10mmのローム粒子を均一に非常に多く含む。

第49図 68・69号住居跡 (1/60)



第50図 68号住居跡出土遺物 (1/4)

図版番号	種別 器種	法量 (cm)	色調	胎土	焼成	製作の特徴等	出土位置
第50図1	土師器 坏	器高：6.0 口径：17.3	明赤褐 2.5YR5/6	白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子	良好	底部外面中心部へラ削り後、周辺部へラ削り／その後中心部ナデ／内面横ナデ／口縁部内外面強い横ナデ／内面及び口縁部外面赤彩	貯蔵穴 (60 cm)
第50図2	土師器 鉢	器高：〔7.0〕 口径：〔16.5〕	橙 7.5YR7/6	黒色粒子・赤色 粒子・小礫	良好	口縁部から胴部上半破片／胴部上半内外面横ナデ／口縁部内外面横ナデ／全体的に磨滅し、調整は不鮮明である	覆土 (11 cm)

第19表 68号住居跡出土土器一覧

70号住居跡

遺 構 (第51図)

[位 置] (B-2) グリッド。

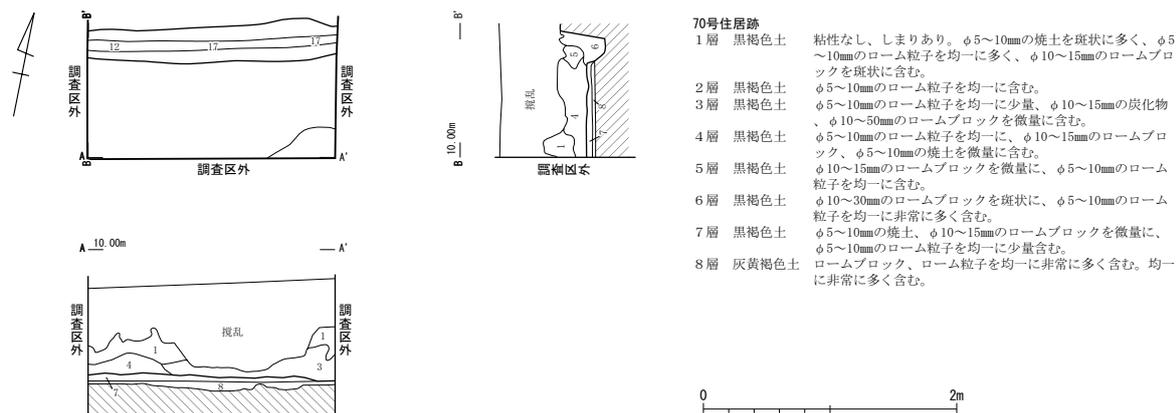
[住居構造] 大半が調査区外に位置し、北壁の一部を検出したに過ぎない。平面形：方形を基調とするものと思われる。規模：1.02 m以上× 1.98 m以上。主軸方位：不明。壁高：0.30 m。壁溝：壁が検出された部分では認められた。幅は0.23～0.34 mで、深さ0.12～0.17 mである。床面：貼床がなされ平坦である。床面レベル：8.96～8.97 m。カマド：調査区外に位置するものと思われる。柱穴：検出されなかった。貯蔵穴：検出されなかった。

[覆 土] 8層に分層される。自然堆積を基本としている。7・8層は掘り方埋土である。

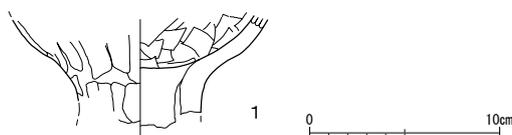
[時 期] 古墳時代後期(5世紀中葉～後葉)。

遺 物 (第52図、第20表)

1は高杯の接合部で、接合部がソケット状の粘土柱になる。



第51図 70号住居跡(1/60)



第52図 70号住居跡出土遺物(1/4)

図版番号	種別 器種	法量 (cm)	色調	胎土	焼成	製作の特徴等	出土位置
第52図1	土師器 高杯	器高：〔5.1〕	明赤褐 2.5YR5/6	白色粒子・赤色 粒子・小礫	良好	接合部／棒状の粘土芯に坏部と脚部を接 合し成形したと思われる／外面縦削 り後，ナデ／内面横ナデ	覆土

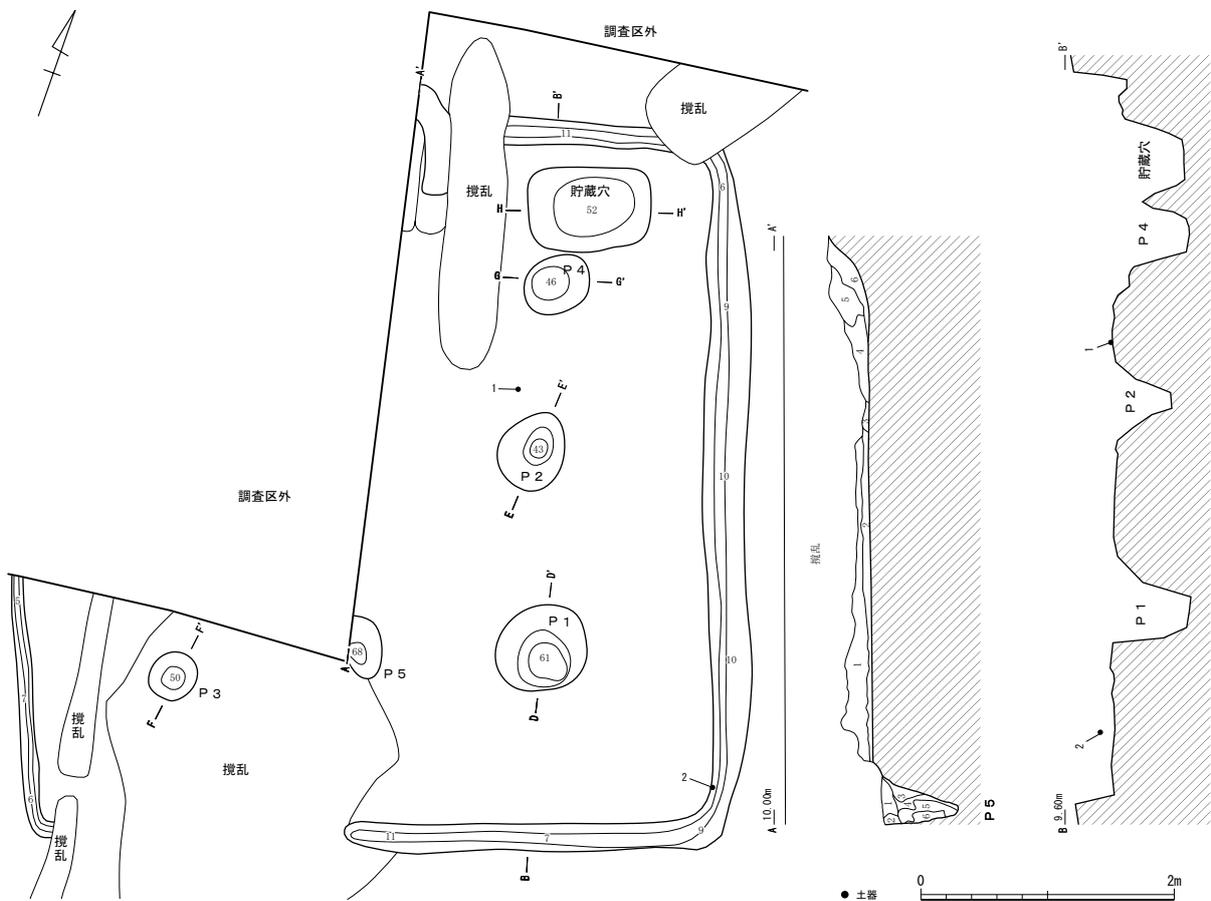
第20表 70号住居跡出土土器一覧

71号住居跡

遺 構 (第53・54図)

[位 置] (A・B-2) グリッド。

[住居構造] 南西部分は攪乱され、北西部分は調査区外に位置する。平面形：やや隅の丸い方形である。規模：5.82 × 5.79 m。主軸方位：N - 19° - W。壁高：0.24 m。壁溝：壁が検出された部分では認められた。幅は0.09 ~ 0.32 mで、深さ0.07 ~ 0.13 mである。床面：平坦である。床面レベル：9.22 ~ 9.28 m。カマド：北壁中央付近に付設されたものと考えられる。大半が調査区外で、右袖部分が確認できた。底面は住居床面とほぼ等しい。カマドと住居の主軸もほぼ等しいと思われる。柱穴：5本検出された。P1は規模0.76 × 0.68 m深さ0.61 m、P2は規模0.64 × 0.52 m深さ0.43 m、P3は規模0.39 × 0.36 m深さ0.50 m、P4は規模0.56 × 0.45 m深さ0.46 m、P5は規模0.96 × 0.68 m深さ0.68 mである。位置からP5は入り口部のピットと思われる。P1 ~ 4が支柱穴で、



第53図 71号住居跡1 (1 / 60)

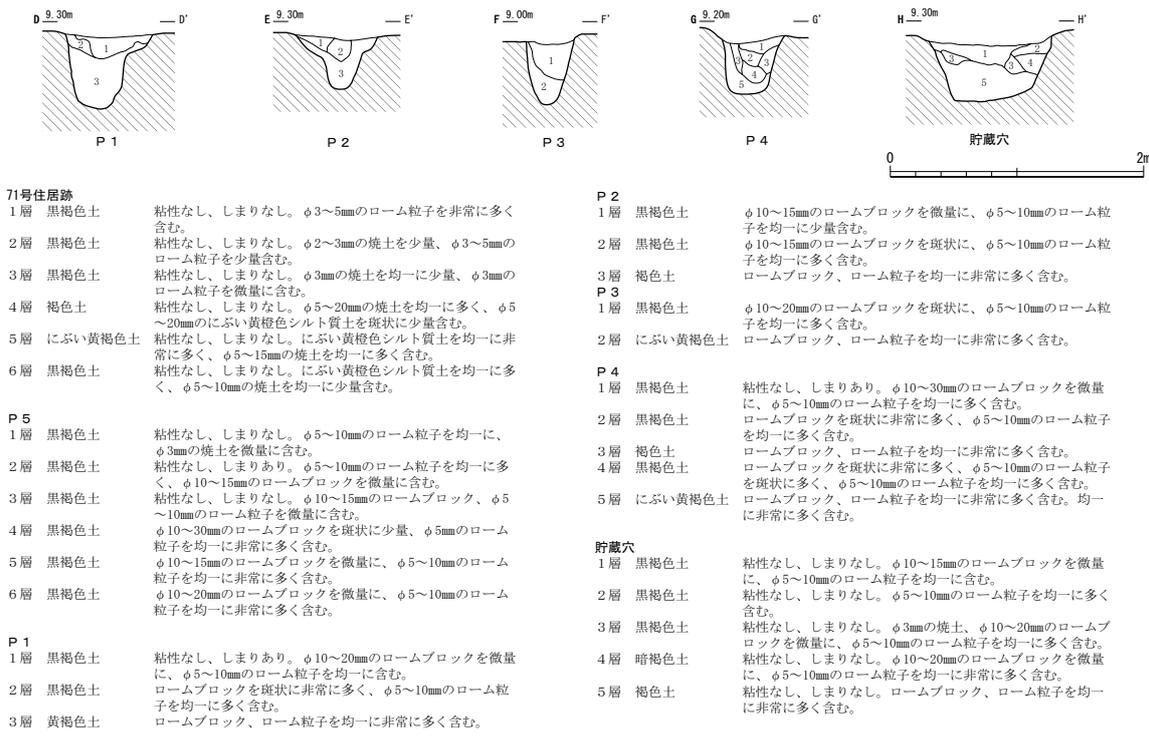
本来は6本柱の住居跡であろう。貯蔵穴：カマド東側で検出された。平面形は0.96 × 0.68 mの隅丸長方形を呈する。底面はやや丸みがあり、立ち上がりは斜めに直線的に立ち上がる。深さは0.52 mである。

[覆土] 6層に分層される。自然堆積を基本とする。

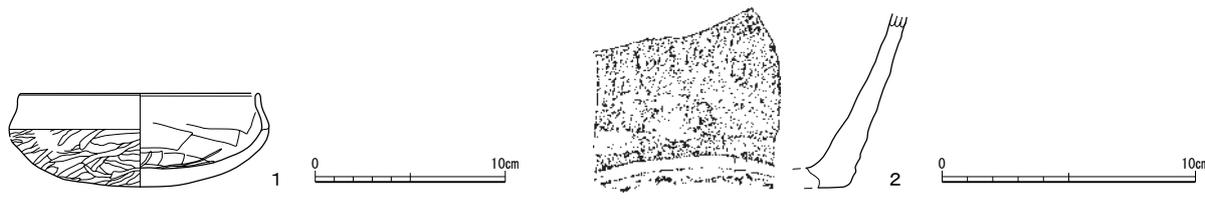
[時期] 古墳時代後期（6世紀中葉）。

遺物（第55図、第21表）

1は土師器坏形土器で、口縁部が内傾し、底部は細かなミガキが施される。



第54図 71号住居跡2（1/60）



第55図 71号住居跡出土遺物（1/4・1/3）

図版番号	種別 器種	法量 (cm)	色調	胎土	焼成	製作の特徴等	出土位置
第55図1	土師器 坏	器高：5.0 口径：12.6	灰褐 7.5YR4/2	白色粒子・黒色 粒子・小礫	良好	底部外面中心部へラ削り後周辺部同一方向にへラ削り/その後、ミガキ/内面横ナデ/口縁部内外面強い横ナデ/黒彩	覆土 (床面上)
第55図2	須恵器 甕	—	にぶい 黄橙 10YR6/3	白色粒子・石英・ 小礫	良好	胴部下半から底部/外面縦位の平行タタキ目の後、横ナデ/内面横ナデ/内外面成形時の凹凸が認められる/東金子窯産	覆土 (10cm)

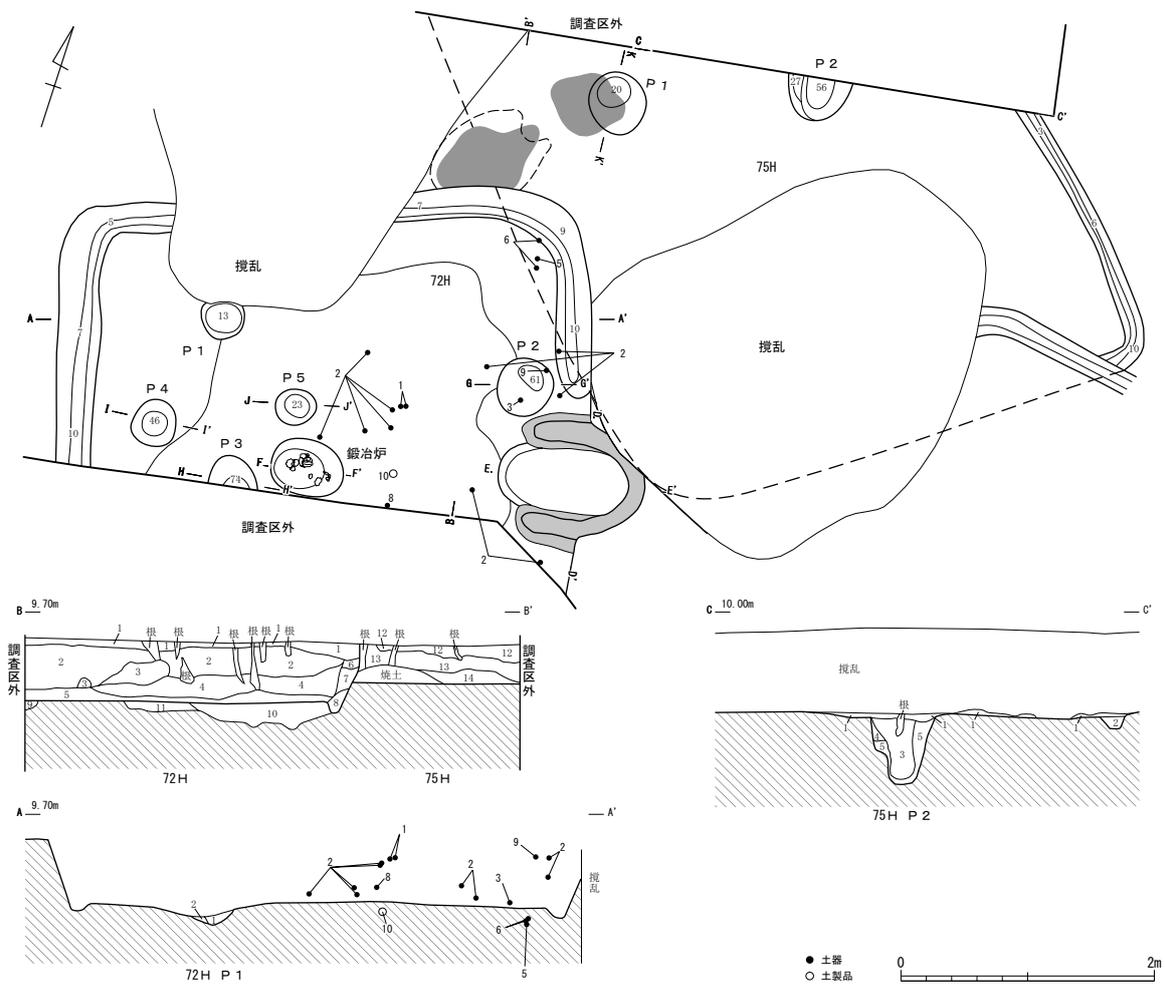
第21表 71号住居跡出土土器一覧

72号住居跡

遺構 (第56・57図)

[位置] (A・B-4) グリッド。

[住居構造] 北側及び東側を攪乱され、北東側で75Hと重複し、それより新しい。平面形：隅丸方形を呈する。規模：4.20×2.64m以上。主軸方位：N-73°-E。壁高：0.54m。壁溝：ほぼ全周するものと思われる。幅は0.23~0.34mで、深さ0.06~0.08mである。床面：平坦である。カマド前面や床面レベル：8.98~9.01m。カマド：主柱穴の配置から、東壁中央やや南寄りに付設されたものと思われる。天井部は遺存しておらず、袖部が確認されたのみであった。底面は住居床面を掘り込み築かれている。焚口部分が浅く、奥壁に向かい深くなっている。奥壁部分から考えると、煙道部は急角度で立ち上がっていたと考えられる。カマドと住居の主軸はほぼ等しい。柱穴：5本検出された。P1~3が主柱穴で、4本柱の住居跡と思われる。P1は規模0.35×0.29m以上深さ0.13m、P2は規模0.46×0.43m深さ0.61m、P3は規模0.24m以上×0.39m深さ0.74m、P4は規模0.37×0.33m深さ0.46m、P5は規模0.32×0.28m深さ0.23mである。P4は位置からして入り口部のピットと思われる。P5は小鍛冶炉に関係したものであろうか。貯蔵穴：検出されなかった。小鍛冶炉：住居跡中央付近で検出された。平面形は0.58×0.44mの楕円形を呈し、底面は丸底を呈する。壁は東側で緩やかに立ち上がる。覆土中から、鉄滓が140.79g出土した。



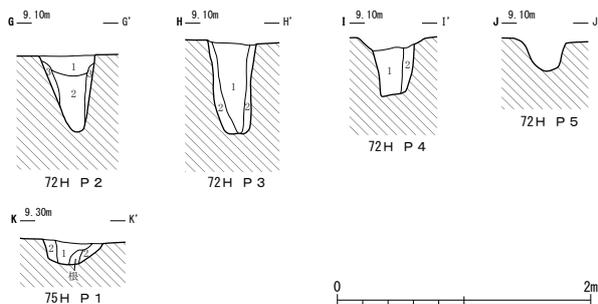
第56図 72・75号住居跡1 (1/60)

[覆 土] 11層に分層される。自然堆積を基本としている。

[時 期] 平安時代（8世紀後葉）。

遺 物（第58図、第22表）

1は土師器の北武蔵型坏。2・3は土師器甕形土器で胴部は削られる。4～6は須恵器坏形土器で、底部回転糸切り後、回転ヘラ削りがなされる。7・8は須恵器の甕である。9は土師器甕形土器の口縁部。10は小口径羽口で先端はガラス質が付着する。



72号住居跡

- 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5～15mmの焼土、φ5～10mmのローム粒子を均一に含む。
- 2層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5mmの焼土を均一に微量に、φ5mmのローム粒子を均一に含む。
- 3層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。ロームブロック、ローム粒子を均一に微量に、φ5mmの焼土を微量に含む。
- 4層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。ロームブロックを斑状に非常に多く、φ5～10mmのローム粒子を均一に少量、φ5～10mmの焼土を斑状に少量含む。
- 5層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5～25mmのロームブロックを斑状に非常に多く、φ5～10mmのローム粒子を均一に少量、φ5～15mmの焼土（φ0.5～15mm）、φ5～10mmのいぶい黄褐色シルト質土を微量に含む。
- 6層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5～10mmの焼土を微量に、いぶい黄褐色シルト質土を均一に多く含む。
- 7層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。いぶい黄褐色シルト質土、ロームブロックを斑状に非常に多く、φ5～10mmのローム粒子を均一に多く、φ5～15mmの焼土を微量に含む。
- 8層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。ロームブロックを斑状に非常に多く、φ5～10mmのローム粒子を均一に多く、φ5～10mmの焼土を含む。
- 9層 暗褐色土 ロームブロック、ローム粒子を均一に多く、φ5mmの焼土を微量に含む。掘り方埋土。
- 10層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。ロームブロックを斑状に非常に多く、φ5～10mmのローム粒子を均一に非常に多く、φ5～20mmの焼土を斑状に少量含む。掘り方埋土。
- 11層 明褐色土 粘性なし、しまりあり。ロームブロック、ローム粒子を均一に非常に多く含む。掘り方埋土。
- 12層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5～10mmの焼土を部分的に、φ5mmのいぶい黄褐色シルト質土を部分的に少量、φ10～20mmのローム塊を部分的に微量に含む。
- 13層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5～20mmの焼土を全体に、φ5～20mmのいぶい黄褐色シルト質土を部分的に少量含む。
- 14層 褐色土 粘性なし、しまりあり。ローム塊、ローム粒子を全体に多量に含む。

- P 1**
- 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ10～15mmのロームブロックを微量に、φ5～10mmのローム粒子を均一に含む。
 - 2層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ10～50mmのロームブロックを斑状に少量、φ5～10mmのローム粒子を均一に多く含む。

- P 2**
- 1層 極暗褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5～10mmのローム粒子を均一に多く、φ5～30mmの炭化物を斑状に少量含む。
 - 2層 暗褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5～10mmのローム粒子を均一に多量に、φ3mmの焼土を微量に含む。
 - 3層 褐色土 粘性なし、しまりあり。ロームブロック、ローム粒子を均一に非常に多く含む。

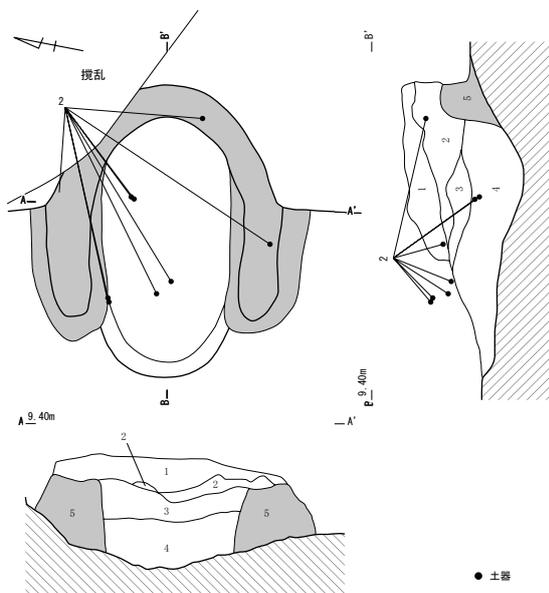
- P 3**
- 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5～10mmのローム粒子を均一に、φ10～15mmのロームブロックを微量に含む。
 - 2層 褐色土 粘性なし、しまりあり。ロームブロック、ローム粒子を均一に非常に多く含む。

- P 4**
- 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5～10mmのローム粒子を均一に多く、φ10～20mmのロームブロックを斑状に含む。
 - 2層 暗褐色土 粘性なし、しまりあり。ロームブロック、ローム粒子を均一に多く含む。

- P 5**
- 1層 褐色土 粘性なし、しまりあり。ロームブロック、ローム粒子を均一に非常に多く含む。

75号住居跡

- 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5～10mmのローム粒子を均一に、φ5mmの焼土を均一に少量、φ10～15mmのロームブロックを微量に含む。均一に多く、φ10～30mmのロームブロック、φ5～20mmの焼土を斑状に微量に含む。
 - 2層 極暗褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5～20mmの焼土を均一に含む。
 - 3層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5～10mmのローム粒子を斑状に少量、φ3mmの焼土を斑状に微量に含む。
 - 4層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ3mmの焼土、φ2mmの炭化物、φ5mmのローム粒子を微量に含む。
 - 5層 褐色土 粘性なし、しまりあり。ロームブロック、ローム粒子を全体に多く、φ3mmの焼土を微量に含む。
- P 1**
- 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。ロームブロックを均一に、φ5～10mmのローム粒子を均一に含む。
 - 2層 褐色土 ロームブロック、ローム粒子を均一に非常に多く含む。



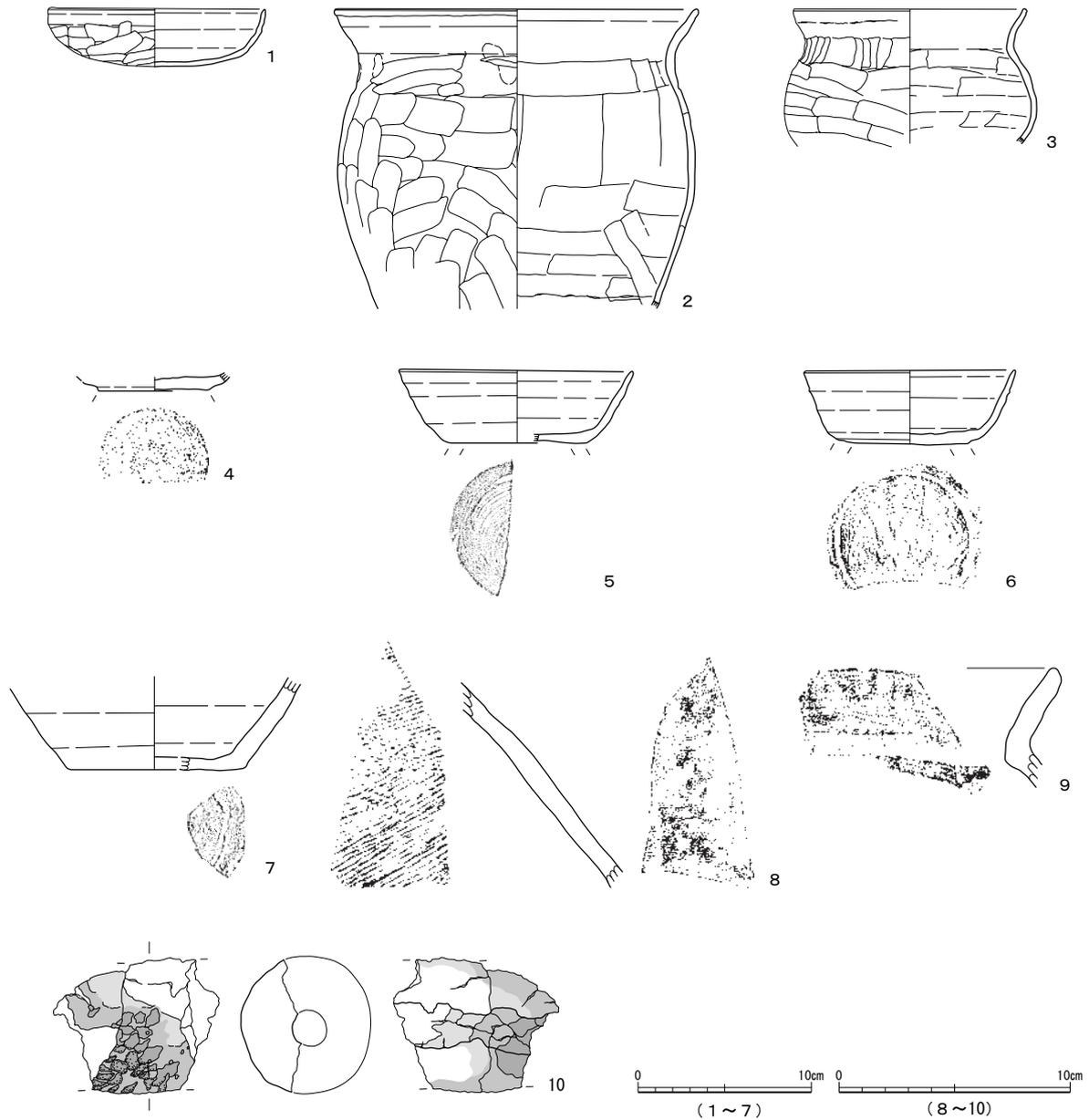
72号住居跡 カマド

- 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。いぶい黄褐色シルト質土、φ5～10mmの焼土を均一に含む。
- 2層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。いぶい黄褐色シルト質土を均一に多く、φ5mmの焼土を微量に含む。
- 3層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ10～20mmのロームブロック、φ5～10mmのローム粒子を均一に多く、φ5～10mmの焼土を均一に微量に含む。
- 4層 灰褐色土 粘性なし、しまりあり。いぶい黄褐色シルト質土を均一に多く、φ5～10mmの焼土を微量に含む。
- 5層 灰褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5～20mmのいぶい黄褐色シルト質土を均一に多く、φ5～10mmの焼土を斑状に非常に多く含む。

72号住居跡 鋸冶炉

- 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5～30mmのいぶい黄褐色シルト質土を斑状に少量、φ5～50mmの焼土、ロームブロックを斑状に多く、鉄滓を斑状に含む。
- 2層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。いぶい黄褐色シルト質土を均一に非常に多く、焼土を斑状に非常に多く含む。
- 3層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5～10mmの焼土を微量に、φ5mmのいぶい黄褐色焼土を均一に少量、φ10～15mmのローム粒子を均一に含む。
- 4層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5～10mmのいぶい黄褐色シルト質土を均一に多く、φ5mmの焼土を均一に、φ5mmのローム粒子を微量に含む。
- 5層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。炭化物を均一に非常に多く、φ5mmのいぶい黄褐色シルト質土、φ3mmのローム粒子を微量に含む。
- 6層 赤褐色土 粘性なし、しまりあり。被熱を受けて赤化し硬く締まっている。

第57図 72・75号住居跡2（1/60・1/30）



第58図 72号住居跡出土遺物（1／4・1／3）

図版番号	種別 器種	法量 (cm)	色調	胎土	焼成	製作の特徴等	出土位置
第58図1	土師器 杯	器高：3.4 口径：13.0	橙 5YR7/6	白色粒子・黒色 粒子・長石	良好	北武蔵型杯／底部外面中心部へラ削り 後，周辺部同一方向にへラ削り／内面横 ナデ／口縁部外面横ナデ	覆土 (37～ 38cm)
第58図2	土師器 甕	器高：〔17.4〕 口径：〔20.9〕	にぶい 赤褐 5YR5/4	白色粒子・黒色 粒子・長石	良好	いわゆる武蔵型甕／口縁部から胴部上半 ／外面胴部最大径以下，縦削り／胴部最 大径以上斜位及び横削り／内面横ナデ／ 口縁部外面強い横ナデ	覆土 (床面～ 37cm)
第58図3	土師器 甕	器高：〔7.8〕 口径：〔13.4〕	にぶい 赤褐 5YR5/3	白色粒子・黒色 粒子・長石	良好	いわゆる武蔵型甕／口縁部から胴部上半 ／胴部外面斜位及び横削り／内面横ナデ ／口縁部外面強い横ナデ	覆土 (床面上)

第22表 72号住居跡出土土器一覧（1）

図版番号	種別 器種	法量 (cm)	色調	胎土	焼成	製作の特徴等	出土位置
第58図4	須恵器 坏	器高：〔0.9〕 底径：6.5	褐灰 10YR6/1	白色粒子・黒色 粒子・白色針状 物質・小礫	良好	底部／ロクロ成形／底部外面回転糸切り 後、底部全面回転ヘラ削り／鳩山窯産	覆土
第58図5	須恵器 坏	器高：〔4.2〕 口径：〔13.5〕 底径：〔8.0〕	灰白 2.5Y7/1	白色粒子・黒色 粒子・白色針状 物質・小礫	良好	ロクロ成形／底部外面回転糸切り後、周 辺部回転ヘラ削り／鳩山窯産	掘り方
第58図6	須恵器 坏	器高：4.3 口径：12.1 底径：7.1	灰白 2.5Y7/1	白色粒子・黒色 粒子	良好	ロクロ成形／底部外面回転糸切り後、周 辺部回転ヘラ削り／東金子窯産	掘り方
第58図7	須恵器 甕	器高：〔5.4〕 底径：〔10.2〕	暗灰黄 2.5Y5/2	白色粒子・黒色 粒子・小礫	良好	ロクロ成形／東金子窯産	覆土
第58図8	須恵器 甕	—	灰 5Y6/1	白色粒子・黒色 粒子	良好	外面斜位に平行タタキ目、内面横ナデ／ 東金子窯産	覆土 (14 cm)
第58図9	土師器 甕	—	橙 5YR6/6	白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子・ 石英・チャート	良好	口縁部破片／口縁部内外面強い横ナデ	覆土 (38 cm)
第58図10	小口径 羽口	器高：〔4.9〕 口径：〔1.7〕 底径：〔7.2〕	褐灰 10YR 5/1	白色粒子・黒色 粒子・砂粒	良好	先端にガラス質滓の付着が見られる／そ れ以下が被熱により酸化している	覆土 (床面上)

第22表 72号住居跡出土土器一覧(2)

73号住居跡

遺 構 (第59図)

[位 置] (B-3) グリッド。

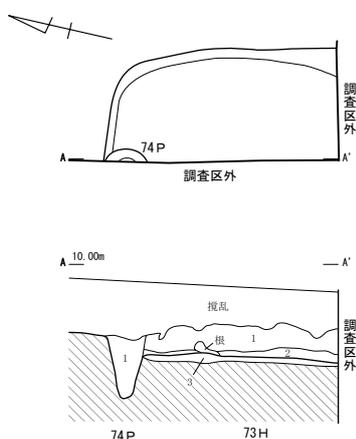
[住居構造] 北東隅付近が検出されたが、その他は調査区外に位置する。平面形：隅丸方形を基調とするものと思われる。規模：1.80 m以上×1.20 m以上。主軸方位：不明。壁高：0.32 m。壁溝：検出されなかった。床面：平坦である。床面レベル：9.22～9.28 m。カマド：調査区外に位置すると思われる。柱穴：検出されなかった。貯蔵穴：検出されなかった。

[覆 土] 2層に分層される。自然堆積を基本とする。

[時 期] 平安時代(9世紀後葉)。

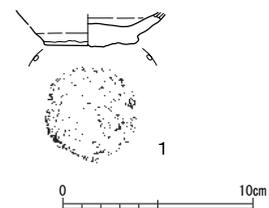
遺 物 (第60図、第23表)

1は須恵器坏形土器で底部に回転糸切り痕を残す。



第59図 73号住居跡(1/60)

73号住居跡
 1層 極暗褐色土 粘性なし、しまりなし。φ10～15mmのロームブロックを微量に、φ5～10mmのローム粒子を均一に微量に含む。
 2層 暗褐色土 粘性なし、しまりなし。φ10～30mmのロームブロックを斑状に少量、φ5～10mmのローム粒子を微量に含む。
 3層 暗褐色土 粘性あり、しまりあり。ロームブロックを斑状に、φ5～10mmのローム粒子を均一に多く含む。掘り方埋土。
 74P
 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5～10mmのローム粒子を均一に少量含む。



第60図 73号住居跡出土遺物(1/4)

図版番号	種別 器種	法量 (cm)	色調	胎土	焼成	製作の特徴等	出土位置
第60図1	須恵器 坏	器高：[1.7] 底径：4.8	灰黄褐 10YR5/2	白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子	良好	ロクロ成形／底部外面回転糸切り痕を残す／東金子窯産	覆土

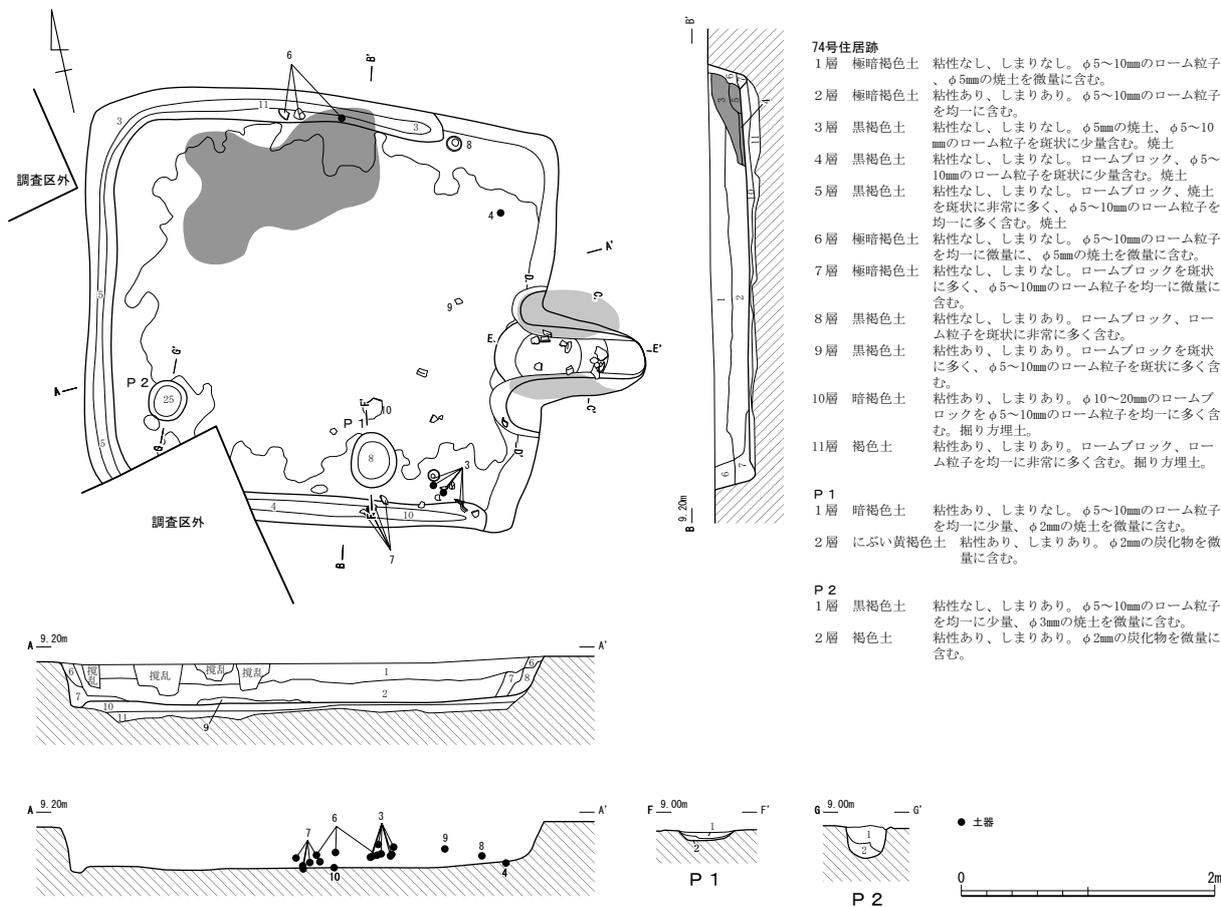
第23表 73号住居跡出土土器一覧

74号住居跡

遺 構 (第61・62図)

[位 置] (E-7) グリッド。

[住居構造] ほぼ全体を調査した。平面形：隅丸方形を基調とするものと思われる。規模：3.73 × 3.38 m。主軸方位：N-73°-W。壁高：0.33 m。壁溝：東壁および北壁の東側の一部を除き認められる。幅は0.17~0.23 mで、深さ0.03~0.11 mである。床面：貼床がなされ平坦である。住居跡ほぼ全面に硬化面が認められる。床面レベル：8.68~8.72 m。カマド：東壁中央に付設されている。袖はロームを掘り残し、そこに粘土を貼り構築している。天井部は遺存していない。底面は住居床面を掘り窪め、焚口側が深く、奥壁は緩やかに立ち上がる。煙道部の立ち上がりの角度は急角度である。カマドの主軸は住居のそれより、やや左に傾いて築いている。柱穴：2本検出された。P1は規模0.44 × 0.36 m深さ0.08 m、P2は規模0.32 × 0.30 m深さ0.25 mである。貯蔵穴：検出されなかった。



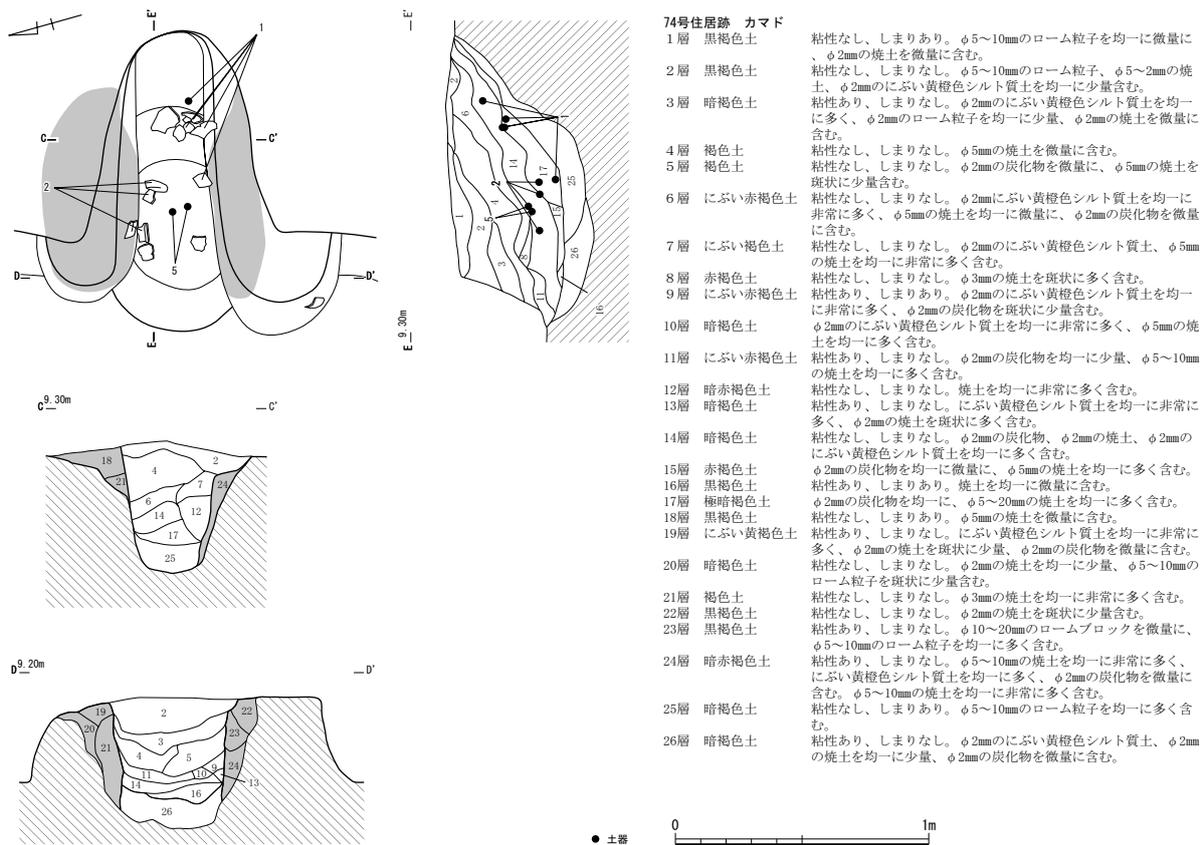
第61図 74号住居跡1 (1/60)

[覆 土] 11層に分層される。自然堆積を基本としている。北壁中央付近に、住居廃絶後、焼土の三角堆積が認められる。10・11は掘り方埋土。

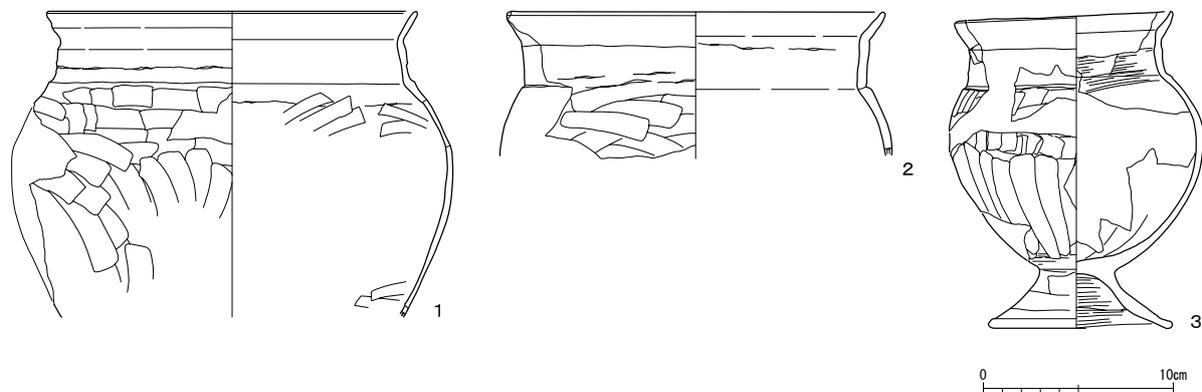
[時 期] 平安時代（9世紀後葉）。

遺 物（第63・64図、第24表）

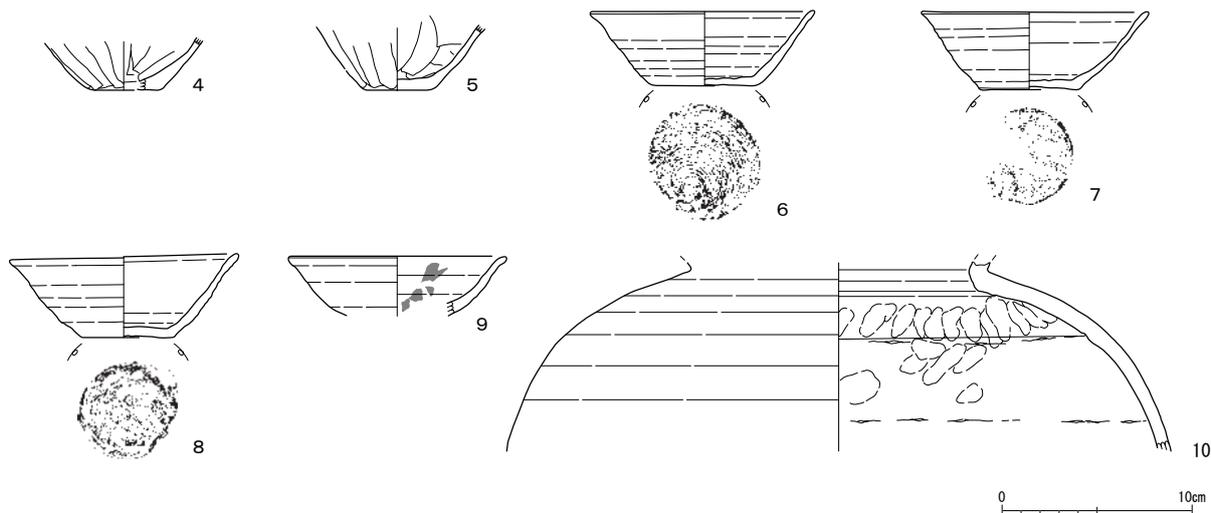
1・2・4・5は土師器甕形土器で外面は削られる。3は土師器の小型台付甕である。6～9は須恵器坏形土器で、6～8は底部回転糸切り痕を残す。9は内面にタール状の付着物が付く。10は須恵器甕形土器である。



第62図 74号住居跡2（1/30）



第63図 74号住居跡出土遺物1（1/4）



第64図 74号住居跡出土遺物2 (1/4)

図版番号	種別 器種	法量 (cm)	色調	胎土	焼成	製作の特徴等	出土位置
第63図1	土師器 甕	器高：[16.2] 口径：(19.3)	明赤褐 2.5YR5/6	白色粒子・黒色 粒子	良好	いわゆる武蔵型甕／口縁部から胴部上半／外面胴部最大径以下斜位及び縦削り／胴部最大径以上斜位及び横削り／内面横ナデ／口縁部内外面強い横ナデ／外面胴部に粘土の付着が認められる	カマド (床面～ 30 cm)
第63図2	土師器 甕	器高：[7.7] 口径：(19.8)	明赤褐 2.5YR5/6	白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子	良好	いわゆる武蔵型甕／口縁部から胴部上半破片／外面胴部横及び斜位の削り／内面横ナデ／口縁部内外面強い横ナデ	カマド (9～ 11 cm)
第63図3	土師器 台付甕	器高：16.6 口径：11.4 底径：9.5	褐 7.7YR4/3	白色粒子・黒色 粒子・長石	良好	外面胴部下半部縦削り後、胴部上半横削り／内面斜位のナデ／口縁部内外面強い横ナデ／台部内外面横ナデ	覆土 (9～ 22 cm)
第64図4	土師器 甕	器高：[2.6] 底径：(3.8)	黒褐 5YR2/1	白色粒子・黒色 粒子・長石	良好	底部／外面縦削り／内面横ナデ	覆土 (床面)
第64図5	土師器 甕	器高：[3.2] 底径：3.4	にぶい褐 7.5YR5/4	白色粒子・黒色 粒子・長石	良好	底部／外面斜位の削り／内面横ナデ	カマド (12～ 15 cm)
第64図6	須恵器 坏	器高：4.0 口径：11.7 底径：5.4	灰黄褐 10YR4/2	白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子・ 白色針状物質・ 小礫	普通	部分的に赤焼け／ロクロ成形／底部外面回転糸切り痕を残す／鳩山窯産	覆土 (10～ 15 cm)
第64図7	須恵器 坏	器高：4.1 口径：11.9 底径：5.2	灰黄褐 10YR6/2	白色粒子・黒色 粒子・小礫	良好	ロクロ成形／底部外面回転糸切り痕を残す／東金子窯産	覆土 (床面～ 15 cm)
第64図8	須恵器 坏	器高：4.2 口径：12.0 底径：4.8	にぶい黄橙 10YR7/4	白色粒子・黒色 粒子・小礫	普通	ロクロ成形／底部外面回転糸切り痕を残す／東金子窯産	覆土 (7 cm)
第64図9	須恵器 坏	器高：[3.2] 口径：(11.4)	橙 7.5YR7/6	黒色粒子・小礫	良好	ロクロ成形／内面タール状の付着物が認められる／東金子窯産	覆土 (17 cm)
第64図10	須恵器 甕	器高：[10.1]	灰オリーブ 5Y5/2	白色粒子・黒色 粒子・白色針状 物質・小礫	良好	胴部上半破片／外面カキ目を残す／内面横ナデ／輪積痕、成形時の指頭痕を残す／鳩山窯産	覆土 (床面上)

第24表 74号住居跡出土土器一覧

75号住居跡

遺 構 (第56・57図)

[位 置] (A-4・5) グリッド。

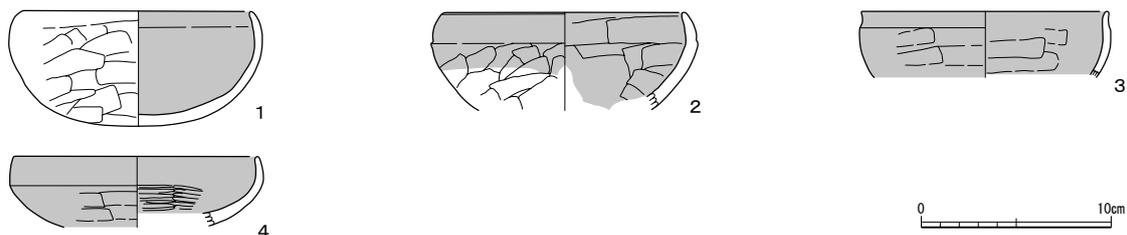
[住居構造] 北側は調査区外に位置し、東側及び南側は攪乱される。南側で72Hと重複しそれより古い。平面形：方形を基調とするものと思われる。規模：4.38×4.32m。主軸方位：不明。壁高：0.12m。壁溝：東側で確認された。幅は0.12～0.20mで、深さ0.03～0.11mである。床面：平坦である。床面レベル：9.15～9.20m。カマド：南東壁に付設されたものと思われるが、袖等は残っておらず、焼土範囲の確認であった。これを燃焼部と考えると、床面とほぼ同一レベルである。P1の上部にも焼土が認められることから、住居の廃絶にあたり、カマドを大きく破壊した可能性が高い。柱穴：2本検出された。いずれも主柱穴と思われる。P1は規模0.50×0.45m深さ0.20m、P2は規模0.35m以上×0.51m深さ0.56mである。貯蔵穴：検出されなかった。

[覆 土] 4層に分層される。自然堆積を基本としている。

[時 期] 古墳時代後期(5世紀後葉)。

遺 物 (第65図、第25表)

1から4は土師器環形土器である。1は内面を、2は内面及び口縁外面を、3・4は内外面を赤彩される。



第65図 75号住居跡出土遺物(1/4)

図版番号	種別 器種	法 量 (cm)	色調	胎土	焼成	製作の特徴等	出土位置
第65図1	土師器 環	器高：4.4 口径：(8.0)	にぶい橙 7.5YR6/4	白色粒子・黒色 粒子・小礫	良好	底部外面中心部へラ削り後、周辺部へラ削り／口縁部内外面横ナデ／内面赤彩	覆土
第65図2	土師器 環	器高：[5.2] 口径：(12.6)	明赤褐 2.5YR5/6	白色粒子・黒色 粒子・チャート・ 小礫	良好	底部外面周辺部へラ削り／内面横ナデ／口縁部内外面横ナデ／内面及び口縁部外面赤彩	覆土
第65図3	土師器 環	口径：(13.0) 器高：(3.8)	橙 5YR7/6	黒色粒子 赤色粒子	良好	底部内外面横ナデ後、口縁部内外面横ナデ	覆土
第65図4	土師器 環	口径：(13.0) 器高：(3.5)	にぶい赤褐 5YR5/4	白色粒子 黒色粒子・石英	良好	外面胴部へラ削り後、横ナデ／内面横ミガキ／その後口縁部内外面強い横ナデ／内外面赤彩	覆土

第25表 75号住居跡出土土器一覧

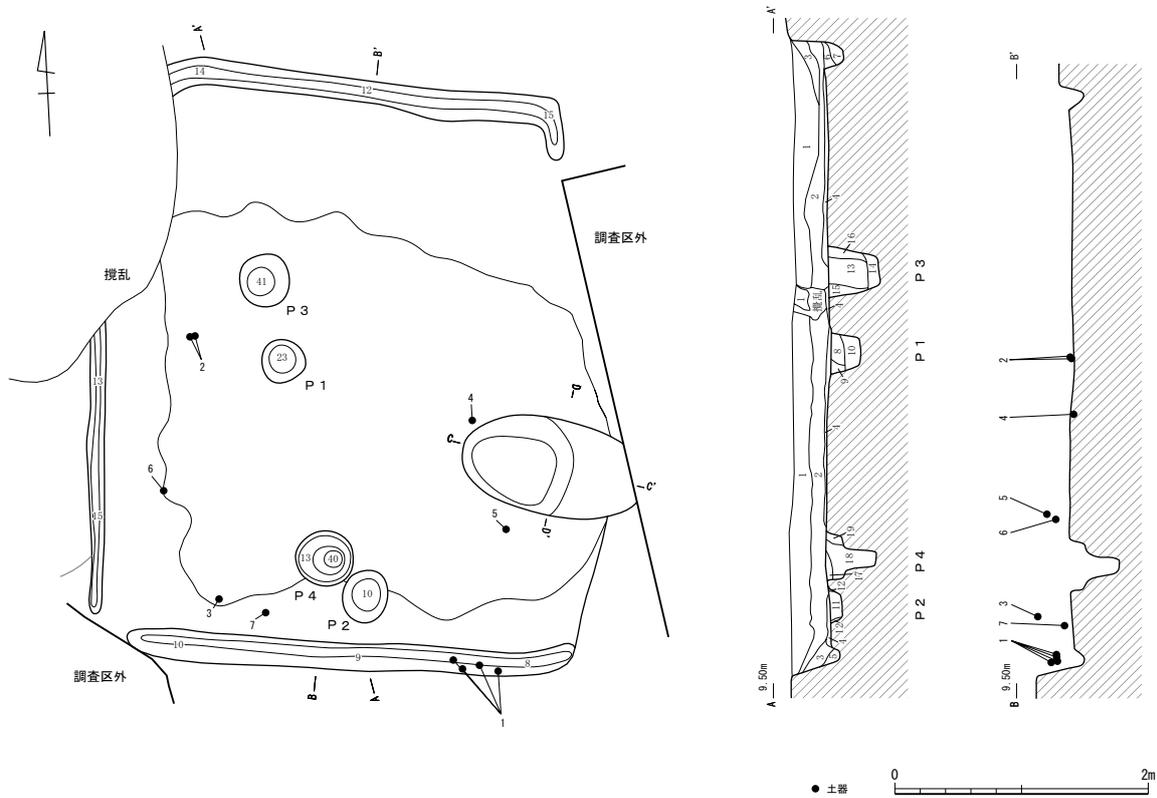
76号住居跡

遺 構 (第66・67図)

[位 置] (A・B-5) グリッド。

[住居構造] 北西隅部分は攪乱され、北東部分が調査区外に位置する。平面形：方形を基調とするものと思われる。規模：4.71 × 4.26 m。主軸方位：N - 85° - W。壁高：0.24 m。壁溝：東壁及び南東隅部分を除き認められる。幅 0.09 ~ 0.24 m で、深さ 0.07 ~ 0.16 m である。床面：平坦である。カマド部分から南・西壁付近にかけて硬化面が認められる。床面レベル：9.05 ~ 9.08 m。カマド：東壁中央やや南側に付設された。カマドは壊されており、掘り方の確認のみであった。底面は住居床面を浅く掘り込んでいる。カマドの主軸はの掘り込みから推して、住居の主軸に対してやや右に傾けて築かれている。柱穴：4本検出された。位置及び深さから P 3・4 が主柱穴で、そのほかは補助的な柱穴と思われる。P 1 は規模 0.34 × 0.34 m 深さ 0.23 m、P 2 は規模 0.42 × 0.35 m 深さ 0.10 m、P 3 は規模 0.41 × 0.39 m 深さ 0.40 m、P 4 は規模 0.46 × 0.44 m 深さ 0.40 m である。貯蔵穴：検出されなかった。

[覆 土] 7層に分層される。自然堆積を基本としている。



76号住居跡

- 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ20~30mmのにぶい黄橙色シルト質土、φ5~10mmの炭化物、φ5~10mmのローム粒子を微量に含む。
- 2層 極暗褐色土 粘性なし、しまりあり。ロームブロックを斑状に非常に多く、φ5~10mmのローム粒子、φ5~10mmの焼土を均一に少量含む。
- 3層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5mmの焼土を微量に、φ5~10mmのローム粒子を含む。
- 4層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。ロームブロックを斑状に非常に多く、φ5~10mmのローム粒子を斑状に、φ5mmの焼土を微量に含む。
- 5層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。ロームブロック、ローム粒子を斑状に多く含む。
- 6層 極暗褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5~10mmのローム粒子を斑状に少量、φ5mmの焼土を微量に含む。
- 7層 褐色土 ロームブロック、ローム粒子を均一に非常に多く含む。
- P 1 8層 極暗褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5~10mmのローム粒子を均一に多く、ロームブロック、にぶい黄橙色シルト質土を斑状に非常に多く、φ5mmの焼土を微量に含む。
- 9層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5~10mmのローム粒子、にぶい黄橙色シルト質土を微量に含む。
- 10層 極暗褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5~10mmのローム粒子を均一に、にぶい黄橙色シルト質土を均一に微量に含む。

P 2

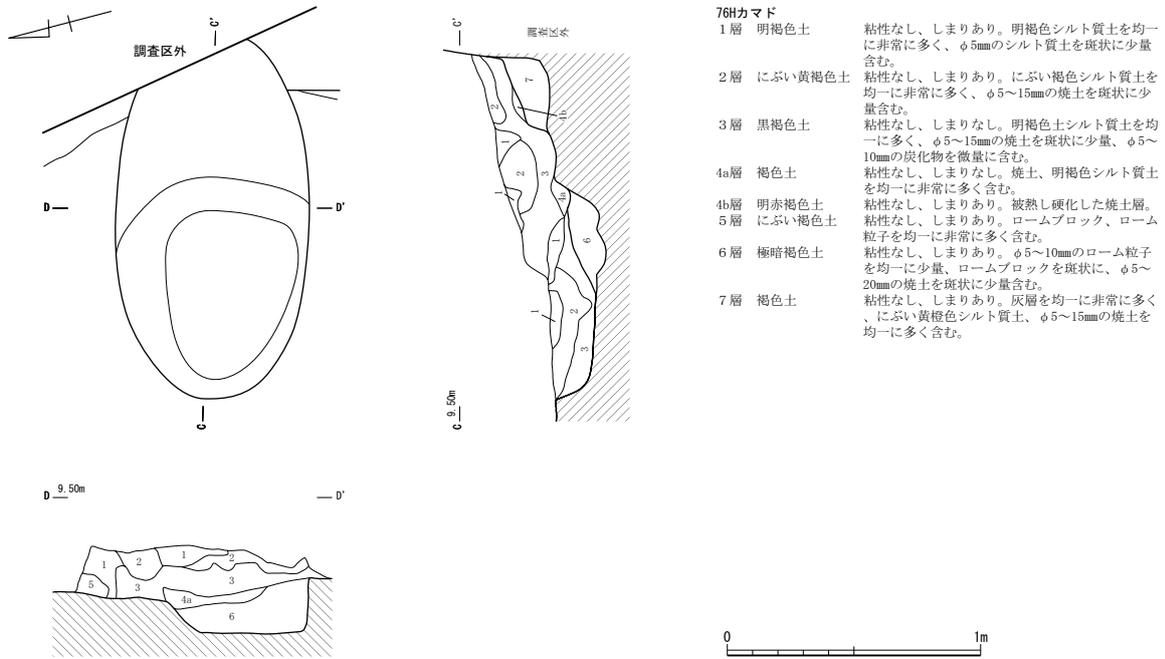
- 11層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5~10mmのローム粒子を均一に多く、φ5mmのにぶい黄橙色シルト質土、φ10~20mmのロームブロック、φ5~10mmの焼土を微量に含む。
- 12層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5~10mmのローム粒子を均一に少量、ロームブロックを斑状に多く、φ5mmの焼土を微量に含む。
- P 3 13層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5mmのローム粒子を均一に含む。
- 14層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。ロームブロック、ローム粒子を斑状に多く含む。
- 15層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5~10mmのローム粒子を均一に多く含む。
- 16層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ10~30mmのロームブロックを斑状に多く、φ5~10mmのローム粒子を斑状に、φ3mmの焼土を微量に含む。
- P 4 17層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ2mmの焼土、φ5mmのローム粒子を微量に含む。
- 18層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。φ5~10mmのローム粒子を均一に多く含む。
- 19層 黒褐色土 粘性なし、しまりあり。ロームブロック、ローム粒子を均一に多く含む。

第66図 76号住居跡1 (1/60)

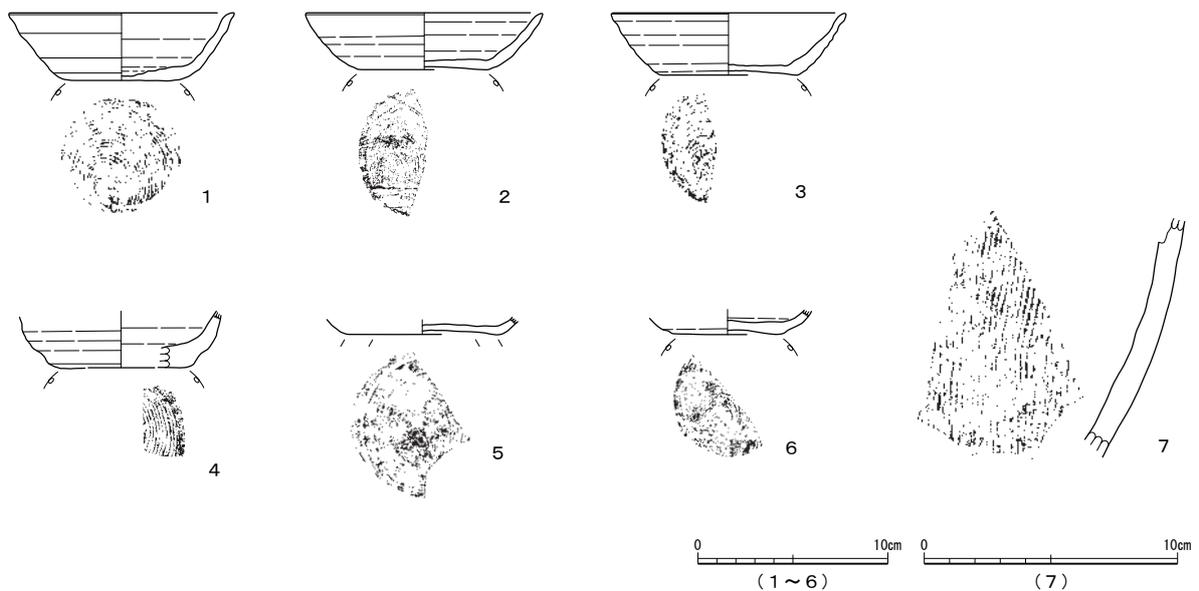
[時期] 平安時代（9世紀前葉）。

遺物（第68図、第26表）

1～6は須恵器坏形土器である。3は回転糸切り後、周辺部を回転ヘラ削りする。それ以外は底部に回転糸切り痕を残す。7は須恵器甕形土器の胴部である。



第67図 76号住居跡2（1／30）



第68図 76号住居跡出土遺物（1／4・1／3）

図版番号	種別 器種	法 量 (cm)	色調	胎土	焼成	製作の特徴等	出土位置
第 68 図 1	須恵器 坏	器高：3.6 口径：11.8 底径：5.5	黄灰 2.5Y5/1	白色粒子・赤色 粒子・小礫	良好	ロクロ成形／底部内面と胴部境が凹線状に窪む／底部外面に回転糸切り痕を残す／東金子窯産	覆土 (15～ 21 cm)
第 68 図 2	須恵器 坏	器高：3.0 口径：12.5 底径：6.0	褐灰 10YR5/1	白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子・ 小礫	良好	ロクロ成形／底部外面に回転糸切り痕を残す／東金子窯産	覆土 (床面)
第 68 図 3	須恵器 坏	器高：3.4 口径：12.3 底径：7.4	黄灰 2.5Y5/1	白色粒子・黒色 粒子・小礫	良好	ロクロ成形／底部外面に回転糸切り痕を残す／東金子窯産	覆土 (28 cm)
第 68 図 4	須恵器 坏	器高：3.0 底径：(7.0)	灰白 10YR7/1	白色粒子・黒色 粒子	良好	ロクロ成形／底部外面に回転糸切り痕を残す／東金子窯産	覆土 (床面上)
第 68 図 5	須恵器 坏	器高：[0.8] 底径：8.0	黄灰 2.5Y5/1	白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子・ 白色針状物質・ 小礫	良好	ロクロ成形／底部回転糸切り後、周辺部回転ヘラ削り／底部外面にヘラ描きによる窯印が見られる／鳩山窯産	覆土 (15 cm)
第 68 図 6	須恵器 坏	器高：[1.3] 底径：5.8	褐灰 10YR6/1	白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子・ 白色針状物質・ 小礫	良好	ロクロ成形／底部回転糸切り痕を残す／鳩山窯産	覆土 (20 cm)
第 68 図 7	須恵器 甕	—	黄灰 2.5Y5/1	白色粒子・黒色 粒子	良好	外面平行タタキ目を残す／内面強い横ナデにより当て具痕を消している／東金子窯産	覆土 (7 cm)

第 26 表 76 号住居跡出土土器一覧

77 号住居跡

遺 構 (第 69 図)

[位 置] (D-7) グリッド。

[住居構造] 25 Y と重複し、それより新しい。全体の 1/2 程を調査したと思われ、東側は調査区外に位置する。平面形：長方形を基調とするものと思われる。規模：2.94 m 以上 × 3.24 m 以上。主軸方位：N-37°-E。壁高：0.78 m。壁溝：壁が認められる部分で検出された。幅は 0.11～0.41 m で、深さ 0.07～0.14 m である。床面：貼床がなされ平坦である。床面レベル：8.74～8.80 m。カマド：調査区外に位置すると思われる。柱穴：検出されなかった。貯蔵穴：検出されなかった。

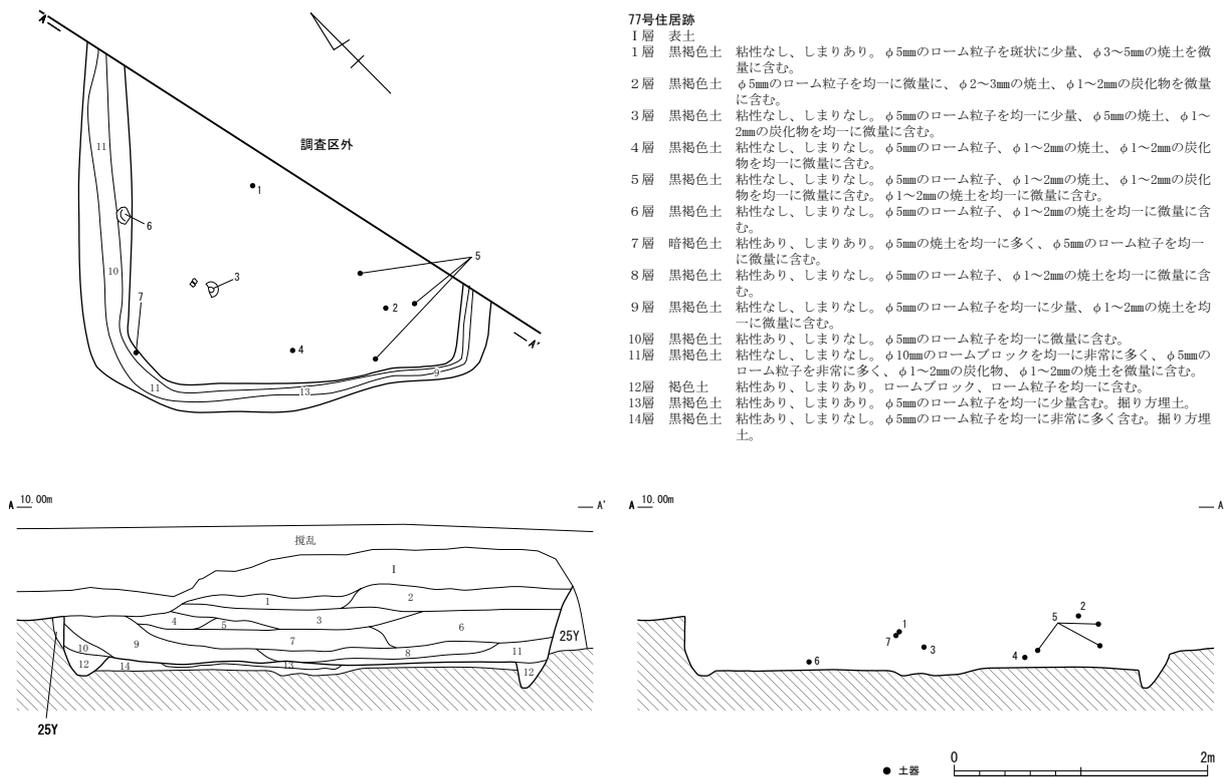
[覆 土] 14 層に分層される。自然堆積を基本として、上層の一部に掘り返しの跡が認められる。13・14 は掘り方埋土。

[時 期] 平安時代 (9 世紀後葉)。

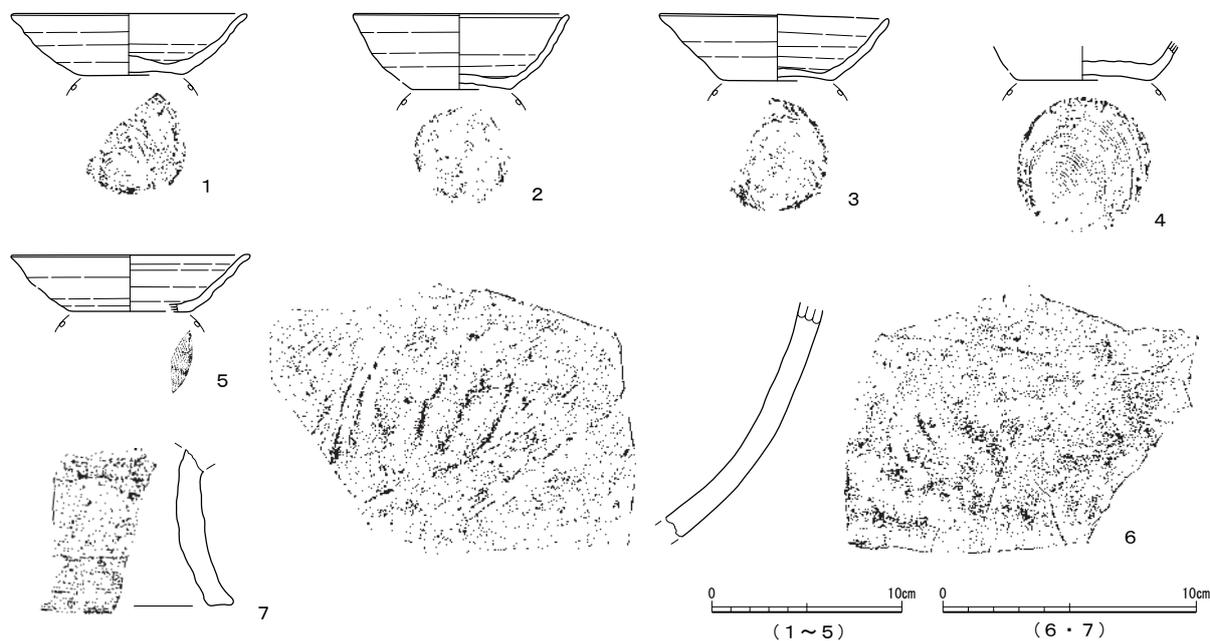
遺 物 (第 70 図、第 27 表)

1～5 は須恵器坏形土器でいずれも底部に回転糸切り痕を残す。6 は須恵器甕形土器の胴部破片である。7 は脚付き壺形土器の脚部と思われ、他時期の流れ込みと思われる。

第3章 検出された遺構と遺物



第69図 77号住居跡 (1 / 60)



第70図 77号住居跡出土遺物 (1 / 4・1 / 3)

図版番号	種別 器種	法量 (cm)	色調	胎土	焼成	製作の特徴等	出土位置
第70図1	須恵器 坏	器高：3.2 口径：12.3 底径：5.6	橙 5YR6/6	白色粒子・黒色 粒子・小礫	良好	ロクロ成形／底部外面回転糸切り痕を残す／赤焼け／東金子窯産	覆土 (27 cm)

第27表 77号住居跡出土土器一覧 (1)

図版番号	種別 器種	法量 (cm)	色調	胎土	焼成	製作の特徴等	出土位置
第70図2	須恵器 坏	器高：4.0 口径：11.3 底径：5.2	にぶい橙 7.5YR5/3	白色粒子・黒色 粒子・小礫	良好	ロクロ成形／外面下端カキ目状の筋が部分的に残る／底部外面回転糸切り痕を残す／東金子窯産	覆土 (40 cm)
第70図3	須恵器 坏	器高：3.5 口径：12.0 底径：5.8	橙 5YR6/6	白色粒子・黒色 粒子・チャート・ 小礫	良好	ロクロ成形／底部外面回転糸切り痕を残す／赤焼け／東金子窯産	覆土 (15 cm)
第70図4	須恵器 坏	器高：〔1.8〕 底径：7.2	にぶい 黄橙 10YR6/3	白色粒子・黒色 粒子・小礫	良好	底部／ロクロ成形／外面回転糸切り痕を残す／東金子窯産	覆土 (7 cm)
第70図5	須恵器 坏	器高：3.0 口径：(12.5) 底径：(6.2)	濁灰 10YR5/1	白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子	良好	ロクロ成形／底部外面回転糸切り痕を残す／東金子窯産	覆土 (12～ 33 cm)
第70図6	須恵器 甕	—	濁灰 7.5YR4/1	白色粒子・黒色 粒子・白色針状 物質・小礫	良好	外面斜位の平行タタキ目の後、横ナデ／内面横ナデし、当て具痕がほとんど消されている／鳩山窯産	覆土 (床面上)
第70図7	須恵器 壺	—	濁灰 7.5YR5/1	白色粒子・黒色 粒子・石英	良好	脚部破片か／ロクロ成形	覆土 (24 cm)

第27表 77号住居跡出土土器一覧(2)

78号住居跡

遺 構 (第71図)

[位 置] (A-4) グリッド。

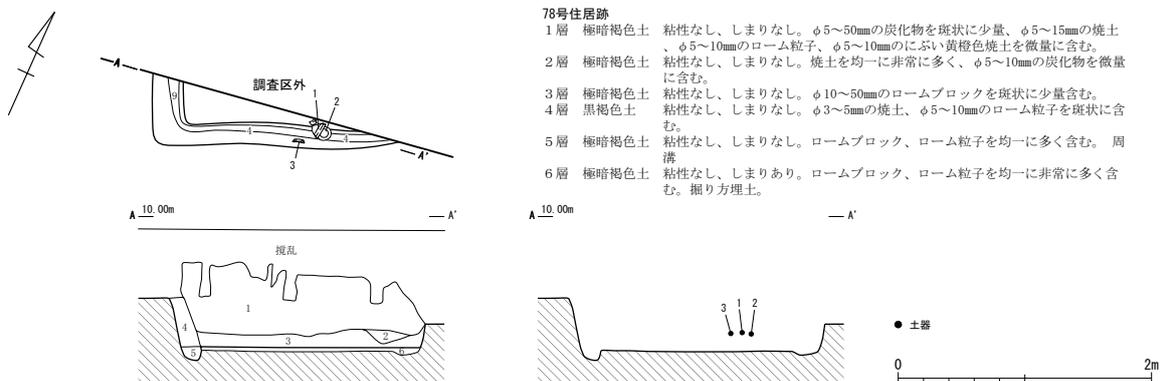
[住居構造] 南西隅周辺を調査したのみで、大半は調査区外に位置する。平面形：方形を基調とするものと思われる。規模：1.92m以上×0.57m以上。主軸方位：不明。壁高：0.48 m。壁溝：壁が認められた部分では検出された。幅は0.03～0.10 mで、深さ0.03～0.09 mである。床面：貼床がなされ平坦である。床面レベル：8.95～8.98 m。カマド：調査区外に位置すると思われる。柱穴：検出されなかった。貯蔵穴：検出されなかった。

[覆 土] 5層に分層される。自然堆積を基本としている。6層が掘り方埋土。

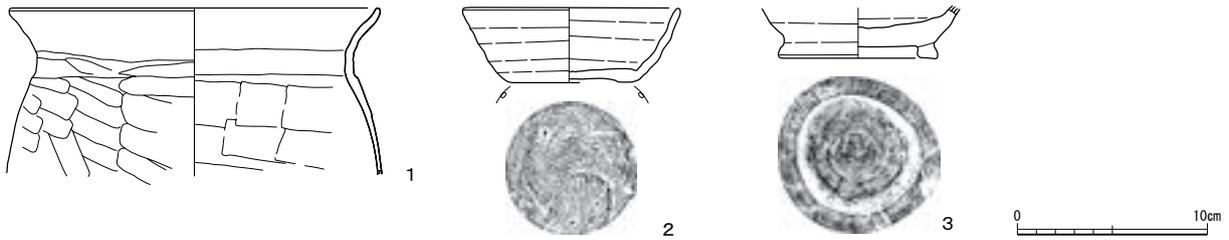
[時 期] 平安時代(9世紀中葉～後葉)。

遺 物 (第72図、第28表)

1は土器器甕形土器で外面が削られる。2は須恵器坏形土器で回転糸切り痕を残す。3は高台付坏形土器で回転糸切り後、高台部を貼り付ける。



第71図 78号住居跡(1/60)



第72図 78号住居跡出土遺物（1／4）

図版番号	種別 器種	法量 (cm)	色調	胎土	焼成	製作の特徴等	出土位置
第72図1	土師器 甕	器高：〔8.8〕 口径：〔19.1〕	にぶい橙 5YR6/4	白色粒子・黒色 粒子・長石	良好	口縁部から胴部上半破片／胴部外面横削り／内面横ナデ／口縁部内外面強い横ナデ	覆土 (13 cm)
第72図2	須恵器 坏	器高：4.0 口径：11.3 底径：6.0	褐灰 10YR6/1	白色粒子・小礫	良好	ロクロ成形／底部回転糸切り痕を残す／東金子窯産	覆土 (12 cm)
第72図3	須恵器 壺	器高：〔2.7〕 底径：8.2	灰 N6/1	白色粒子・黒色 粒子・小礫	良好	ロクロ成形／底部外面全面回転ヘラ削り／外面体部下端回転ヘラ削り／東金子窯産	覆土 (12 cm)

第28表 78号住居跡出土土器一覧

79号住居跡

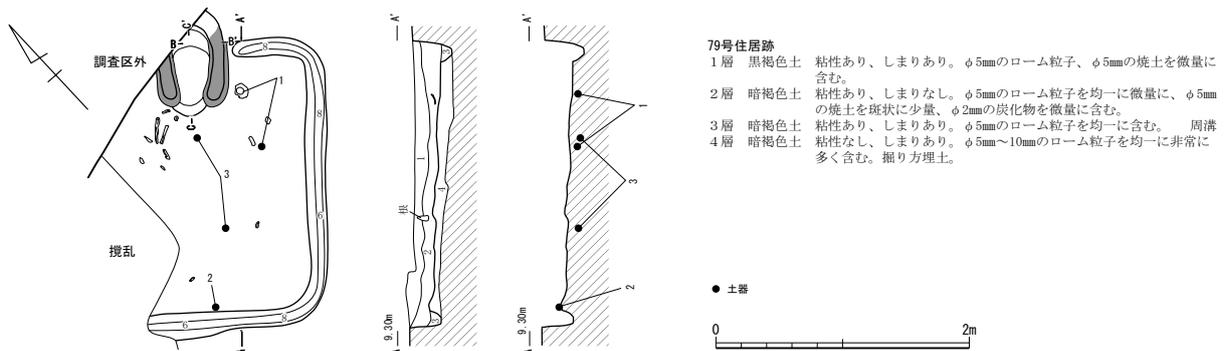
遺 構（第73・74図）

〔位 置〕（D-7・8）グリッド。

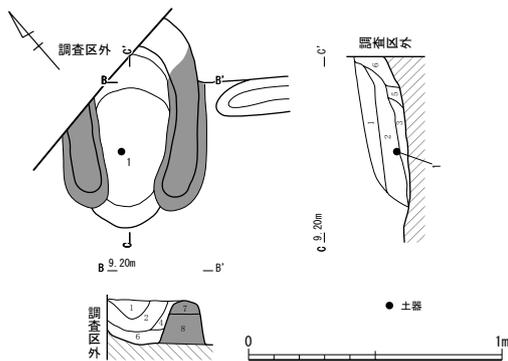
〔住居構造〕 西側を攪乱され、北西隅部分が調査区外に位置する。平面形：隅丸方形を基調とするものと思われる。規模：2.28 × 1.80 m以上。主軸方位：N - 52° - W。壁高：0.24 m。壁溝：幅は0.12 ~ 0.21 mで、深さは0.06 ~ 0.08 mである。床面：貼床がなされるが、やや凹凸が認められる。床面レベル：9.03 ~ 9.09 m。カマド：北東壁中央付近に付設された。カマドの主軸は住居の主軸方位とほぼ等しい。天井部は遺存しておらず、袖部のみ確認であった。底面は住居床面を僅かに掘り込んでいる。奥壁の立ち上がりは、確認できた範囲では非常に緩やかである。柱穴：検出されなかった。貯蔵穴：検出されなかった。

〔覆 土〕 4層に分層される。自然堆積を基本としている。4層が掘り方埋土。

〔時 期〕 平安時代（9世紀後葉）。

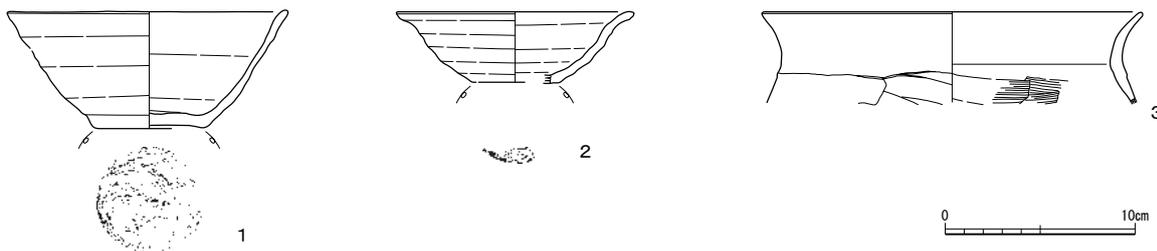


第73図 79号住居跡1（1／60）



- 79号住居跡 カマド
- 1層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5mmのローム粒子を均一に少量、φ2mmの焼土を均一に微量に、φ2mmの炭化物を微量に含む。
 - 2層 暗褐色土 粘性なし、しまりあり。φ2mmのにぶい黄橙色焼土を均一に多く、φ3mmの焼土を均一に少量、φ2mmの炭化物を斑状に少量含む。
 - 3層 黒褐色土 粘性なし、しまりなし。φ5mmの焼土を均一に多く、φ2mmのにぶい黄橙色焼土、φ2mmの炭化物を微量に含む。
 - 4層 暗褐色土 粘性あり、しまりあり。φ5mmの焼土、φ5mmのローム粒子を微量に含む。
 - 5層 黒褐色土 粘性あり、しまりなし。φ5mmのローム粒子を微量に含む。
 - 6層 暗褐色土 粘性あり、しまりあり。φ5mmのローム粒子、φ2mmの焼土、φ2mmの炭化物を均一に微量に含む。
 - 7層 黒褐色土 φ2mmのにぶい黄橙色シルト質土を均一に少量、φ2mmの焼土を微量に含む。
 - 8層 暗褐色土 φ2mmの焼土、にぶい黄橙色シルト質土を均一に少量、φ5mmのローム粒子を均一に微量に含む。

第74図 79号住居跡2 (1/30)



第75図 79号住居跡出土遺物 (1/4)

図版番号	種別器種	法量 (cm)	色調	胎土	焼成	製作の特徴等	出土位置
第75図1	須恵器 杯	器高：6.2 口径：14.6 底径：5.8	灰黄褐 10YR6/2	白色粒子・黒色 粒子・小礫	良好	ロクロ成形／底部外面回転糸切り痕を残す／中央部にへら状工具による擦痕が認められる／東金子窯産	覆土 (床面上)
第75図2	須恵器 杯	器高：3.7 口径：(12.4) 底径：(4.5)	褐灰 7.5YR5/1	白色粒子・黒色 粒子・小礫	良好	口縁部破片／ロクロ成形／底部回転糸切り痕を残す／東金子窯産	覆土 (床面上)
第75図3	土師器 甕	器高：[4.8] 口径：(20.0)	にぶい橙 7.5YR6/4	白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子・ 長石	良好	いわゆる武蔵型甕／口縁部から胴部上半／胴部上半斜位の削り後、口縁部内外面強い横ナデ	覆土 (床面上)

第29表 79号住居跡出土土器一覧

遺物 (第75図、第29表)

1・2は須恵器杯形土器で底部に回転糸切り痕を残す。3は土師器甕形土器で胴部外面が削られる。

80号住居跡

遺構 (第76・77図)

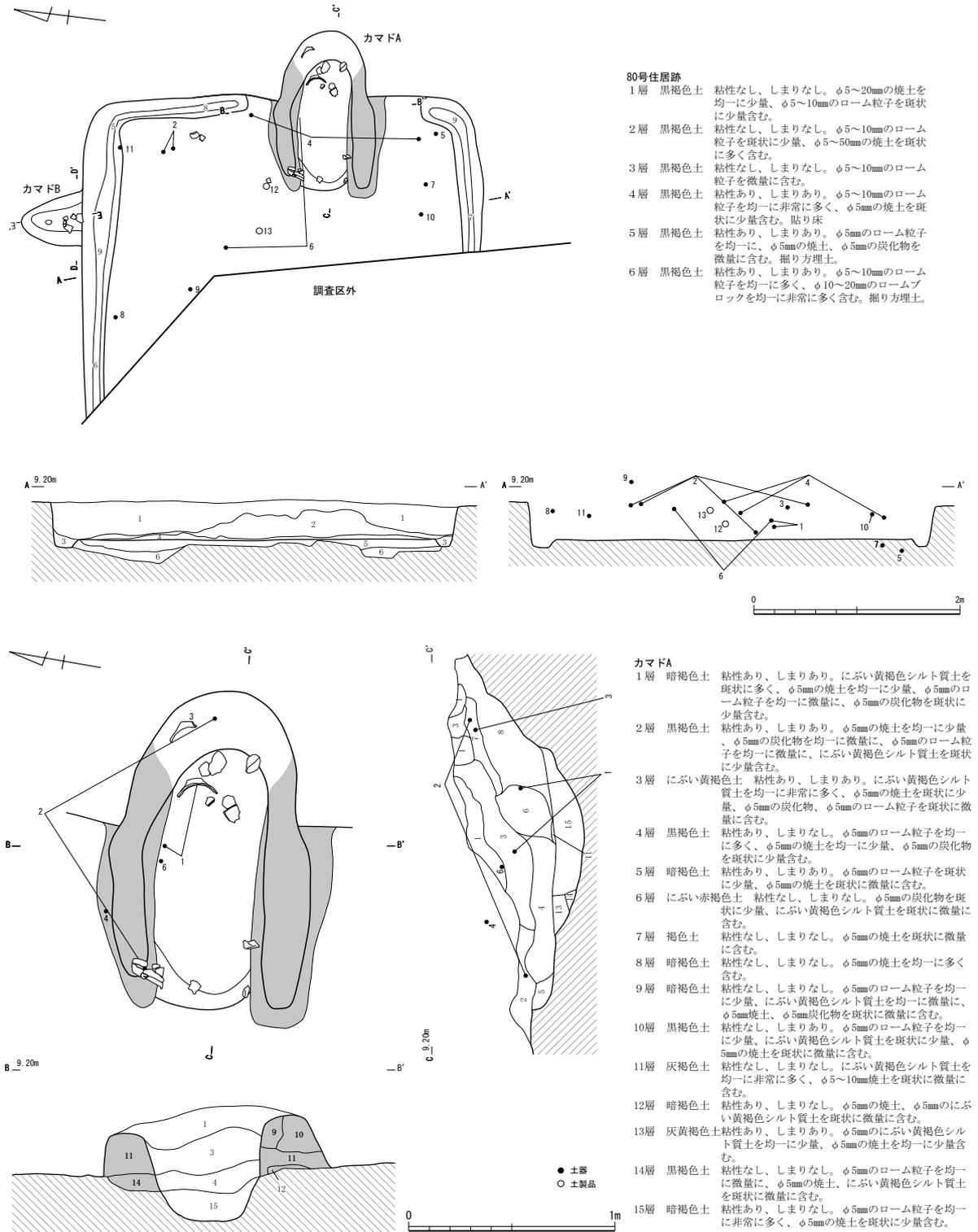
[位置] (D-7) グリッド。

[住居構造] 25 Yと重複し、それより新しい。西側は調査区外に位置する。平面形：長方形を基調とするものと思われる。規模：2.28 m以上×3.90 m。主軸方位：N-84°-W。壁高：0.39 m。壁溝：東壁カマド付近を除き検出された。幅は0.19～0.38 mで、深さ0.06～0.10 mである。床面：貼床がなされ平坦である。床面レベル：8.66～8.69 m。カマド：北壁中央やや東側と東壁中央付近に付設された。カマドBが古く、カマドAが新しい。カマドBは煙道部の掘り方のみ遺存し、緩やかな立ち上がりした後、内湾しながら急角度で立ち上がる。カマドAは天井部は崩落し、袖部のみ確認できた。底面は住居床面を浅く掘り込んでいた。奥壁は斜めに立ち上がるが、カマドBのように角度の

急変化は認められない。カマドBは掘り方も不明であるが、煙道部の残りから住居の軸に対してやや左に傾けて築いたと思われる。カマドAの主軸は住居のそれとほぼ等しい。柱穴：検出されなかった。貯蔵穴：検出されなかった。

[覆 土] 6層に分層される。自然堆積を基本としている。5・6層が掘り方埋土。

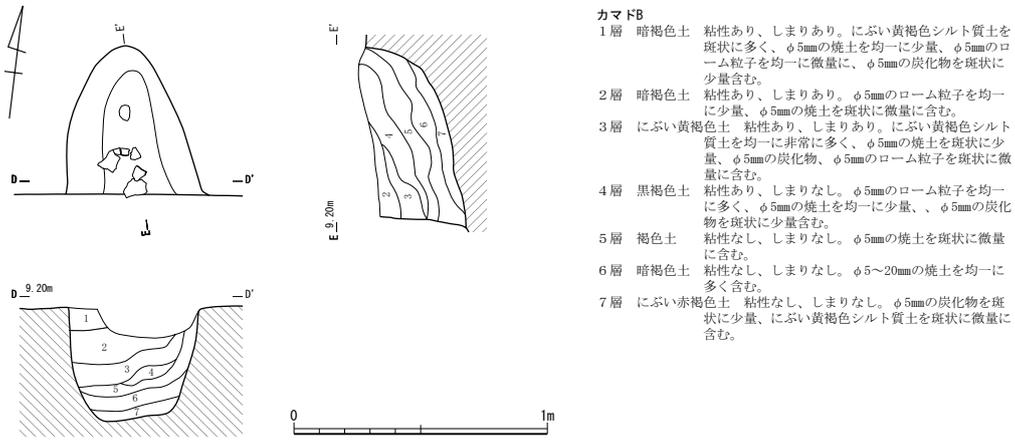
[時 期] 平安時代（9世紀前葉）。



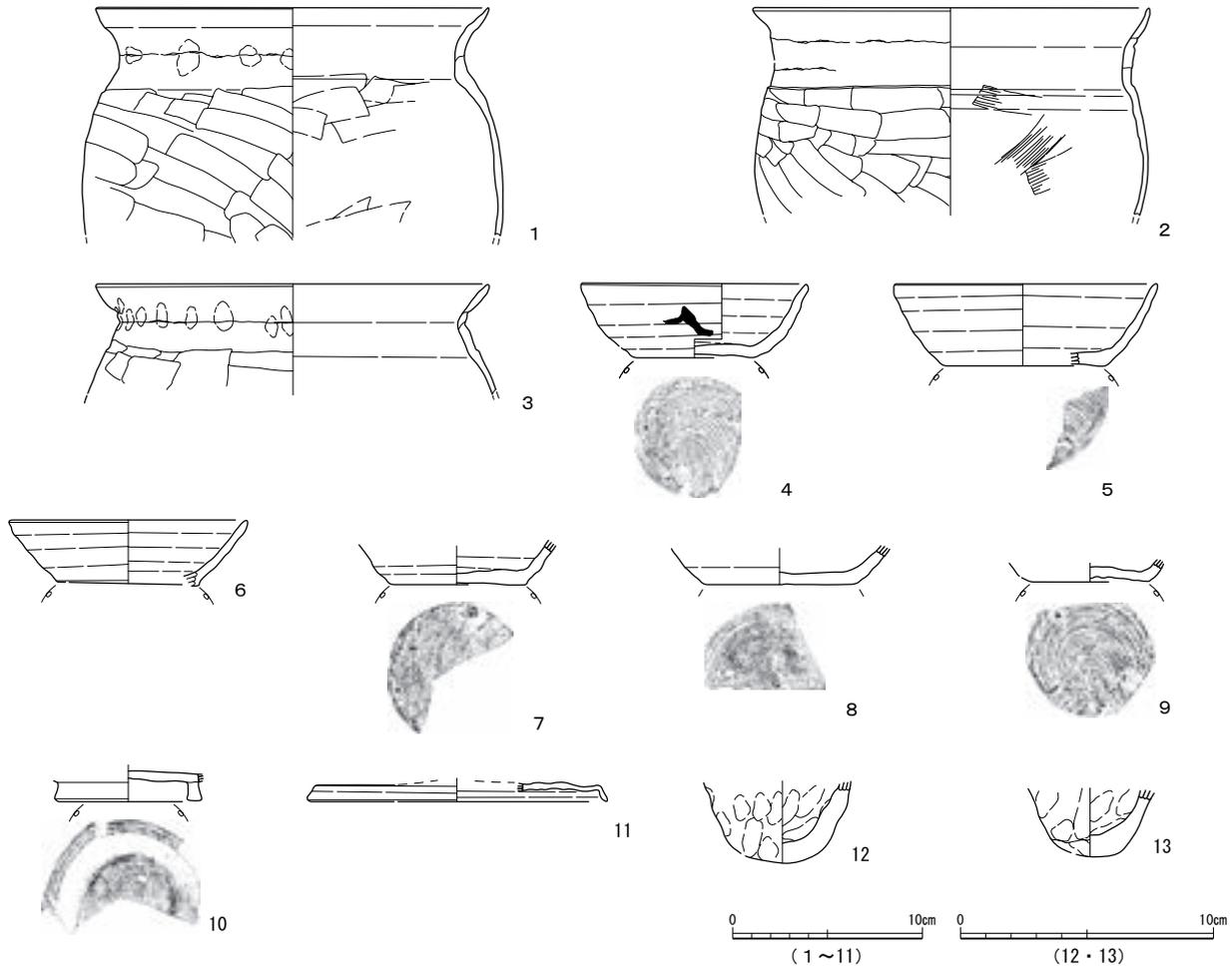
第76図 80号住居跡1 (1/60・1/30)

遺物 (第78図、第30表)

1～3は土師器甕形土器で、1・2は口縁部が受け口状を呈する。いずれも胴部が削られる。4～9は須恵器坏形土器で底部に回転糸切り痕を残す。10は高台付坏形土器で回転糸切り後、高台部を貼り付ける。11は須恵器蓋形土器。12・13は手捏のミニチュア土器と思われる。



第77図 80号住居跡2 (1/30)



第78図 80号住居跡出土遺物 (1/4・1/3)

第3章 検出された遺構と遺物

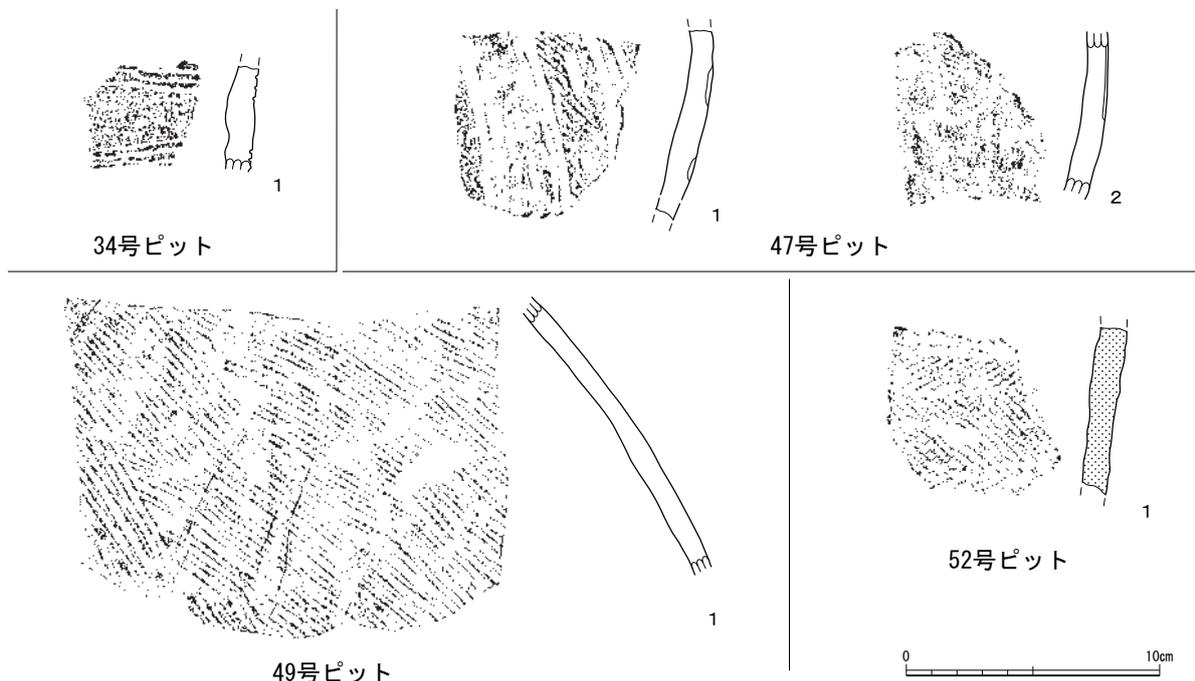
図版番号	種別 器種	法量 (cm)	色調	胎土	焼成	製作の特徴等	出土位置
第78図1	土師器 甕	器高：〔12.2〕 口径：(20.5)	にぶい橙 7.5YR7/4	白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子・ 長石	良好	いわゆる武蔵型甕／口縁部から胴部上半 破片／外面胴部上半斜位及び横削り／内 面横ナデ／口縁部内外面強い横ナデ／外 面頸部に成形時の指頭痕がやや残る	覆土 (15～ 20 cm)
第78図2	土師器 甕	器高：〔11.0〕 口径：(20.8)	橙 5YR6/6	白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子・ 長石	良好	いわゆる武蔵型甕／口縁部から胴部上半 ／外面胴部上半斜位の削り後、横削り／ 内面横ナデ／口縁部内外面強い横ナデ	カマド (9～ 36 cm)
第78図3	土師器 甕	器高：〔5.9〕 口径：(20.6)	橙 5YR6/6	白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子・ 長石	良好	いわゆる武蔵型甕／口縁部から胴部上半 破片／外面胴部上半横削り／口縁部内外 面強い横ナデ／外面頸部に成形時の指頭 痕を残す	覆土 (33 cm)
第78図4	須恵器 坏	器高：3.9 口径：11.8 底径：6.2	灰黄褐 10YR6/2	白色粒子・黒色 粒子・石英・白 色針状物質	良好	底部／ロクロ成形／底部回転糸切り痕を 残す／体部外面にカキ目状の擦痕が認め られる／外面口縁部直下に「入」？の墨 書が正位で書かれる／鳩山窯産	覆土 (24～ 39 cm)
第78図5	須恵器 坏	器高：4.4 口径：(13.8) 底径：(8.4)	灰黄褐 10YR6/2	白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子・ 小礫	良好	ロクロ成形／底部回転糸切り痕を残す／ 東金子窯産	覆土 (床面上)
第78図6	須恵器 坏	器高：3.4 口径：(12.4) 底径：(7.4)	にぶい 黄橙 10YR7/2	白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子	良好	ロクロ成形／東金子窯産	覆土 (21～ 32 cm)
第78図7	須恵器 坏	器高：〔2.1〕 底径：7.0	黄灰 2.5Y5/1	白色粒子・黒色 粒子・石英・小 礫	良好	底部／ロクロ成形／底部回転糸切り痕を 残す／東金子窯産	覆土 (床面上)
第78図8	須恵器 坏	器高：〔1.9〕 底径：7.8	灰白 2.5Y7/1	白色粒子・黒色 粒子	良好	ロクロ成形／底部外面回転糸切り後、回 転へら削り／体部下端回転へら削り／東 金子窯産	覆土 (30 cm)
第78図9	須恵器 坏	器高：〔1.0〕 底径：6.1	灰 5Y5/1	白色粒子・黒色 粒子・石英・白 色針状物質	良好	底部／ロクロ成形／底部回転糸切り痕を 残す／鳩山窯産	覆土 (58 cm)
第78図10	須恵器 高台付 坏	器高：〔1.7〕 底径：(7.0)	灰白 10YR7/1	白色粒子・黒色 粒子・白色針状 物質	良好	ロクロ成形／底部外面回転糸切り後、周 辺部回転へら削り／高台部貼り付け／底 部外面に墨痕が見られる／鳩山窯産	覆土 (27 cm)
第78図11	須恵器 蓋	器高：〔1.2〕 口径：(15.5) つまみ径： —	灰 N4/	白色粒子・赤色 粒子・白色針状 物質・小礫	良好	ロクロ成形／鳩山窯産	覆土 (25 cm)
第78図12	ミニ チュア	器高：〔3.1〕	にぶい 黄橙 10YR6/3	白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子・ チャート・長石	良好	底部破片／手捏ね／外面指頭痕を残し、 縮状の皺が見られる／内面ナデで平滑に 仕上げる	覆土 (17 cm)
第78図13	ミニ チュア	器高：〔2.6〕	にぶい 黄橙 10YR6/3	白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子・ チャート	良好	底部破片／手捏ね／外面指頭痕を残し、 縮状の皺が見られる／内面ナデ、やや凹 凸が残る	覆土 (31 cm)

第30表 80号住居跡出土土器一覧

第4節 ピット

(1) 概要

本調査区からは、103基のピットが検出されているが、掘立建物跡のような建物を構成するピットは把握することができなかった。遺物の出土は全体に希薄で、図化出来たものは34P・47P・49P・52Pの合計5点のみである。このうち、47P出土の縄文後期初頭土器片2点は、重複する185号土坑の遺物の混入と考えられる。他の遺物についても、積極的に遺構所産期を決定づける確証は持たないと考えられる。



第79図 ピット出土遺物 (1/3)

図版番号	遺構名	種別器種	色調	胎土	焼成	製作の特徴等	時期
第79図 34P-1	34P	深鉢	にぶい褐 7.5YR5/4	白色粒子	良好	半截竹管による併走する横位沈線文	縄文 前期 末葉
第79図 47P-1	47P	深鉢	にぶい黄橙 10YR7/4	雲母	良好	LR 縄文施文の後、単沈線による区画文と縦位の列点文	称名寺 II
第79図 47P-2	47P	深鉢	橙 7.5YR6/6	雲母	良好	LR 縄文施文の後、単沈線による区画文	称名寺 II
第79図 49P-1	49P	須恵器 甕	褐灰 7.5YR5/1	白色粒子・石英 微粒子・白色針 状物質	良好	外面に平行タタキ目/内面に押え板痕を残す/鳩山窯産	平安
第79図 52P-1	52P	深鉢	にぶい褐 7.5YR5/3	白色粒子・雲母 繊維	良好	単節結束羽状縄文	花積 下層

第31表 ピット出土土器一覧

第3章 検出された遺構と遺物

遺構名	グリッド	規模 (m) 長軸×短軸	長軸方位	遺構名	グリッド	規模 (m) 長軸×短軸	長軸方位
1P	D-3	0.36×0.20	N-3°-W	37P	B-3	0.36×0.22	N-25°-W
2P	D-2	0.32×0.22	N-40°-W	38P	A-4	0.20以上×0.34	N-25°-W
3P	D-3	0.40×0.36	N-66°-E	39P	A-4	0.32以上×0.52	N-12°-W
4P	C・D-3	0.54×0.48	N-66°-W	40P	B-3	0.28×0.26	N-5°-E
5P	D-3	0.44×0.40	N-50°-W	41P	B-4	0.58×0.54	N-7°-W
6P	D-3	0.32×0.30	N-51°-E	42P	B-3	0.64以上×0.72	N-87°-W
7P	D-3	0.28×0.26	N-25°-W	43P	B-4	1.06×0.98	N-17°-E
8P	A・B-3	0.54×0.46	N-10°-W	44P	A・B-3	0.56×0.36	N-2°-E
9P	A・B-3	0.68×0.64	N-83°-E	45P	B-3	0.33×0.30	N-87°-E
10P	B-5	0.4以上×0.5	N-83°-E	46P	D-6	0.46×0.32	N-89°-E
11P	B-3	0.52×0.48	N-50°-E	47P	B-4	0.61×0.50	N-29°-E
12P	B-3	0.62以上×0.58	N-13°-W	48P	B-4	0.70×0.68	N-89°-E
13P	B-3	0.70×0.54	N-16°-E	49P	D-6	0.28×0.24	N-22°-E
14P	B-3	0.56×0.40	N-88°-E	50P	B-3・4	0.40×0.33	N-1°-W
15P	B-3	0.48×0.32	N-82°-E	51P	D-6	0.54×0.42	N-16°-W
16P	B-3	0.42以上×0.40	N-51°-E	52P	B-4	0.60×0.40	N-88°-E
17P	C-5	0.56×0.38	N-86°-E	53P	A-4	0.32×0.26	N-1°-W
18P	B-3	0.48×0.42	N-14°-W	54P	B-4	0.74×0.52	N-47°-E
19P	C・D-5	0.60×0.48	N-60°-W	55P	A・B-3	0.58×0.44	N-69°-E
20P	B-2	0.24×0.16	N-71°-E	56P	B-4	0.84×0.74	N-65°-W
21P	D-7	0.66×0.64	N-15°-E	57P	A-4	0.46×0.40	N-6°-E
22P	A-3	0.80×0.48	N-47°-W	58P	A-3	0.36×0.32	N-6°-W
23P	A-3・4	0.66以上×0.52	N-10°-W	59P	D-5	0.34×0.32	N-69°-E
24P	A-3・4	0.56×0.38	N-79°-E	60P	B-4	0.32×0.16	N-30°-W
25P	A-4	0.64×0.44	N-29°-W	61P	B-4	0.55×0.42	N-56°-W
26P	D-6・7	0.40×0.34	N-9°-E	62P	B-4	0.36×0.28以上	N-25°-W
27P	D-7	0.52×0.44	N-25°-W	63P	C-5	0.50×0.46	N-85°-E
28P	B-2	0.56×0.42	N-10°-W	64P	D-5	0.36×0.32	N-62°-E
29P	B-3	0.28×0.24	N-22°-E	65P	D-5	0.26×0.24	N-65°-E
30P	B-3	0.36×0.28	N-28°-E	66P	C-5	0.56×0.44	N-33°-E
31P	A-3	0.44×0.40	N-41°-E	67P	C-5	0.52以上×0.40	N-77°-W
32P	B-3	0.32×0.28	N-71°-E	68P	C-5	0.40×0.34	N-18°-E
33P	B-3	0.24×0.18	N-67°-E	69P	C-5	0.42×0.40	N-15°-E
34P	B-3	0.60以上×0.48	N-75°-E	70P	B-5	0.24×0.24	N-10°-E
35P	A-4	0.60×0.58	N-8°-W	71P	B・C-5	0.24×0.16	N-15°-E
36P	A・B-4	0.40×0.32	N-61°-E	72P	C-5	0.50×0.36	N-23°-W

第32表 ピット計測表(1)

遺構名	グリッド	規模 (m) 長軸×短軸	長軸方位	遺構名	グリッド	規模 (m) 長軸×短軸	長軸方位
73P	C-5	0.50 × 0.44	N-85°-E	89P	C-5	0.44 × 0.24	N-72°-E
74P	B-3	0.33 × 0.10 以上	N-12°-E	90P	C・D-5	0.36 × 0.32	N-34°-E
75P	B-3	0.48 × 0.40	N-26°-W	91P	C-5	0.38 以上 × 0.38	N-85°-W
76P	B-3	0.56 × 0.48	N-45°-W	92P	C-5	0.36 × 0.28 以上	N-15°-W
77P	C-5	0.34 × 0.28	N-85°-E	93P	C-5	0.50 × 0.44	N-88°-E
78P	C-5	0.44 以上 × 0.48	N-88°-E	94P	C・D-5	0.44 × 0.38	N-30°-E
79P	C-5	0.42 × 0.32	N-74°-W	95P	D-4	0.36 以上 × 0.40	N-2°-W
80P	C-5	0.54 × 0.38	N-29°-E	96P	D-4	0.24 × 0.22	N-24°-W
81P	B・C-5	0.32 以上 × 0.42	N-84°-E	97P	D-4	0.32 以上 × 0.40	N-10°-E
82P	D-5	0.60 × 0.50	N-10°-W	98P	D-4	0.56 × 0.48	N-18°-W
83P	C-5	0.56 × 0.52	N-61°-E	99P	D-4	0.55 × 0.44	N-82°-E
84P	C-5	0.40 × 0.28	N-7°-W	100P	D-4	0.58 × 0.48	N-17°-W
85P	C-5	0.40 以上 × 0.32	N-9°-W	101P	D-4	0.76 × 0.62	N-10°-W
86P	C-5	0.56 × 0.40	N-25°-W	102P	C-5	0.36 以上 × 0.40	N-13°-W
87P	C-5	0.56 以上 × 0.44	N-33°-W	103P	C-5	0.64 × 0.60	N-10°-E
88P	C-5	0.28 × 0.26	N-2°-W				

第32表 ピット計測表(2)

第5節 包含層出土遺物

(1) 概要

今回の調査で、表土及び攪乱除去後、遺構確認途中で出土した遺物を包含層遺物として位置を記録して取り上げを行った。縄文時代早期から近世まで各時代の遺物が出土している。すでに見てきたように、遺構では、住居跡では縄文時代中期、弥生時代後期、古墳時代後期、平安時代のものが検出された。包含層からはこれら時期の遺物が出土している。また、主に縄文時代の遺物では、遺構が希薄あるいは検出されなかった時期のものも出土している。

図示したドット図の内訳は縄文時代早期条痕文土器(多くが茅山上層以降)117点、前期前半41点、前期後半30点、中期初頭から中葉64点、中期後半194点、後期前葉199点、後期中葉以降92点、弥生時代後期14点、古墳時代後期70点、平安時代273点、中世以降14点の合計1176点である。

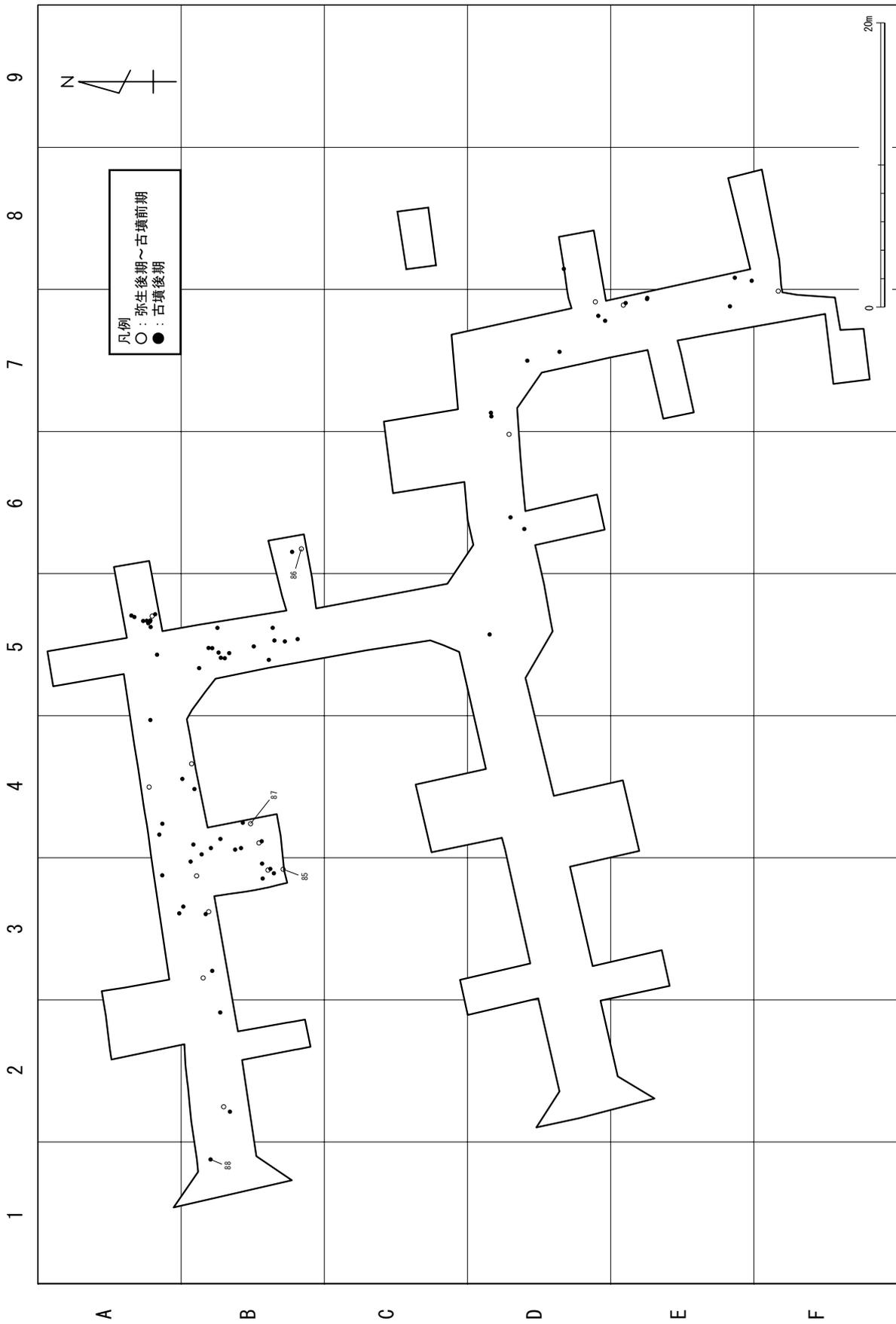
以下では、代表的なものを図化した。



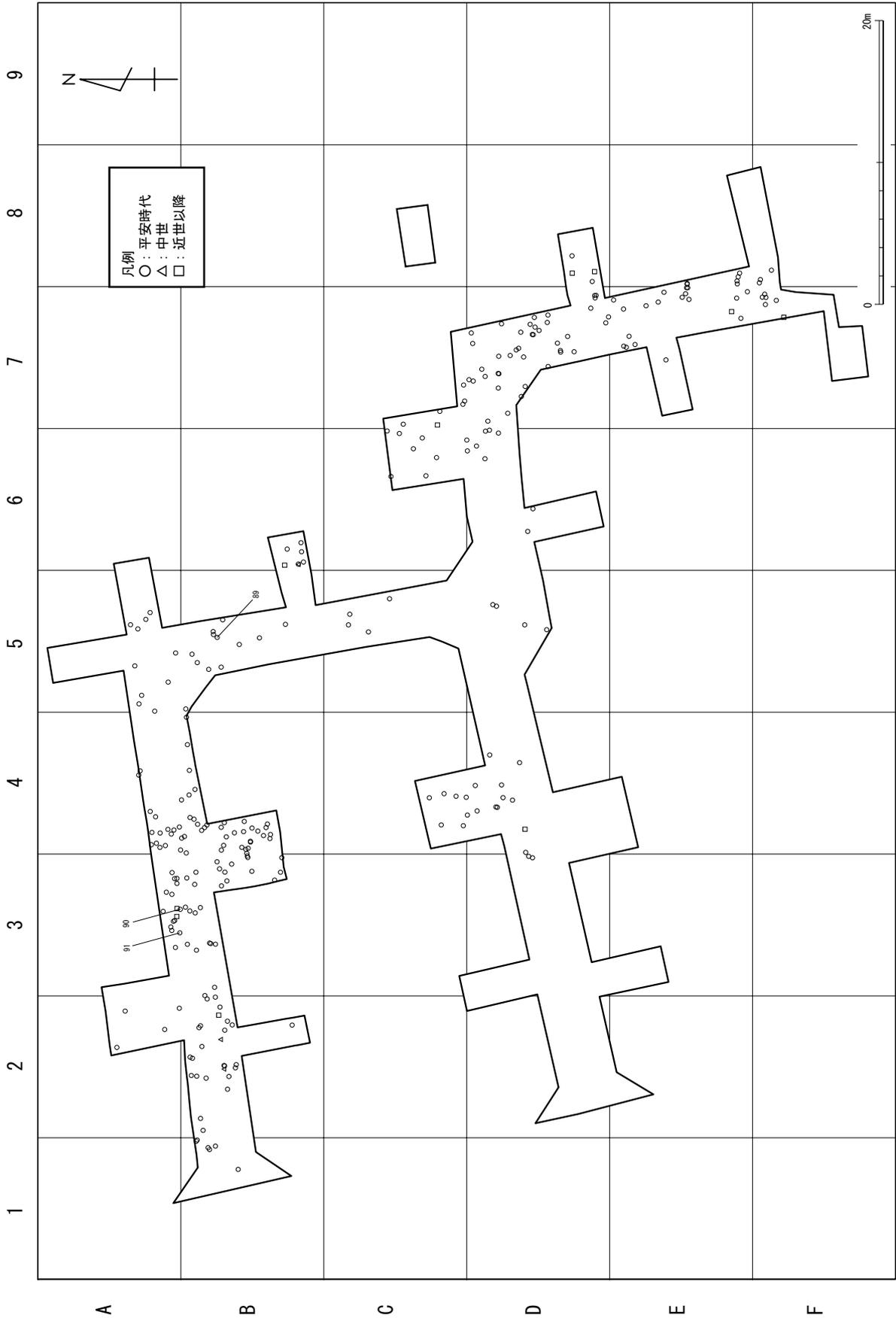
第80図 縄文早期~前期 (1 / 400)

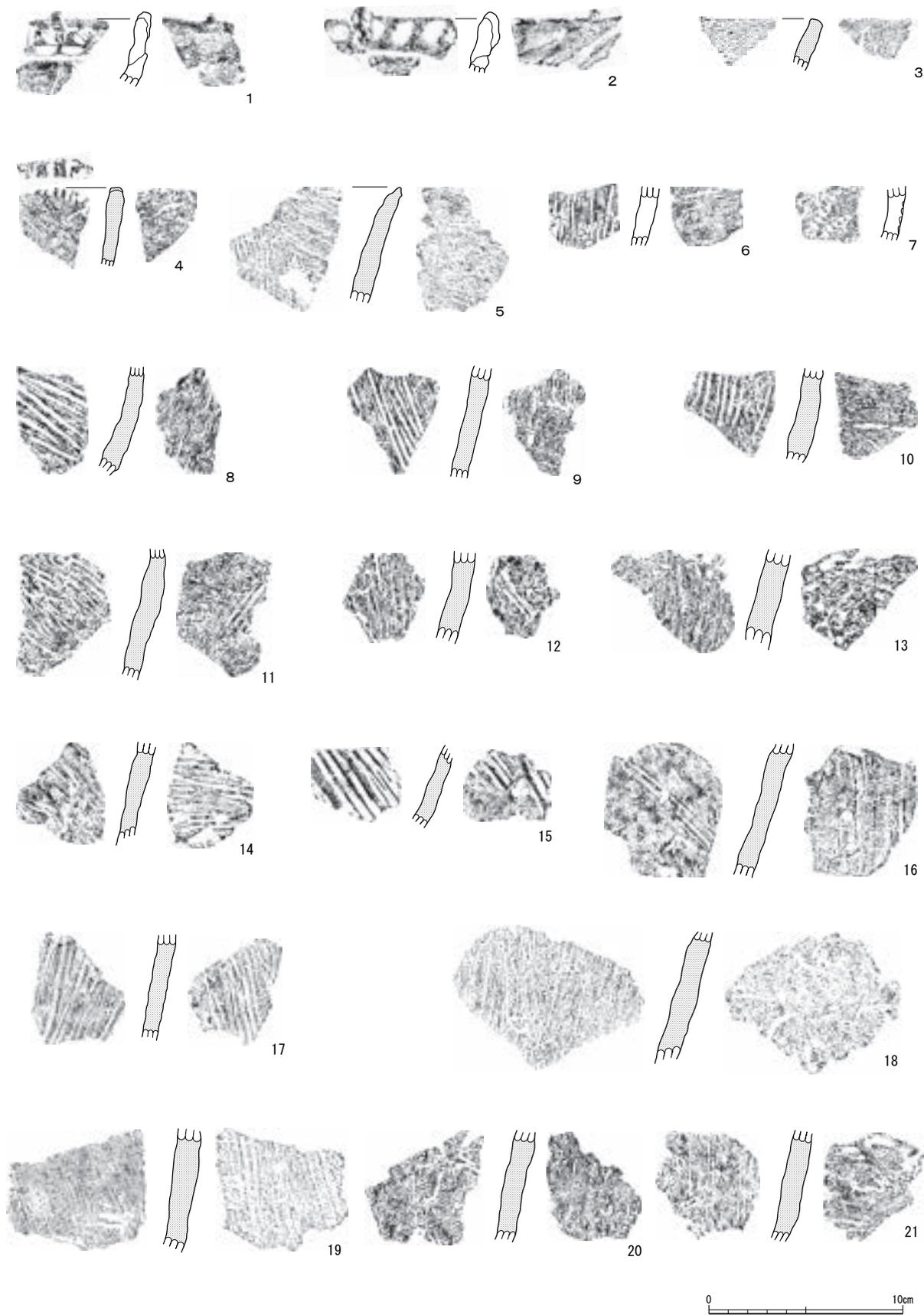


第81図 縄文中期~後期 (1 / 400)

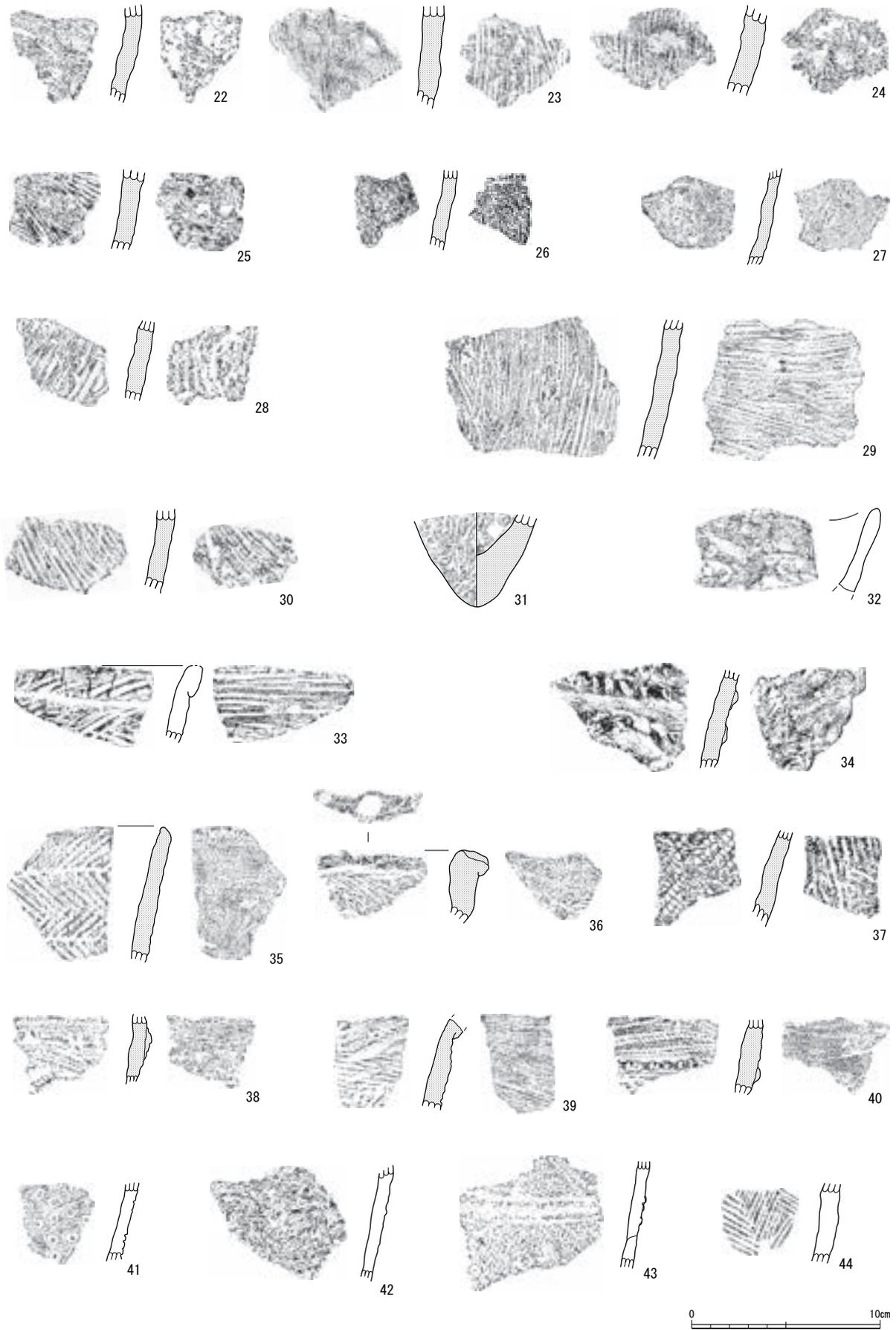


第82図 弥生後期~古墳後期 (1 / 400)

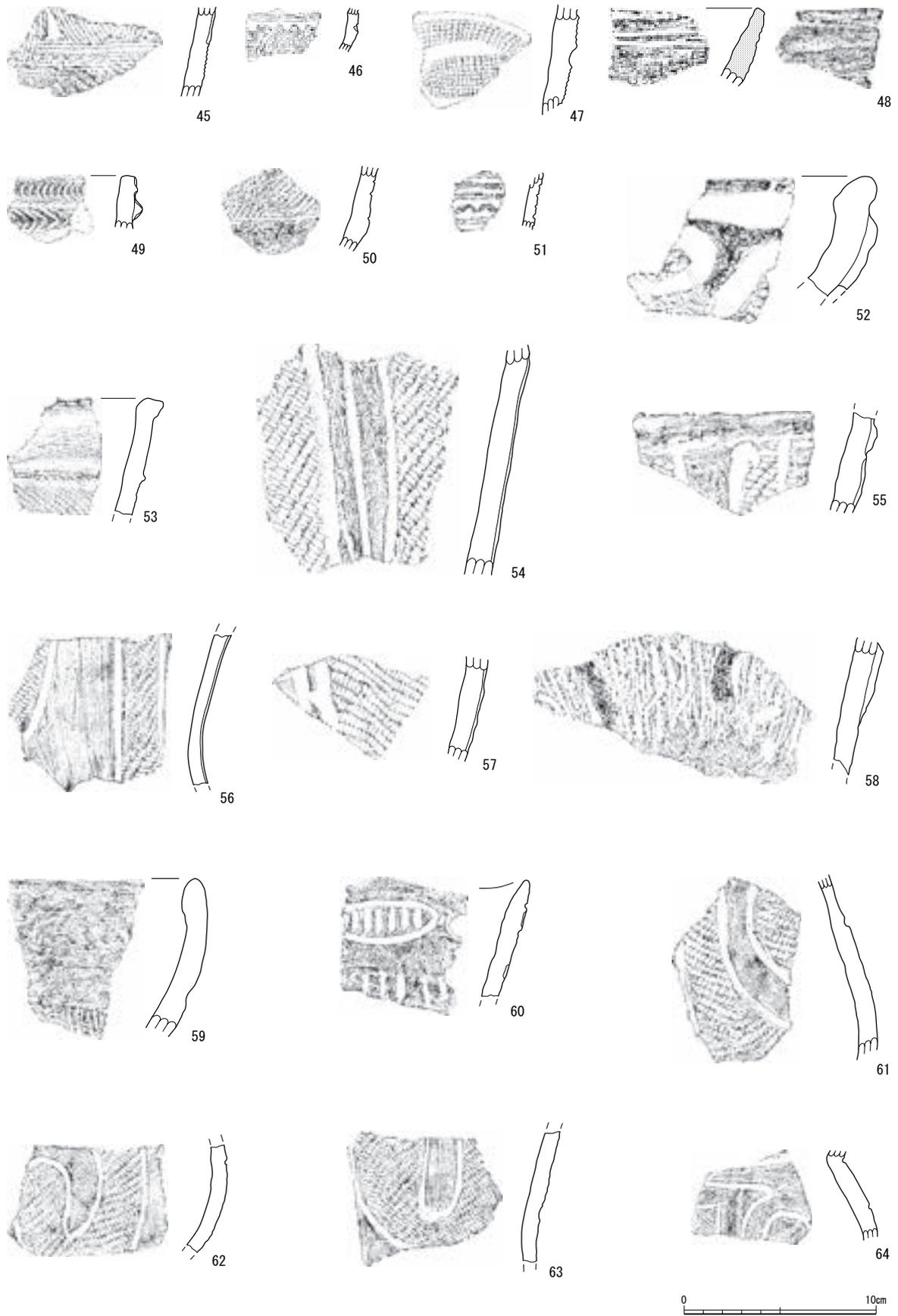




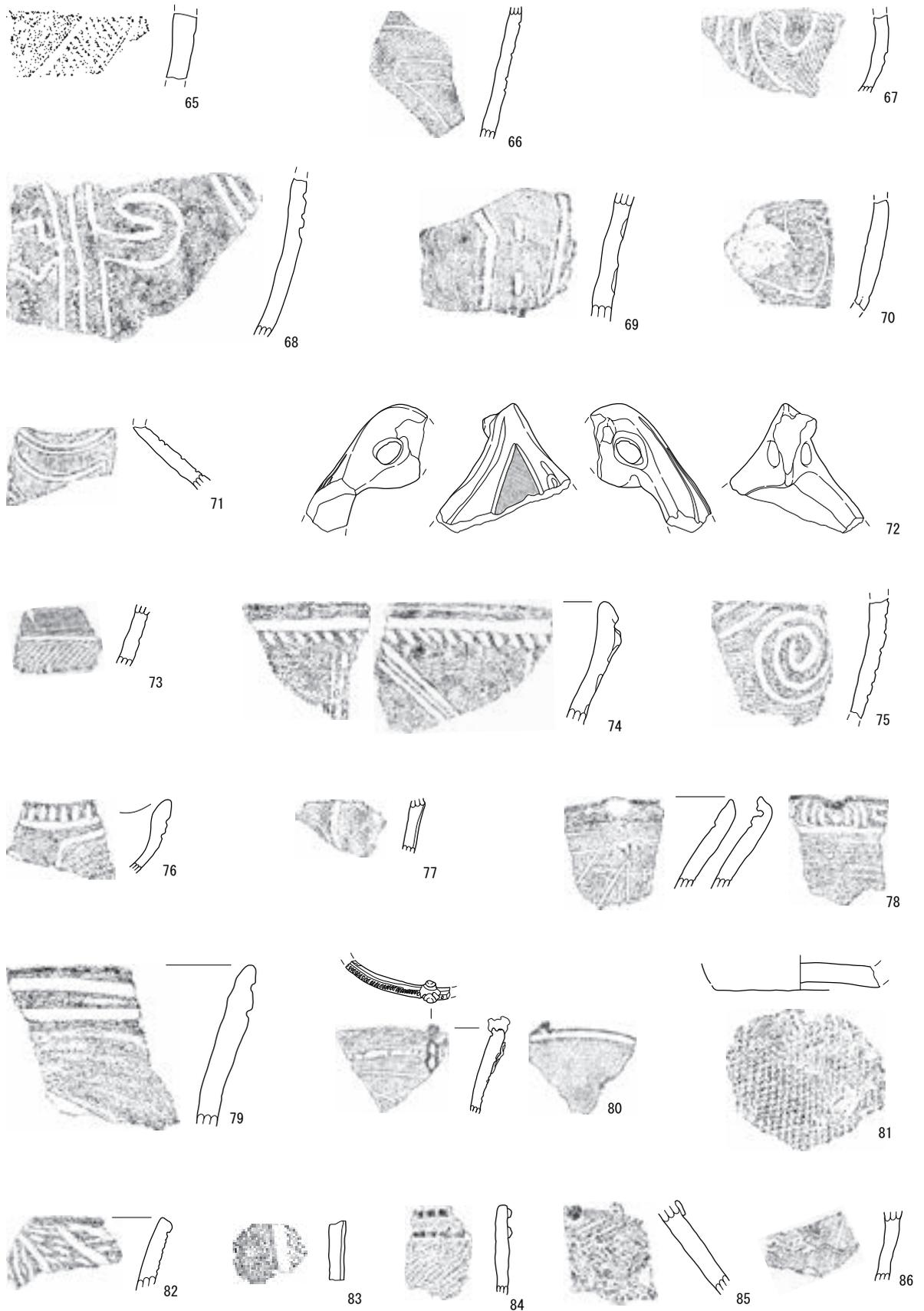
第84図 包含層出土遺物1 (1/3)



第 85 図 包含層出土遺物 2 (1 / 3)

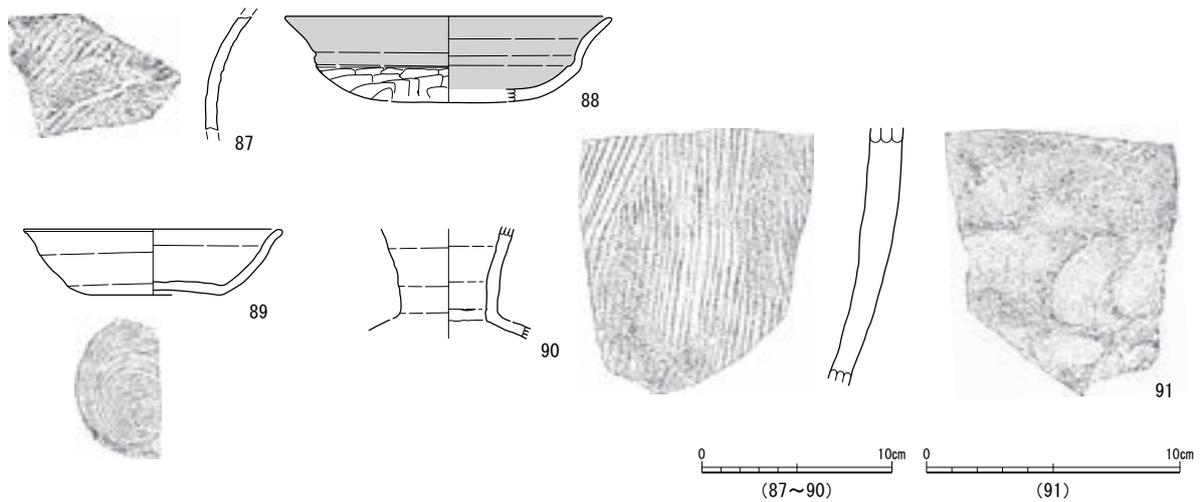


第86図 包含層出土遺物3 (1/3)



0 10cm 0 10cm
(65~82・85・86) (83・84)

第87図 包含層出土遺物4 (1/3)



第88図 包含層出土遺物5 (1/4・1/3)

図版番号	種別 器種	法量 (cm)	色調	胎土	焼成	製作の特徴等	出土位置	時期
第84図1	深鉢	—	暗赤褐 5YR3/2	白色粒子 長石・小礫	良好	外面輪積痕を一段残す/口縁部に縦長の突起を持つ/内外面指頭痕を残す	B-5 グリッド	縄文 早期 末葉
第84図2	深鉢	—	黒褐 5YR3/1	白色粒子 長石・小礫	良好	外面輪積痕を一段残す/口縁部に縦長の突起を持つ/内外面指頭痕を残す	B-5 グリッド	縄文 早期 末葉
第84図3	深鉢	—	にぶい赤褐 5YR5/4	白色粒子・黒色粒子・長石・繊維	良好	外面条痕後, ナデ/内面横ナデ	B-4 グリッド	縄文 早期 末葉
第84図4	深鉢	—	にぶい赤褐 5YR4/3	白色粒子 黒色粒子	良好	外面斜位の条痕後, ナデ/貝殻腹縁で山形のモチーフを描く/内面斜位の条痕後, ナデ	A-4 グリッド	縄文 早期 末葉
第84図5	深鉢	—	黒褐 7.5YR3/1	白色粒子・黒色粒子・繊維	良好	外面斜位及び横位の条痕/内面横ナデ	A-5 グリッド	縄文 早期 末葉
第84図6	深鉢	—	赤褐 2.5YR4/6	白色粒子・黒色粒子・小礫・微繊維	良好	外面縦位の貝殻条痕後, 貝殻腹縁により菱形状のモチーフを描く	A-3 グリッド	縄文 早期 末葉
第84図7	深鉢	—	暗赤褐 5YR3/2	白色粒子・黒色粒子・長石・繊維	良好	縄文原体の端部により, 刺突を施し, 菱形を描いたものと思われる	A-4 グリッド	縄文 早期 末葉
第84図8	深鉢	—	明赤褐 5YR5/6	白色粒子・黒色粒子・繊維	良好	外面斜位の貝殻条痕/内面部分的に斜位の貝殻条痕, 成形時の凹凸を残す	B-4 グリッド	縄文 早期 末葉
第84図9	深鉢	—	明赤褐 5YR5/6	白色粒子・黒色粒子・繊維	良好	外面縦位条痕/内面斜位の条痕後, 縦位条痕, 成形時の凹凸を残す	B-3 グリッド	縄文 早期 末葉
第84図10	深鉢	—	明赤褐 5YR5/8	白色粒子・黒色粒子・長石・小礫・繊維	良好	外面縦位の貝殻条痕/内面斜位の擦痕が残る	B-4 グリッド	縄文 早期 末葉
第84図11	深鉢	—	明赤褐 5YR5/8	白色粒子・黒色粒子・長石・繊維	良好	外面斜位の条痕/内面条痕後, ナデ, 成形時の凹凸を残す	A-4 グリッド	縄文 早期 末葉
第84図12	深鉢	—	赤褐 5YR4/6	白色粒子・黒色粒子・繊維	良好	外面縦位の貝殻条痕/内面斜位の擦痕, 成形時の凹凸を残す	A-4 グリッド	縄文 早期 末葉
第84図13	深鉢	—	明褐 7.5YR5/8	白色粒子・黒色粒子・長石・小礫・繊維	良好	外面縦位の貝殻条痕/内面ナデ/磨滅が激しい	A-4 グリッド	縄文 早期 末葉

第33表 包含層出土土器一覧(1)

図版番号	種別 器種	法量 (cm)	色調	胎土	焼成	製作の特徴等	出土位置	時期
第84図14	深鉢	—	明赤褐 5YR5/6	白色粒子・長石・白色針状物質・繊維	良好	外面斜位の貝殻条痕後, ナデ/内面横位の貝殻条痕後, ナデ	A-4 グリッド	縄文 早期 末葉
第84図15	深鉢	—	にぶい橙 7.5YR6/4	白色粒子・黒色粒子・小礫・繊維	良好	内外面斜位の貝殻条痕/内面成形時の凹凸を残す	B-3 グリッド	縄文 早期 末葉
第84図16	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR5/3	白色粒子・黒色粒子・長石・繊維	良好	外面縦位及び斜位の条痕後, ナデ/内面縦位の条痕/内外面成形時の凹凸を残す	A-5 グリッド	縄文 早期 末葉
第84図17	深鉢	—	灰黄褐 10YR4/2	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・長石・繊維	良好	内外面縦位の条痕	A-4 グリッド	縄文 早期 末葉
第84図18	深鉢	—	にぶい黄褐 10YR5/3	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・長石・繊維	良好	外面斜位及び縦位の細かな条痕/内面ナデ, 成形時の凹凸を残す	A-3 グリッド	縄文 早期 末葉
第84図19	深鉢	—	にぶい黄褐 10YR4/3	白色粒子・黒色粒子・長石・繊維	良好	内外面条痕後, ナデ/成形時の凹凸をやや残す	B-3 グリッド	縄文 早期 末葉
第84図20	深鉢	—	橙 7.5YR6/6	白色粒子・黒色粒子・小礫・繊維	良好	外面斜位の貝殻条痕後, ナデ/内面縦ナデ	A-3 グリッド	縄文 早期 末葉
第84図21	深鉢	—	褐灰 7.5YR4/1	白色粒子・黒色粒子・長石・繊維	良好	外面縦位及び斜位の貝殻条痕/内面横位の貝殻条痕後ナデ	B-4 グリッド	縄文 早期 末葉
第85図22	深鉢	—	褐灰 10YR4/1	白色粒子・黒色粒子・繊維	良好	外面斜位の条痕後, ナデ/内面ナデ	B-5 グリッド	縄文 早期 末葉
第85図23	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR5/4	白色粒子・黒色粒子・繊維	良好	外面斜位の条痕後, 横ナデ/内面縦位の条痕	B-5 グリッド	縄文 早期 末葉
第85図24	深鉢	—	にぶい橙 7.5YR6/4	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・繊維	良好	外面縦位の条痕, 内面ナデ	B-5 グリッド	縄文 早期 末葉
第85図25	深鉢	—	黒褐 7.5YR3/2	白色粒子・黒色粒子・石英・小礫・繊維	良好	外面斜位の貝殻条痕後, ナデ/内面横ナデ	B-3 グリッド	縄文 早期 末葉
第85図26	深鉢	—	にぶい赤褐 5YR5/4	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・繊維	良好	外面ナデ/内面成形時の凹凸を残す	C-5 グリッド	縄文 早期 末葉
第85図27	深鉢	—	にぶい黄褐 10YR5/4	白色粒子・黒色粒子・小礫・微繊維	良好	内外面斜位の条痕後, ナデ	B-6 グリッド	縄文 早期 末葉
第85図28	深鉢	—	赤褐 5YR4/6	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・繊維	良好	内外面貝殻条痕後, ナデ/内面成形時の凹凸を残す	A-4 グリッド	縄文 早期 末葉
第85図29	深鉢	—	黒褐 7.5YR3/1	白色粒子・白色針状物質・繊維	良好	外面縦位の貝殻条痕後, ナデ/内面ナデ, 成形時の凹凸を残す	B-5 グリッド	縄文 早期 末葉
第85図30	深鉢	—	赤褐 5YR4/6	白色粒子・黒色粒子・繊維	良好	外面縦位の貝殻条痕後, ナデ/内面貝殻条痕後, ナデ	A-4 グリッド	縄文 早期 末葉
第85図31	深鉢	—	にぶい黄橙 10YR5/3	白色粒子・黒色粒子・繊維	良好	外面縦位の条痕後, ナデ/内面ナデ/尖底部	B-3 グリッド	縄文 早期 末葉

第33表 包含層出土土器一覧(2)

第3章 検出された遺構と遺物

図版番号	種別 器種	法量 (cm)	色調	胎土	焼成	製作の特徴等	出土位置	時期
第 85 図 32	深鉢	—	にぶい黄褐 10YR5/4	白色粒子・赤 色粒子・長石	良好	緩やかな波状口縁／内外面条痕調整 後、横ミガキ	B-3 グリッド	縄文 早期 末葉
第 85 図 33	深鉢	—	褐 7.5YR4/3	白色粒子 雲母	良好	外面折り返される／外面斜位の条痕 を施し、羽状にする／内面横位の条 痕	B-3 グリッド	縄文 早期 末葉か
第 85 図 34	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR5/3	白色粒子・黒 色粒子・繊維	良好	外面波状の低い幅広の隆帯上にキザ ミを施す／内面横ナデ	B-5 グリッド	縄文 早期 末葉～ 前期 初頭
第 85 図 35	深鉢	—	黒褐 7.5YR3/2	白色粒子・黒 色粒子・長石・ 繊維	良好	外面無節の結束羽状縄文を施す／内 面横ナデ	B-3 グリッド	花積 下層
第 85 図 36	深鉢	—	にぶい赤褐 5YR5/4	白色粒子・黒 色粒子・赤色 粒子・繊維	良好	口縁部が外側に折り返し、上端を等 間隔に押圧してる	A-5 グリッド	花積 下層
第 85 図 37	深鉢	—	褐 7.5YR4/3	白色粒子・黒 色粒子・赤色 粒子・小礫・ 繊維	良好	外面 LR を横位施文／内面斜位の擦 痕、成形時の凹凸を残す	A-4 グリッド	花積 下層
第 85 図 38	深鉢	—	にぶい黄橙 10YR7/4	白色粒子・黒 色粒子・繊維	良好	外面 L と R の擦糸を並行して押圧 させモチーフを描く	B-4 グリッド	花積 下層
第 85 図 39	深鉢	—	にぶい赤褐 5YR4/4	白色粒子・黒 色粒子・長石・ 繊維	良好	外面縄文を施した隆帯以下に無節の 結束羽状縄文を施文／内面横ナデ	B-4 グリッド	花積 下層
第 85 図 40	深鉢	—	にぶい黄橙 10YR6/4	白色粒子・黒 色粒子・繊維	良好	外面キザミのある横位隆帯に沿っ て、L と R の原体を押圧する	B-4 グリッド	花積 下層
第 85 図 41	深鉢	—	灰黄褐 10YR4/2	白色粒子 石英	良好	円形集合刺突文	B-3 グリッド	縄文 前期 初頭
第 85 図 42	深鉢	—	にぶい赤褐 5YR5/4	白色粒子 石英	良好	断面扁平な貼付け隆帯上に細い斜行 刻み目文を持つ浮線文	B-4 グリッド	諸磯 b
第 85 図 43	深鉢	—	橙 7.5YR6/6	白色粒子 石英	良好	RL 縄文横位回転施文の後、貼付け 隆帯稜頂に斜位の連続刻み目文を持 つ浮線文を併走 3 条貼付し、側縁に 列点文	A-4 グリッド	諸磯 b
第 85 図 44	深鉢	—	灰褐 7.5YR4/2	砂粒・小礫・ 石英	良好	細かい半截竹管による縦位羽状構成 を採る	B-3 グリッド	諸磯 c
第 86 図 45	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR5/4	砂粒・小礫・ 白色粒子	良好	櫛歯様条線を地文に、後、横走沈線 文と三角印刻文	B-3 グリッド	十三 菩提
第 86 図 46	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR5/4	白色粒子 石英	良好	櫛歯様条線を地文に、後、横走沈線 文と三角刺突文	A-3 グリッド	十三 菩提
第 86 図 47	深鉢	—	灰褐 7.5YR5/2	白色粒子 石英・雲母	良好	細い半截竹管による押し引き文の 後、太い単沈線文	B-4 グリッド	十三 菩提
第 86 図 48	深鉢	—	にぶい赤褐 5YR4/3	白色粒子・黒 色粒子・小礫	良好	外面横位のナデ後、口縁部に沿って 2 条の沈線が巡る／内面横ケズリ	B-4 グリッド	縄文 前期 末葉
第 86 図 49	深鉢	—	暗褐 7.5YR3/3	白色粒子	良好	断面カマボコ様の貼付け隆帯稜頂 に、半截竹管による鋭角ロッキング 施文された浮線文と内削半截竹管に よる鋭角施文、口縁部に半截竹管に よる鋭角施文	C-7 グリッド	縄文 前期 末葉
第 86 図 50	深鉢	—	明赤褐 5YR5/6	白色粒子 石英	良好	胴部が内折部を境に、上位に LR 縄 文斜位回転施文の後、併走する単沈 線による垂下文と斜行文／屈折部以 下に無文帯	F-7 グリッド	縄文 中期 初頭

第 33 表 包含層出土土器一覧 (3)

図版番号	種別 器種	法量 (cm)	色調	胎土	焼成	製作の特徴等	出土位置	時期
第86図51	深鉢	—	にぶい赤褐 5YR5/4	砂粒・小礫・ 石英	良好	半截竹管による併走する横走沈線文 と交互刺突文	A-3 グリッド	縄文 中期 初頭
第86図52	深鉢	—	にぶい黄橙 10YR7/4	砂粒・小礫・ 白色粒子	良好	厚手で、稜の低い貼付け隆帯による 楕円区画文と、ユビナデ様の太い側 縁沈線文	C-6 グリッド	加曽利 EⅢ
第86図53	深鉢	—	灰黄褐 10YR5/2	白色粒子 石英	良好	広い口縁部無文帯は、横位の丁寧な へらミガキ／以下に摘み上げによる 横走隆帯の後、RL 縄文横位回転施文	C-5 グリッド	加曽利 EⅢ
第86図54	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR5/4	砂粒・小礫	良好	RL 縄文縦位回転施文の後、磨消し 無文帯を伴う併走する垂下沈線文	B-3 グリッド	加曽利 EⅢ
第86図55	深鉢	—	灰黄褐 10YR4/2	砂粒・小礫・ 白色粒子	良好	厚手で、RL 縄文斜位回転施文の後、 磨消し無文帯を伴う太い垂下沈線文	C-6 グリッド	加曽利 EⅢ
第86図56	深鉢	—	灰黄褐 10YR4/2	白色粒子 石英	良好	RL 縄文縦位回転施文の後、磨消し 無文帯を伴う単沈線による区画文	B-3 グリッド	加曽利 EⅢ
第86図57	深鉢	—	褐灰 7.5YR4/1	白色粒子	良好	LR 縄文縦位回転施文の後、磨消し 無文帯を伴う併走する垂下沈線文	D-5 グリッド	加曽利 EⅢ
第86図58	深鉢	—	にぶい赤褐 5YR5/3	砂粒・小礫	良好	条線による縦位集合沈線文と蛇行沈 線文の後、稜の低い貼付け隆帯による 蛇行垂下文	B-3 グリッド	加曽利 E
第86図59	深鉢	—	黒褐 10YR3/1	白色粒子	良好	広い口縁部無文帯に丁寧な横位のへ らミガキ／以下に櫛歯状工具による 縦位集合沈線文	B-3 グリッド	加曽利 E
第86図60	深鉢	—	にぶい黄橙 10YR7/4	砂粒・小礫	堅固	小波状口縁を呈し、単沈線による横 位の楕円区画文と、区画内に縦位集 合沈線文で充填する／以下に、単沈 線による間隔の広い縦位集合沈線文	A-4 グリッド	加曽利 E
第86図61	深鉢	—	灰黄褐 10YR5/2	白色粒子	良好	LR 縄文縦位回転施文の後、磨消し 無文帯を伴う併走する沈線文	B-3 グリッド	称名寺 I
第86図62	深鉢	—	にぶい黄橙 10YR6/3	白色粒子	良好	RL 縄文縦位回転施文の後、細い単 沈線によるJ字区画文	B-3 グリッド	称名寺 I
第86図63	深鉢	—	にぶい黄褐 10YR5/3	白色粒子 石英	良好	RL 縄文縦位回転施文の後、磨消し 無文帯を伴う細い単沈線による区画 文	B-3 グリッド	称名寺 I
第86図64	深鉢	—	褐灰 10YR4/1	砂粒・小礫・ 石英	良好	粒の細かいLR 縄文を縦斜位に回転 施文の後、単沈線による区画文	A-5 グリッド	称名寺 I
第87図65	深鉢	—	灰褐 7.5YR4/2	白色粒子	良好	LR 縄文縦位回転施文の後、磨消し 無文帯を伴う併走する沈線文	B-4 グリッド	称名寺 I
第87図66	深鉢	—	にぶい赤褐 5YR4/4	砂粒・小礫・ 石英	堅固	粒の細かいLR 縄文横位回転施文の 後、併走する単沈線による区画文	B-4 グリッド	称名寺 I
第87図67	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR5/3	砂粒・小礫・ 石英	堅固	粒の細かいLR 縄文横斜位回転施文 の後、単沈線による重蛇行文	B-3 グリッド	称名寺 I
第87図68	深鉢	—	にぶい黄橙 10YR6/3	白色粒子 石英	良好	単沈線による意匠文	A-5 グリッド	称名寺 II
第87図69	深鉢	—	にぶい橙 7.5YR6/4	白色粒子	良好	併走する単沈線による垂下文間に縦 位の列点文	B-3 グリッド	称名寺 II
第87図70	深鉢	—	灰褐 7.5YR4/2	白色粒子 雲母	良好	ケズリ調整の器面に単沈線による区 画文	B-5 グリッド	称名寺 II
第87図71	深鉢	—	褐灰 10YR4/1	砂粒・小礫・ 石英	堅固	半截竹管による併走する沈線文	A-4 グリッド	称名寺 II
第87図72	深鉢	—	灰黄褐 10YR5/2	白色粒子・黒 色粒子・赤色 粒子・長石	良好	波状口縁を呈し、波頂部に環状把手 が付く／LR 縦位施文後、沈線でモ チーフを描く	B-4 グリッド	称名寺 I
第87図73	深鉢	—	にぶい黄橙 10YR6/4	白色粒子・黒 色粒子・小礫	良好	平行する沈線間にLRを充填したと 考えられる	C-7 グリッド	堀之内 1
第87図74	深鉢	—	にぶい黄橙 10YR6/4	白色粒子	良好	やや内傾する口縁部直下に太い単沈 線による横走沈線文と、短い斜行沈 線文が巡り、以下に併走する縦位斜 行沈線文と垂下沈線文／垂下沈線文 間には連続する列点文が充填される	A-5 グリッド	縄文 後期 前半

第33表 包含層出土土器一覧(4)

第3章 検出された遺構と遺物

図版番号	種別 器種	法量 (cm)	色調	胎土	焼成	製作の特徴等	出土位置	時期
第 87 図 75	深鉢	—	にぶい黄橙 10YR7/4	白色粒子	良好	撚糸 r 縦位回転施文の後、太めの単沈線による渦巻文	A-3 グリッド	縄文 後期 前葉
第 87 図 76	鉢	—	にぶい黄橙 10YR6/3	白色粒子	良好	口縁部直下に併走する連続刻み目文の後、単沈線による区画文	B-3 グリッド	堀之内 2
第 87 図 77	深鉢	—	にぶい橙 7.5YR6/4	白色粒子 石英	良好	貝殻背圧痕の後、単沈線文	D-4 グリッド	堀之内 2
第 87 図 78	片口 浅鉢	—	褐灰 7.5YR4/1	白色粒子	良好	内面口縁部に単沈線による重弧文と円形刺突文／外面に浅く細い沈線文	B-4 グリッド	堀之内 2
第 87 図 79	深鉢	—	にぶい橙 7.5YR6/4	白色粒子 石英	良好	口縁部直下に併走する横走沈線文／胴部に斜行沈線文	A-4 グリッド	縄文 後期 前葉
第 87 図 80	深鉢	—	褐灰 7.5YR4/1	白色粒子	堅固	内外面に丁寧なヘラミガキによる平滑化が施される／口唇部に横走沈線文と細かい列点文／口縁部直下に細かい貼付け隆帯による鎖状隆帯／口唇部に瘤状貼付文、鎖状隆帯上に縦8の字貼付文	D-7 グリッド	加曾利 B
第 87 図 81	深鉢	—	橙 5YR6/6	砂粒・小礫	良好	底面に網代痕（1超1潜1送）を残す	B-4 グリッド	縄文 後期
第 87 図 82	深鉢	—	にぶい橙 7.5YR7/4	白色粒子 雲母	良好	併走する単沈線による斜行文間を、単沈線により充填	E-7 グリッド	安行 III c
第 87 図 85	壺	—	にぶい褐 7.5YR5/4	白色粒子・黒色 粒子・長石	良好	単節羽状縄文に円形浮文を配する	B-3 グリッド	弥生 後期 後葉
第 87 図 86	甕	—	にぶい褐 7.5YR5/4	白色粒子・黒色 粒子・小礫	良好	Z字の結節を3段以上横位施文する	B-6 グリッド	弥生 後期 後葉
第 87 図 87	甕	—	にぶい橙 7.5YR6/4	白色粒子・黒色 粒子・長石・ 小礫	良好	外面結節の伴うLRを横位施文する／内面横ミガキ	B-4 グリッド	吉ヶ谷
第 88 図 88	土師器 坏	器高：4.50 口径：17.20	明赤褐 2.5YR5/6	白色粒子・黒色 粒子・長石	良好	底部外面周辺部同一方向にヘラケズリ／その後口縁部内外面強い横ナデ／内面及び口縁部外面赤彩	B-1 グリッド	古墳 後期 6 C 中葉
第 88 図 89	須恵器 坏	器高：3.50 口径：13.60 底径：7.00	明褐 7.5YR5/6	白色粒子・黒色 粒子・石英・白色針状 物質・小礫	良好	内外面ロクロナデ／底部外面回転糸切り痕を残す	B-5 グリッド	平安 9 C 後葉
第 88 図 90	須恵器 長頸壺	—	褐灰 5YR6/1	白色粒子 黒色粒子	良好	内外面ロクロナデ／外面自然釉がかかる	A-3 グリッド	平安
第 88 図 91	須恵器 甕	—	褐灰 7.5YR5/1	白色粒子・黒色 粒子・石英・ 白色針状物質	良好	外面平行線状のタタキ目を残す／内面同心円状の当て具痕後、ナデ／凹凸が残る	A-3 グリッド	平安

第 33 表 包含層出土土器一覧（5）

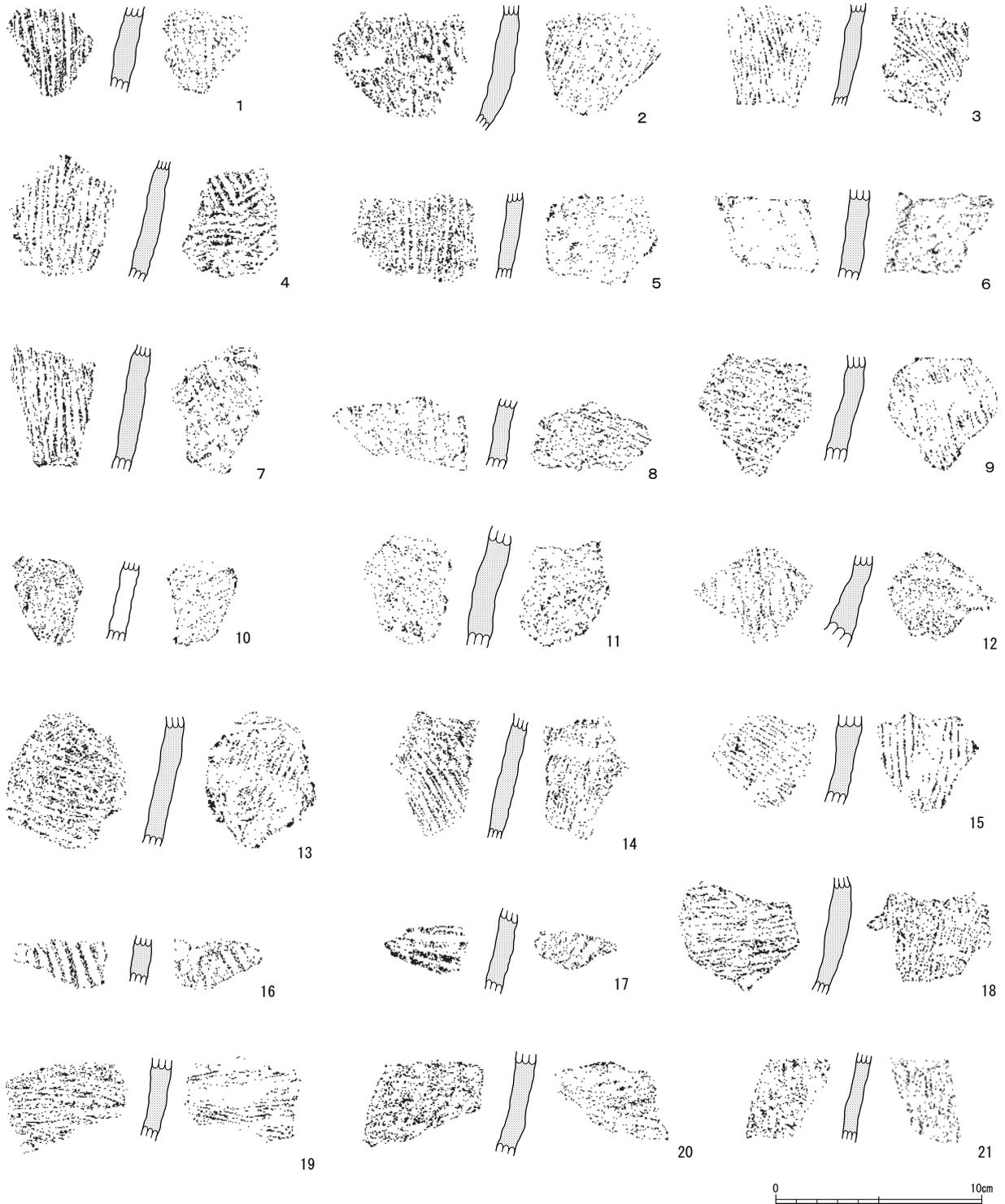
図版番号	種別 器種	法量 (cm)	色調	胎土	焼成	製作の特徴等	出土位置	時期
第 88 図 83	土器 片鉢	器高：3.07 口径：3.50 底径：0.79	明赤褐 5YR5/6	白色粒子 長石・小礫	良好	外面から内面に向けて斜角に打ち欠き、略円形を作出し、周縁研磨は施されていない	A-5 グリッド	加曾利 E か
第 88 図 84	土製 円盤	器高：4.91 口径：3.70 底径：0.75	にぶい赤褐 5YR5/4	白色粒子・黒色 粒子・小礫	良好	結節 LR 縄文横位回転施文の後、断面カマボコ様の貼付け隆帯上に半截竹管による押し引き文／左側面に丁寧な磨きが施される／未製品か	B-3 グリッド	諸磯 b

第 34 表 包含層出土土製品一覧

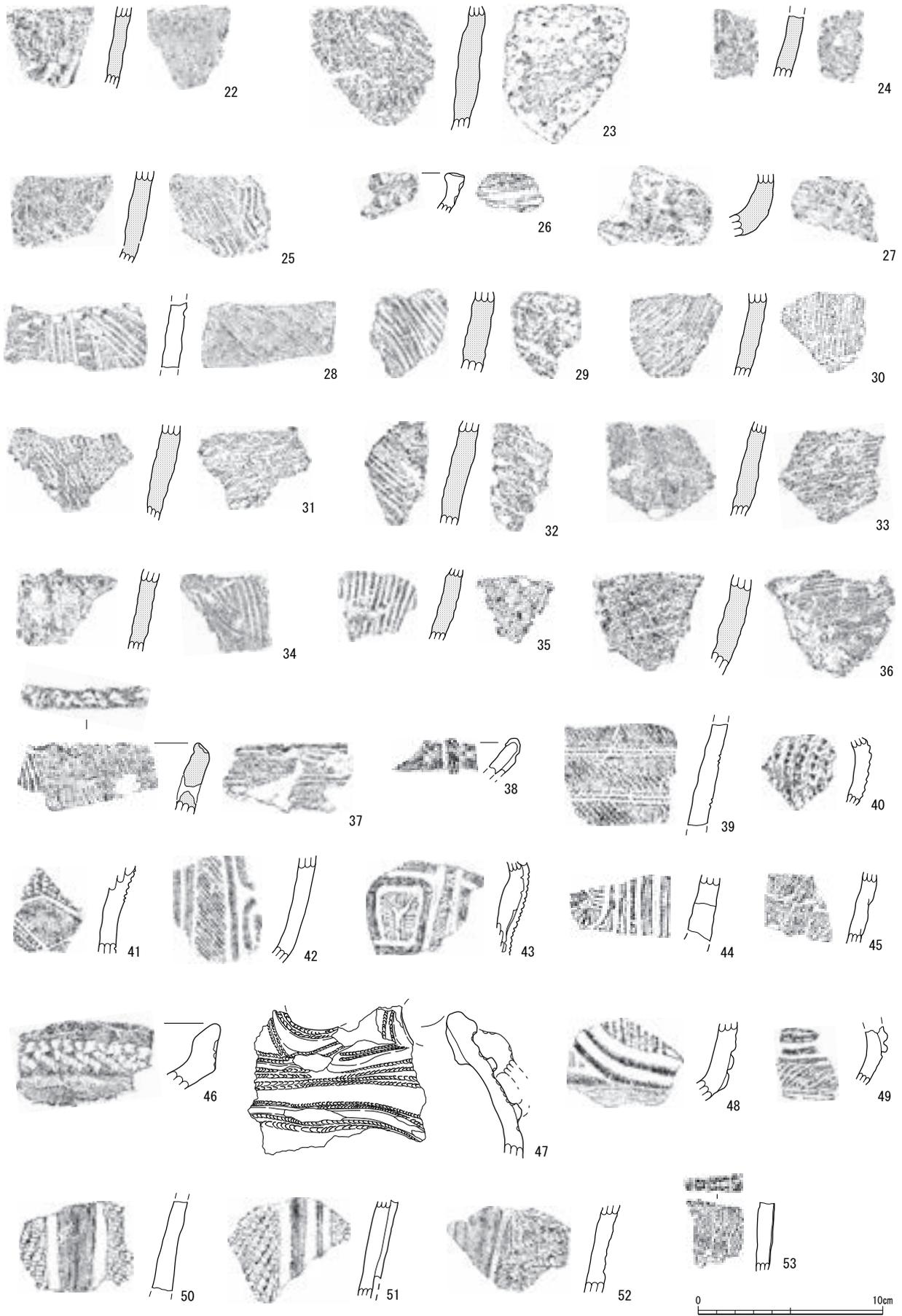
第6節 遺構外出土遺物

(1) 概要

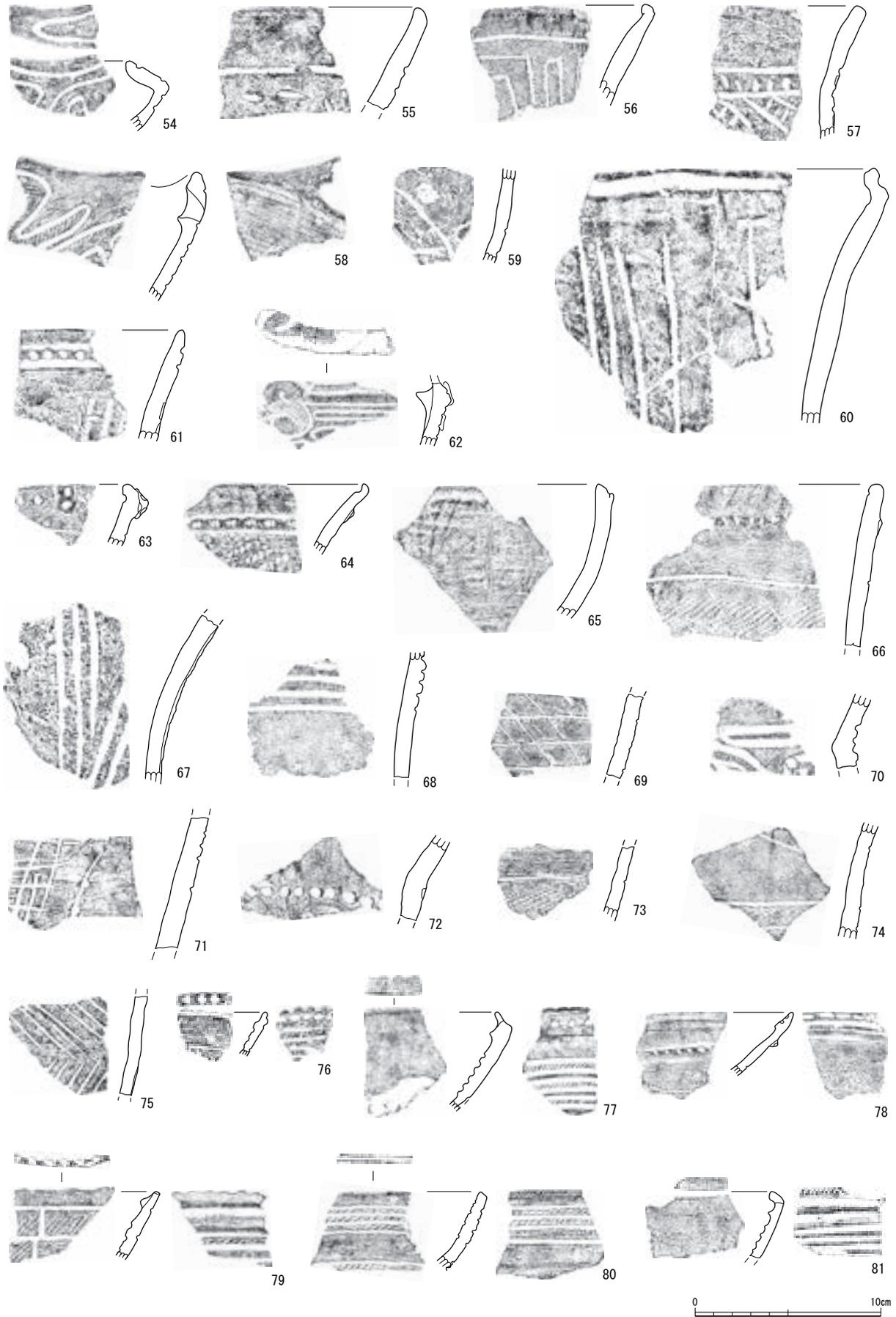
ここでは、表土除去作業中、遺構確認時及び他時期の遺構から出土したものを、一括して掲載した。



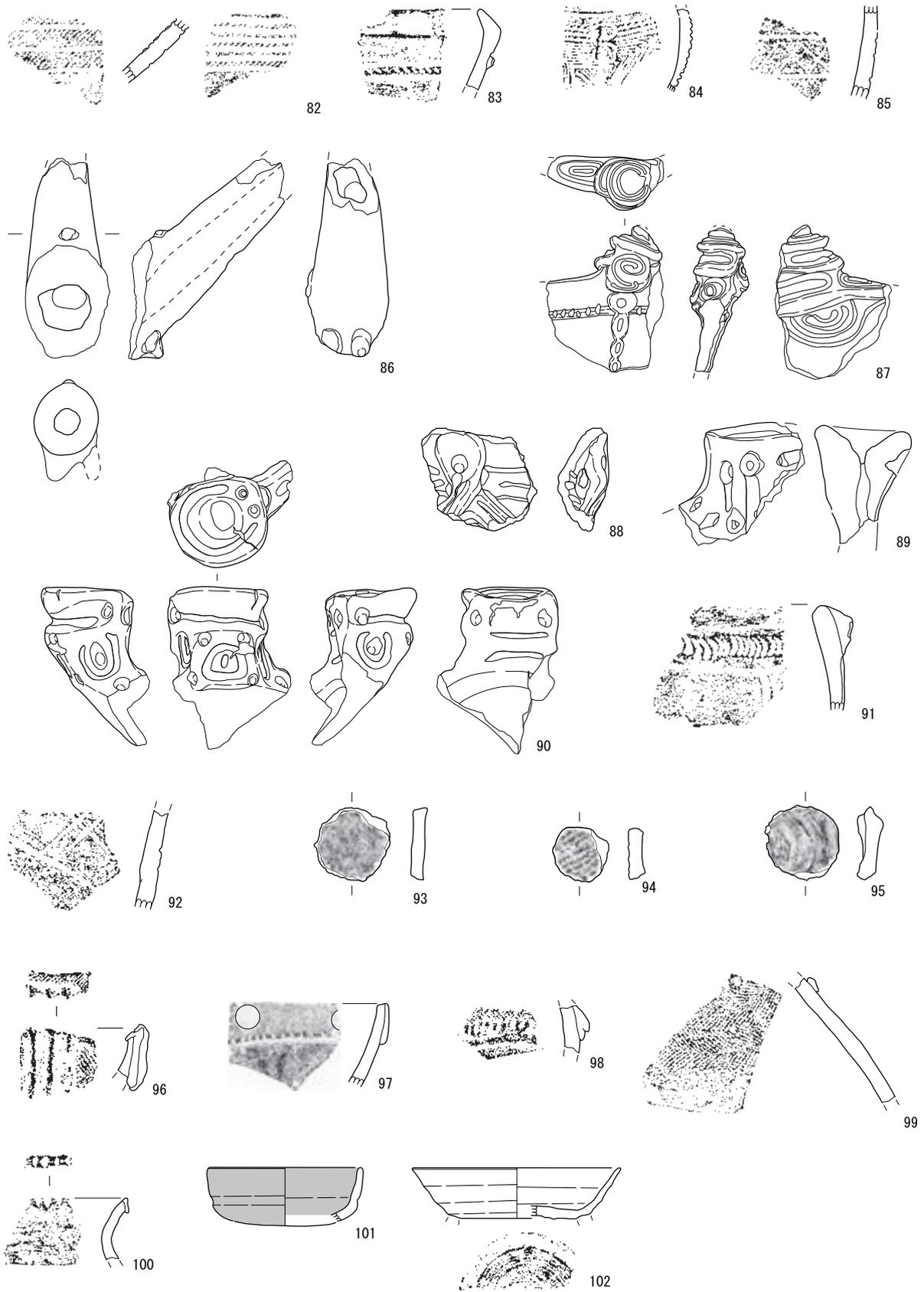
第89図 遺構外出土遺物1 (1/3)



第90図 遺構外出土遺物2 (1/3)



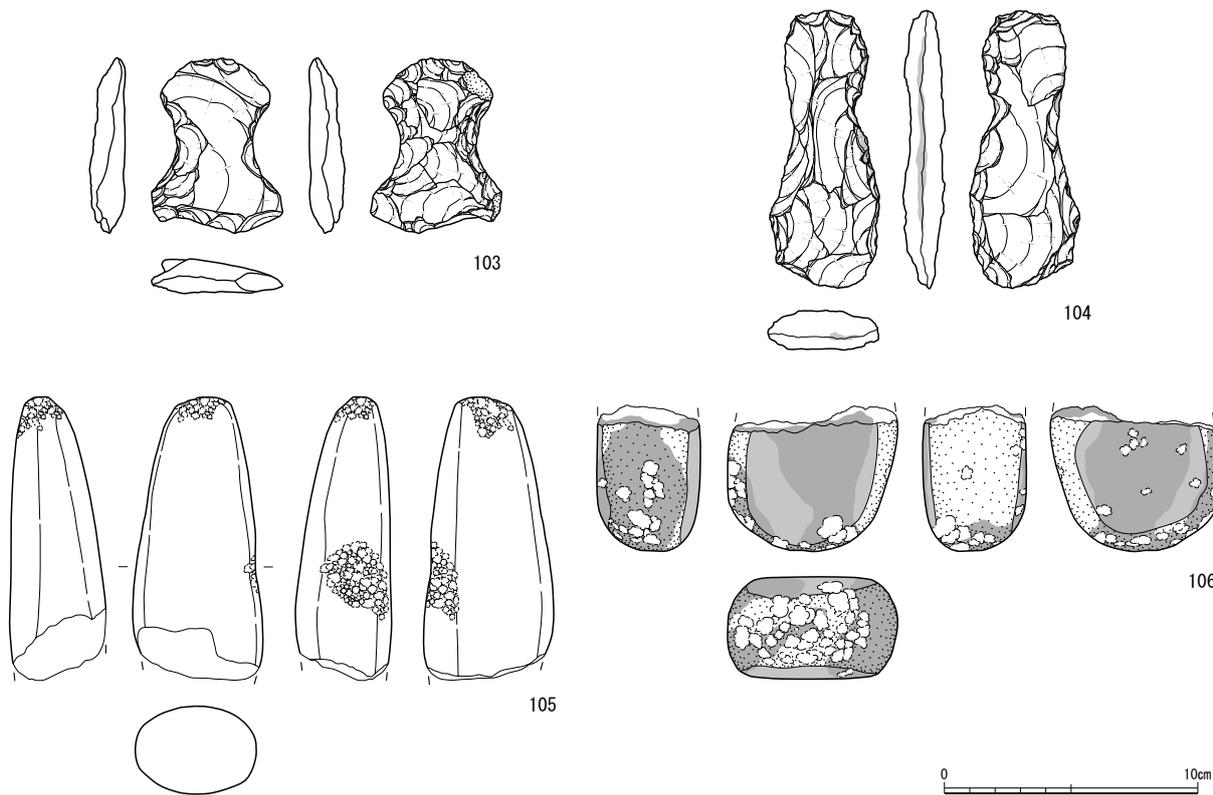
第91図 遺構外出土遺物3 (1/3)



0 10cm
(80~100)

0 10cm
(101・102)

第92図 遺構外出土遺物4 (1/4・1/3)



第93図 遺構外出土遺物5 (1/3)

図版番号	種別器種	法量 (cm)	色調	胎土	焼成	製作の特徴等	出土位置	時期
第89図1	深鉢	—	灰褐 5YR4/2	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・長石・繊維	良好	外面縦位の条痕／内面縦位の条痕後，横ナデ	A-3 グリッド 確認面	縄文 早期 末葉
第89図2	深鉢	—	にぶい赤褐 5YR5/4	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・繊維	良好	外面斜位及び縦位の貝殻条痕／内面貝殻条痕後，ナデ	E-7 グリッド カク	縄文 早期 末葉
第89図3	深鉢	—	褐灰 7.5YR4/1	白色粒子・黒色粒子・小礫・繊維	良好	外面斜位及び縦位の貝殻条痕後，ナデ／内面斜位の貝殻条痕／内外面凹凸が認められる	B-3・4 グリッド	縄文 早期 末葉
第89図4	深鉢	—	橙 7.5YR6/6	白色粒子・黒色粒子・繊維	良好	外面縦位の貝殻条痕後，ナデ／内面斜位の貝殻条痕	5J	縄文 早期 末葉
第89図5	深鉢	—	明褐 7.5YR5/6	白色粒子・黒色粒子・繊維	良好	外面縦位の貝殻条痕後，ナデ／内面横ナデ，成形時の凹凸を残す	表採	縄文 早期 末葉
第89図6	深鉢	—	褐 7.5YR4/4	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・長石・微繊維	良好	外面横位及び斜位の条痕後，ナデ／内面横ナデ／成形時の凹凸を残す	B-5 グリッド	縄文 早期 末葉
第89図7	深鉢	—	にぶい橙 7.5YR6/4	白色粒子・黒色粒子・繊維	良好	外面縦位貝殻条痕／内面斜位の貝殻条痕後，横ナデ	B-3・4 グリッド	縄文 早期 末葉
第89図8	深鉢	—	にぶい黄褐 10YR5/3	白色粒子・黒色粒子・長石・繊維	良好	外面斜位及び縦位の貝殻条痕／内面横位及び斜位の貝殻条痕	D-7 グリッド	縄文 早期 末葉
第89図9	深鉢	—	にぶい赤褐 5YR5/4	白色粒子・黒色粒子・長石・繊維	良好	外面斜位及び横位貝殻条痕／内面縦位貝殻条痕	A・B-5 グリッド	縄文 早期 末葉
第89図10	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR5/3	白色粒子・長石・小礫	良好	内外面斜位の貝殻条痕後，ナデ	A・B-5 グリッド	早期 末葉

第35表 遺構外出土土器一覧 (1)

第3章 検出された遺構と遺物

図版番号	種別 器種	法量 (cm)	色調	胎土	焼成	製作の特徴等	出土位置	時期
第 89 図 11	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR5/3	白色粒子・赤色 粒子・繊維	良好	内外面ナデ／成形時の凹凸を残す	283JD	縄文 早期 末葉
第 89 図 12	深鉢	—	にぶい橙 7.5YR6/4	白色粒子・黒色 粒子・繊維	良好	外面縦位の貝殻条痕／内面ナデ、磨 滅が激しい	74H	縄文 早期 末葉
第 89 図 13	深鉢	—	にぶい橙 7.5YR7/4	白色粒子・黒色 粒子・繊維	良好	外面斜位の貝殻条痕後、内面斜位の 貝殻条痕、成形時の凹凸を残す	C-8 グリッド	縄文 早期 末葉
第 89 図 14	深鉢	—	灰褐 7.5YR5/2	白色粒子・黒色 粒子・小礫・繊 維	良好	外面斜位の貝殻条痕後、ナデ／内面 縦位の貝殻条痕後、ナデ	20Y	縄文 早期 末葉
第 89 図 15	深鉢	—	赤褐 5YR4/6	白色粒子・黒色 粒子・繊維	良好	外面斜位の貝殻条痕／内面縦位の 貝殻条痕	A-2 グリッド	縄文 早期 末葉
第 89 図 16	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR5/4	白色粒子・黒色 粒子・長石・繊 維	良好	外面斜位の貝殻条痕／内面斜位の 貝殻条痕	74H	縄文 早期 末葉
第 89 図 17	深鉢	—	にぶい橙 7.5YR7/4	白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子・ 繊維	良好	外面縦位の貝殻条痕／内面斜位の 貝殻条痕	A・B-5 グリッド	縄文 早期 末葉
第 89 図 18	深鉢	—	にぶい橙 7.5YR6/4	白色粒子・黒色 粒子・長石・繊 維	良好	外面横位の条痕／内面縦位の条痕	B-2 グリッド	縄文 早期 末葉
第 89 図 19	深鉢	—	にぶい赤褐 5YR4/4	白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子・ 小礫・繊維	良好	外面斜位の貝殻条痕	A-3 グリッド	縄文 早期 末葉
第 89 図 20	深鉢	—	にぶい黄褐 10YR5/4	白色粒子・黒色 粒子・小礫・繊 維	良好	外面擦痕状の調整／内面条痕後、ナ デ	68H	縄文 早期 末葉
第 89 図 21	深鉢	—	にぶい黄褐 10YR5/3	白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子・ 繊維	良好	内外面縦位条痕後、ナデ	確認面 5	縄文 早期 末葉
第 90 図 22	深鉢	—	にぶい黄褐 10YR5/4	白色粒子・黒色 粒子・繊維	良好	内外面条痕後、ナデ／内面成形時の 凹凸を残す	B-3・4 グリッド	縄文 早期 末葉
第 90 図 23	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR5/4	白色粒子・黒色 粒子・繊維	良好	外面斜位及び縦位条痕後、ナデ／内 面横ナデ	C-6 グリッド 攪乱	縄文 早期 末葉
第 90 図 24	深鉢	—	灰黄褐 10YR4/2	白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子・ 繊維	良好	内外面横ナデ	74H カマド	縄文 早期 末葉
第 90 図 25	深鉢	—	にぶい橙 7.5YR6/4	白色粒子・黒色 粒子・白色針状 物質・繊維	良好	外面縦位の貝殻条痕後、ナデ／内面 斜位の貝殻条痕後、ナデ	22Y	縄文 早期 末葉
第 90 図 26	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR5/4	白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子・ 白色針状物質	良好	外面刺突が施される／内面横ナデ	攪乱	縄文 早期 末葉
第 90 図 27	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR5/3	白色粒子・黒色 粒子・繊維	良好	外面縦位の条痕後、ナデ／内面ナデ ／丸底の底部	TR-4 攪乱	縄文 早期 末葉
第 90 図 28	深鉢	—	灰黄褐 10YR6/2	白色粒子・長石・ 小礫	良好	外面斜位及び縦位の条痕後、横走す る刺突列を施す／内面斜位の擦痕 を残す	25Y	縄文 早期 末葉
第 90 図 29	深鉢	—	にぶい赤褐 5YR5/4	白色粒子・黒色 粒子・繊維	良好	外面縦位の貝殻条痕／内面ナデ、磨 滅が激しい	78H	縄文 早期 末葉
第 90 図 30	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR5/4	白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子・ 繊維	良好	外面斜位の条痕／内面縦位の条痕 後、横ナデ	A・B -3・4 検出面	縄文 早期 末葉
第 90 図 31	深鉢	—	灰褐 7.5YR4/2	白色粒子・黒色 粒子・小礫・繊 維	良好	外面斜位及び縦位の貝殻条痕／内 面横位の貝殻条痕後ナデ	B-3 グリッド	縄文 早期 末葉

第 35 表 遺構外出土土器一覧（2）

図版番号	種別 器種	法量 (cm)	色調	胎土	焼成	製作の特徴等	出土位置	時期
第90図32	深鉢	—	にぶい黄褐 10YR5/3	白色粒子・黒色 粒子・繊維	良好	外面斜位の条痕後, ナデ/内面ナデ	TR-1 攪乱	縄文 早期 末葉
第90図33	深鉢	—	褐 7.5YR4/3	白色粒子・赤色 粒子・小礫・微 繊維	良好	外面斜位の条痕後, ナデ/内面斜位 のナデ	確認面	縄文 早期 末葉
第90図34	深鉢	—	橙 7.5YR6/6	白色粒子・黒色 粒子・小礫・繊 維	良好	外面斜位の条痕後, ナデ/内面縦位 及び斜位の条痕後, ナデ	D-6 グリッド	縄文 早期 末葉
第90図35	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR5/3	白色粒子・赤色 粒子・小礫・繊 維	良好	外面縦位の貝殻条痕/内面横ナデ	B-2 グリッド 攪乱	縄文 早期 末葉
第90図36	深鉢	—	にぶい黄褐 10YR4/3	白色粒子・赤色 粒子・小礫・繊 維	良好	外面斜位の条痕後, ナデ/内面横位 の条痕	25Y	縄文 早期 末葉
第90図37	深鉢	—	にぶい黄褐 10YR5/4	白色粒子・黒色 粒子・繊維	良好	外面斜位の条痕後, ナデ/内面横位 の条痕/口唇部に貝殻腹縁による キザミを施す/口縁部直下に一对 の焼成後穿孔がなされる	D-7 グリッド	田戸 上層
第90図38	深鉢	—	にぶい黄褐 10YR4/3	砂礫粒子・石英 粒子	良好	外面は棒状工具で軽く抑え調整を 施し, 口唇部内面から外面にかけて 縦位に細い紐状粘土を貼付する	B-5 グリッド 確認面	縄文 早期 末葉
第90図39	深鉢	—	褐灰 7.5YR4/1	白色粒子・雲母 粒子	良好	RL 縄文横位回転施文の後, 半截竹 管による併走する横走沈線文と, そ れに沿う扁平な浮線文	74H	縄文 前期 前葉
第90図40	縄紋 深鉢	—	赤褐 5YR4/6	白色粒子	良好	無節R施文後, 結節浮線文を配す る	21Y	諸磯c
第90図41	深鉢	—	明褐 7.5YR5/6	白色粒子・雲母 粒子	良好	貝殻腹縁による刺突後, 沈線により 菱形のモチーフを描き, 間を磨消 す	71H カマド 周辺	縄文 前期 後葉
第90図42	深鉢	—	にぶい赤褐 5YR4/4	白色粒子・雲母 粒子	良好	単沈線による細かい斜行集合沈線 文の後, 半截竹管腹による併走する 半隆起線文	79H カマド	五領 ヶ台
第90図43	深鉢	—	にぶい黄褐 10YR5/4	白色粒子	良好	稜頂に細かい刻み目文を持つ貼付 け隆帯による縦位区画と, 半截竹管 腹による重区画文・区画内に三叉 刻み目文と細かい連続刻み目文	24Y	勝坂Ⅲ
第90図44	深鉢	—	にぶい赤褐 5YR5/4	白色粒子	堅固	併走する垂下沈線文と楕円区画文 /区画内にキャタピラ文が充填さ れる	21Y	勝坂Ⅲ
第90図45	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR5/4	白色粒子	良好	鬚状文	24Y	縄文 中期 初頭
第90図46	深鉢	—	褐灰 7.5YR4/1	白色粒子・雲母 粒子	良好	「く」の字に直立気味の口縁部に半 截竹管によるキャタピラ文	21Y	縄文 中期 前葉
第90図47	注口	—	黒褐 7.5YR3/2	白色粒子	良好	片口を持つ注口形を呈すると考え られる/橋状把手を持つと考えら れ, 併走する刺突文を巡らせる	74H	縄文 後期 前葉
第90図48	深鉢	—	にぶい黄橙 10YR7/4	砂礫粒子	良好	擦糸r縦位回転施文の後, 2条一对 の背割れ隆帯による楕円区画文	21Y	加曽利 EⅡか
第90図49	深鉢	—	にぶい橙 5YR6/4	白色粒子	良好	LR 縄文横位回転施文の後, 併走す る深い弧状沈線文	21Y	縄文 中期 後葉
第90図50	深鉢	—	にぶい橙 7.5YR6/4	砂礫粒子	良好	RL 縄文縦位回転施文の後, 磨消し 無文帯を伴う併走する垂下沈線文	25Y	加曽利 EⅢ
第90図51	深鉢	—	明褐 5YR5/6	褐色粒子	良好	RL 縄文縦位回転施文の後, 狭い磨 消し無文帯を伴う併走する垂下沈 線文	22Y	加曽利 EⅡ
第90図52	深鉢	—	にぶい赤褐 5YR4/3	白色粒子・雲母 粒子	良好	LR 縄文縦位回転施文の後, 磨消し 無文帯を伴う併走する垂下沈線文	22Y	加曽利 EⅢ
第90図53	深鉢	—	にぶい黄褐 10YR6/4	砂礫小粒少	良好	櫛歯条線による縦走波状文/輪積 み断面に刻みを施す	24Y	曾利Ⅲ
第91図54	深鉢	—	灰褐 7.5YR4/2	白色粒子	良好	内接する口縁部を呈し, 口唇部と外 面口縁部直下に単沈線による楕円 区画文/外面はLR 縄文充填施文	B-3・4 グリッド 確認面	称名寺 I

第35表 遺構外出土土器一覧(3)

第3章 検出された遺構と遺物

図版番号	種別 器種	法量 (cm)	色調	胎土	焼成	製作の特徴等	出土位置	時期
第91図55	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR5/4	白色粒子	良好	単沈線による併走する横走区画内に、連続刺突文	72H	称名寺Ⅱ
第91図56	深鉢	—	にぶい橙 7.5YR6/4	砂礫粒子	良好	RL 縄文回転施文の後、併走する単沈線による重区画文/区画外は丁寧なヘラミガキによる平滑化	B-2 グリッド 攪乱	称名寺Ⅱ
第91図57	深鉢	—	にぶい黄褐 10YR5/4	白色粒子	良好	幅の広い併走する横走沈線文の後、沈線文間に斜行短沈線文で充填	21Y	縄文後期
第91図58	深鉢	—	にぶい黄褐 10YR6/4	白色粒子	良好	波状口縁を呈し、細かいRL 縄文施文回転施文の後、太めの単沈線により蛇行区画文/蛇行区画に合わせて焼成前穿孔部を有する	72H	称名寺Ⅰ
第91図59	深鉢	—	にぶい橙 7.5YR6/4	白色粒子	良好	単沈線による意匠文	25Y	縄文後期 初頭
第91図60	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR5/4	白色粒子・雲母 粒子	良好	端部が短く内折する口縁部から、直線的に底部へと向かう胴部にかけて、太い併走する沈線による垂下文	D-6 グリッド	縄文後期 前葉
第91図61	深鉢	—	にぶい黄橙 10YR7/4	砂礫大小粒少	良好	口縁部直下に併走する横走沈線文間に円形刺突文で充填し、以下に斜行沈線文	21Y	縄文後期 前葉
第91図62	深鉢	—	明黄褐 10YR7/6	白色粒子	堅固	併走する横走沈線文間に細く浅い斜行刻目文を施した後、扁平な貼付け8字文	C-8 グリッド	堀之内
第91図63	深鉢	—	明褐 7.5YR5/6	白色粒子	良好	内面口縁部に横走沈線文/外面に摘み上げ隆帯稜頂に連続刻目文/口唇部に8の字貼付文	22Y	縄文後期 前葉
第91図64	深鉢	—	にぶい黄橙 10YR7/3	白色粒子	良好	口縁部内面に横走沈線文/外面口縁部直下に稜の低い貼付け隆帯と連続刻目文	70H	堀之内 2
第91図65	深鉢	—	にぶい橙 7.5YR7/4	砂礫粒子	良好	櫛歯様条線による円文と中央に垂下文	80H	堀之内 1
第91図66	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR5/4	白色粒子・石英 粒子	良好	口縁部内面に浅い横走沈線文/外面口縁部直下に稜頂に連続刻目文を持つ摘み上げ隆帯/以下に丁寧なヘラミガキによる無文帯を挟み、LR 縄文横位回転施文と横走沈線文	確認面	堀之内 2
第91図67	深鉢	—	にぶい橙 7.5YR7/4	白色粒子・雲母 粒子	良好	併走する太い沈線文によるV字文	21Y	堀之内 1
第91図68	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR5/3	白色粒子・砂礫 粒子	良好	併走する横走沈線文	23Y	堀之内
第91図69	深鉢	—	灰褐 7.5YR5/2	白色粒子・雲母 粒子	堅固	単沈線による格子目文	22Y	堀之内
第91図70	深鉢	—	明黄褐 10YR7/6	白色粒子・砂礫 粒子	良好	併走する太めの沈線文と円形刺突文	21Y 北西	堀之内 1
第91図71	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR5/4	白色粒子	堅固	単沈線による楕円区画文と区画内に縦位沈線文を充填	70H	堀之内
第91図72	深鉢	—	にぶい橙 7.5YR6/4	白色粒子	良好	横位の烈点文	TR-4 攪乱	堀之内
第91図73	深鉢	—	灰褐 7.5YR4/2	白色粒子・雲母 粒子	堅固	RL 縄文横位回転施文の後、細い横走沈線文による区画文/区画外に丁寧なヘラミガキによる平滑化	25Y	縄文後期 初頭
第91図74	深鉢	—	にぶい橙 5YR6/4	白色粒子	堅固	併走する沈線文間に細かいLR 縄文を充填施文	25Y 周溝	縄文後期 初頭
第91図75	深鉢	—	褐灰 7.5YR4/1	白色粒子・雲母 粒子	良好	単沈線による併走する斜行沈線文	80H	堀之内
第91図76	深鉢	—	にぶい橙 7.5YR7/4	白色粒子	堅固	短く立ち上がる口縁端部を呈し、口唇部は刻目により波状口縁を呈する/内面に併走する沈線文による幅の狭い横走帯を構成し、一段おきに隙間なく細かい連続刻目文で充填する/外面は丁寧なミガキにより平滑化され、併走する横走沈線文	D-7 グリッド	加曽利 B1

第35表 遺構外出土器一覧(4)

図版番号	種別 器種	法量 (cm)	色調	胎土	焼成	製作の特徴等	出土位置	時期
第91図77	深鉢	—	黒褐 7.5YR3/1	白色粒子・雲母 粒子	堅固	短く立ち上がる口縁端部を呈し、口 唇部は刻目により波状口縁を呈す る／内面に併走する沈線文による 幅の狭い横走帯を構成し、一段おき に隙間なく細かい連続刻目文で充 填する／外面は丁寧なミガキによ り平滑化される	C-8 グリッド 攪乱	加曽利 B1
第91図78	浅鉢	—	黒褐 7.5YR3/2	白色粒子	良好	内面に稜頂平坦な貼付け隆帯と併 走する横走沈線文と連続刺突文／ 外面に断面三角形の貼付け隆帯稜 頂に連続刺突文	74H	加曽利 B1
第91図79	深鉢	—	灰褐 5YR4/2	白色粒子	堅固	横帯文間に細かいRL縄文を充填さ せ、横走沈線文を共有しながらク ランク文により従位区画する／内面 に併走する沈線文間に浅い連続刻 目文	B-5 グリッド	加曽利 B1
第91図80	深鉢	—	褐灰 7.5YR4/1	白色・褐色粒子	堅固	内外面に細かいLR縄文横位回転施 文の後、併走する横走沈線文／沈線 文区画外は丁寧なヘラミガキによ る平滑化	C-8 グリッド	加曽利 B1
第91図81	深鉢	—	黒褐 7.5YR3/1	白色粒子	堅固	短く内折する口唇部に浅い連続刻 目文／併走する半截竹管背による 沈線文	C・D-7 グリッド 攪乱	加曽利 B1
第92図82	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR5/3	白色粒子	堅固	外面に細かいLR縄文横位回転施文 の後、細い併走する横走沈線文／内 面に併走する沈線文間に一段おき に浅い連続刻目文	確認面	加曽利 B1
第92図83	深鉢	—	褐灰 7.5YR4/1	白色粒子	良好	短く内折する口縁部を呈し、平坦な 稜頂に浅い連続刻目文を持つ貼付 け隆帯	22Y	縄文 後期 後葉
第92図84	深鉢	—	黒褐 10YR3/1	白色粒子	堅固	8本一組の櫛歯様工具による並行 沈線文を横斜位に配し、結合部に連 続刺突文の後、磨消し無文帯による 縦S字文	74H	縄文 後期 後葉
第92図85	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR5/3	白色粒子	良好	細い単沈線による格子目文の上下 端に太めの併走する横走沈線文で 区画	C-8 グリッド	縄文 後期 後葉
第92図86	注口	—	灰褐 7.5YR4/2	白色粒子・雲母 粒子	良好	丁寧なミガキによる平滑化が施さ れ、基部裏面に瘤様の貼付文が2 つ、表面に1つ貼付される	攪乱	堀之内
第92図87	深鉢	—	浅黄橙 7.5YR8/4	白色粒子	良好	口縁部の渦巻状突起頂部にキザミ を有する摘み上げ隆帯を横走の後、 紐状貼付け隆帯による8の字文	C-8 グリッド	堀之内 1
第92図88	深鉢	—	灰褐 7.5YR4/2	白色粒子・石英 粒子	良好	頸部括れ部に併走する横走沈線文 の後、貼付け隆帯による縦8の字文 ／稜頂と側縁に沈線文	No.436	堀之内 1
第92図89	深鉢	—	にぶい橙 7.5YR7/3	白色粒子・赤褐 色粒子	良好	口縁部突起／円形刺突文を起・終 点に配し、太い短沈線で連結する	70H	堀之内 1
第92図90	注口	—	浅黄橙 7.5YR8/4	白色粒子・赤褐 色粒子	良好	片口を持つ注口形を呈すると考え られる／橋状把手を持つと考えら れ、併走する刺突文を巡らせる	74H	堀之内
第92図91	深鉢	—	にぶい黄褐 10YR6/4	白色粒子	良好	折り返しによる肥厚する口縁部に 半截竹簡によるキャタピラ文	TR-1 攪乱	安行 Ⅲc
第92図92	深鉢	—	にぶい褐 7.5YR5/4	白色粒子・砂礫 粒子	良好	LR縄文回転施文の後、併走する沈 線文による格子目文	22Y	縄文 晩期 初頭
第92図96	壺	—	にぶい橙 7.5YR6/4	白色粒子・黒色 粒子	良好	折り返し口縁／口唇部及び口縁部 外面単節羽状縄文を横位施文／口 縁部外面棒状浮文と円形朱文を配 する／内面無文部赤彩	80H カマドA	弥生 後期

第35表 遺構外出土土器一覧(5)

第3章 検出された遺構と遺物

図版番号	種別 器種	法量 (cm)	色調	胎土	焼成	製作の特徴等	出土位置	時期
第92図97	壺	—	にぶい橙 5YR6/4	白色粒子・黒色 粒子・シャモツ ト	良好	口縁部を折り返す／口縁部外面及 び口唇部にLRを横位施文する／口 縁部縄文帯上には円形朱文を配し、 下端はハケ状工具でキザミを施す ／無文部内外面赤彩	B-5 グリッド 確認面	弥生 後期
第92図98	高杯?	—	にぶい赤褐 5YR5/4	白色粒子・黒色 粒子・シャモツ ト	良好	外面輪積状に折り返す／口縁部外 面RLを横位施文し、下端にキザミ を施す／無文部内外面赤彩	72H 掘り方	吉ヶ谷
第92図99	壺	—	にぶい黄橙 10YR6/3	白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子・ 小礫	良好	下端にS字状結節を伴う単節羽状 縄文を横位施文し、その縄文帯上 に、赤彩された円形浮文と円形朱文 を配する／無文部は赤彩	C-8 グリッド	弥生 後期
第92図100	甕	—	にぶい赤褐 5YR5/3	白色粒子・黒色 粒子	良好	内外面ハケ調整後、ナデ／口唇部に ヘラ状工具でキザミを施す	80H カマドA	弥生 後期
第92図101	土師器 坏	器高: [4.9] 口径: (10.5)	赤褐 2.5YR4/6	白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子	良好	外面ヘラケズリ／口縁部内外面強 い横ナデ／内外面赤彩	75H	古墳 後期 (6c 前葉)
第92図102	須恵器 坏	器高: [3.5] 口径: (14.3) 底径: (8.0)	褐灰 10YR5/1	白色粒子・黒色 粒子・白色針状 物質・小礫	良好	内外面ロクロナデ／底部外面回転 糸切り後、周辺部回転ヘラケズリ	225JD	奈良 (8c 中葉)

第35表 遺構外出土土器一覧(6)

図版番号	器種	法量 (cm)	色調	重さ (g)	製作の特徴等	出土位置	時期
第92図93	土器 片錘	長さ: 3.71 幅 : 3.80 厚さ: 0.67	灰黄褐色 10YR 5/2	12.79	ナデ調整／無文	B-5 グリッド 確認面	縄文
第92図94	土器 片錘	長さ: 2.60 幅 : 2.80 厚さ: 0.65	にぶい黄褐 10YR5/4	7.16	RL縄文施文	22Y	縄文
第92図95	土器 片錘	長さ: 3.77 幅 : 3.70 厚さ: 0.79	灰黄褐色 10YR 5/2	19.23	稜の低い貼付け隆帯の後、太い指ナデ 様の側縁沈線文	24Y	縄文

第36表 遺構外出土土製品一覧

図版番号	器種	法量 (cm)	石材	質量 (g)	遺存 度	製作の特徴等	出土 位置
第93図103	打製石斧	長さ: 7.1 幅 : 5.3 厚さ: 1.4	安山岩	47.67	完存	小型の分銅型を呈し、表面に広く主要剥離面を 残し、周縁に細かい剥離調整を施す	A-5 グリッド
第93図104	打製石斧	長さ: 11.1 幅 : 4.4 厚さ: 1.6	安山岩	77.46	完存	細身で裏面に広く主要剥離面を残し、周縁に細 かい剥離調整を施す／左右挟り部に、磨滅痕を 残す	C・D-4 グリッド
第93図105	磨製石斧・ 敲石	長さ: [11.2] 幅 : 5.1 厚さ: 3.9	安山岩	347.52	刃部 欠損	前面に丁寧な研磨を施し、刃部を欠損する／基 部と右側面に細かく浅い敲打痕を残す／磨製石 斧の刃部欠損に伴う、転用の可能性がある	B-3 グリッド
第93図106	磨石・敲石	長さ: [5.8] 幅 : 6.6 厚さ: 4.1	花崗岩	251.17	半分 欠損	表裏面中央に広く磨滅痕を残し、その後左側面 と下側面を中心に細かく浅い敲打痕を残す／表 裏面左側・欠損断面部に被熱の痕跡が確認でき る／切断面が被熱したことより、欠損してから 被熱したと考えられる	C-8 グリッド

第37表 遺構外出土土器一覧

第4章 調査のまとめ

今回の調査では、縄文時代早期末葉から古代までの遺構と遺物が確認された。縄文時代では早期の炉穴と中期中葉の住居跡が1軒と土坑が検出された。土坑の多くは(A・B-3・4)グリッド周辺に密集し、激しい重複が認められた。明確なものは加曽利E式から称名寺式のものである。ただし、217号土坑に代表されるように、加曽利EⅣ式と称名寺I式の古段階の土器が供出しており、細かな時期を決することのできないものも多かった。156号土坑は遺物の出土状況から墓壇であった可能性が高いと思われる。

また227号土坑は焼土とともに、口縁部と胴下半部を打ち欠いた加曽利EⅢ式が出土している。出土状況から、すでに覆土は失われているが、住居跡の炉跡の可能性が高いであろう。

包含層中及び他の遺構からは縄文時代早期から晩期に至る各時期の土器が出土したが、多くは遺構の主体的な時期である早期末葉と中期中葉から後期前葉にかけての遺物が多い。遺構は検出されなかったが、早期田戸上層式、前期諸磯c式・十三菩式・中期五領ヶ台式、後期加曽利B式、晩期安行Ⅲc式も出土したことから今後、これらの時期の遺構が検出される可能性が高いであろう。以下では、ややまとまって出土した早期末葉の土器について見ていきたい。

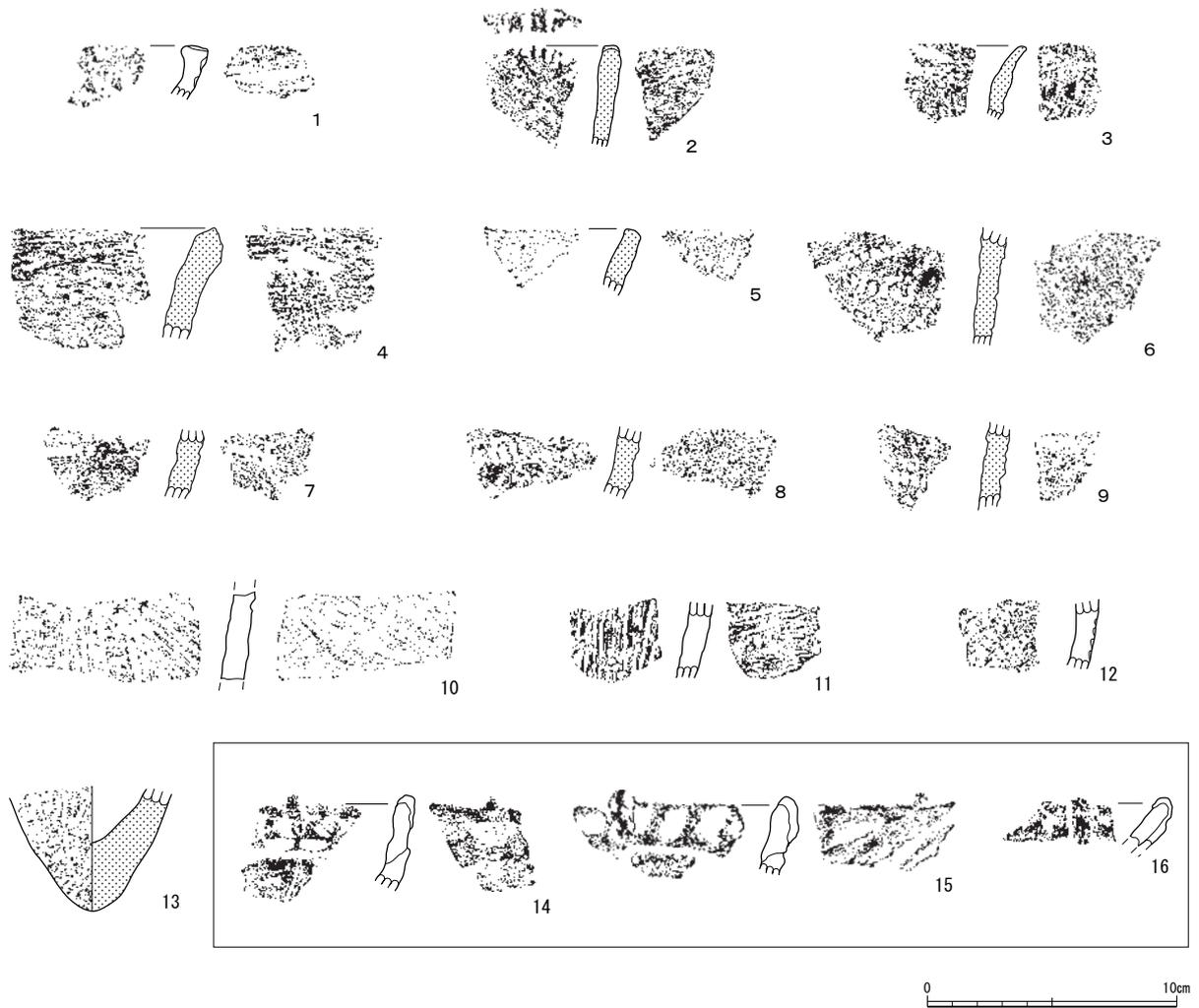
(1) 縄文時代早期末葉の遺構と遺物について

縄文早期の遺構としては、炉穴17基と、土坑7基が確認されている。このほかに、包含層中及び他時期の遺構に流れ込んで多数の当該期の土器が出土している。包含層中の出土状況を見ると、調査区北側の(A・B-3・4)グリッド付近でまとまって検出されている。この場所は縄文時代の土坑が数多く検出された場所であり、早期の遺構がまとまる場所でもある。

炉穴は早期条痕文土器群に主体的に見られる遺構であるが、遺跡での検出状況を見ると、楕円形や円形を呈し、単独で存在するものと、アメーバー状に重複する二者が認められる。今回の調査では、円形及び楕円形を呈し、底面の中央部分ではなく、偏った場所に炉床面を持つものである。周辺では富士見市打越遺跡で炉穴が多数検出されている(荒井・小出 1978・荒井ほか 1983)。打越遺跡の炉穴は本調査区と同様に円形や楕円形を中心とし、炉穴同士の重複はあまり認められないが、複数の炉穴が近接して、群を形成している。今回の調査では調査区が狭いため、即断できないが本遺跡も打越遺跡の在り方に近いものと考えられる。一方大宮台地上にある久喜市小林八束2遺跡ではアメーバー状に作られた炉穴が激しく重複している様子が認められる(山本 2008)。時期は野島式期である。

本調査区検出の遺構は打越遺跡同様に早期末葉の打越式期の所産である。即ち、打越遺跡と本遺跡は同地域の同時期の炉穴である。一方大宮台地の小林八束2遺跡はやや地域が異なり、炉穴の時期も野島式期で古い。このことから炉の形態の違いが時期的あるいは地域的な違いであるか、今後さらなる類例の検討が必要となろう。

遺物は、小破片が多く接合できるものは少なかった。多くは内外面に条痕が施されるだけで、文様を持つものは少数に限られる。以下、限られた資料であるが、その特徴を見ていきたい。



第94図 早期末葉の土器（1／3）

条痕文の特徴について見てみたい。胎土に繊維を含み、内外面に条痕が見られる。条痕は外面が縦位及び斜位に施されるものが多く、内面は横位から斜位のもの多い。条痕は放射肋をもつ貝殻によりつけられたものが多い。フネガイ科のハイガイなどによりつけられたと思われる。条痕の幅にはややバラエティが存在するようである。条痕後は外面の多くが横ナデされている。ナデ消しが強く、条痕が目立たなく、擦痕状の痕跡が認められるものもあるが、完全にはナデ消されてはいない。内面は条痕が明瞭なものが多いが、中にはナデ消されたものが少数存在する。また、内面は成形時の凹凸を残すものもある。

文様が見られるもの少数であるが認められる（第94図）。文様は口唇部及び口縁部直下から胴部上半にかけて認められる。口唇部・口縁部直下に刺突を有するもの（1）。口唇部にキザミを有するもの（2）。胴上半では刺突列（10）、菱形文（9・11）、山形文（6～8・12）が見られる。菱形文や山形文は貝殻腹縁により施されるが、11のように他の工具（偽貝殻腹縁）で同様な効果を上げている。底部は少ない資料から尖底あるいは丸底状を呈していたと思われる（10）。平底のものは出土していない。

茅山上層以降前期花積下層式に至る土器型式の間隙は、東海地方の滋賀県大津市石山貝塚の層位

的な成果をもとに岡本勇氏により指摘がなされた（岡本・戸沢 1965）。その後、その間隙を埋める型式として、下沼部式（安孫子 1982）・打越式（新井・小出 1978）・神之木台式（高橋・吉田 1977）・下吉井式（岡本 1970）などが提唱されている。その中で貝殻腹縁で山形文や菱形文を描く土器として打越式がある。これらの文様施文、胎土に繊維を含まない土器が認められることから打越式期の所産であると思われる。

打越式に関しては荒井幹夫氏により、東海地方の土器の共伴から2細分され（荒井 1978）、その後、新たに3細分された（荒井 1983）。近年では早坂廣人氏が打越1・2・3式として解説を加えている（早坂 2010）。これらによると、貝殻腹縁による山形文を描くことから、早坂氏の打越2式を主体としているであろう。

これらの土器とは別に、当該期の資料と思われるものに繊維を僅かに含むか無繊維の土器がある（第94図14～16）。輪積痕状の口縁部外面に指頭痕を残し、突起を持つ土器である。その出自を詳らかにすることはできず遺構での共伴は認められない。胎土の類似から打越式に伴うか、それより若干新しいものと考えられる。また、他の遺跡を参考にすると、打越式土器には東京都東久留米市の向原遺跡（井口ほか 1986）のように平底の土器や縄文施文の土器が伴うが、明らかにはできなかった。

茅山上層以降の資料は極めて希薄であるが、本遺跡周辺は、打越遺跡を代表に当該期の資料が比較的まとまって出土する地域である。それらを合わせてより細かな分析を行う必要がある。

（2）弥生時代の遺構と遺物について

弥生時代の遺構は住居跡が7軒検出された。弥生時代の住居跡同士で重複は認められない。

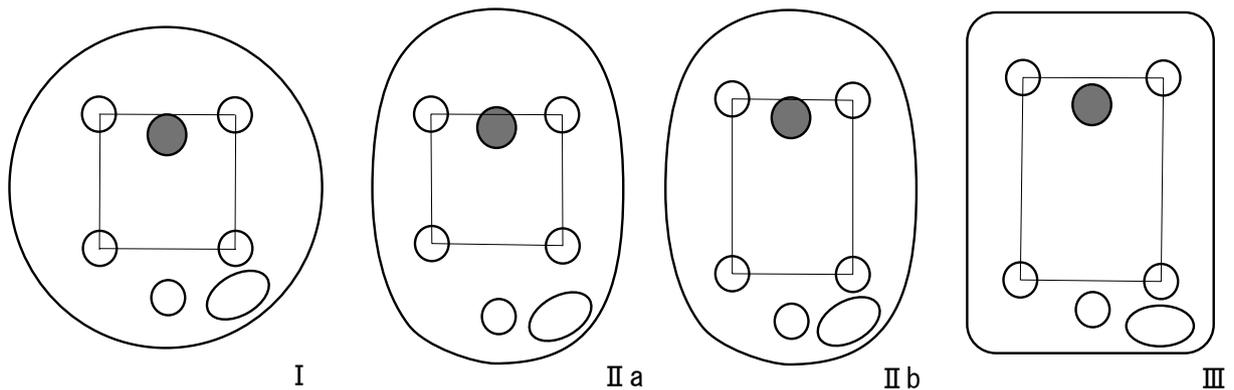
住居跡の平面形は隅丸長方形を基本とするものと円形に近いものに分けることができる。ただし、大半が調査区外であるが23号住居跡のように長方形に近いものも存在する。大半が調査できた住居跡を基準にすると、平面形に違いは見出せるが、柱穴・炉跡・貯蔵穴・入り口部の配置は共通している。柱は4本支柱の住居跡である。炉跡は地床炉で、住居中央からやや壁際によった位置に築かれている。平面プランが隅丸長方形の場合は短辺側で、多くの場合が2つの柱穴を結んだライン上に位置している。入り口部のピットは炉跡の反対側の壁際に位置する。貯蔵穴は入り口部から見て、入り口部のピットの右脇に位置する。

以上のことを模式化すると第95図のようになる。

- I 類 平面形は円形に近く、支柱穴を結ぶ線が方形になるもの。
- II a 類 平面形は小判型に近く、支柱穴を結ぶ線が方形になるもの。
- II b 類 平面形は小判型に近く、支柱穴を結ぶ線が長方形になるもの。
- III 類 平面形は隅丸長方形で、支柱穴を結ぶ線が長方形になるもの。

今回の調査ではI類が21・24号住居跡、II a類が20号住居跡、II b類が22号住居跡にそれぞれ相当するであろう。III類に関しては見出すことができなかった。ただし平面形だけから行けば23号住居跡が該当するが大半が調査区外に位置するため詳細は不明である。周辺の遺跡では全形が判明しているものでは、II a・II b類が多い。平面形だけではI類も存在するが柱穴の配置が不明確である。

III類は当該地域では認められないが、同時期の比企丘陵に展開する吉ヶ谷式期の住居跡に多く認



第95図 弥生時代住居模式図

められる。当遺跡を含め周辺でも、吉ヶ谷式土器が出土していることから、土器の搬入だけでなく、人の移動を考える上で注目する必要がある。

1. 土器について

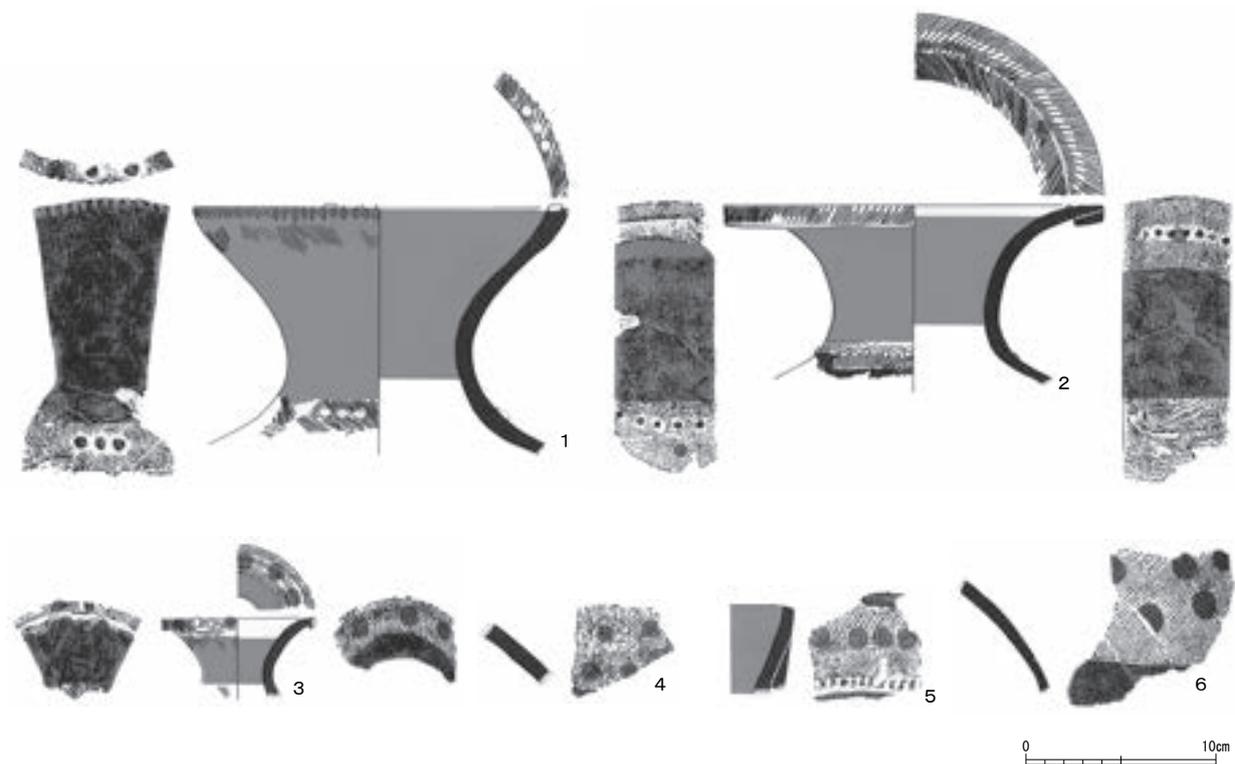
今回の調査で出土した当該期の土器は、いずれも破片であり完形に復元できるものは出土していない。多くは辛うじてその器種が判明するのみである。出土した器種は壺・甕である。また遺構外からではあるが、口縁部破片で高杯の可能性のあるものが出土している（第92図98）。

壺は加飾性が高く多くが赤彩される。口縁部・頸部・胴部上半に帯縄文を主体とした文様を持つ。24号住居跡で頸部の羽状縄文帯の区画文として沈線を施す土器が出土している（第39図1）。それ以外は、縄文のみあるいは結節を伴う縄文帯である。

24号住居跡では頸部の狭い羽状縄文帯の区画として沈線文を施す土器が出土している（第39図1）。また20号住居跡からは口縁部内面に縄文帯を持つ壺が出土している（第29図1）。これとともに破片資料であるが、頸部に結節で区画される縄文帯を持つ壺が出土している（第30図7・8）。20号住居跡の1の土器は類例に乏しく良好の比較資料に恵まれないが、第39図1は久ヶ原2式（鈴木 2009）の範疇でとらえることができる。一方で市原台地の資料を基に大村直氏は帯縄文沈線区画を久ヶ原式、自縄結節区画を山田橋式ととして、後期の編年を再構築した（大村 2004）。ここでは山田橋1式を沈線帯縄文区画から結節区画文への移行期として捉えている。第30図7・8はこの段階にあたる資料と考えられる。現状久ヶ原2式と山田橋1式の帯縄文沈線区画の違いを明確にし得ない状況にあるのでここでは、20・24号住居跡の資料を久ヶ原2式から山田橋1式期の土器と考えておきたい。

これ以外の資料は破片資料が多く全形が判明するものは出土していない。以下破片をつなぎ合わせその特徴を見てみよう。壺は口縁部が複合口縁をなすものが認められ、口唇部及び外面に縄文帯や棒状浮文を付す。頸部及び胴部上半には数帯のやや幅広の縄文帯を持つ。縄文帯の区画文として沈線は用いられず、結節あるいは縄文帯のみである。縄文帯は羽状縄文を重ねているため、幅広の文様帯となる。若干であるが網目状撚糸文も認められる。胴部中位以下は文様帯を持たず赤彩されるのみである。

胴部に幅広の文様帯を持つことから山田橋2式以降の資料と考えられる。このことから20・24



第96図 新宿区下戸塚遺跡出土の円形赤彩文土器（1 / 4）

号住居跡が後期前葉から中葉、それ以外は、後期後葉と大まかにまとめておきたい。

2. 円形赤彩文の特徴について

胴部の縄文帯や口縁部縄文帯に円形赤彩文が等間隔で巡るものが出土している（第29図4、第30図10・11、第32図1）。第29図4と第30図10・11は同一住居跡出土のため、同一個体の可能性がある。口縁部に施された2点はいずれも複合口縁を呈し、棒状浮文とともに用いられる。胴部のものは、幅広の結節羽状縄文帯上に密に間隔を開けずに施しているのを特徴とする。円形赤彩文がまとまって出土している遺跡として神田川右岸の東京都新宿区下戸塚遺跡がある（車崎・松本完 1996）。下戸塚遺跡は弥生時代後期初頭から末葉にかけて継続して集落が営まれた遺跡である。多くの円形赤彩文が見られる（第96図）。本遺跡では見られない口唇部（1）や口縁部内面の縄文帯（2・3）にも円形赤彩文が配される。また、縄文帯上を二段にわたり千鳥状に配するものも認められる（4・6）。多くが円形赤彩文同士の間隔が離れて配置するものが多いが、少数ではあるが、本遺跡出土例のような間隔を開けずに密に施すものがある（5）。時期は後期を通じて認められる。

荒川を挟んだ対岸のさいたま市須黒神社遺跡や中里前原北遺跡でも、円形赤彩文が一定量認められる。間隔を開けず配する例も見られようである。

(3) 古墳時代の遺物について

古墳時代の遺構としては、67・68・69・70・71・75号住居跡の6軒の住居跡が検出された。この内67号住居跡ではカマドからほぼ元位置と思われる出土状態で甕が出土している。これ以外の住居跡からは器形を復元できる甕の出土は残念ながら認められず、坏・高杯が少量出土しているに過ぎない。また、69号住居跡は、図示できる遺物は出土していないが、68号住居跡に先行するこ

とから、当該期の住居跡と考えた。

中野遺跡ではすでに第25地点でそれまでの調査成果をもとに尾形則敏氏により古墳時代後期の土器の変遷がまとめられている（尾形・深井 2001）。これらをもとに住居跡の時期について述べてみたい。

67号住居跡のカマドから出土した甕は、胴部をナデ調整後、縦ミガキを施している。器形は第94図1が胴中位から下位にかけて、2が胴上位から中位にそれぞれ最大径を持つ。口縁部径は胴部最大径より小さい。これらの特徴から、6世紀前葉と考えられる。口縁部があまり開かない坏も同時期と考えて矛盾がない。

次に坏について見てみたい。坏は前述の67号住居跡以外では、68・71・75号住居跡で出土している。75号住居跡出土の坏は口縁部が内湾するものと、口縁部が直立し、端部が外方に開くものが認められる。これらの特徴から5世紀後半の年代と考えられる。68号住居跡の赤彩される坏は口縁部が外方に大きく開く特徴から、7世紀前半のものと考えられる。

70号住居跡出土の高杯は接合部のみの出土で判然としないが、脚部は接合部から直接外方に開かない器形と思われ、またソケット状の接合部を持つことから、鬼高式より和泉式の高杯に近いものと考えられる。単独の出土であるため、ここでは和泉式末から鬼高式初めの所産と考えておきたい。

以上のことから 古墳時代後期の住居跡は70号住居跡（5世紀中～後葉）→75号住居跡・（5世紀後葉）→67・68号住居跡（6世紀前葉）→71号住居跡（6世紀中葉）の変遷をたどるものと思われる。

（4）平安時代の遺物について

平安時代の遺構としては、72～74・76～80号住居跡の8軒の住居跡が検出された。いずれの住居跡からも須恵器の坏が出土している。底部外面の調整技法は底部糸切り後全面回転ヘラケズリ、底部糸切り後周辺部回転ヘラケズリ、底部糸切り痕のみの3種が認められる。

図示した遺物の遺構ごとに伴状況は第38表のとおりである。底部の調整方法に関しては、従前の研究成果から9世紀中葉まで周辺部回転ヘラケズリの土器が認められるとしている（加藤 2013）。口径と底径の大きさを考慮すると底部周辺部回転ヘラケズリと未調整の両者が見られる76号住居跡を9世紀前葉に、底部は未調整であるが、底径が大きい80号住居跡も同時期と考えたい。周辺部回転ヘラケズリを主体とする72号住居跡では、いわゆる武蔵型の甕が出土している。同様に74・78・80号住居跡においても出土している。74・80号住居跡出土の甕は口頸部がコの字状を呈し、

	底部合計	全面ヘラ	周辺ヘラ	未調整
72号住居跡	3	1	2	0
74号住居跡	3	0	0	3
76号住居跡	6	0	1	5
77号住居跡	5	0	0	5
78号住居跡	1	0	0	1
79号住居跡	2	0	0	2
80号住居跡	6	1	0	5

第38表 住居跡出土須恵器坏底部の調整法一覧

頸部と胴部の境に明瞭な段を持つのは、72号住居跡のそれは口頸部がコの字状に至ってなく、頸部と胴部の境も明瞭な段を持たないことから、それらに先行するものである。土師器の甕の様相を加味して8世紀後葉と思われる。

この他に全面回転ヘラケズリされる坏が72・80号住居跡で出土している。底径は6.5cm、7.8cmである。混入であるか、それぞれの時期のこれらの土器が伴うかは今後の課題としたい。

以上のことから平安時代の住居跡は72号住居跡（8世紀後葉）→76・80号住居跡（9世紀前葉）→78号住居跡（9世紀中葉から後葉）→73・74・77・79（9世紀後葉）の変遷をたどるとと思われる。

[引用・参考文献]

- 安孫子昭二 1982 「子母口式土器の再検討」『東京考古』1
- 荒井幹夫・小出輝雄 1978『打越遺跡』富士見市文化財報告第14集 富士見市教育委員会
- 荒井幹夫ほか 1983『打越遺跡』富士見市文化財報告第26集 富士見市教育委員会
- 井口直司ほか 1986『向山遺跡』東久留米市埋蔵文化財調査報告第12集 東久留米教育委員会
- 大村直 2004 「久ヶ原式・山田橋式の構成原理—東京湾岸地域後期弥生土器型式の特質と移住・物流—」『史館』第33号
- 尾形則敏・深井恵子 2001『埋蔵文化財調査報告書2 中野遺跡第25地点』志木市の文化財第31集
- 岡本勇・戸沢充則 1965「3 関東」『日本の考古学Ⅱ 縄文時代』河出書房
- 岡本勇 1970 「下吉井遺跡」『埋蔵文化財調査報告』1 神奈川県教育委員会
- 加藤恭朗ほか 2013『古代人間の土器と遺跡（Ⅱ）』古代人間を考える会
- 車崎正彦・松本完 1996『下戸塚遺跡の調査 第2部 弥生時代から古墳時代前期』早稲田大学校地埋蔵文化財調査室編
- 鈴木正博 2009 「久ヶ原2式への接近」『南関東の弥生土器2～後期土器を考える～』考古学リーダー16 関東弥生時代研究会 埼玉土器観会 八千代栗谷遺跡研究会編 六一書房
- 高橋雄三・吉田哲夫 1977「横浜市神ノ木台遺跡出土の縄文遺物」『調査研究集録』
- 西口正純 1996 『中里前原北遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第176集 財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 浜野美代子 1986 『須黒神社遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第56集 財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査調査事業団
- 早坂廣人 2010「打越式土器の範囲・変遷・年代」『縄文海進の考古学～早期末葉・埼玉県打越遺跡とその時代～』打越式シンポジウム実行委員会編 六一書房
- 山本禎 2008『小林八束1／小林八束2』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第356集 埼玉県 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

版 图



1. 調査区全景



1. 5号住居跡



2. 5号住居跡耳栓出土状態



3. 27号炉穴



4. 29号炉穴



5. 33号炉穴遺物出土状態



6. 156号土坑遺物出土状態



7. 157号土坑遺物出土状態



8. 160号土坑完掘



1. 165号土坑遺物出土状態



2. 172号土坑遺物出土状態



3. 178号土坑



4. 181号土坑



5. 187号土坑遺物出土状態



6. 189号土坑遺物出土状態



7. 195号土坑・41・47号ピット



8. 214・215・216号土坑



1. 217号土坑遺物出土状态



2. 227号土坑遺物出土状态



3. 234号土坑



4. 266号土坑遺物出土状态



5. 20号住居跡



1. 20号住居跡炭化材検出状況



2. 21号住居跡



3. 22号住居跡



4. 23号住居跡



5. 24号住居跡



6. 24号住居跡遺物出土状態



7. 25号住居跡



8. 26号住居跡



1. 67号住居跡



2. 67号住居跡カマド遺物出土状態



3. 68・69号住居跡遺物出土状態



4. 70号住居跡



5. 70号住居跡遺物出土状態



6. 71号住居跡



7. 72号住居跡カマド検出状況



8. 73号住居跡



1. 74号住居跡



2. 74号住居跡遺物出土状態



3. 75号住居跡



4. 76号住居跡遺物出土状態



5. 77号住居跡遺物出土状態



1. 78号住居跡遺物出土状態



2. 79号住居跡炭化材・遺物出土状態



3. 80号住居跡カマド内遺物出土状態



4. 80号住居跡遺物出土状態



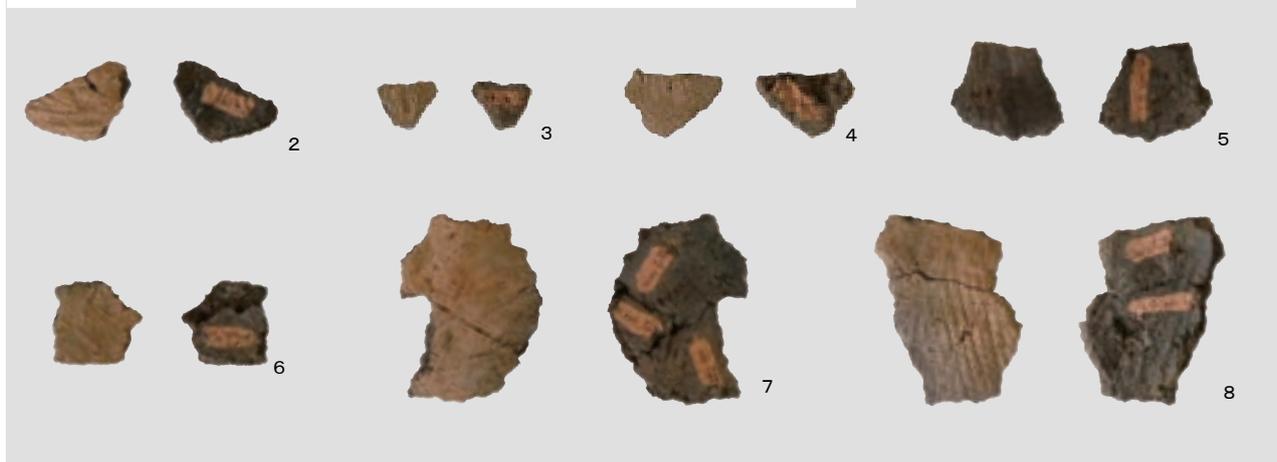
5. 77・80号住居跡



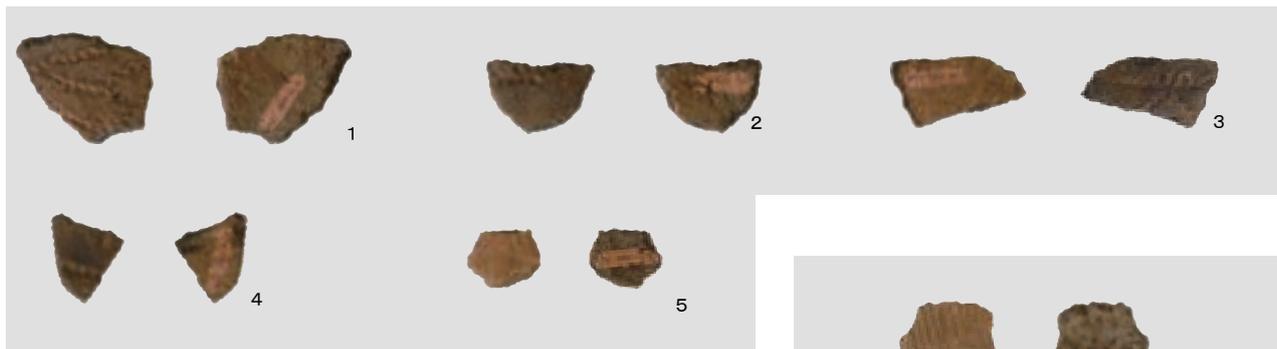
1. 5号住居跡出土遺物



2. 21号炉穴出土遺物



3. 22号炉穴出土遺物



1. 23号炉穴出土遺物



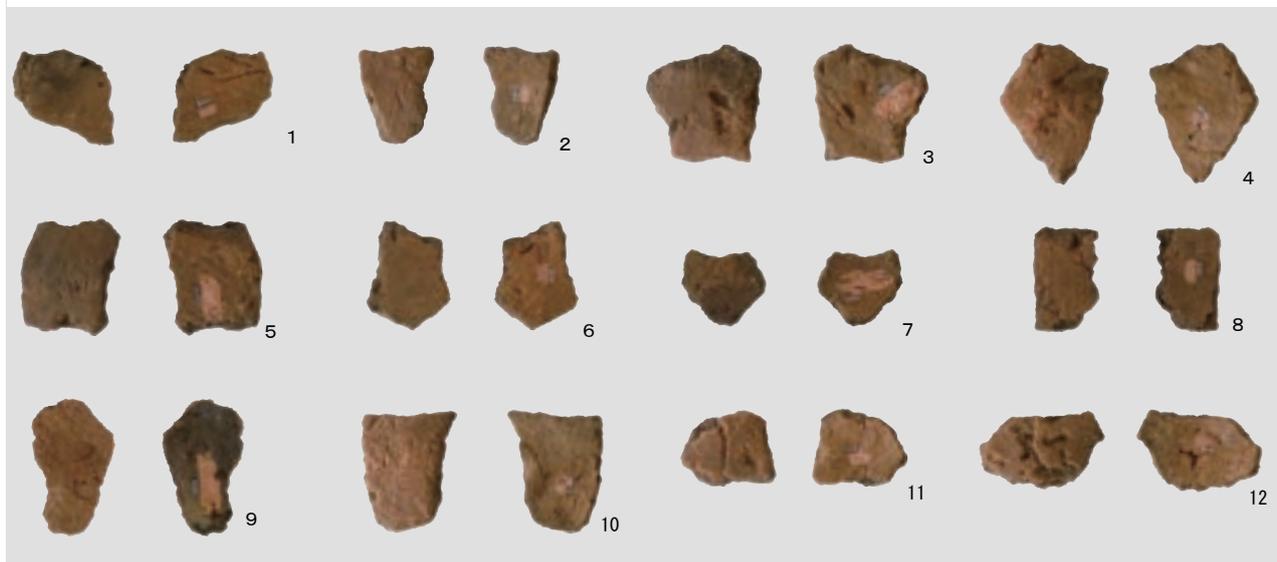
2. 26号炉穴出土遺物



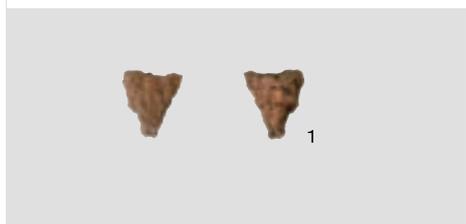
3. 28号炉穴出土遺物



4. 31号炉穴出土遺物



5. 33号炉穴出土遺物



6. 34号炉穴出土遺物



7. 30号炉穴出土遺物



1. 156号土坑出土遺物



2. 157号土坑出土遺物



3. 164号土坑出土遺物



4. 167号土坑出土遺物



5. 172号土坑出土遺物



1. 173号土坑出土遺物



2. 177号土坑出土遺物



3. 178号土坑出土遺物



4. 179号土坑出土遺物



5. 180号土坑出土遺物



6. 181号土坑出土遺物



7. 184号土坑出土遺物



1. 185 号土坑出土遺物



2. 187 号土坑出土遺物



3. 188 号土坑出土遺物



4. 189 号土坑出土遺物



5. 192 号土坑出土遺物



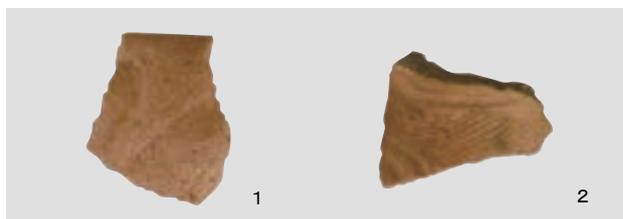
6. 194 号土坑出土遺物



7. 197 号土坑出土遺物



8. 198 号土坑出土遺物



9. 199 号土坑出土遺物



10. 204 号土坑出土遺物



11. 210 号土坑出土遺物



12. 214 号土坑出土遺物



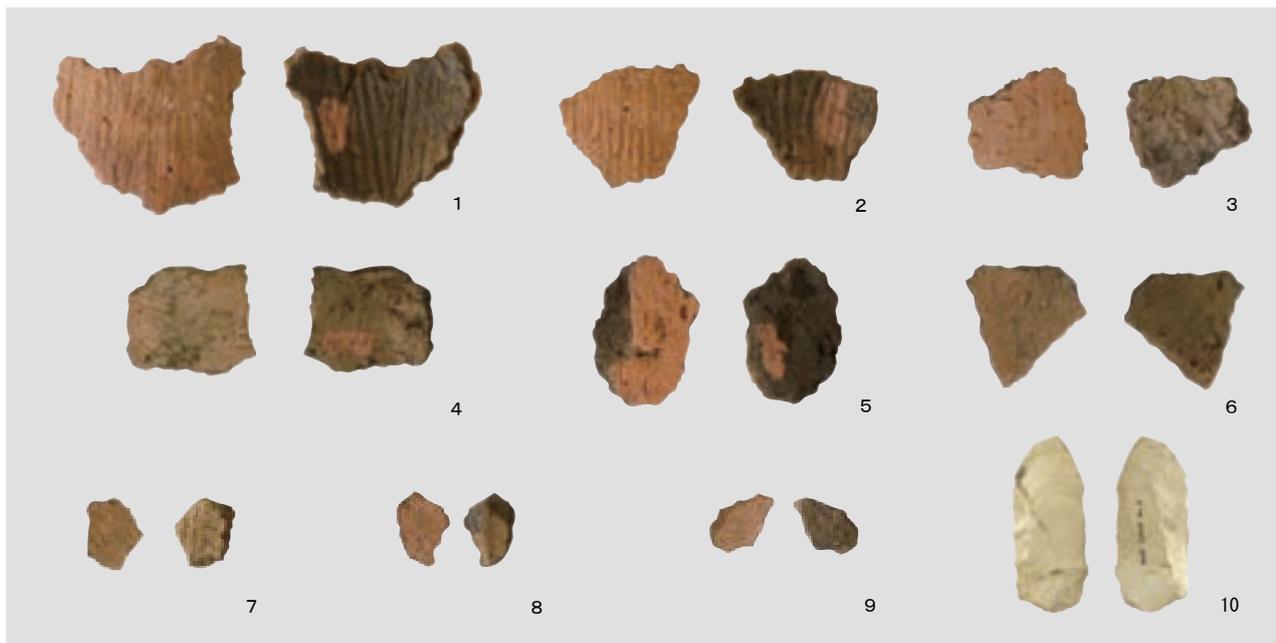
1. 217 号土坑出土遺物



2. 221 号土坑出土遺物



3. 223 号土坑出土遺物



1. 225号土坑出土遺物



2. 227号土坑出土遺物



3. 228号土坑出土遺物



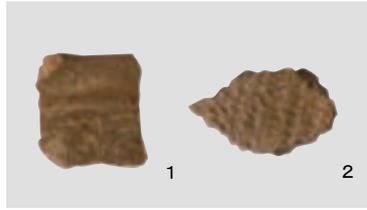
4. 229号土坑出土遺物



5. 234号土坑出土遺物



1. 237 号土坑出土遺物



2. 238 号土坑出土遺物



3. 239 号土坑出土遺物



4. 244 号土坑出土遺物



5. 247 号土坑出土遺物



6. 249 号土坑出土遺物



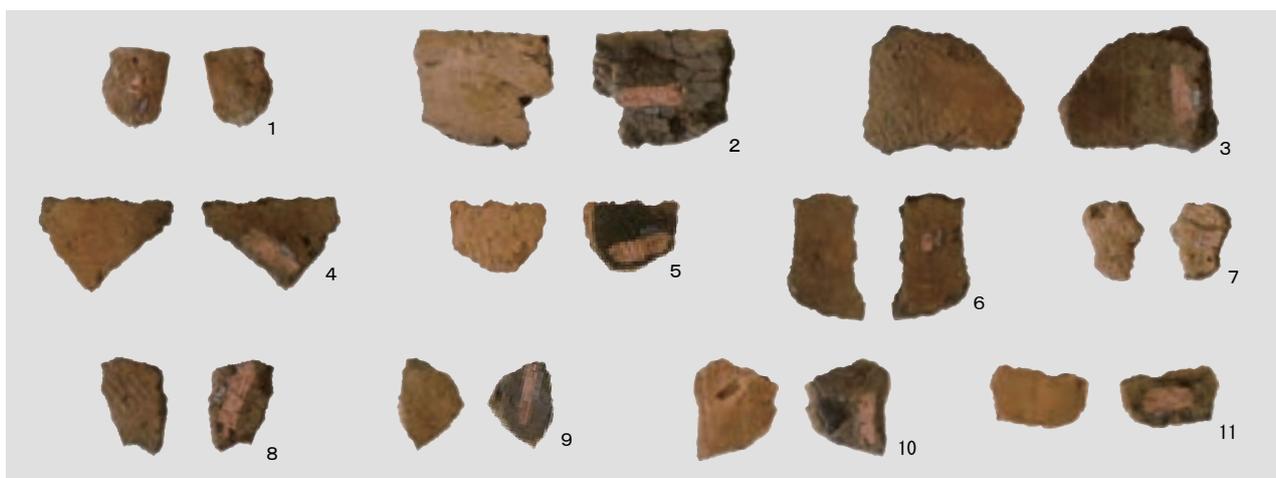
7. 251 号土坑出土遺物



8. 252 号土坑出土遺物



1. 253号土坑出土遺物



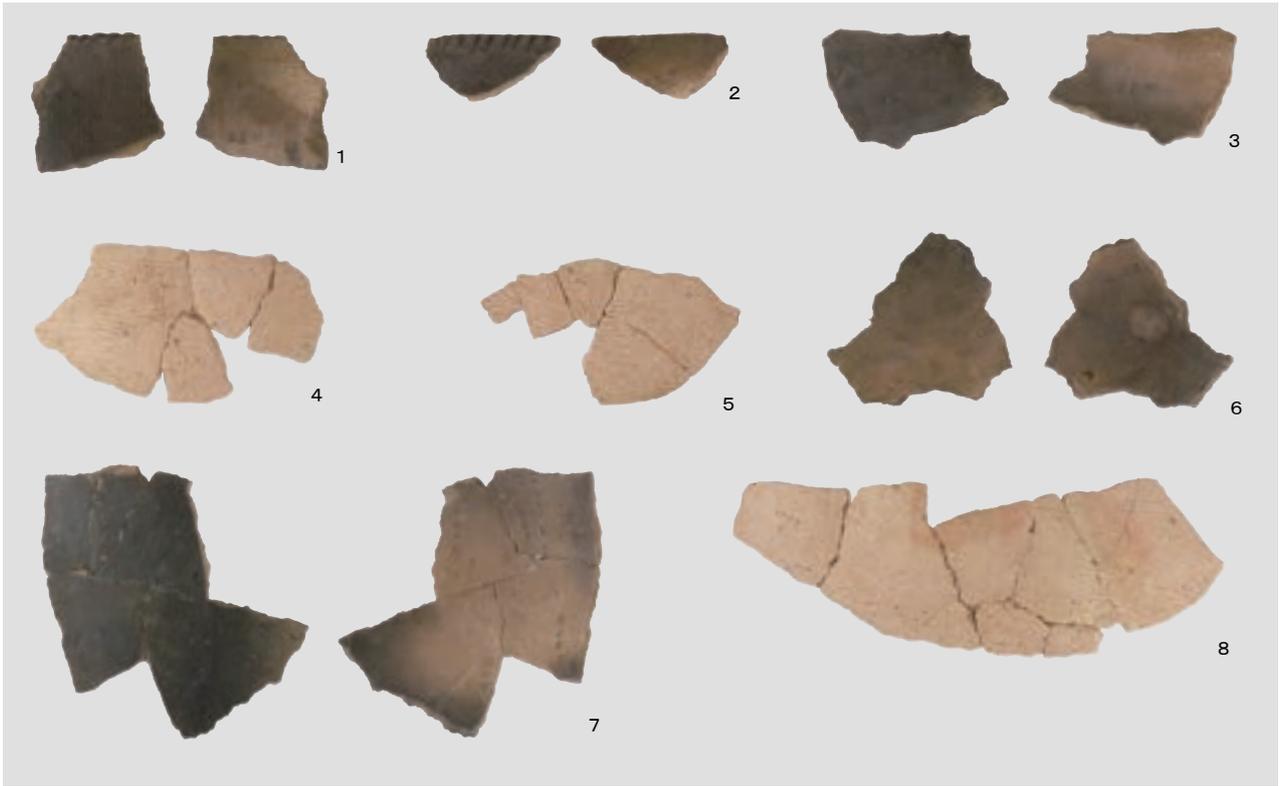
2. 256号土坑出土遺物



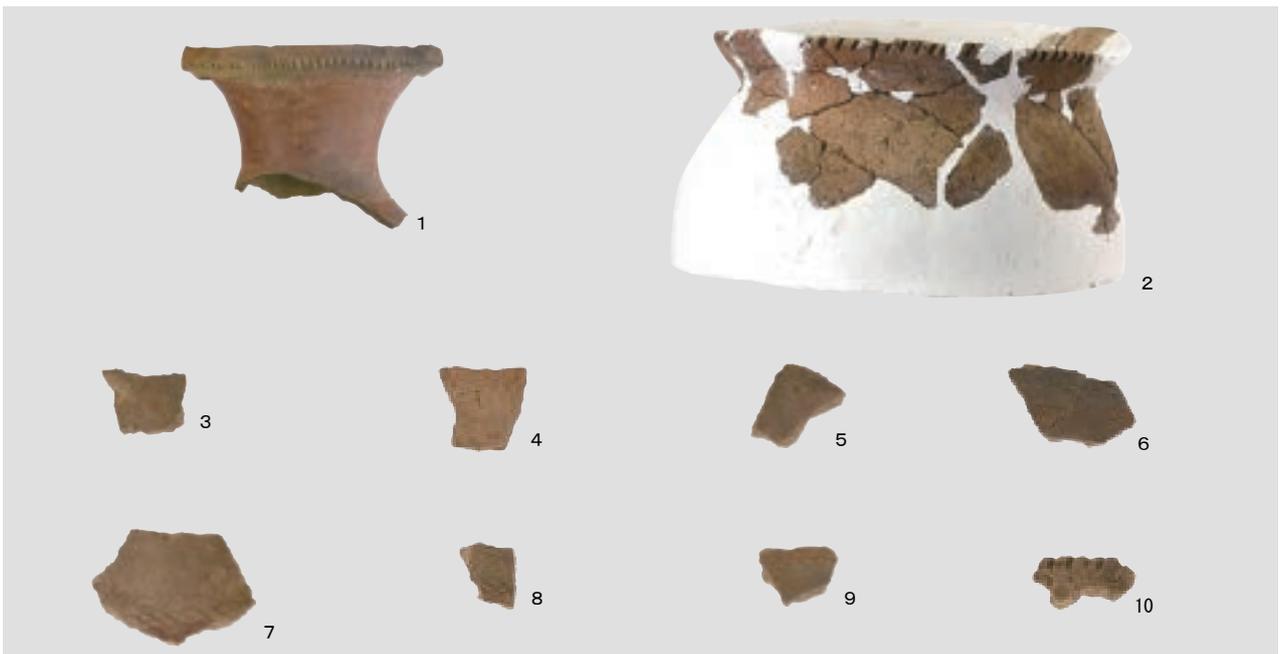
3. 20号住居跡出土遺物



1. 21号住居跡出土遺物



2. 22号住居跡出土遺物



3. 24号住居跡出土遺物



1. 25号住居跡出土遺物



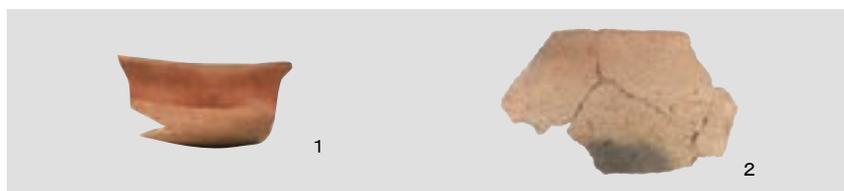
2. 26号住居跡出土遺物



3. 259号土坑出土遺物



4. 67号住居跡出土遺物



5. 68号住居跡出土遺物



6. 70号住居跡出土遺物



1. 71 号住居跡出土遺物



2. 72 号住居跡出土遺物



3. 73 号住居跡出土遺物

4. 74 号住居跡出土遺物



1. 75号住居跡出土遺物



2. 76号住居跡出土遺物



3. 77号住居跡出土遺物



4. 78号住居跡出土遺物



5. 79号住居跡出土遺物



1. 80号住居跡出土遺物



2. 34号ピット出土遺物



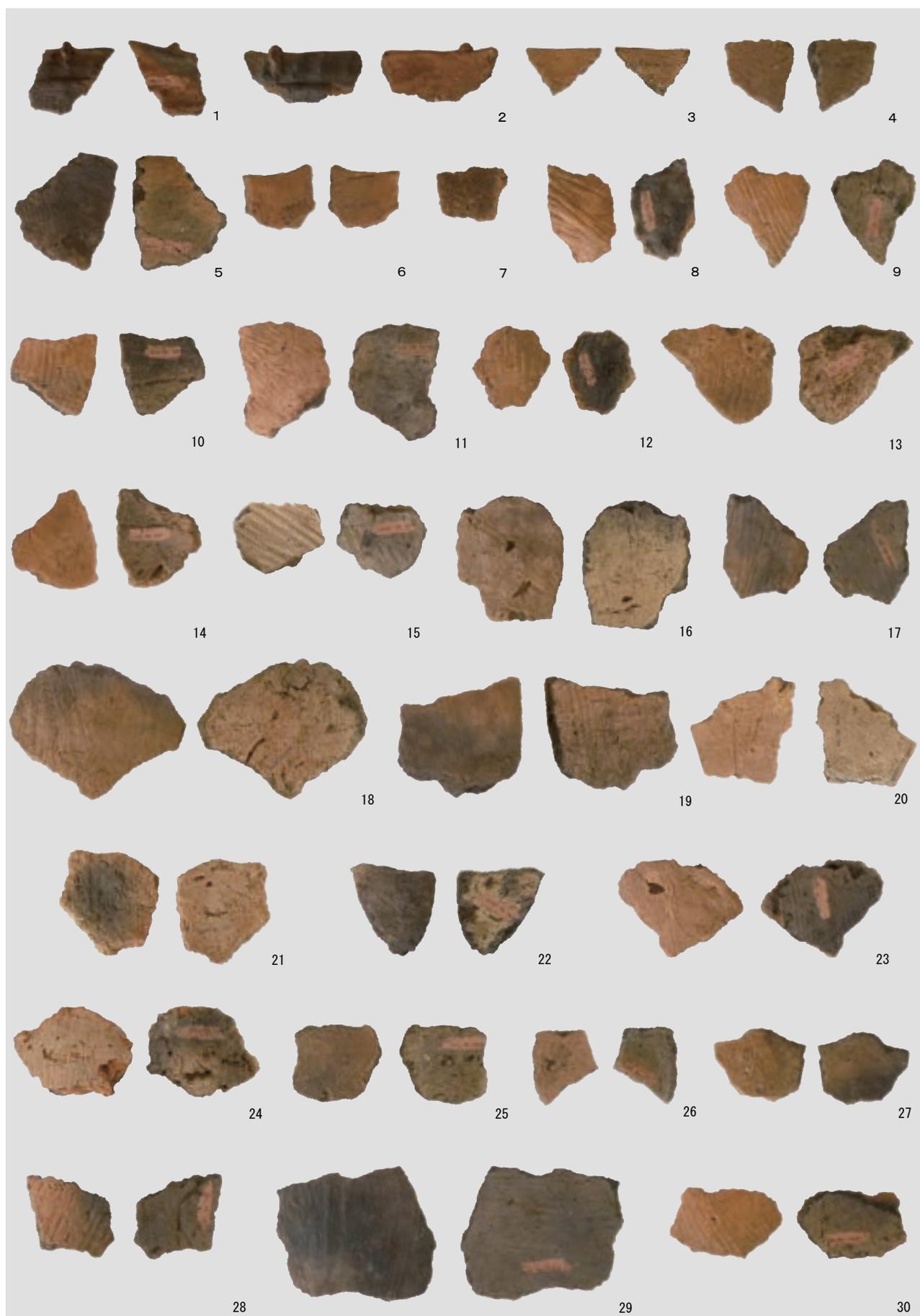
3. 47号ピット出土遺物



4. 49号ピット出土遺物



5. 52号ピット出土遺物



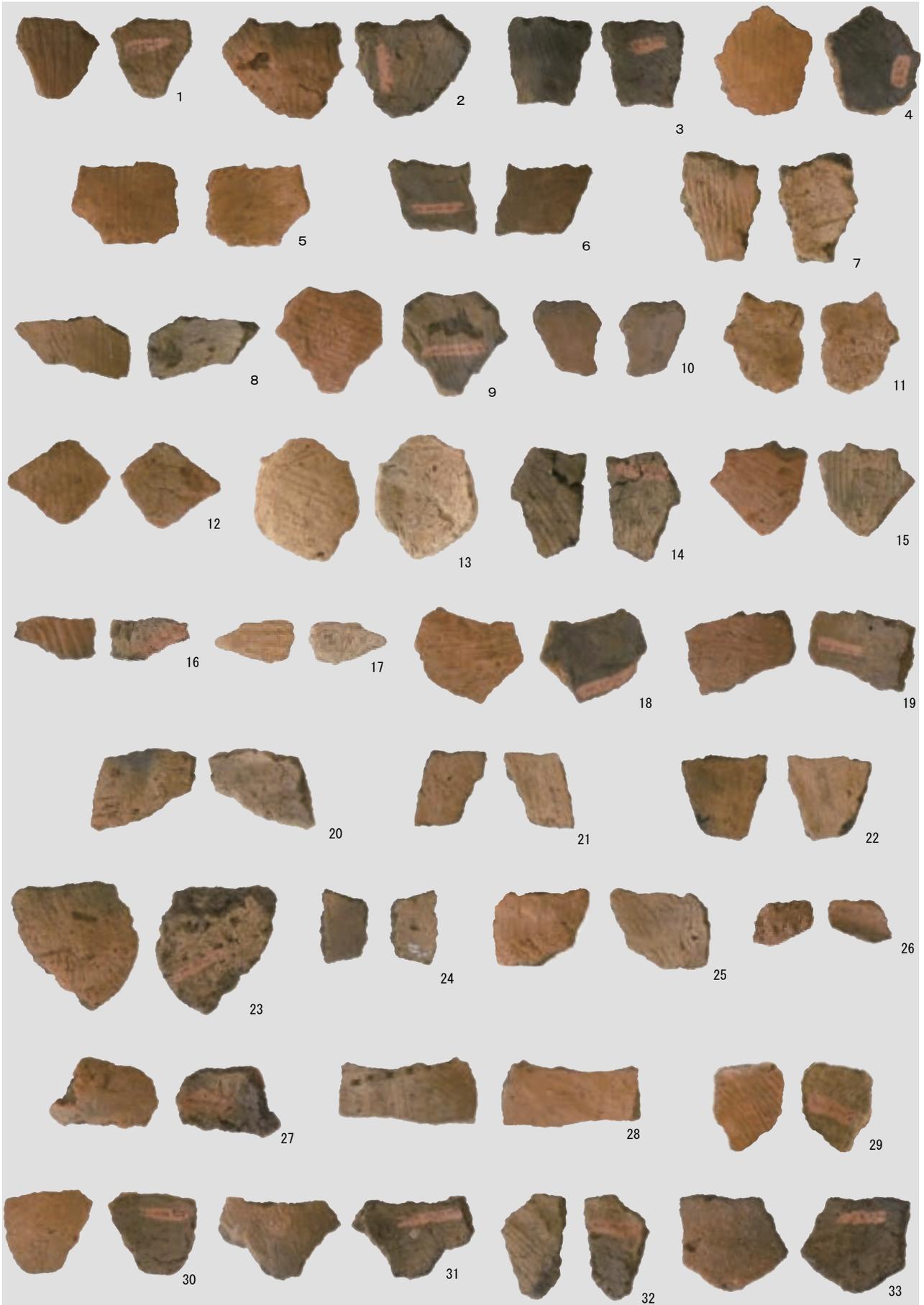
包含層出土遺物 1



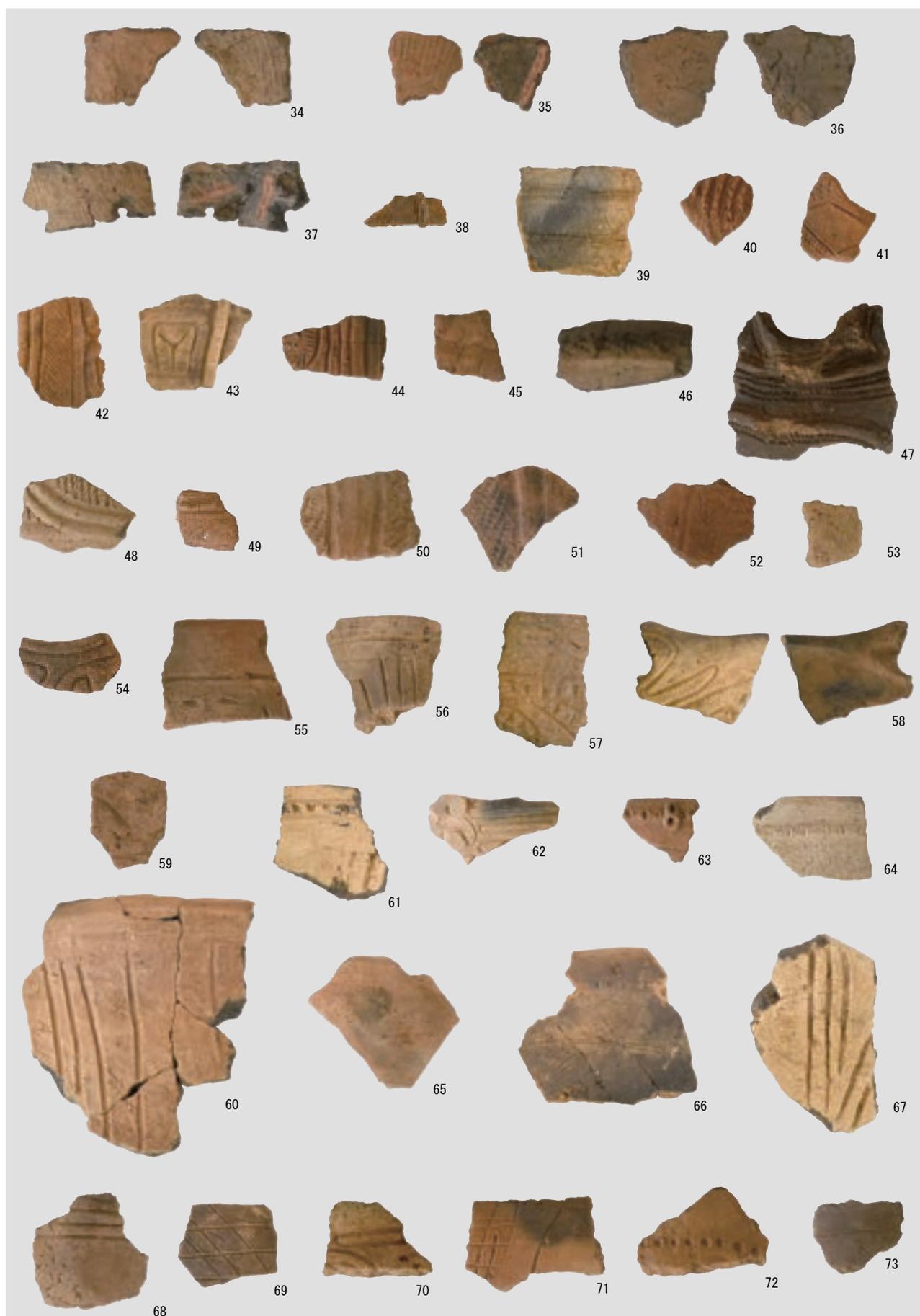
包含層出土遺物 2



包含層出土遺物 3



遺構外出土遺物 1



遺構外出土遺物 2



遺構外出土遺物 3



1. 第 10 图 23-1
貝殼腹緣文



2. 第 84 图 6 偽貝殼腹緣文



3. 第 84 图 7 貝殼腹緣文



4. 第 90 图 37 押捺压痕



5. 第 87 图 77 貝殼背压痕

報告書抄録

ふりがな	なかのいせきだい 91 ちてん まいぞうぶんかざいはくつちようさほうこくしょ		
書名	中野遺跡第 91 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書		
シリーズ名	志木市の文化財	巻次	第 67 集
編著者名	尾形則敏 徳留彰紀 宅間清公 田中浩江 岩崎岳彦		
編集機関	志木市教育委員会		
所在地	〒 353-0002 埼玉県志木市中宗岡 1 - 1 - 1 TEL048(473)1111		
発行年月日	平成 29 (2017) 年 3 月 17 日		

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 (° ' ")	東経 (° ' ")	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡 番号					
なかのいせき 中野遺跡 (第 91 地点)	しきしかしわまち 志木市柏町 ちようめばん 1 丁目 1510 番ほか	11228	09- 002	35° 49' 58"	139° 34' 21"	2015.10.8 ~ 2015.12.18	829.70	道路新設及び浸透トレンチ設置工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
中野遺跡 (第 91 地点)	集落跡	縄文時代	住居跡 (中期) 炉穴 (早期) 土坑 (早期・前 期・中期・晩期)	1 軒 17 基 108 基	土器・石器・ 土製品 (耳 栓)・石製品 (燕尾型製品 か)	早期末葉の打越式土器が炉穴 から出土した。
		弥生時代後期	住居跡 土坑	7 軒 1 基	土器	弥生時代後期前葉から後葉に かけての集落。
		古墳時代後期	住居跡	6 軒	土師器	カマド導入期以降の集落であ る。67 号住居跡からはカマ ド内からほぼ元位置で縦二つ 懸けの甕形土器が出土した。
		平安時代	住居跡	8 軒	土師器・ 須恵器・ 土製品 (羽 口)・ミニチ ュア土器	72 号住居跡からは、小鍛冶 炉を伴う住居跡が検出され た。

要約

中野遺跡は志木市の西部に位置し、柳瀬川右岸の標高 10 m 程の台地上に立地している。従前の調査により、旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代・平安時代・中世・近世の遺構と遺物が見つかっている。

今回の調査でも縄文時代・弥生時代・古墳時代・平安時代の遺構と遺物が見つかった。縄文時代早期では炉穴・土坑に伴い早期末葉の土器が出土している。住居跡は中期中葉のものであった。中期後葉から後期初頭にかけては土坑が密集して検出された。土器の出土状態から墓壇の可能性もあるものも存在する。

弥生時代では後期前葉から後葉の住居跡が 7 軒見つかっている。住居跡は平面形は小判形と略円形のもの認められるが、支柱穴 4 本で、貯蔵穴を持つなど、構造的に類似するものである。遺物は甕形土器と壺形土器が中心で、壺形土器は赤彩されたものが多く出土している。

古墳時代では 5 世紀後葉から 6 世紀中葉までの住居跡が 6 軒見つかっている。カマド内から使用時の様子が分かるような状態で甕形土器が出土した。遺物は土師器坏形土器・甕形土器・高杯形土器が出土している。

平安時代では住居跡が 8 軒見つかっている。カマドを付け替えたものや、住居内に小鍛冶炉を持つものが検出している。遺物は土師器坏形土器・甕形土器、須恵器坏形土器・甕形土器、小口径羽口などが出土している。

志木市の文化財 第67集

中野遺跡第91地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

発行 埼玉県志木市教育委員会
埼玉県志木市中宗岡1丁目1番1号
発行日 平成29(2017)年3月17日
印刷 朝日印刷工業株式会社